

Syllabus

平成27年度

医用工学科授業計画

近畿大学生物理工学部

目 次

〈全学科共通の科目〉

共通教養科目	5
外国語科目	26
学部基礎科目	53

〈専門科目〉

医用工学科	74
-------	-------	----

〈教職課程〉

教職科目	111
------	-------	-----

講 義 要 項

全学科共通

カリキュラム一覧 6

共通教養科目

人権と社会1	9
人権と社会2	9
暮らしのなかの憲法	10
芸術鑑賞入門	10
現代社会と法	11
現代社会と倫理	11
現代経済の課題	12
新しい政治学	12
持続可能な社会論	13
自己発見の心理学	13
生物と地球環境	14
医療・科学・暮らし	14
国際経済入門	15
国際化と異文化コミュニケーション	15
国際社会と日本	16
日本近現代史	17
里山の環境学	17
日本語の技法	18
基礎ゼミ	18
思考の技術	19
キャリアデザイン	19
社会奉仕実習	20
科学技術と人間・社会	20
インターンシップ	21
キャリアインターンシップ	21
スクールインターンシップ	22
生涯スポーツ1	22
生涯スポーツ2	23
健康とスポーツの科学	24
食生活と健康	25

外国語科目

英語演習1	26
英語演習2	26
英語演習3	27
英語演習4	27
オーラルイングリッシュ1	28
オーラルイングリッシュ2	29
オーラルイングリッシュ3	30
オーラルイングリッシュ4	30
総合英語A	31
総合英語B	31
TOEIC1A	32
TOEIC1B	34
TOEIC2A	36
TOEIC2B	36
サイエンスイングリッシュA	37
サイエンスイングリッシュB	38
英語プレゼンテーションA	40

英語プレゼンテーションB	41
英語特別演習1A	42
英語特別演習1B	44
英語特別演習2A	46
英語特別演習2B	47
英語スキル上級A	47
英語スキル上級B	48
海外研修(英語)	48
ドイツ語総合1	49
ドイツ語総合2	49
ドイツ語総合3	50
ドイツ語総合4	50
中国語総合1	51
中国語総合2	51
中国語総合3	52
中国語総合4	52

学部基礎科目

化学I	53
化学II	54
基礎数学	55
数学	56
生物学I	58
生物学II	59
基礎物理学	60
物理学I	60
物理学II	62
微分積分学	64
線形代数学	66
化学実験	68
物理学実験	69
科学倫理	70
情報倫理	70
Webデザイン	71
バイオテクノロジー技術論	71
ロボットメカニクス技術論	72
ロボット制御技術論	72
自主演習	73

全学科共通

授業科目			配当年次	単位数		担当教員
				必修	選択	
共通 教養 科目	人間性・ 社会性 科目 目 群	人権と社会1	1(前期)		2	矢野 治世美
		人権と社会2	1(後期)		2	矢野 治世美
		暮らしのなかの憲法	1(後期)		2	新田 和宏
		芸術鑑賞入門	1(後期)		2	泉 健
		現代社会と法	1(前期)		2	海堀 崇
		現代社会と倫理	1(前期)		2	平木 光二
		現代経済の課題	1(後期)		2	椎木 和光
		新しい政治学	1(前期)		2	新田 和宏
		持続可能な社会論	1(前期)		2	新田 和宏
		自己発見の心理学	1(後期)		2	大日方 薫
		生物と地球環境	1(前期)		2	オムニバス
	医療・科学・暮らし	1(前期)		2	オムニバス	
	地域性 国際性 科目 目 群	国際経済入門	1(前期)		2	椎木 和光
国際化と異文化コミュニケーション		1(後期)		2	服部・新田(幸)	
国際社会と日本		1(前期)		2	新田 幸夫	
日本近現代史		1(前期)		2	長沢 一恵	
里山の環境学		1(前期)		2	新田 和宏	
課題設定・ 問題 解決 科目 目 群	日本語の技法	1(前期)	2	2	梶山・吉田(久)・村田 全教員	
	基礎ゼミ	1(前期)				
	思考の技術	1(後期)		2	平木 光二	
	キャリアデザイン	1(後期)		2	中村 弘成	
	社会奉仕実習	2(前・後期)		1	新田 和宏	
	科学技術と人間・社会	1(後期)		2	久保田 均	
	インターンシップ	3(通年)		2	新田 和宏	
	キャリアインターンシップ	3(通年)		1	各学科担当教員	
スクールインターンシップ	3(後期)	1	河原・小田			
スポー ツ・表 現 活 動 科 目 群	生涯スポーツ1	1(前期)		1	橋本・黒住	
	生涯スポーツ2	1(後期)		1	橋本・黒住	
	健康とスポーツの科学	1(前期)		2	橋本・黒住	
	食生活と健康	1(後期)		2	居原 秀	
外国 語 科 目	第 一 外 国 語 基 幹 科 目	英語演習1	1(前期)		2	滝口 智子
		英語演習2	1(後期)		2	滝口 智子
		英語演習3	2(前期)		1	松田 佳奈
		英語演習4	2(後期)		1	松田 佳奈
		オーラルイングリッシュ1	1(前期)		1	バンナム・ポーレン
		オーラルイングリッシュ2	1(後期)		1	バンナム・ポーレン
		オーラルイングリッシュ3	2(前期)		1	ジョン ドウデジアン
		オーラルイングリッシュ4	2(後期)		1	ジョン ドウデジアン
		総合英語A	3(前期)		1	澤邊 興平
		総合英語B	3(後期)		1	澤邊 興平

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、シラバス・時間割等で確認してください。

※基礎ゼミは学科によって通年・隔週の開講となる場合があります。

授業科目			配当年次	単位数		担当教員	
				必修	選択		
外国語科目	第一外国語	発展科目	TOEIC 1A	2(前期)		1	畠中・矢田・武智
			TOEIC 1B	2(後期)		1	畠中・矢田・武智
			TOEIC 2A	2(前期)		1	—
			TOEIC 2B	2(後期)		1	—
			サイエンスイングリッシュA	3(前期)		1	長谷川・長尾・武知・澤邊
			サイエンスイングリッシュB	3(後期)		1	長谷川・長尾・武知・澤邊
			英語プレゼンテーションA	3(前期)		1	服部・畠中・矢田
			英語プレゼンテーションB	3(後期)		1	畠中・矢田
			英語特別演習1A	2(前期)		1	服部・山下・ファミユラロ 他
			英語特別演習1B	2(後期)		1	長尾・山下・ファミユラロ
			英語特別演習2A	3(前期)		1	片岡 宏仁
			英語特別演習2B	3(後期)		1	片岡 宏仁
			英語スキル上級A	1(前期)		1	上村 バックス 尚美
			英語スキル上級B	1(後期)		1	上村 バックス 尚美
			海外研修(英語)	1(通年)		2	服部・長谷川
第二外国語			ドイツ語総合1	1(前期)		1	田中・南谷・北川
			ドイツ語総合2	1(後期)		1	田中・南谷・北川
			ドイツ語総合3	2(前期)		1	中村(睦)・南谷
			ドイツ語総合4	2(後期)		1	中村(睦)・南谷
			中国語総合1	1(前期)		1	村田・平坂・渡辺・鳥谷
			中国語総合2	1(後期)		1	村田・平坂・渡辺・鳥谷
			中国語総合3	2(前期)		1	垣内・山口
			中国語総合4	2(後期)		1	垣内・山口
学部基礎科目			化学Ⅰ	1(前期)		2	藤澤・高木・櫻井
			化学Ⅱ	1(後期)		2	藤澤・櫻井
			基礎数学	1(前期)	△2	2	吉田 久 他
			数学	1(前期)	△2	2	中迫・澤井・福田・藤井
			生物学Ⅰ	1(前期)		2	山崎・小谷
			生物学Ⅱ	1(後期)		2	山崎・小谷
			基礎物理学	1(前期)		2	西垣 勉 他
			物理学Ⅰ	1(前期)		2	木村・藤井・松本(俊)
			物理学Ⅱ	1(後期)		2	西垣・木村・藤井・松本(俊)
			微分積分学	1(後期)	◆2	2	吉田・西川・西垣・堤
			線形代数学	1(後期)	◆2	2	渋江・宮下(尚)・楠・堤
			化学実験	1(前期)		2	藤澤・瀧川・櫻井
			物理学実験	1(前期)		2	木村 裕一 他
			科学倫理	1(前期)		2	前田 直哉
			情報倫理	1(後期)		2	岡 宏
			初級シミュレーション技術論	2(後期)		1	—
			Webデザイン	1(後期)		1	吉田 久
			バイオテクノロジー技術論	1(前期)		2	瀧川 義浩
			ロボットメカニクス技術論	1(前期)		2	土井 誠
			ロボットセンサー技術論	1(前期)		2	—
ロボット制御技術論	1(前期)		2	久保田 均			
自主演習	2(通年)		1	生物理工学部全教員			

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、時間割等で確認してください。

△印:システム生命科学科は選択必修科目です。プレースメントテストにより履修科目を指示します。

いずれか一方を必ず履修しなければなりません。

◆印:システム生命科学科・医用工学科は、必修科目です。

科目名： 人権と社会 1			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： ヤノ チヨミ 矢野 治世美			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>部落問題を中心として、日本における人権問題について、それらがどのように生じたのかという問題や、差別・被差別の実態、さらにそれらを解決しようと努力してきた人びとの営みについて、古代から現代までの歴史史料（古文書・古記録など）を用いて考察していく。政治的な仕組みや法律からだけでなく、可能な限り、その時代を生きた人びとの生活や意識を通して上記の問題について考えることを目標とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部落問題を中心に日本社会における人権の歴史について知識・理解を深める。 ・現代社会における人権課題や、新たな人権問題の解決に向けて考える能力を養う。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% 授業中に行う小レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート、配付資料を読み返して授業内容を復習し、授業時に紹介した参考文献を読むこと。 ・現代の人権問題に関わる事柄について、新聞、ニュース等に目を通し、自分なりの問題関心を持つこと。 <p>■教科書</p> <p>指定しない。適宜授業時に資料を配付。</p> <p>■参考文献</p> <p>授業時に紹介する。</p> <p>■関連科目</p> <p>特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階） yano.chym@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 古代1（古代社会における身分制）</p> <p>第3回 古代2（古代社会から中世社会への展開）</p> <p>第4回 中世1（宗教・文化と被差別民）</p> <p>第5回 中世2（中世被差別民の実態）</p> <p>第6回 中世3（中世被差別民の転換）</p> <p>第7回 近世1（戦国～江戸時代初期の被差別民）</p> <p>第8回 近世2（江戸時代の被差別民の生業・役務）</p> <p>第9回 近世3（江戸時代の差別の実態）</p> <p>第10回 近世4（身分制社会の動揺）</p> <p>第11回 近代1（近代社会の成立と部落問題）</p> <p>第12回 近代2（差別への批判・抵抗）</p> <p>第13回 近代3（戦争と人権）</p> <p>第14回 現代1（戦後社会と部落問題）</p> <p>第15回 現代2（現代の人権）</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 人権と社会 2			
英文名： Human Rights and Society 2			
担当者： ヤノ チヨミ 矢野 治世美			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>部落問題を中心として、日本における人権問題について、それらがどのように生じたのかという問題や、差別・被差別の実態、さらにそれらを解決しようと努力してきた人びとの営みについて、テーマ別に古代から現代までの歴史史料（古文書・古記録など）を用いて考察していく。関連する項目については、諸外国における事例についても適宜紹介する予定である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会における人権の歴史について知識・理解を深める。 ・現代社会における人権課題や、新たな人権問題の解決に向けて考える能力を養う。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% 授業中に行う小レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート、配付資料を読み返して授業内容を復習し、授業時に紹介した参考文献を読むこと。 ・現代の人権問題に関わる事柄について、新聞、ニュース等に目を通し、自分なりの問題関心を持つこと。 <p>■教科書</p> <p>指定しない。授業時に適宜資料を配付。</p> <p>■参考文献</p> <p>授業時に紹介する。</p> <p>■関連科目</p> <p>特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階） yano.chym@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 部落問題の歴史1（前近代）</p> <p>第3回 部落問題の歴史2（近現代）</p> <p>第4回 部落問題の歴史3（女性と部落問題）</p> <p>第5回 性・ジェンダーと差別1（概念と歴史）</p> <p>第6回 性・ジェンダーと差別2（生活と運動）</p> <p>第7回 性・ジェンダーと差別3（宗教・文化と性・ジェンダー）</p> <p>第8回 日本の民族問題1</p> <p>第9回 日本の民族問題2</p> <p>第10回 歴史の中の障害者1</p> <p>第11回 歴史の中の障害者2</p> <p>第12回 環境と人権</p> <p>第13回 戦争と人権1</p> <p>第14回 戦争と人権2</p> <p>第15回 貧困と差別</p> <p>定期試験</p>	

科目名：暮らしのなかの憲法			
英文名：Constitution in Everyday Life			
担当者：ニッタ カズヒロ 新田 和宏			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 <本講座を学ぶ目的> 本講座は、日本国憲法の基本問題について理解を深めることを目的とする。 <本講座において学ぶ意義> そもそも、憲法とは、国家権力の濫用を抑制しつつ、国民の自由と人権を擁護する立憲主義 (constitutionalism) という考え方に立脚するが、もちろん日本国憲法も同じ立場である。しかしながら、今日、立憲主義がゆらく中、改めて、日本国憲法を学ぶ意義を強調するならば、それは自由と人権について熟考することにあるといえる。日本国憲法第12条は「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」と要請する。もしも、時代に流され、思考停止に陥り、「不断の努力」を怠れば、97条がいう「この憲法が国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」を台無しにしてしまう恐れすらある。 <本講座の方法> 本講座は、教科書をベースに据え、憲法裁判の判例や学説を検討しつつ、また学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションを交えながら、表層的な観察に終わらない重心の低い本格的な観察を講じていくスタイルをとる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。 ① 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。② 講義を積極的に傾聴 (active listening) できる能力。③ 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④ 日本国憲法の基本問題について、その本質を精しく考えようとする態度と、その洞察力。⑤ 実際の憲法裁判の判決文を前にして、その要点が理解しうる能力。⑥ 特論を展開し表現しうる能力。 尚、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まると看做す。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の講義に先立ち、必ず指定された教科書の箇所を熟読玩味し、また提示された宿題 (エクササイズ) を行い、問題意識を高めた上で講義にのぞんで戴きたい。予習を通じ自らが得た予備知識もしくは情報の「残骸」が、驚くほど、講義内容の理解をスムーズにする。そして、講義を傾聴しノートにしたためた記述は、必ずその目的をもち、学習目標を導くこと、加筆・訂正して戴きたい。要は、予習-講義-復習の連関を切らずに、このパターンを毎回習慣化することである。</p> <p>■教科書 安西文雄・巻美矢紀子・穴戸常寿『憲法学読本・第2版』有斐閣 (2014)</p> <p>■参考文献 『ポケット六法・平成27年版』有斐閣 (2014) 長谷部恭男『憲法・第6版』新世社 (2014) 渋谷秀樹『憲法への招待・新版』岩波新書 (2014) 伊藤真『憲法・伊藤真がアースト・トラック・シリーズ1』弘文堂 (2014) 辻村みよ子『比較のなかの改憲論』岩波書店 (2014) 辻村みよ子『人権をめぐる十五講』岩波書店 (2013) 奥平康弘他編『改憲の何が問題か』岩波書店 (2013) 山田隆司『最高裁の違憲判決』光文社 (2012) 森英典・白藤博行・愛敬浩二編『3.11と憲法』日本評論社 (2012) 辻村みよ子『憲法から世界を診る』法律文化社 (2011)</p> <p>■関連科目 新しい政治学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 新田研究室 (2号館5階)・nitta@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 日本国憲法の基本構成 第2回 日本国憲法の制定過程 第3回 法の下での平等 第4回 人権主体 第5回 包括的基本権 第6回 思想および良心の自由 第7回 信教の自由と政教分離原則 第8回 表現の自由 第9回 学問の自由と教育権 第10回 経済的自由権 第11回 生存権と環境権 第12回 労働権 第13回 国民主権と参政権 第14回 人身の自由 第15回 平和憲法</p> <p>定期試験</p>	

科目名：芸術鑑賞入門			
英文名：Introduction to Appreciation of Art			
担当者：イズミ ケン 泉 健			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 全学共通科目の中の共通教養の一つです。研究の基礎段階において、豊かな教養と広い視野を磨いておくことは、専門課程へステップアップを図るために大切です。この科目では西洋の芸術音楽を例に取りあげながら、高度化・複雑化する社会において、専門知識・技能を活かすために不可欠な、幅広い教養を身につけることを目指しています。講義では西洋音楽の名曲を取りあげながら、音楽と社会との関係、音楽と思想との関係、音楽と同時代の美術・文学との関係などを考察していきます。授業の形式は、CDとDVDで実際の音や映像を十分に体験してもらいながら進めていきます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 講義を聞いて、ある音楽に感動したり、その音楽をめぐる事象に興味を持ってもらうことが、学習・教育目標です。そして、音楽をめぐるある事象に興味を持った場合に、単に講義を聞いただけではなく、それをきっかけとしてその興味を持った問題を自分でさらに調査研究し、それを文章にまとめることができるようになることが到達目標です。そのために第1回目の講義において、音楽文献学的な観点から詳細な説明をしますので、第1回目の講義から必ず出席して下さい。</p> <p>■成績評価方法および基準 まとめのテスト (講義内容に関する論述式問題) 35% 学期末レポート (4800字A4版3枚) 55% 授業中課題(講義をどう受け止めたかを書くカードを毎回提出:B6版) 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習=次週の講義テーマをシラバスで確認し、意味の不明な単語は各種の事典などで確認しておく。 復習=毎回配付するレジュメを読み直し、その日の講義内容の理解を深める。 宿題=その日の講義内容で理解できなかった点、疑問に思った点などがあれば、関連する書籍や論文を探して読み、理解を深め、疑問点を解消しておく。</p> <p>宿題のために利用できるサイト 書籍探索 = http://cini.ac.jp/books/ 論文探索 = http://cini.ac.jp/ 楽譜探索 = http://imslp.org/wiki/ 音源・映像探索 = http://www.youtube.com/</p> <p>日常生活で音楽にたくさん触れること。和歌山市内に出掛けてコンサートなどに行ったり、またCDやDVDを利用するなどして、できるだけいろいろな音楽を聴くことが望ましい。</p> <p>■教科書 適時プリント配布</p> <p>■参考文献 高橋浩子他『西洋音楽の歴史』東京書籍 (1996)</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・izumi@center.wakayama-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜5限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 音楽文献学 第2回 脳と音楽:その1 第3回 脳と音楽:その2 第4回 脳と音楽:その3 第5回 宇宙と音楽 第6回 自然と音楽 第7回 西洋音楽史のテクスチャーの歴史 第8回 芸術概念の誕生 第9回 コンサートの成立 第10回 著作権の歴史 第11回 パロディーの歴史 第12回 ピリオド楽器とピアノ 第13回 フォルテ・ピアノを使用してわかること 第14回 ピリオド楽器とオーケストラ 第15回 オペラの名曲を聴く</p>	

科目名：現代社会と法			
英文名：Law and Modern Society			
担当者：カイボリ タカシ 海堀 崇			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>私たちの暮らしは、出生から死亡に至るその私的な生活から公的な生活まで、さまざまな法律によって保護され、一方では、各種の規制がかけられています。それに伴い、多種多様な法律に絡んだトラブルが発生しており、その解決には法的知識が不可欠となっています。</p> <p>本講義では、受講生にとって身近な話題、実務上重要な問題を取り上げ、法理論的な考察を加えていきます。法律科目は、決して難解でも、暗記するものでもありません。問題解決のためのプロセスを学ぶ学問です。原則、講義型で進めていきますが、法学初学者の皆さんにも理解しやすい言葉で説明をします。また、必要に応じて、レジュメを配布します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>法律全般の基礎的知識を身につけ、その考え方の基本を理解すること。また、法的問題に対して法的分析を加えられるようになることを、本講義の目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 60% 小テスト 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義で学習したことを身近なものへと適用、応用し、その理解を深めること。そのため普段から、積極的に新聞やニュース番組などを見聞きするようにしてください。</p> <p>■教科書</p> <p>特に指定しない。 準備できる受講者は六法を持参してください。</p> <p>■参考文献</p> <p>我妻榮『法律における理屈と人情(第2版)』日本評論社(1987)【入手可 中央図書館所蔵】 末川博『法学入門(第6版補訂版)』有斐閣(2014)【入手可 中央図書館所蔵】 道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門(第3版)』有斐閣(2007)【入手可 中央図書館所蔵】</p> <p>■関連科目</p> <p>暮らしのなかの憲法</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室(2号館2階) メールアドレスkaibori_takashi_kindai@yahoo.co.jp (アンダーバーがあることに注意してください。)</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス・法とは何か 第2回 憲法Ⅰ 第3回 憲法Ⅱ 第4回 民法(財産編1) 第5回 民法(財産編2) 第6回 民法(親族・相続編) 第7回 刑事法・刑事手続法 第8回 裁判員制度 第9回 いじめ 第10回 児童虐待 第11回 ネットトラブル 第12回 労働問題 第13回 交通事故 第14回 その他法律問題 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：現代社会と倫理			
英文名：Modern Society and Ethics			
担当者：ヒラキ コウジ 平木 光二			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>代理出産など今日社会問題になっているさまざまな問題を取りあげ、それらを倫理学の視点から検討・考察する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>グループ討論などを通じて、倫理とは何かについての理解を深め、日常生活において倫理的に行動する意識を養うことを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% 授業中課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>日頃から新聞等の社会面を読み、今日社会で何が起きているのかに注意を払うこと。</p> <p>■教科書</p> <p>指定しない。毎授業時資料を配布する。</p> <p>■参考文献</p> <p>特になし。</p> <p>■関連科目</p> <p>特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室(2号館2階)・hirakik@pj9.so-net.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 生命と倫理(1) 第3回 生命と倫理(2) 第4回 医療の倫理(1) 第5回 医療の倫理(2) 第6回 人権と倫理(1) 第7回 人権と倫理(2) 第8回 環境と倫理(1) 第9回 環境と倫理(2) 第10回 宗教と倫理(1) 第11回 宗教と倫理(2) 第12回 政治と倫理 第13回 薬物の使用 第14回 ゲーム・SNSと倫理 第15回 インターネットと倫理</p> <p>定期試験</p>	

科目名：現代経済の課題			
英文名：Problems of Modern Economics			
担当者： <small>シノキ ワコウ</small> 椎木 和光			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 私たちが日々生活しているこの社会はどういう仕組みになっているのか、それにはどういう意味があるのか、より良い社会とはどういうものなのか、こういうことを考えるのが「社会科学」の分野です。経済学はこれを「経済」の視点から考え説明しようとするものです。 この授業では、現実の経済社会を理解するための手段としての経済学を扱おうと思います。何を使って、何をどれだけ、どのように造り、それをどう分けるか、これを社会全体の仕組みの基本問題として扱うのが経済学です。つまりは、社会的な「資源配分」の問題ということであり、配分をめぐる利害をどう調整するかの問題ということになります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 具体的なトピックスを例にとり、日々の生活のなかで現実に見聞きし体験しているさまざまな経済的事象を体系的に観察・理解できるように、受講する皆さんとともに授業を工夫したいと思います。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% テーマの区切りごとに行う確認テスト 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 国際経済入門</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）shiinoki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 社会科学としての経済学 第2回 欲望と資源配分問題 第3回 生産可能性フロンティアの概念 第4回 生産の迂回化と経済の特化・分業 第5回 交換と貨幣 第6回 経済体制の分類 第7回 資本主義市場経済 第8回 市場は完璧ではない 第9回 政府の役割と混合資本主義体制 第10回 家計・企業・政府 第11回 国民経済計算 第12回 需給の均衡と調整過程 第13回 失業・物価・貧困 第14回 世界経済の課題 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：新しい政治学			
英文名：New Political Science			
担当者： <small>ニッタ カズヒロ</small> 新田 和宏			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 <small>＜本講座を学ぶ目的＞</small> 本講座は、1989年の冷戦終結後、約四半世紀におよぶ「新しい政治の世界」について、基本的な理解を深めることを目的とする。「グローバル化」・「新自由主義」・「新興国」・「人間の安全保障」・「新しい戦争」・「脆弱国家」・「グローバル・ガバナンス」・「市民社会」・「公共性の再編」・「新しい社会的リスク」・「持続可能性」・「政治改革」・「政治主導」・「マニフェスト」・「政権交代」・「カルテル政変」・「権威政治」・「環境政治」・「言説政治」・「熟議民主主義」・「ポピュリズム」等々、これらは「新しい政治の世界」を読み解く重要なキーワードであるが、こうしたキーワードの理解も深めることを目的とする。 <small>＜本講座において学ぶことの意義＞</small> 本講座を通じて学ぶ意義は、「新しい政治の世界」を理解することにより、わたくしたちがいま生きている、この21世紀前半という時代が、今後どのような方向へ進むべきか、それを見極めることにある。かつて20世紀を代表する政治学者ハルルド・ラスキは、「新しい時代には新しい政治哲学が必要である」と記した。同様に、わたくしたちは、「21世紀という新しい時代には新しい政治学が必要である」、といえよう。その意味で、21世紀を導く「新しい政治学」は、現代人の必須の学問といえよう。 <small>＜本講座の方法＞</small> 本講座は、明快なレクチャーをベースに据え、学生諸君のディスカッションを交え、静かに「白熱」しつつ展開する予定である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。 ① 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。② 講義を積極的に傾聴 (active listening) できる能力。③ 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④ 岩波書店から刊行されているオピニオン雑誌「世界」に所収されている政治学関係もしくは政治論の論文を読み、これを正確に理解できる読解力。⑤ 現実の政治現象に対して関心を示しつつ、基礎的な政治学的考察ができる能力。⑥ 政治に對し持論を表現できる能力。 尚、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まると看做す。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の講義に先立ち、必ず指定された教科書の箇所を熟読玩味し、問題意識を高めた上で講義にのぞんで戴きたい。予習を通じ自ら得た予備知識もしくは情報の「残像」が、驚くほど、講義内容の理解をスムーズにする。そして、講義を傾聴しノートにしたためた記述は、必ずその日のうちにもう一度目を通しつつ、自分なりに加筆・訂正して戴きたい。要は、予習-講義-復習の連関を切らさずに、このパターンを毎回習慣化することで学力の向上を目指すことにある。</p> <p>■教科書 新田和宏「新しい政治の世界」地球市民教育総合研究所／妻の郷出版 (2015)</p> <p>■参考文献 村上弘「日本政治ガイドブック」法律文化社 (2014) 山口二郎「いまを生きたるための政治学」岩波書店 (2013) 菊部直他編「政治学をつかむ」有斐閣 (2011) 平野浩・河野勝編「新版・アクセス日本政治論」日本経済評論社 (2011) 五十嵐暁郎「日本政治論」岩波書店 (2011) 江藤大・他編「政治学のエッセンシャルズ」北海道大学出版会 (2008) 川崎修・杉田敦編「現代政治理論」有斐閣 (2006)</p> <p>■関連科目 持続可能な社会論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 新田研究室 (2号館5階)・nitta@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 「新しい政治の世界」 第2回 グローバル化と新自由主義をめぐる政治 第3回 「新しい帝国」とグローバル・ガバナンスをめぐる政治 第4回 市民社会の役割およびガバナンスの編成をめぐる政治 第5回 新しい社会的リスクおよび持続可能性をめぐる政治 第6回 自民党政治① 第7回 自民党政治② 第8回 政治改革 第9回 小泉政治 第10回 政権交代① 第11回 政権交代② 第12回 ポピュリズム 第13回 安全保障をめぐる政治 第14回 市民政治と民主主義をめぐる政治 第15回 「新しい政治の世界」の行方</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 持続可能な社会論			
英文名： Theory of Sustainable Society			
担当者： ニッタ カズヒロ 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
■授業概要・方法等 <本講座を学ぶ目的> 本講座は、国連の「環境と開発に関する世界委員会」(ブルントラント委員会)において提唱された「持続可能な開発 (sustainable development)」という考え方の延長として議論がなされている。「持続可能な社会 (sustainable society)」について、その基本的な理解を深めることを目的とする。「持続可能な社会」とは、積極的平和に基づき、環境保全と経済成長とを両立させ、それに生活保障という側面を運動させながら、世代間および世代内における公正を実現しようとする、持続可能性を指向する政治が作用する社会の在り方である。 <本講座において学ぶ意義> しかしながら、実際の社会の在り方は、むしろ反対に、「人口減少」「限界集落」「少子高齢化」「雇用と所得の不安定化」・「若者の貧困化」・「子どもの貧困」「無縁社会」・「シャッター商店街」・「地球温暖化」等々、「持続可能性 (sustainability)」が縮減されつつある状況にある。それ故に、「持続可能な社会」を実現するための社会的条件について、それを見出す粘り強い思考を重ねることこそ、本講座において学ぶ意義があるといえる。 <本講座の方法> 本講座は、明快なレクチャーをベースに据え、学生諸君のディスカッションを交え、静かに「白熱」しつつ展開する予定である。 ■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。 ①. 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。②. 講義を積極的に傾聴 (active listening) できる能力。③. 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④. 社会現象に潜む本質を捉え、かつまた個々の社会現象のつながりを探ろうとする態度とその洞察力。⑤. 先行する「持続可能な社会」の試みから「政策学習」を試みようとする意欲とその想像力。⑥. 「持続可能な社会」の在り方について判断し、基本的な提言を表現できる能力。 尚、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まる。 ■成績評価方法および基準 定期試験 100% ■授業時間外に必要な学修 毎回の講義に先立ち、必ず指定された教科書の箇所を熟読玩味し、問題意識を高めた上で講義にのぞんで載せたい。予習を通じ自らが得た予備知識もしくは情報の「残像」が、驚くほど、講義内容の理解をスムーズにする。そして、講義を傾聴しノートにしたための記述は、必ずその日のうちにもう一度目を通しつつ、自分なりに加筆・訂正して載せたい。要は、予習-講義-復習の連環を切らさずに、このパターンを毎回習慣化することを通じて、学力の向上を目指すことである。 ■教科書 新田和宏『持続可能な社会』地球市民教育総合研究所/妻の郷出版 (2015年) ■参考文献 新田和宏『新しい政治の世界』地球市民教育総合研究所/妻の郷出版 (2015) ■関連科目 新しい政治学 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 新田研究室 (2号館5階)・nitta@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 「持続可能な開発」と「持続可能な社会」 第2回 人口減少社会 第3回 限界集落 第4回 少子高齢化社会 第5回 経済のグローバル化および雇用と所得の不安定化 第6回 ワーク・ライフ・バランスと両立支援 第7回 日本的経営とホワイト企業およびディーセント・ワーク 第8回 日本型福祉国家の限界 第9回 ポスト日本型福祉国家と生活保障 第10回 持続可能な社会という難題 第11回 環境産業革命と低炭素社会および脱原発 第12回 持続可能な都市 第13回 持続可能な地域社会と社会的企業および6次産業化 第14回 「豊かな社会」と持続可能な社会 第15回 「脱成長」と持続可能な社会の行方 定期試験	

科目名： 自己発見の心理学			
英文名： Psychology for Self- Discovery			
担当者： オビナタ カオル 大日方 薫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目
■授業概要・方法等 自分自身が何者であるか、どこから来てどこへ行くのか、それらを知ろうとすることは容易ではないだけに尽きることのない面白さがある。本講義では、心理学の知見を概観することによって人間の心の仕組みに様々な角度から接近し、我々が世界をどのように感じ、どのように把握しているのかを学んでゆく。「自己」なるものをそれぞれの内外に発見してゆく糸口としたい。講義形式に加え、必要に応じて質疑応答を組み入れる。 ■学習・教育目標および到達目標 本講義では、自分自身を問題の中心に置き、主として次の3点から心理学を通した人間理解を深めることを目標とする。 1 心理学が扱う広範な領域を横断的に学び、その全体像を理解する。 2 人間の一般性と個別性についての相互的なつながりを理解する。 3 自分自身とは何かについて問い直し、自己発見への手がかりを見出す。 ■成績評価方法および基準 レポート 100% ■授業時間外に必要な学修 文学・映画・音楽などのあらゆる表現作品に積極的に触れ、自分自身の興味関心を押し広げること。それぞれの作品の中に講義から学んだ自己発見の手がかりを感じ取ること。 ■教科書 特に指定しない。 ■参考文献 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行『はじめて出会う心理学』(改訂版)有斐閣 2008年 ■関連科目 特になし。 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行う。 ■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階254)・d01c09@gmail.com ■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とする。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 心理学における「自己」 第2回 動物としての人間、生命・種としての「自己」 第3回 生まれてきた子どもとしての人間、「自己」を発見し続ける存在 第4回 動かすもの、動かされるものとしての人間、感情と動機付け 第5回 性格・知能、個性差における「自己」 第6回 ストレスへの適応、外界との関係における「自己」 第7回 カウンセリングと臨床心理学 第8回 深層の心理学における「自己」 第9回 感覚・知覚、人間はどのように外界を把握するか 第10回 記憶と忘却のメカニズム 第11回 次の手を読む、思考と学習、認知心理学 第12回 心と脳 第13回 夢の世界 第14回 社会における「自己」、関係としての「私」 第15回 「自己」という果てなき物語	

科目名： 生物と地球環境			
英文名： Organisms and Global Environments			
担当者： カトウ ツネオ アノ タカシ アキタ モトム ホシ タケヒコ タケベ ソウ 加藤 恒雄・阿野 貴司・秋田 求・星 岳彦・武部 聡			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 生物集団は、気候、日照・温度、水環境、土壌環境などの多くの環境から強い影響を受けながらそれらに適応し、大きな多様性を生み出している。本講義では、生物の存在・形成・発達に対して多様な環境要因がどのような影響を及ぼすのかについて、生物の示す進化と多様性の視点を軸に解説し、人間が地球環境を保全し健康で幸福な生活を送るためになすべきことを科学技術の観点から考察する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生は、地球規模での環境の変化と、それに適応し進化してきた生物との関連性を、生物学的観点から理解できるようになることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト(5回)100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 生物と環境との相互作用に興味をもち、現在問題となっている地球環境の変化と生物におよぼす影響等について、自ら学習すること。</p> <p>■教科書 特に指定しない。</p> <p>■参考文献 講義時に指示する。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 阿野研究室(西1号館4階458)・tano@waka.kindai.ac.jp 加藤(恒)研究室(西1号館5階551)・tkato@waka.kindai.ac.jp 秋田研究室(西1号館5階557)・akita@waka.kindai.ac.jp 星研究室(西1号館4階459)・hoshi@waka.kindai.ac.jp 武部研究室(西1号館6階660)・takebe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、UNIVERSAL PASSPORT(https://waka-unipa.itp.kindai.ac.jp)のオフィスアワーを参照すること。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 地球環境(1)(阿野) 第2回 地球環境(2)(阿野) 第3回 地球環境(3)(阿野) 第4回 生物の多様性と進化(1)(加藤(恒)) 第5回 生物の多様性と進化(2)(加藤(恒)) 第6回 生物の多様性と進化(3)(加藤(恒)) 第7回 植物と環境(1)(秋田) 第8回 植物と環境(2)(秋田) 第9回 植物と環境(3)(秋田) 第10回 食糧生産と環境(1)(星) 第11回 食糧生産と環境(2)(星) 第12回 食糧生産と環境(3)(星) 第13回 生物農薬(1)(武部) 第14回 生物農薬(2)(武部) 第15回 生物農薬(3)(武部)</p>	

科目名： 医療・科学・暮らし			
英文名： Medical Care, Science and Daily Life			
担当者： キタヤマ イチロウ ニシテ ヨシアキ フジイ マサオ アサイ マサミツ キムラ ユウイチ アオキ ノブヤ 北山 一郎・西手 芳明・藤井 雅雄・浅居 正充・木村 裕一・青木 伸也			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 健康や病気を食と暮らしの安全など、人間生活の質の維持と向上に関する課題に強い関心がよせられている。本講義では、現代社会・未来社会を支える研究者・技術者に必要な科学的教養の獲得を目的に以下の講義を行う。</p> <p>(西手芳明) ヒポクラテス時代の医術から現代医療への変遷に科学の成果が果たした役割は極めて大きい。現代医療を成し支えている科学について概説し、その成果を活用した例として、生殖医療、移植医療、ガン治療など高度先進医療で用いられる最新医療機器の特徴や安全性保証の技術について概説する。</p> <p>(青木・浅居・木村) 医療や暮らしを支えるコンピュータ・エレクトロニクス技術に関する話題をとりあげ、生命科学、生体情報処理、生物の仕組みとの関わりや応用につき概説する。</p> <p>(藤井雅雄) 現代社会の暮らしにおいては、様々なエネルギーと工業製品(特に家電製品)なくして快適な生活は実現できない。快適な生活環境とは何かを、熱・温度という観点から、身近な空気と水を通して概説する。</p> <p>(北山一郎) 質の高い人間生活とは何かを考察し、それを実現する医療・福祉機器について、例えば障がい克服して充実した生活を実現する福祉用具・ウェルネス機器などの教材をもとにヒューマンマシンシステムの観点から概説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・医療機器の役割や意義、安全管理について理解ができること。 ・コンピュータ・エレクトロニクス技術の生命科学との関わりや応用が理解できること。 ・暮らしの中の具体例を通して、熱や流体の移動に関する基本概念を学び、快適な生活空間を実現するための方法を検討することができること。 ・ロボットをはじめとする人間と機械の共存を目指す21世紀社会において、福祉や介護の分野では現状どのような機器システムが開発されているのか、その代表例を知ることで人間と機械のインターフェースの重要性を理解すること。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 日常生活の中で、各講義で学習した内容を応用・適用し、理解を深めること。与えられた課題に関連する身近な事例に興味を持ち、それら事例の課題、改善点についてのアイデアの創出に努めること。毎回自分で取ったメモやノートを参照しながら授業内容を整理する。疑問があれば教員に質問すること。</p> <p>■教科書 適宜資料を配付する。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 北山研究室(西1号館1階152)・kitayama@waka.kindai.ac.jp 青木研究室(東1号館2階208)・aoki@waka.kindai.ac.jp 浅居研究室(東1号館3階313)・asai@info.waka.kindai.ac.jp 木村研究室(東1号館4階410)・ukimura@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 北山一郎 火3限、木2限</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医療機器とは 第2回 医療現場で用いられる医療機器 1 第3回 医療現場で用いられる医療機器 2 第4回 医療機器の安全管理 第5回 科学とコンピュータ 第6回 医療・生活の場で"光"をあやつる 第7回 画像の医学への応用 -- 画像診断, 分子イメージング -- 第8回 暮らしの中のエネルギーと快適性 第9回 暮らしと空気 第10回 暮らしの中の先端技術 第11回 暮らしと家電製品 第12回 ヒューマン・マシーンシステム 第13回 生活支援機器 第14回 バリアフリー、ユニバーサルデザイン 第15回 ウェルネス機器</p>	

科目名： 国際経済入門			
英文名： Introductory International Economics			
担当者： <small>シノキ ワコウ</small> 椎木 和光			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>経済学は基本的に「資源配分」の問題を扱い、配分をめぐる利害をどう調整するかを考えます。国際経済も、国境を越えた資源の配分と調整の課題もっています。</p> <p>経済活動が国境を越えグローバル化しているという表現は、すでに常識化しており当然のごとく受け入れられていると思います。世界経済は、経済グローバル化を支えるためにいくつか基本的な枠組みを作り、その中で動いています。皆さんも現実に見聞きし実感している所があると思います。</p> <p>他方、それぞれの国の社会経済の状況は多様であり、すべての国の利害が一致して同一方向に向いている訳ではありません。それぞれの国は自国の利害に対応した施策（政治的判断）をとって、経済活動に独自の枠組みを与えています。国際間で不調和（対立）が表面化する事もあります。これもまた見聞きし体験していることと思います。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>この授業では、この2つが現実の社会でどのように影響し合っているかを念頭に置きつつ、国際経済を観察・理解できるよう工夫しようと思います。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80%</p> <p>テーマの区切りごとに行う確認テスト 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■教科書</p> <p>特になし。</p> <p>■参考文献</p> <p>特になし。</p> <p>■関連科目</p> <p>現代経済の課題</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）shinoki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 現代の国際経済 －はじめに</p> <p>第2回 世界大恐慌からの教訓</p> <p>第3回 ブレトンウッズ体制とGATT</p> <p>第4回 東洋の奇跡 －戦後の日本経済</p> <p>第5回 ニクソンショックとオイルショック －戦後国際経済の転換</p> <p>第6回 レーガノミックスとプラザ合意</p> <p>第7回 ウルグアイランドの締結とWTO</p> <p>第8回 ヨーロッパの経済統合化</p> <p>第9回 為替レート変動の持つ意味</p> <p>第10回 外国為替市場の基本構図</p> <p>第11回 為替リスクと国際貿易</p> <p>第12回 国際貿易と経済成長</p> <p>第13回 比較優位と国際貿易</p> <p>第14回 現代の国際経済と通商問題 －FTAへの動き</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 国際化と異文化コミュニケーション			
英文名： Internationalization and Cross Cultural Communication			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>国際社会において異なる言語や文化を持つ人々との接触場面で、自信を持って発信できるコミュニケーション能力の育成、他者と対等に関わる態度の育成やアイデンティティの確立など、異文化リテラシー能力の育成を目標とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>異文化コミュニケーションの理論を学習するとともに、多文化化する日本の現状や課題を知り、滞りする外国人との対等な関係性構築のための日本人の態度や、受け入れる側の制度などについても考えることができるようになる。さらに、言語意識の育成をめざし、複言語・複文化意識の大切さにも触れる。議論やロールプレイ、体験談の傾聴などを通して異文化コミュニケーションスキルや態度の育成を目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>課題レポート 60%</p> <p>授業中の発表 20%</p> <p>授業中の課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>社会の身近な出来事や情報について、講義内容をもとに観察し理解を深めること。日頃何気なく使っていることば、無意識に行っている行為や態度を客観的に眺めて、気づいたことについて考察すること。</p> <p>■教科書</p> <p>随時プリント配付</p> <p>■参考文献</p> <p>講義時に必要な参考文献の紹介を行います。</p> <p>■関連科目</p> <p>特になし</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>服部研究室（2号館5階513室）khattori@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜2限（その他の時間帯は、事前に予約してください）。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 国際化と日本社会の多文化化</p> <p>第2回 コミュニケーションとは</p> <p>第3回 異文化コミュニケーションの基礎概念</p> <p>第4回 ことばによるコミュニケーション</p> <p>第5回 非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 言語と文化（1）：価値観と文化的特徴</p> <p>第7回 言語と文化（2）：日英発想法・ことばのワーク</p> <p>第8回 言語と文化（3）：複言語・複文化意識・ことばのワーク</p> <p>第9回 言語と文化（4）：言語意識・ことばのワーク</p> <p>第10回 言語と文化（5）：カルチャーショックと異文化適応</p> <p>第11回 日本社会と異文化コミュニケーション</p> <p>第12回 人の移動と課題</p> <p>第13回 グローバル化とアイデンティティ</p> <p>第14回 国際化と異文化コミュニケーションのまとめ（1）</p> <p>第15回 国際化と異文化コミュニケーションのまとめ（2）</p>	

科目名：国際化と異文化コミュニケーション			
英文名：Internationalization and Cross Cultural Communication			
担当者： <small>ニッタ サチオ</small> 新田 幸夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 国際社会において、異文化のコミュニケーションを理解することは重要である。そのために英語などの言語的見地からのアプローチのみならず、多様化する国際交流、多文化共生、国際化、グローバル化などの異文化コミュニケーションに関する基礎知識を理解し、その内容を習得する必要がある。本講義では、各項目に即して説明した後に、2、3の質疑応答を行い、その理解を深めていく。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講義では、政治的・歴史的・文化的背景の異なる人たちとコミュニケーションを展開するときに影響を与えるさまざまな要因を分析し考察を行う。そうして、さまざまなケースに関して、学生がその対応を考え、実行できることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 40% 授業中の発表 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 メディアが発する同じニュースに関して、1) テレビのニュース番組と新聞記事の内容を比較すること、2) 新聞社間の主張の相違を調べること、などを基本的な学習の姿勢として取り入れ、講義で学んだ内容を生かすこと。</p> <p>■教科書 特定しない。</p> <p>■参考文献 授業中に必要な参考文献の紹介を行う。</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・snittaskmj0715@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 国際化とグローバリゼーション 第2回 コミュニケーションとは 第3回 異文化とコミュニケーション 第4回 情報処理 第5回 情報の共有 第6回 ソーシャルネットワーク (1) 第7回 ソーシャルネットワーク (2) 第8回 マスメディア (1) 第9回 マスメディア (2) 第10回 コミュニケーションのダイナミズム 第11回 インターネットのコミュニケーション情報共有のメカニズムと危機管理 第12回 情報共有のメカニズムと危機管理 第13回 異文化の共生 第14回 オピニオンリーダーについて 第15回 国際化と異文化コミュニケーションのまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：国際社会と日本			
英文名：International Society and Japan			
担当者： <small>ニッタ サチオ</small> 新田 幸夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアなどの国々の現在における概要と日本との関係を基にして、幅広く理解する。国際社会が抱えるさまざまな問題、特に国際紛争、貧困、難民、環境、エネルギーなどの観点から日本との関係を軸にして、概観し分析を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講義では、共通科目の基礎として、世界のさまざまな地域の文化などに興味を持ち、国際的な感性を養うこと、さらに、世界情勢は日々変化し、自分たちの日常生活に影響を及ぼしている実態を理解することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 40% 授業中の発表 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 日頃から新聞の政治、国際の欄を読んでおくこと。特に、1) 授業計画にある内容を含む項目に関しては、切り取って整理すること、2) その記事の内容を50字程度にまとめておくこと、などを授業以外でも取り組むこと。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 明石康 『国際連合—奇跡と展望』岩波新書2006年</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行ないます。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・snittaskmj0715@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 グローバリゼーション 第2回 国家とナショナリズム 第3回 第1次世界大戦とヨーロッパ 第4回 第2次世界大戦と国際秩序 第5回 戦後の米ソ対立 第6回 冷戦後のアフリカと国際社会 第7回 地域統合の動き 第8回 ラテンアメリカと国際社会 第9回 イスラムと国際社会 第10回 中国とグローバリゼーション 第11回 国連の役割 第12回 世界における民主主義の現状 第13回 地球環境問題 第14回 日本の外交 第15回 国際社会と日本のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：日本近現代史			
英文名：Modern Japanese History			
担当者：ナガサワ カズエ 長沢 一恵			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
■授業概要・方法等 明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを、おもに「デモクラシーの発展と平和の模索」のテーマから理解します。開国によって近代国家として出発した日本は、大日本帝国憲法のもとで大正デモクラシー期には民衆の社会要求や権利意識の高まりを背景として多彩な言論や社会運動を展開し、政党政治の成立へと結実するとともに、一方では差別や植民地支配、戦争、移民問題など複雑で多面的な課題を抱える社会でした。 講義では、こうした内外の問題を広く捉えながら、差別・戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を図るなかで追求された民主主義や「平和」の価値を見直すことによって、これからの国際社会のありかたを考える手がかりにしたいと考えます。 ■学習・教育目標および到達目標 ①日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。 ②多様で重層的な社会構造や国際関係のなかで歴史を捉える相対化の視点を養う。 ③戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。 ■成績評価方法および基準 定期試験 60% 授業中に行う小レポート 40% ■授業時間外に必要な学修 各授業キーワードを手がかりに、図書館で歴史事典や下記に挙げた参考文献などを活用して積極的に学習を進めてください。 ■教科書 教科書は使用せず、授業プリントを配付します。 ■参考文献 『日本の時代史』18～30巻（吉川弘文館）2003年～2004年 『日本の歴史』20～25巻（講談社）2002年～2003年 歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』8～10巻（東京大学出版会）2005年 『シリーズ日本近現代史』全10巻（岩波新書）2006年～2010年 鹿野政直『日本の近代思想』（岩波新書）2002年 中村政則『戦後史』（岩波新書）2005年 ■関連科目 暮らしのなかの憲法、人権と社会1・2、国際社会と日本 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階254）・kazue_nagasawa@yahoo.co.jp ■オフィスアワー 当該科目開講期間の火曜5限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 ガイダンス 第2回 明治維新 第3回 自由民権運動 第4回 明治憲法体制の成立 第5回 日清・日露戦争 第6回 第一次護憲運動と大正政変 第7回 大正デモクラシーと憲法論争 第8回 大正デモクラシーの展開 第9回 琉球処分と「沖縄県」設置 第10回 ソテツ地獄と伊波普猷 第11回 南洋「委任統治」と沖縄移民 第12回 アジア・太平洋戦争と「沖縄戦」 第13回 米軍統治と「琉球政府」 第14回 沖縄「復帰運動」 第15回 第五福竜丸事件 定期試験	

科目名：里山の環境学			
英文名：Environmental studies on Satoyama, Traditional Rural Landscape of Japan			
担当者：ニッタ カズヒロ 新田 和宏			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
■授業概要・方法等 <本講座を学ぶ目的> 本講座は、里山に関する基本的な理解を深め、里山の環境を保全するために必要とされる、「技」を含めた、基本的な「身体知」を習得することを目的とする。それ故に、本講座は大変興味深い講座である。 <本講座において学ぶ意義> 現在、わが国の里山は危機的状況にある。多く見積もっても、里山全体の5%程度しか、適正な管理がおこなわれていない。また、里山ボランティアによる管理は、わずかに0.1%に過ぎないといわれている。「日本の原風景」ともいわれる里山は、滅び行くのだろうか。こうした問題意識を秘めつつ、里山における実践的な学びから、里山の再生には、どのような働きかけが求められるのか、そのような提言を試みようとするところに、本講座を学ぶ根本的な意義がある。 <本講座の方法> キャンパスに隣接する「近畿大学里山の哲学の道」をフィールドとし、講義とフィールド・ワークを中心に、エクスカーション（遠足）などを交えながら、本講座は多彩かつアクティブに展開する。 ■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。 ① フィールド・ノートを取る力。② 鉋や木槌および造林鎌などを用いて道普請を行える力。③ 杉の間伐や竹の除伐を行える力。④ 里山を代表するクヌギやコナラなどの樹木を識別しえる力。⑤ 里山のすみずみまで巡り歩くことができるトレッキングの力。⑥ 里山再生に向けて具体的な提言を表現しえる力。 高、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まる。 ■成績評価方法および基準 定期試験 100% ■授業時間外に必要な学修 毎回の講義に先立ち、必ず指定された宿題をこなし、問題意識を高めた上で講義にのぞんで載きたい。予習を通じ自ら得た予備知識もしくは情報の「残像」が、驚くほど、講義内容の理解をスムーズにする。そして、講義を傾聴しノートにしたための記述は、必ずその日のうちにもう一度目を通しつつ、加筆・訂正して載きたい。要は、予習-講義-復習の連関を切らさずに、このパターンを毎回習慣化することである。 ■教科書 使用しない。 ■参考文献 神奈川県立生命の星・地球博物館編『フィールド・ワークの達人』東海大学出版会（2010） 重松敏則・JCVN編『よみがえれ里山・里地・里海』築地書館（2010） 義文志乃夫『里山・里海暮らし図鑑』柏書房（2012） 森谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義』角川書店（2013） 今森光彦『NHKニッポンの里山ふるさとの絶景100』NHK出版（2014） ■関連科目 持続可能な社会論 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 里山トレッキング：フィールド・ノートの技法 第2回 里山の環境哲学：攪乱（disturbance）と保全（conservation）および保護（preservation） 第3回 里山の衰退と再生および市民参加 第4回 里山と農地・里地および奥山との関係 第5回 里山の鳥：バードウォッチングの技法 第6回 里山の樹木：樹木の見分け方と名札付け 第7回 里山の恵み：原木からのシイタケ栽培 第8回 里山の維持管理：「道普請」 第9回 里山保全のツール（道具） 第10回 里山の侵略的外来種とその駆除 第11回 里山の食文化 第12回 里山の造形芸術 第13回 里山の環境教育 第14回 紀の川流域の歴史と民俗および里山文化 第15回 里山文化の継承と発展および里山ボランティア 定期試験	

科目名：日本語の技法			
英文名：Skills of Japanese Language			
担当者：カジヤマ シンイチロウ ヨシダ ヒサシ ムラタ マサル 梶山 慎一郎・吉田 久・村田 大			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本授業では、自分の考えや伝えるべきことを、書き言葉で的確に表現する能力を養う。レポート作成や論文作成で、卒業後の実社会でも必要とされる文章作成能力を養うことを目標とする。まず、自分の日本語表現力を診断テストにて自覚し、論理的な文章を書くために基礎的な事柄を講義とe-Learning演習にて学習していく。</p> <p>【e-Learning演習概要】 講義終了後e-Learning演習にて学習していく。内容は演習・文章添削など（1時間以内で完了できる内容とする）。次回の講義までに提出し、必ず添削を受けなければならない。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 構成の整った、説得力のあるレポート作成方法、文章を学び、将来の技術者、社会人にふさわしい日本語表現能力を身につける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% ワークブック演習 20% e-Learning 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業は文章作成実習を含むので、あらかじめ指示する課題について情報を収集しておくこと。講義終了後、e-Learning演習にて復習すること。</p> <p>■教科書 「日本語表現法」(株)ワオ・コーポレーション刊、 「日本語表現法ワークブック」(株)ワオ・コーポレーション刊</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） hiro-kazu_miyamoto@wao-corp.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス：講義の概要と進め方についての説明、自己診断テスト 文章の書き方：簡潔な文章の書き方</p> <p>第2回 文章の書き方：まぎらわしさを排除する</p> <p>第3回 文章の書き方：道筋を示す</p> <p>第4回 文章の書き方：文章を論理的に構成する</p> <p>第5回 レポートの書き方：アカデミックライティングとは小テスト①</p> <p>第6回 レポートの書き方：レポートの基本と目的</p> <p>第7回 レポートの書き方：レポートの事前準備と全体の構成</p> <p>第8回 レポートの書き方：事実と意見の組み立て</p> <p>第9回 レポートの書き方：データ分析とグラフ・表の活用</p> <p>第10回 レポートの書き方：要約、批評、報告の文章 小テスト②</p> <p>第11回 論文の書き方：テーマの見つけ方・捉え方</p> <p>第12回 論文の書き方：論理展開の思考と記述1</p> <p>第13回 論文の書き方：論理展開の思考と記述2</p> <p>第14回 論文の書き方：論文の表記と記号</p> <p>第15回 論文の書き方：長文の読解と要約文</p> <p>定期試験</p>	

科目名：基礎ゼミ			
英文名：Foundation Seminar			
担当者：全教員			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・通年	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 この授業は、新入生の皆さんが自主性や主体性を身に付け、大学で学ぶこと、研究することの楽しさを体験するための導入教育として位置付けられています。授業は大きく二つの内容から成り立っています。ひとつは、近畿大学および生物理工学部の歴史や教育方針を学び、皆さんに近畿大学生としての自覚を持ってもらうための自校学習。もう一つは、少人数クラスで行われるゼミ形式で、一人一人、またはみんなで協力し合って問題解決に取り組む手法を学びます。担当教員の指導のもと、資料集め、調査、報告書の作成、人前での発表といったことをおこないます。皆さんが相互的に「学び、学びあう」という姿勢で、積極的に参加する授業です。この授業は、教員と学生との距離を縮め、学生の皆さんが円滑に大学生活に馴染んでいくようにする目的もあり、そのため担当教員はアドバイザーになっています。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 近畿大学および生物理工学部の建学の精神や教育理念・目標を理解し、近畿大学生としての自覚を持つ。 MyCampusPlanを用いて4年間の学生生活を計画し、半期ごとの実現可能な目標を立てる。主体的に課題に取り組み、「学び、学び合う」姿勢を修得する。 学ぶこと、研究することに必要な手法を体験的に理解する。 自分の考えをまとめ、人前で発表する。 他人の発表を聞いて質問したり、意見を述べたりする。</p> <p>■成績評価方法および基準 担当教員により異なりますので担当者に尋ねてください。100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 課題研究用の資料集め、内容のまとめ、発表用の原稿や資料作りは発表前の授業時間外に行う必要があります。また、発表後の討論会等が出た教員やクラスメートからの意見を参考に、自分の発表内容を見直し、反省することも授業時間外に行う重要な作業のひとつです。課題等は担当教員によって異なりますので、担当者教員の指示に従ってください。</p> <p>■教科書 担当教員により指示があります。</p> <p>■参考文献 担当教員により指示があります。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス (代表) 吉田研究室（東1号館4階418）・yoshida@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 第2回目の授業時に担当教員より知らされます。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 基礎ゼミガイダンス</p> <p>第2回 近畿大学の建学の精神と教育理念1</p> <p>第3回 近畿大学の建学の精神と教育理念2</p> <p>第4回 生物理工学部の歴史と理念</p> <p>第5回 マイキャンパスプランを用いた大学生活設計</p> <p>第6回 図書館の使い方</p> <p>第7回 課題設定 グループディスカッション</p> <p>第8回 プレゼンテーションの準備 情報収集の方法、整理と分析</p> <p>第9回 プレゼンテーションの準備 キーメッセージを考える</p> <p>第10回 プレゼンテーションの準備 論理の構築とストーリー展開</p> <p>第11回 プレゼンテーションの準備 ビジュアル（配布資料など）の作成</p> <p>第12回 プレゼンテーションの準備 全体のチェック</p> <p>第13回 プレゼンテーション 自分が発表する</p> <p>第14回 プレゼンテーション 他の人の発表を聞く</p> <p>第15回 討論とまとめ</p>	

科目名： 思考の技術			
英文名： The Art of Thinking			
担当者： <small>ヒラキ コウジ</small> 平木 光二			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 <思考の技術>という思考を一つの技術ととらえるメソッドについての入門的内容を学びます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 演習問題に加え、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、思考の技術・発表の技術を磨くことを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% 授業中課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 指定しない。毎授業時資料を配布する。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠しています。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・hirakik@pj9.so-net.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 議論の構造 第3回 論証の構造 第4回 論証の評価 第5回 推測 (1) 第6回 推測 (2) 第7回 価値評価 第8回 条件構造 第9回 仮説 第10回 批判 第11回 プレゼンテーション (1) 第12回 プレゼンテーション (2) 第13回 プレゼンテーション (3) 第14回 レポート・論文作成 (1) 第15回 レポート・論文作成 (2)</p> <p>定期試験</p>	

科目名： キャリアデザイン			
英文名： Career Design			
担当者： <small>ナカムラ ヒロンゲ</small> 中村 弘成			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 キャリアをデザインするためには自分を知ることも必要であるが、人間は社会的生物であるから、社会とどういう交渉をもち、どういうふうに関連してゆか知らなければならない。この自分を知り、社会で実践してみるという繰り返しの必要なスキルを前半で学ぶ。すなわち前半でキャリアをデザインするためのスキルを学び、後半は大学生の身近な体験が「実は」そのまま実社会での仕事に活かすことができることを示し、学生が自信を持ってキャリアの第一歩を踏み出せるようにグループワークを交え講義を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 キャリアをデザインできることのメリットを理解する。 キャリアデザインに必要なスキルを理解する。 自分の身近な体験を仕事に活かせることを示すことができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 小テスト 20% 授業中課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で学んだことを実生活使ってみる。 授業で指示された課題への取り組み。</p> <p>■教科書 授業中で指示する。</p> <p>■参考文献 適宜指示する。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 生物理工学部実施規程に準拠しています。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・hnakamur@silver.ocn.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 キャリアデザインとは何なのか？ 第2回 世の中の大きな流れの例を学ぶ<未来の方向性> 第3回 自分自身の伸びしろの把握の仕方と伸ばし方<過去・現在の把握 I > 第4回 思い込みの怖さを体感する<過去・現在の把握 II > 第5回 Planned Happenstance理論<過去・現在から未来への進め方> 第6回 他人が理解しやすい伝え方<論理的・具体的な書き方と話し方> 第7回 相手の言っていることをしっかりきくには？<効果的な聴き方> 第8回 他人の行動を促す伝え方<アサーティブなコミュニケーション> 第9回 これまでの復習 第10回 仕事とは何なのか I <その共通していること> 第11回 仕事とは何なのか II <その共通していること> 第12回 アルバイトと企業の仕事との関連 第13回 サークル・クラブ活動と企業の仕事との関連 第14回 大学での勉強スタイル・ボランティアと企業の仕事との関連 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 社会奉仕実習			
英文名：Practice of Community Service			
担当者：ニッタ カズヒロ 新田 和宏			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 <本講座を学ぶ目的> 本講座は、ボランティアに関する理論的な考察を交えながら、実際のボランティア活動を通して、ボランティアについて学ぶことを目的とする。 <本講座において学ぶ意義> 昨今、大学生であるならば、在学期間中に、少なくとも何か一つ、ボランティアを行うことが求められている次第である。しかし、本講座は単にボランティア活動の場を提供することを主眼するものではない。本講座の学び意義は、机上だけでボランティアについて学ぶのではなく、実際にボランティアを実践することで、「ボランティア・ラーニング」すなわちボランティア活動を通じて学びを深めることにある。 <本講座の方法> 尚、本講座は、事前導入授業（講義とワークショップ）の後、大学が指定した実習施設（社会福祉施設もしくはNGO・NPOおよびボランティア団体）において、ボランティア活動としての実習（合計22時間以上）を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。 ①. ボランティア活動に求められる基礎能力として、ホスピタリティの精神に基づき、当事者に適切なアウトリーチを行える能力。②. とりわけ、当事者のニーズを先読みできる能力。③. ボランティア活動に関心を示し、かつまた継続して行えるモチベーションを持ち続ける能力。④. 社会人として求められる社会貢献への取り組みに参加しえる態度と意欲。 尚、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まると看做す。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の講義に先立ち、必ず指定された教科書の箇所を熟読玩味し、問題意識を高めた上で講義にのぞんで載きたい。予習を通じ自らが得た予備知識もしくは情報の「残像」が、驚くほど、講義内容の理解をスムーズにする。そして、講義を傾聴しノートにたたためた記述は、必ずその日のうちにもう一度目を通しつつ、加筆・訂正して載きたい。要は、予習-講義-復習の連関を切らずに、このパターンを毎回習慣化することである。</p> <p>■教科書 新田和宏 編『2015年度・社会奉仕実習簿』近畿大学生物理工学部（2015）</p> <p>■参考文献 新田和宏『参加型学習』地球市民教育総合研究所（2001） 平田 哲『Whatt sボランティア』アジアボランティアセンター（2005） 日本国際航路対策機構編『世界と地球の困った現実』明石書店（2003） 佐藤慶幸『NPOと市民社会』有斐閣（2002）</p> <p>■関連科目 持続可能な社会論 インターンシップ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 「社会奉仕実習」の履修方法と実習施設の紹介 第3回 演劇ワークショップ 第4回 ボランティアおよびNGO・NPO概論 第5回 実践！ 里山ボランティア 第6回 福祉・環境・スポーツ・国際協力ボランティア論 第7回 アサーティブネス・トレーニング 第8回 コミュニケーション・スキル 第9回 コラボレーション・スキル 第10回 ボランティア・ラーニング 第11回 ボランティア・マネジメント 第12回 ボランティア・コーディネイト 第13回 実習① 第14回 実習② 第15回 実習③</p>	

科目名： 科学技術と人間・社会			
英文名：Science Technology, Human and Society			
担当者：クボタ ヒトシ 久保田 均			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 [授業概要] 科学技術は特に産業革命以降、著しく人類の生活の向上、福祉の増進に著しい貢献をしてきた。一方、同時に種々の問題も引き起こし、それらを克服しながら発展し続けてきたのが現状である。本科目では、技術者を目指す学生に対して、人間・社会に対しての接点を技術者倫理の観点から解説し、事例演習を通して技術者の使命・役割を総合的に学習する。最近の話題である「遺伝子組み換え作物」についても考察する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 技術者として知っておかねばならない「技術者倫理」の体系的な知識、応用力が養われる。特に、エネルギー、環境、安心と安全のものづくり、情報に関する人間・社会と技術者の関係、倫理面が理解できる。 また、事例演習を通じて文章表現力、発表力が養われる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 授業中の演習 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 事例研究と演習の復習をしっかりする事。 日頃から関連する新聞記事、インターネット記事に関心を持ち目を通す事。</p> <p>■教科書 なし</p> <p>■参考文献 Webラーニングプラザ（技術者学習システム） 技術者倫理 科学技術振興機構 http://weblearningplaza.jst.go.jp/</p> <p>■関連科目 なし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 先端技術総合研究所 ロボット工学・技術センター・kubota@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜日 2時限。事前にメールをすること。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 クリティカルシンキング 第2回 エネルギーの歴史と現状 第3回 原子力発電と放射能 第4回 事例演習 第5回 古典的な公害と現代の公害 第6回 低炭素社会と循環型社会 第7回 事例演習 第8回 日常の安全活動、製造物責任、製品安全 第9回 システム工学における設計基本ルール 第10回 遺伝子組み換え作物 第11回 事例演習 第12回 知的財産権と特許 第13回 特許の書き方と演習 第14回 警笛鳴らしと内部告発：スペースシャトル爆発事故 第15回 事例研究と演習</p> <p>定期試験</p>	

科目名： インターンシップ			
英文名： Internship			
担当者： ニッタ カズヒロ 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 通年	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 <本講座を学ぶ目的> 本講座は、前期における事前授業（エクササイズとワークショップと講義）を踏まえながら、夏季休暇中のインターンシップ研修（30時間以上）を通じて、学生が企業及び行政機関等の業務を直接体験することにより、仕事に取り組む姿勢や態度、職場の人間関係、並びに業務内容を理解しつつ、自己の職業意識・専門の実務能力を高め、もって学生自身の主体的かつ真摯な就職活動及び職業選択・適性判断・将来設計、並びに自己改善能力の構築を促す目的で行う。したがって、本講座の受講にあたっては、職業意識及び学業意識が高く、積極的な態度を示す学生の受講が望まれる。</p> <p><本講座において学ぶ意義> 本講座を学ぶ意義は、「仕事の哲学」を考えることにより、インターンシップ受講後における就職活動およびキャリア形成の礎となることにある。</p> <p>尚、インターンシップ研修の受け入れ先の企業及び行政機関等については、主に和歌山県経営者協会「インターンシップ制度推進委員会」加盟の企業及び行政機関等から学生が選択する。</p> <p><本講座の方法> 本講座は、参加型学習をベースに、エクササイズとワークショップと明快なミニ・レクチャーを交え、アクティブに展開する予定である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。</p> <p>①. 就職活動およびキャリア形成に対する意欲的なモチベーションを継続しえる能力。②. 仕事および職業に対する基本的な判断の軸となる「仕事の哲学」を形成する基本的な能力。③. プレゼンテーションの基本的な表現技法。④. 言語的・非言語的コミュニケーション能力。⑤. コラボレーションおよびファシリテートの基礎能力。⑥. インターンシップを通じて学び得たことを的確に表現しえる能力。⑦. 財務諸表分析を踏まえた企業研究を進められる基礎能力。</p> <p>尚、上記の「到達目標」は、降順に従い、「達成目標」から「向上目標」の割合が高まる。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の授業に先立ち、指示されたエクササイズ（『インターンシップ研修簿』に明記）を期日までにメールで提出し、問題意識を高めた上で授業にのぞんで戴きたい。提出された各学生のエクササイズは授業において全員共有の「教材」として使われる。本講座の授業は、エクササイズという「教材」を媒介にしながら、学生どうし「学び・学び合う関係」を構築しつつ、協同学習という学びのスタイルで展開される。したがって、提出されるエクササイズの出来具合とその質が学びの深さを左右するので、学生諸君はエクササイズを真摯に取り組んで戴きたい。</p> <p>■教科書 新田和宏 編『2015年度・インターンシップ研修簿』近畿大学生物理工学部（2015）</p> <p>■参考文献 日経ビジネス『日本経済入門』日経BP社（2014） 経済産業省『ホワイト企業』文藝春秋（2013） 山田昭男『稼がなければ、働くな。』サンマーク出版（2012）</p> <p>■関連科目 社会奉仕実習</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜5限。予め、メールで連絡ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 インターンシップ・プログラム 第2回 セルフ・マネジメントとビジネス・メール 第3回 自己表現とコミュニケーション・スキル 第4回 プレゼンテーション・スキル①「研究テーマⅠ」 第5回 プレゼンテーション・スキル②「研究テーマⅡ」 第6回 プレゼンテーション・スキル③「商品開発」 第7回 ソリューション・スキル 第8回 ヒューマン・リレーション・スキル 第9回 ビジネス・マナー①「コミュニケーション」 第10回 ビジネス・マナー②「パフォーマンス」 第11回 ビジネス・マナー③「状況判断Ⅰ」 第12回 ビジネス・マナー④「状況判断Ⅱ」 第13回 ビジネス・マナー⑤「ビジネス・ツール」 第14回 財務諸表と企業研究 第15回 スケジュール管理と手帖術</p> <p>第16回 ガイダンス 第17回 インターンシップ研修 第18回 インターンシップ研修 第19回 インターンシップ研修 第20回 インターンシップ研修 第21回 インターンシップ研修 第22回 インターンシップ研修 第23回 インターンシップ研修 第24回 インターンシップ研修 第25回 インターンシップ研修 第26回 インターンシップ研修 第27回 インターンシップ研修 第28回 インターンシップ研修 第29回 インターンシップ研修 第30回 事後報告会</p>	

科目名： キャリアインターンシップ			
英文名： Career Internship			
担当者： カクガッカタントウキョウイン 各学科担当教員			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 集中	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 本講座は、事前研修（集中講座）を実施し、夏季休暇中のインターンシップ研修を行う際における、社会で働く心構え、インターンシップへの参加目的の明確化、ビジネスマナーなどを学び、身に付けます。さらに、インターンシップ研修後は、事後研修を実施し、インターンシップ研修で学んだことをさらに深めて考えることで、今後の自らの専攻における学習の目標化や将来の進路選択に活かすことを目的とします。尚、インターンシップ研修の受け入れ先の企業及び行政機関等については、大学で紹介いたします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 社会で働く心構え、インターンシップへの参加目的の明確化、ビジネスマナーなどを学び身に付けます。</p> <p>■成績評価方法および基準 事前授業・研修先での評価・および事後報告会における内容を総合的に判断して評価します。100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 プリント配布します。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 3号館2階・就職情報室 bost-shu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～13:00</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ビジネスマナー 第2回 プレゼンテーション 第3回 はじめに 自分探し① 「自己パーソナリティーの認識」 第4回 ポジティブな自分作り① 「ポジティブな自己イメージ形成」 第5回 ポジティブな自分作り② 「制限思考からの脱却」 第6回 ポジティブな自分作り③ 「快適ゾーンの拡大」 第7回 ポジティブな自分作り④ 「職業観の形成」 第8回 ポジティブな自分作り⑤ 「ビジョン探求」 第9回 研修① 第10回 研修② 第11回 研修③ 第12回 研修④ 第13回 研修⑤ 第14回 研修⑥ 第15回 事後研修会</p>	

科目名： スクールインターンシップ			
英文名： School Internship			
担当者： カワハラ ナオタケ オダ ヨシタカ 河原 尚武・小田 義隆			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 集中	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 本科目は主に教職課程を履修する3年生と4年生を対象とするもので、本学部に協力して下さる公立の小中学校及び高等学校における、教職業務についての研修体験を通して学ぶことを目的としています。4年次で履修する「教育実習」では、教科指導（授業実習）に重点が置かれるのに対して、「スクール・インターンシップ」は、授業補助や児童・生徒との交流などに重点を置きながら、教職業務全般について経験することをねらいとしています。研修Ⅰ（事前研修、4時間）で、今日の教育課題、教員の職務と校務分掌等（下記、「授業計画の項目・内容」）について学んだ後に、本学部に近接する地域の公立学校で30時間以上の研修Ⅱ（実地研修）を行い、終了後、研修Ⅲ（事後研修、2時間）で、研修体験について報告・交流し、教職の意義、課題等について認識を深めます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 教科指導に重点を置く教育実習と違い、児童・生徒の理解と指導に重点を置きながら教職全般について経験することによって、教職に対する理解を深めることを学習・教育目標とします。また、研修体験を通して、履修生が自ら課題を見出し、それぞれが独自に到達目標を設定することも求められます。教師を志望する学生には、非常に有意義な実地研修です。</p> <p>■成績評価方法および基準 授業中課題 50% 研修校での評価 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 テキスト『スクール・インターンシップBOOK』内にある研修簿に丁寧に記入すること。その際、大学での教職課程の授業との関連について考え、教職に関する理解を深めること。</p> <p>■教科書 河原尚武・小田義隆『スクール・インターンシップBOOK』山口美術印刷、2012。</p> <p>■参考文献 『現代教育制度論』（土屋 基規、ミネルヴァ書房；2011） 『登校拒否を生きた「脱落」から「脱出」へ』（高垣 忠一郎、新日本出版社；2014） 『学校の「空気」』（若者の気分）（本田 由紀、岩波書店；2011） 『時代を拓いた教師たち—戦後教育実践からのメッセージ』（田中 耕治、日本標準；2005） 『つながりを煽られる子どもたち—ネット依存といじめ問題を考える（岩波ブックレット）』（土井 隆義、岩波書店；2014）</p> <p>■関連科目 教職に関する全科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室（2号館5階507室）・kawahara@waka.kindai.ac.jp 小田研究室（2号館5階509室）・oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 河原・火曜3限 小田・木曜4限 事前にメールにてアポイントメントをとってください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 はじめに「実習の心得」 第2回 教員の服務 第3回 教師の役割と仕事 第4回 教師の職務と校務分掌 第5回 学級経営と学校経営 第6回 教師の勤務実態 第7回 教師の悩みと不満 第8回 学校の人間関係 第9回 教師の資質・能力 第10回 教師を支える学校事務職員 第11回 今日の教育課題 第12回 スクール・インターンシップを終えて 第13回 研修で経験した困難について 第14回 学校（教師・生徒）における研修の意義 第15回 教職をめざして 今後の学習課題</p>	

科目名： 生涯スポーツ 1			
英文名： Sports and Exercises 1			
担当者： クロズミ ケイジ 黒住 啓二			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 グラウンド・コミュニティホールを使用し、各種目を個人の体力に合わせて行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生涯体育のレクリエーション・スポーツとしての理解を深め、この種目の持つ特性と楽しみを知ることを目標とする。健康の保持増進のために必要な身体活動量について経験することを目標としている。</p> <p>■成績評価方法および基準 実技評価 60% 授業態度 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 生涯スポーツ 2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 基本技術Ⅰ 第3回 基本技術Ⅱ 第4回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン） 第5回 ゲーム 第6回 ゲーム 第7回 ゲーム 第8回 ゲーム 第9回 ゲーム 第10回 ゲーム 第11回 ゲーム 第12回 ゲーム 第13回 ゲーム 第14回 ゲーム 第15回 まとめ</p>	

科目名：生涯スポーツ1			
英文名：Sports and Exercises 1			
担当者：橋本 剛幸 <small>ハシモト ヨシユキ</small>			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 それぞれの技能・体力に合わせて、生涯スポーツにつながる様々なスポーツを行う。種目や状況に応じて、グラウンドおよびコミュニティホールを使用する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生涯を通じて付き合っていけるスポーツを見つけることを目標に、能力の個人差や性別を超えてすべての人とそのスポーツの持つ特性を共有し、楽しむことを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 実技評価 60% 授業態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各種目のルールについての理解。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回目の授業ではオリエンテーションを行う。 2回目以降は基本的な実技（球技中心）を行い、技能に応じて、できるだけ早い時期からゲームを中心とした実技を行っていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 基礎実技1 第3回 基礎実技2 第4回 基礎実技3 第5回 ゲーム1 第6回 ゲーム2 第7回 ゲーム3 第8回 ゲーム4 第9回 ゲーム5 第10回 ゲーム6 第11回 ゲーム7 第12回 ゲーム8 第13回 ゲーム9 第14回 ゲーム10 第15回 まとめ</p>	

科目名：生涯スポーツ2			
英文名：Sports and Exercises 2			
担当者：黒住 啓二 <small>クロズミ ケイジ</small>			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 グラウンド・コミュニティホールを使用し、各種目を個人の体力に合わせて行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生涯体育のレクリエーション・スポーツとしての理解を深め、この種目の持つ特性と楽しみを知ることを目標とする。健康の保持増進のために必要な身体活動量について経験することを目標にしている。</p> <p>■成績評価方法および基準 実技評価 60% 授業態度 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 生涯スポーツ1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 基本技術Ⅰ 第3回 基本技術Ⅱ 第4回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン） 第5回 ゲーム 第6回 ゲーム 第7回 ゲーム 第8回 ゲーム 第9回 ゲーム 第10回 ゲーム 第11回 ゲーム 第12回 ゲーム 第13回 ゲーム 第14回 ゲーム 第15回 まとめ</p>	

科目名：生涯スポーツ2			
英文名：Sports and Exercises 2			
担当者：橋本 剛幸 <small>ハシモト ヨシユキ</small>			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 それぞれの技能・体力に合わせて、生涯スポーツにつながる様々なスポーツを行う。種目や状況に応じて、グラウンドおよびコミュニティーホールを使用する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生涯を通じて付き合っていけるスポーツを見つけることを目標に、能力の個人差や性別を超えてすべての人とそのスポーツの持つ特性を共有し、楽しむことを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 実技評価 60% 授業態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各種目のルールについての理解。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回目の授業ではオリエンテーションを行う。 2回目以降は基本的な実技（球技中心）を行い、技能に応じて、できるだけ早い時期からゲームを中心とした実技を行っていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 基礎実技1 第3回 基礎実技2 第4回 基礎実技3 第5回 ゲーム1 第6回 ゲーム2 第7回 ゲーム3 第8回 ゲーム4 第9回 ゲーム5 第10回 ゲーム6 第11回 ゲーム7 第12回 ゲーム8 第13回 ゲーム9 第14回 ゲーム10 第15回 まとめ</p>	

科目名：健康とスポーツの科学			
英文名：Health and Sports Sciences			
担当者：黒住 啓二 <small>クロズミ ケイジ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 各自一冊のノートを作成し、生涯における健康の意義と体力維持の方法を学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 現代生活では体を動かすことが少なくなり、運動不足が問題となっている。ここでは基本的なトレーニング理論を土台に、健康で活力ある毎日がおくれるための知識を学習する。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 10% 授業中の小テスト（3回）90%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 湯浅景元 著「よくわかるスポーツサイエンス」サニーサイドアップ</p> <p>■関連科目 生涯スポーツ1、2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 体のしくみ 筋肉 第3回 体のしくみ 骨 第4回 体のしくみ 脂肪 第5回 体力について 性と体力 第6回 体力について 年齢と体力 第7回 体力について 環境と体力 第8回 筋肉トレーニング 第9回 スタミナトレーニング 第10回 柔軟性トレーニング 第11回 サプリメントと栄養 第12回 水分補給 第13回 ドーピング 第14回 生活習慣病 第15回 まとめ</p>	

科目名：健康とスポーツの科学			
英文名：Health and Sports Sciences			
担当者： ^{ハシモト ヨシユキ} 橋本 剛幸			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 スポーツや運動についての基礎理論を学ぶことにより、人間の健康について考えます。グループ、もしくは個人でテーマを決めて調べ、そのテーマについてプレゼンテーションおよび討議を行います。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生涯にわたって健康的な生活を送るために、いかに運動が大切であるかを理解し、スポーツとどのように付き合っていくかを考え、実践していく意識を高めることを目標とします。また、自ら学ぶ姿勢とプレゼンテーション能力を養い、一つのテーマに対して討議することでお互いの知識を深めることも目標としています。</p> <p>■成績評価方法および基準 プレゼンテーション内容 70% 受講態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回目の授業ではオリエンテーション、グループ分けを行う。 2回目以降はテーマ決定、テーマ内容の調査を数時間行い、準備ができ次第できるだけ早い時期からプレゼンテーション、討議を順番に行っていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 ディスカッション1 第3回 ディスカッション2 第4回 ディスカッション3 第5回 プレゼンテーション1 第6回 プレゼンテーション2 第7回 プレゼンテーション3 第8回 プレゼンテーション4 第9回 プレゼンテーション5 第10回 プレゼンテーション6 第11回 プレゼンテーション7 第12回 プレゼンテーション8 第13回 プレゼンテーション9 第14回 プレゼンテーション10 第15回 まとめ</p>	

科目名：食生活と健康			
英文名：Diet and Health			
担当者： ^{イハラ ヒデン} 居原 秀			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 食は我々の生命を維持するために必要不可欠である。しかし現代は様々な食品が豊富に流通し、食生活も多様化したため、過剰摂取や摂取不足が生じやすくなった。間違った栄養摂取が続くと健康を害することもあるため、栄養の基本的概念を理解した上で、正しい食生活をおくる必要がある。本講義では、さまざまな栄養素に関する基礎知識を身につけるとともに、人間がよりよい食生活を行い、健康を維持増進するためには、どうするべきかを総合的に考える。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 (1) 主要な栄養素の機能について理解する。 (2) ライフステージ別に必要な栄養とその摂取方法を理解する。 (3) 健康を保つ上で適した生活習慣と食生活を理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 「授業で習ったことを身近なものへ適用・応用し、その理解を深めること。」 「各講義で指示された課題に取り組むこと。」</p> <p>■教科書 「イラスト栄養学総論」東京教学社</p> <p>■参考文献 「最新栄養学」健帛社</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 健康と栄養 第2回 エネルギー供給栄養素（1） 第3回 エネルギー供給栄養素（2） 第4回 体をつくる栄養素（1） 第5回 体をつくる栄養素（2） 第6回 代謝調節栄養素（1） 第7回 代謝調節栄養素（2） 第8回 機能性非栄養成分 第9回 消化と吸収（1） 第10回 消化と吸収（2） 第11回 生体におけるエネルギー（1） 第12回 生体におけるエネルギー（2） 第13回 ライフスタイルと栄養摂取（1） 第14回 ライフスタイルと栄養摂取（2） 第15回 栄養状態の判定</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語演習 1			
英文名：English 1			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この授業では、アメリカの大学に入学した学生の物語を読みながら、英語表現の練習を行います。授業は次のように進みます。(1)各課に出ている重要単語と表現の口頭練習(2)CDを聴いたあとで、内容理解の確認とディクテーション(3)英作文と口頭練習(4)シャドウイングによる口頭練習(5)感想などを英語で口頭発表。宿題を提出してもらいます。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語を、映像の助けも得ながら耳で聞き、内容が理解できるようになる。語彙力を高め、様々な表現を覚える。内容についての感想を自分の言葉で、英語で表現できるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 平常点(提出物・グループワークへの参加度を含む)50% 小テスト30% 課題と発表20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習と復習 音声聞いて口頭練習 課題</p> <p>■教科書 College Friends 「プレントン青春白書」 センゲージ ラーニング 上村淳子著</p> <p>■参考文献 授業時に適宜指示します</p> <p>■関連科目 英語演習2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 story 1, episode 1 第2回 episode 1 第3回 episode 2 第4回 episode 2 第5回 episode 3 第6回 episode 3 第7回 episode 4 第8回 episode 4 第9回 episode 5 第10回 episode 5 第11回 episode 6 第12回 episode 6 第13回 episode 7 第14回 episode 7 第15回 まとめと小テスト 第16回 story 2, episode 1 第17回 episode 1 第18回 episode 2 第19回 episode 2 第20回 episode 3 第21回 episode 3 第22回 episode 4 第23回 episode 4 第24回 episode 5 第25回 episode 5 第26回 episode 6 第27回 episode 6 第28回 episode 7 第29回 episode 7 第30回 まとめと小テスト</p>	

科目名：英語演習 2			
英文名：English 2			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この授業では、英語のニュースを教材として、DVDを見ながら聞き取りと読解の練習を行います。さらに応用として、英作文および英語会話の練習をします。授業は次のように進めていきます。 (1)各課に出てくる英語の単語や表現の練習 (2)各課の話題に応じた表現の口頭練習 (3)DVD視聴と読解 (4)聞き取り練習(dictation) (5)難しい箇所を文法確認と翻訳 (6)各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習 (7)時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表</p> <p>また、好きな課を選んで翻訳(日本語訳の原稿)を作成し、提出してもらいます。途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語のニュースを聞いて、内容を理解し自分でもある程度説明できるようになること。英語の様々な話題について、自分の意見をシンプルな表現で言えるようになること。口頭練習を多く行い、聞き取りの精度をあげる。</p> <p>■成績評価方法および基準 平常点(提出物・グループワークへの参加度を含む)50% 小テスト30% 課題・提出物20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 教科書に付属のDVDを聞いてくること。 単語などの下調べを行うこと。 DVDの音声についてシャドウイングの練習を行うこと。 各課のスク립トについて、一部でも翻訳を試みる。</p> <p>■教科書 [What's on Japan 9] Tatsuroh Yamazaki and Stella M. Yamazaki (金星堂)</p> <p>■参考文献 授業時に適宜指示する。</p> <p>■関連科目 英語演習1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Unit 1 Introduction 第2回 Unit 2 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 3 第6回 Unit 4 第7回 Unit 4 第8回 Unit 5 第9回 Unit 5 第10回 Unit 6 第11回 Unit 6 第12回 Unit 1- Unit 6 復習テスト 第13回 Unit 7 第14回 Unit 7 第15回 Unit 8</p> <p>第16回 Unit 8 第17回 Unit 9 第18回 Unit 9 第19回 Unit 10 第20回 Unit 10 第21回 Unit 11 第22回 Unit 11 第23回 Unit 12 第24回 Unit 12 第25回 Unit 13 第26回 Unit 13 第27回 Unit 14 第28回 Unit 14 第29回 Unit 7 - Unit 14 復習テスト 第30回 Unit 15 まとめ</p>	

科目名：英語演習 3			
英文名：English 3			
担当者：マツダ カナ 松田 佳奈			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 世界の国々の特色を紹介したDVD及びテキストを使用し、世界で使用される様々な英語 (World Englishes) に触れながら、他国の文化について学びます。英語を使う能力があれば、世界が広がります。この授業を通じて英語の4技能の基礎力をさらに発展させ、「使える英語」の習得を目指すだけでなく、英語を使う楽しさを味わいます。 ※前期はテキストのChap1～6、後期はChap7～12を扱う予定です。</p> <p>(受講生のペースにより、若干の調整を必要とする場合もあります)</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語4技能の基礎力を養成しながら、総合的な英語コミュニケーション能力を高めることを目標とします。 ・1分間に100語程度のスピードで、比較的読みやすい内容の英文を読むことができる。 ・上記と同程度のネイティブスピーカーのリーディングを聞き取ることができる。 ・自己の意見や読んだ英文の要約を、日本語さらに英語でまとめることができる。 ・初歩的な文法事項を理解し、2000語程度の語彙を理解できる。</p> <p>■成績評価方法および基準 平常点 (提出物・グループワークへの参加度を含む) 50% 小テスト及びまとめの試験 30% 口頭発表及び課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 指示された課題への取り組みと準備学習、さらに教科書に添付された音源を活用して音読の自主学習を必ず行ってください。</p> <p>■教科書 [On Board for More World Adventures] Scott Berlin / 小林めぐみ (金星堂) 初回授業時までに必ず購入しておくこと。(コピー不可) この他、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>■参考文献 授業内で指示します</p> <p>■関連科目 英語演習1・2・4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・kanam@kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、ウォームアップ 第2回 Chap 1 第3回 Chap 1 第4回 Chap 2 第5回 Chap 2 第6回 Chap 3 第7回 Chap 3 第8回 Chap 4 第9回 Chap 4 第10回 課題発表 第11回 Chap 5 第12回 Chap 5 第13回 Chap 6 第14回 Chap 6 第15回 まとめと復習テスト</p>	

科目名：英語演習 4			
英文名：English 4			
担当者：マツダ カナ 松田 佳奈			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 ナショナルジオグラフィックのコンテンツをベースにしたDVDおよびテキストを通して、人間と自然の関わりに焦点を当てたストーリーに触れながら、4技能(読む、書く、聞く、話す)の強化を図ります。 また、ディクテーションを行うことにより、特にリスニング力の向上を目指します。</p> <p>各Unitのまとめとして、学習したストーリーの内容に関する自分の意見を日本語および英語で書いて提出してもらいます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語4技能の基礎力を養成しながら、総合的な英語コミュニケーション能力を高めることを目標とします。 ・これまでに学習した英語の基礎を確立し、自立した英語学習者になる。 ・長文を読み、時間内に内容を把握したり段落の概要をまとめたりすることができる。 ・映像やDVDを聴き取り、自分の考えや意見をシンプルな英語で表現することができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 平常点 (提出物・グループワークへの参加度を含む) 50% 小テスト及びまとめの試験 30% 口頭発表及び課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 指示された課題への取り組みと準備学習、さらに教科書に添付された音源を活用して音読の自主学習を必ず行ってください。</p> <p>■教科書 [Snapshots from the Globe: National Geographic Multi-media English Course] 山科美和子・横山三鶴・沖野泰子・南條健助 (センゲージラーニング)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語演習1・2・3</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・kanam@kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、ウォームアップ 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 第8回 Unit 7 第9回 Unit 8 第10回 課題発表 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 第13回 Unit 11 第14回 Unit 12 第15回 まとめと復習テスト</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ1			
英文名：Oral English 1			
担当者：パトリック ポーレン			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 クラスにより使用テキストが異なります。最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 授業目標と説明、挨拶 第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する。 第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話 第4回 情報の確認(相手に繰り返してもらおう)銀行での会話(数字、数え方など) 第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する 第6回 物事を説明する、理由を述べる。 第7回 日本文化、ホームステイでの会話 第8回 好き嫌い、趣味 第9回 依頼する、引き受ける、断る 第10回 レストランでの注文、チップの習慣など 第11回 招待する、招待を受ける、断る 第12回 電話での会話(予定、予約、計画など) 第13回 許可を求める、与える、断る 第14回 申し出る、申し出を受ける、断る 第15回 まとめ</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ1			
英文名：Oral English 1			
担当者：デビット トーマス バンハム			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 クラスにより使用テキストが異なります。最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 授業目標と説明、挨拶 第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する。 第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話 第4回 情報の確認(相手に繰り返してもらおう)銀行での会話(数字、数え方など) 第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する 第6回 物事を説明する、理由を述べる。 第7回 日本文化、ホームステイでの会話 第8回 好き嫌い、趣味 第9回 依頼する、引き受ける、断る 第10回 レストランでの注文、チップの習慣など 第11回 招待する、招待を受ける、断る 第12回 電話での会話(予定、予約、計画など) 第13回 許可を求める、与える、断る 第14回 申し出る、申し出を受ける、断る 第15回 まとめ</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ2			
英文名：Oral English 2			
担当者：パトリック ポーレン			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が少ない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルイングリッシュ1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 クラスにより使用テキストが異なります。最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)：gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 過去についての会話 第2回 道順を尋ねる、答える／交通(乗り物)の会話 第3回 旅行の会話、場所の描写 第4回 人の描写(身体的特徴、性格など) 第5回 家族についての会話 第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話 第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照 第8回 感情の表現 第9回 病院での会話(症状と治療法)／健康維持に関する会話 第10回 提案や忠告を求める、与える 第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話 第12回 相手を説得する 第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する 第14回 将来についての会話 第15回 まとめ</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ2			
英文名：Oral English 2			
担当者：デビット トーマス バンハム			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が少ない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルイングリッシュ1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 クラスにより使用テキストが異なります。最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)：gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 過去についての会話 第2回 道順を尋ねる、答える／交通(乗り物)の会話 第3回 旅行の会話、場所の描写 第4回 人の描写(身体的特徴、性格など) 第5回 家族についての会話 第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話 第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照 第8回 感情の表現 第9回 病院での会話(症状と治療法)／健康維持に関する会話 第10回 提案や忠告を求める、与える 第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話 第12回 相手を説得する 第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する 第14回 将来についての会話 第15回 まとめ</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ3			
英文名：Oral English 3			
担当者：ジョン ドウデジアン			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「オーラルイングリッシュ1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実際の英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルイングリッシュ4」とともに、学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 授業目標と説明 第2回 挨拶、自己紹介 第3回 食べ物 第4回 日本文化 第5回 買い物 第6回 プレゼンテーション 第7回 音楽 第8回 交通 第9回 仕事 第10回 家族 第11回 プレゼンテーション 第12回 旅行 第13回 ヨーロッパ 第14回 有名人 第15回 まとめ</p>	

科目名：オーラルイングリッシュ4			
英文名：Oral English 4			
担当者：ジョン ドウデジアン			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「オーラルイングリッシュ1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実際の英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「オーラルイングリッシュ3」とともに、学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題／レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。また、通常の授業に加えて、各種言語文化関連行事や学内施設を使ったイベントに積極的に参加すること。</p> <p>■教科書 最初の授業で指示します。</p> <p>■参考文献 最初の授業で指示します。</p> <p>■関連科目 オーラルイングリッシュ3</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 夏休みについての話 第2回 スポーツ 第3回 住まいや生活 第4回 健康 第5回 プレゼンテーション 第6回 娯楽、メディア、エンターテイメントなど 第7回 動物 第8回 天候 第9回 アメリカ 第10回 プレゼンテーション 第11回 迷信（信じる／信じない） 第12回 教育 第13回 異文化 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ</p>	

科目名：総合英語 A			
英文名：General English A			
担当者：サワベ コウヘイ 澤邊 興平			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 基本的な文法・語彙項目を復習しながら、将来のビジネス分野および一般社会における英語の使用を想定して、メールの書き方、インターネットでの情報収集などを含む、英語でのコミュニケーション力の習得を目指す。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合英語B」と合わせて、英語の基本的な表現・フォーマットを習得する。英語でインターネットを使用する際の注意点、ストラテジーについて、基本的なポイントを習得する。ビジネス場面の会話について、簡潔に意思を伝える方法を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト及び授業内課題 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習・復習各半時間を含む約90分を各授業ごとに確保することが必要。</p> <p>■教科書 『English Grammar for Reading Comprehension』玉井・町田・シノール・田代・小谷・山田・澤田編 朝日出版 9784255155302</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 総合英語 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） kohei_sawabe@hotmail.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 品詞と文1 第2回 品詞と文2 第3回 時制と時制の一致1 第4回 時制と時制の一致2 第5回 助動詞1 第6回 助動詞2 第7回 態 第8回 不定詞1 第9回 不定詞2 第10回 動名詞 第11回 分詞 第12回 比較1 第13回 比較2 第14回 関係節1 第15回 関係節2 定期試験</p>	

科目名：総合英語 B			
英文名：General English B			
担当者：サワベ コウヘイ 澤邊 興平			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 基本的な文法・語彙項目を復習しながら、将来のビジネス分野および一般社会における英語の使用を想定して、メールの書き方、インターネットでの情報収集などを含む、英語でのコミュニケーション力の習得を目指す。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合英語A」と合わせて、英語の基本的な表現・フォーマットを習得する。英語でインターネットを使用する際の注意点、ストラテジーについて、基本的なポイントを習得する。ビジネス場面の会話について、簡潔に意思を伝える方法を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト及び授業内課題 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習・復習各半時間を含む約90分を各授業ごとに確保することが必要。</p> <p>■教科書 『English Grammar for Reading Comprehension』玉井・町田・シノール・田代・小谷・山田・澤田編 朝日出版 9784255155302</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 総合英語 A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） kohei_sawabe@hotmail.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 仮定法 第2回 否定 第3回 強調 第4回 倒置 第5回 同格 第6回 挿入 第7回 省略 第8回 名詞構文 第9回 無生物主語 第10回 名詞と冠詞 第11回 代名詞 第12回 形容詞と副詞 第13回 前置詞 第14回 接続詞 第15回 情報構造 定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1A aクラス			
英文名：TOEIC 1A			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコア400点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標としたクラスである。授業はテキスト、ハンドアウトを使ってTOEICに即した問題演習を行う。TOEIC受験に必要な語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を養い、総合的な英語力の向上をはかる。得点アップにつながるTOEICの解答ストラテジーについても学ぶ。学内のIPテストは必ず受験すること。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEICスコア400点（目安）を取得している学生が TOEIC600点以上を取得するために必要な英語力を養うことを目標とする。学生各自がTOEIC受験のための方策を理解するとともに、今までの自分の学習ストラテジーをみなおし、より適切な学習ストラテジーを習得して、スコアアップにつなげることをめざす。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。予習・復習必須。</p> <p>■教科書 LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST(センゲージ ラーニング株式会社)</p> <p>■参考文献 講義内で指示します。</p> <p>■関連科目 TOEIC 2a, TOEIC 1b, TOEIC 2b</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、TOEIC Pre-test 第2回 Unit1: TOEICを知る 第3回 Unit1: TOEICを知る 第4回 Unit2: 基本戦略① 第5回 Unit2: 基本戦略① 第6回 Unit3: 基本戦略② 第7回 Unit3: 基本戦略② 第8回 Unit4: 英文の基本情報を見抜く 第9回 Unit4: 英文の基本情報を見抜く 第10回 Unit5: 解答根拠の登場順 第11回 Unit5: 解答根拠の登場順 第12回 IPテスト対策 第13回 IPテスト対策 第14回 Unit6: 正解の言い換えパターンを知る 第15回 Unit6: 正解の言い換えパターンを知る</p> <p>定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1A bクラス			
英文名：TOEIC 1A			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコアを保持している学生を対象に、TOEIC500点を取得することを目標としたクラスである。授業はテキスト・ハンドアウトを使ってTOEICに即した問題演習を行う。TOEIC受験に必要な語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を養い、総合的な英語の基礎力の定着をはかる。得点アップにつながるTOEICの解答ストラテジーについても学ぶ。学内のIPテストは必ず受験すること。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEIC500点を取得するために必要な英語力を養うことを目標とする。学生各自がTOEIC受験のための方策を理解するとともに、今までの自分の学習ストラテジーをみなおし、より適切な学習ストラテジーを習得して、スコアアップにつなげることをめざす。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の予習・復習、講義内で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350(センゲージ ラーニング株式会社)</p> <p>■参考文献 講義内で指示します。</p> <p>■関連科目 TOEIC 2b, TOEIC 1a, TOEIC 2a</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、TOEIC Pre -test 第2回 Unit1: オフィスでー自動詞と他動詞 第3回 Unit1: オフィスでー自動詞と他動詞 第4回 Unit2: 買い物ー形容詞・副詞・前置詞 第5回 Unit2: 買い物ー形容詞・副詞・前置詞 第6回 Unit3: 食事ー名詞と冠詞 第7回 Unit3: 食事ー名詞と冠詞 第8回 Unit4: 健康・スポーツー進行形 第9回 Unit4: 健康・スポーツー進行形 第10回 Unit5: コマーシャルー完了形 第11回 Unit5: コマーシャルー完了形 第12回 IPテスト対策 第13回 IPテスト対策 第14回 Unit6: 数字ー不定詞 第15回 Unit6: 数字ー不定詞</p> <p>定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1A aクラス			
英文名：TOEIC 1A			
担当者：武智 美佳			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本講義は、TOEICスコア400点程度を取得している学生を対象とし、TOEIC600点以上を取得することを目標に演習を行う。TOEICに必要な語彙力を養成し、文法力・読解力・リスニング力を強化することで、どんな高度な問題にも対処できるゆるぎない英語力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEICスコア400点程度を取得している学生が600点以上を取得することを目標とする。TOEICの出題内容や形式に慣れ親しみ、実用的な英語力を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の予習・復習、講義内で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 横川綾子／Tony Cook. (2014). 『LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST - TOEIC TEST解答力アップ徹底トレーニング』. センゲージラーニング.</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 TOEIC 1、TOEIC 2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）：gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、授業概要 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 第8回 Unit 7 第9回 Unit 8 第10回 Unit 9 第11回 Unit 10 第12回 Unit 11 第13回 Unit 12 第14回 Unit 13 第15回 Unit 14</p> <p>定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1A bクラス			
英文名：TOEIC 1A			
担当者：矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 TOEIC スコアを保持している学生を対象に、TOEIC500点取得を目指す英語力を育成する。基礎的な語彙力・文法力・読解力・リスニング力を養成し、総合的な英語の基礎力を培う。また、TOEIC 特有の問題形式を把握し、それに対する戦略を身につける。そのため、授業では毎回TOEICに即した問題演習をテキストやハンドアウトを使って数多く行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEIC500点を取得することを目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に推し進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIP テストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題等の提出物 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示される予習・復習・小テストの準備等に取り組むこと</p> <p>■教科書 『新TOEICテスト対応 プラクティカル イングリッシュ』（三修社）</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 TOEIC1B, TOEIC2A, TOEIC2B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） hirokoyata2@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。(他の時間帯は予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、TOEIC 概要、Pre-test 第2回 Unit 1 Travel 第3回 Unit 1 Travel 第4回 Unit 2 Shopping 第5回 Unit 2 Shopping 第6回 Unit 3 Transportation 第7回 Unit 3 Transportation 第8回 Unit 4 Directions 第9回 Unit 4 Directions 第10回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第11回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第12回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり) 第13回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり) 第14回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life 第15回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life</p> <p>定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1B aクラス			
英文名：TOEIC 1B			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコア400点(目安)を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標としたクラスである。授業はテキスト・ハンドアウトを使ってTOEICに即した問題演習を行う。TOEIC受験に必要な語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を養い、総合的な英語力の向上を図る。得点アップにつながるTOEICの解答ストラテジーについても学ぶ。学内のIPテストは必ず受験すること。		講義計画・テーマ・講義構成	
■学習・教育目標および到達目標 TOEICスコア400点(目安)を取得している学生が、TOEIC600点以上を取得するために必要な英語力を養うことを目標とする。学生各自がTOEIC受験のための方策を理解するとともに、いままでの自分の学習ストラテジーを見直し、より適切な学習ストラテジーを習得して、スコアアップにつなげることをめざす。			
■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・レポート 20%		第1回 オリエンテーション、TOEIC Pre-test 第2回 Unit7: 機能疑問文を聞き取る 第3回 Unit7: 機能疑問文を聞き取る 第4回 Unit8: 動詞の時制を見極める 第5回 Unit8: 動詞の時制を見極める 第6回 Unit9: 接続詞 vs 前置詞 第7回 Unit9: 接続詞 vs 前置詞 第8回 Unit10: ダブルパッセージの攻略 第9回 Unit10: ダブルパッセージの攻略 第10回 Unit11: 接続副詞に強くなる 第11回 Unit11: 接続副詞に強くなる 第12回 IPテスト対策 第13回 IPテスト対策 第14回 Unit12: NOT型設問のコツ 第15回 Unit12: NOT型設問のコツ	
■授業時間外に必要な学修 予習・復習、講義内で指示された課題に取り組むこと。		定期試験	
■教科書 LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST (センゲージ ラーニング株式会社)			
■参考文献 講義内で指示します。			
■関連科目 TOEIC 1a, TOEIC 1b, TOEIC 2b			
■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp			
■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。			

科目名：TOEIC 1B bクラス			
英文名：TOEIC 1B			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコアを保持している学生を対象に、TOEIC500点を取得することを目標としたクラスである。授業はテキスト・ハンドアウトを使ってTOEICに即した問題演習を行う。TOEIC受験に必要な語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を養い、総合的な英語の基礎力の定着をはかる。得点アップにつながるTOEICの解答ストラテジーについても学ぶ。学内のIPテストは必ず受験すること。		講義計画・テーマ・講義構成	
■学習・教育目標および到達目標 TOEIC500点を取得するために必要な英語力を養うことを目標とする。学生各自がTOEIC受験のための方策を理解するとともに、今までの自分の学習ストラテジーをみなおし、より適切な学習ストラテジーを習得して、スコアアップにつなげることをめざす。			
■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・レポート 20%		第1回 オリエンテーション、TOEIC Pre-test 第2回 Unit7: 日常生活のトラブルー動名詞 第3回 Unit7: 日常生活のトラブルー動名詞 第4回 Unit8: 余暇・社交ー関係代名詞と関係副詞 第5回 Unit8: 余暇・社交ー関係代名詞と関係副詞 第6回 Unit9: ガイドー複文 第7回 Unit9: ガイドー複文 第8回 Unit10: 説明ー受動態 第9回 Unit10: 説明ー受動態 第10回 Unit11: いろいろな国の英語1一分詞 第11回 Unit11: いろいろな国の英語1一分詞 第12回 IPテスト対策 第13回 IPテスト対策 第14回 Unit12: いろいろな国の英語2ー比較表現 第15回 Unit12: いろいろな国の英語2ー比較表現	
■授業時間外に必要な学修 講義の予習・復習、講義内で指示された課題に取り組むこと。		定期試験	
■教科書 THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350 (センゲージ ラーニング株式会社)			
■参考文献 講義内で指示します。			
■関連科目 TOEIC 1b, TOEIC 1a, TOEIC 2a			
■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp			
■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。			

科目名：TOEIC 1B aクラス			
英文名：TOEIC 1B			
担当者：武智 美佳			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>本講義は、TOEICスコア400点程度を取得している学生を対象とし、TOEIC600点以上を取得することを目標に演習を行う。TOEICに必要な語彙力を養成し、文法力・読解力・リスニング力を強化することで、どんな高度な問題にも対処できるゆるぎない英語力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>TOEICスコア400点程度を取得している学生が600点以上を取得することを目標とする。TOEICの出題内容や形式に慣れ親しみ、実用的な英語力を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 50% 小テスト 30% 課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義の予習・復習、講義内で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書</p> <p>「UPWARD LISTENING FOR THE TOEIC TEST」 金星堂</p> <p>「UPWARD READING FOR THE TOEIC TEST」 金星堂</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>TOEIC 1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。(他の時間帯は予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、TOEIC概要</p> <p>第2回 Unit1</p> <p>第3回 Unit 2</p> <p>第4回 Unit 3</p> <p>第5回 Unit 4</p> <p>第6回 Unit 5</p> <p>第7回 Unit 6</p> <p>第8回 Unit 7</p> <p>第9回 Unit 8</p> <p>第10回 Unit 9</p> <p>第11回 Unit10</p> <p>第12回 Unit11</p> <p>第13回 Unit12</p> <p>第14回 Unit13</p> <p>第15回 Unit14</p> <p>定期試験</p>	

科目名：TOEIC 1B bクラス			
英文名：TOEIC 1B			
担当者：矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>TOEIC スコアを保持している学生を対象に、TOEIC500点取得を目指して英語力を育成する。基礎的な語彙力・文法力・読解力・リスニング力を養成し、総合的な英語の基礎力を培う。また、TOEIC 特有の問題形式を把握し、それに対する戦略を身につける。そのため、授業では毎回TOEICに即した問題演習をテキストやハンドアウトを使って数多く行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>TOEIC500点を取得することを目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に推し進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIP テストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 50% 小テスト 30% 課題等の提出物 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業内で指示される予習・復習・小テストの準備等に取り組むこと</p> <p>■教科書</p> <p>『新TOEICテスト対応 プラクティカル イングリッシュ』(三修社)</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>TOEIC1A,TOEIC2A,TOEIC2B,</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室 (2号館2階) hirokoyata2@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。(他の時間帯は予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、TOEIC 概要、Pre-test</p> <p>第2回 Unit 7 Office Work</p> <p>第3回 Unit 7 Office Work</p> <p>第4回 Unit 8 Health</p> <p>第5回 Unit 8 Health</p> <p>第6回 Unit 9 Job Hunting</p> <p>第7回 Unit 9 Job Hunting</p> <p>第8回 Unit 10 Leisure</p> <p>第9回 Unit 10 Leisure</p> <p>第10回 Unit 11 Meeting</p> <p>第11回 Unit 11 Meeting</p> <p>第12回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)</p> <p>第13回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)</p> <p>第14回 Unit 12 News</p> <p>第15回 Unit 12 News</p> <p>定期試験</p>	

科目名： TOEIC 2A			
英文名： TOEIC 2A			
担当者： <small>ハットリ ケイコ ハセガワ ユミ</small> 服部 圭子・長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコア450点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標としたクラスである。450点のスコアを600点にアップさせるには、それなりの努力と学習時間が必要となるので、授業の予習・復習、そして、課題（授業内で指示）は必須とする。授業は、毎回TOEICに即した問題演習をテキスト、ハンドアウトを使って行う。TOEIC特有のテスト問題形式に対するストラテジーを理解し、特に得点に結びつきやすい文法問題、リスニング問題は数多くこなす予定である。学内のIPテストは必ず受験するように。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEICスコア450点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標とする。自分の得手不得手を理解し、得意なところをさらに伸ばし、不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 課題 30% 授業に対する姿勢など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。予習・復習必須。</p> <p>■教科書 新TOEICテスト対策 プラクティカル イングリッシュ、三修社</p> <p>■参考文献 授業内で指示。</p> <p>■関連科目 TOEIC1A、TOEIC1B、TOEIC2B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 長谷川研究室（2号館5階512）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日2限目（その他の時間帯は必ず予約すること）</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、Pre-test 第2回 Unit 1 Travel 第3回 Unit 1 Travel 第4回 Unit 2 Shopping 第5回 Unit 2 Shopping 第6回 Unit 3 Transportation 第7回 Unit 3 Transportation 第8回 Unit 4 Directions 第9回 Unit 4 Directions 第10回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第11回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第12回 IPテスト対策（IPテストの日程により変動の可能性あり） 第13回 IPテスト対策（IPテストの日程により変動の可能性あり） 第14回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life 第15回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life</p> <p>定期試験</p>	

科目名： TOEIC 2B			
英文名： TOEIC 2B			
担当者： <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 本クラスはTOEICスコア450点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標としたクラスである。450点のスコアを600点にアップさせるには、それなりの努力と学習時間が必要となるので、授業の予習・復習、そして、課題（授業内で指示）は必須とする。授業は、毎回TOEICに即した問題演習をテキスト、ハンドアウトを使って行う。TOEIC特有のテスト問題形式に対するストラテジーを理解し、特に得点に結びつきやすい文法問題、リスニング問題は数多くこなす予定である。また、ある程度の長さのアーティクルを読むように速読の練習も行う。学内のIPテストは必ず受験するように。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 TOEICスコア450点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標とする。自分の得手不得手を理解し、得意なところをさらに伸ばし、不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 課題 30% 授業に対する姿勢など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。予習必須。</p> <p>■教科書 新TOEICテスト対策 プラクティカル イングリッシュ、三修社</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 TOEIC1A、TOEIC1B、TOEIC2A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 長谷川研究室（2号館5階512）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日2限（その他の時間帯は必ず予約すること）</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、Pre-test 第2回 Unit 1 Travel 第3回 Unit 1 Travel 第4回 Unit 2 Shopping 第5回 Unit 2 Shopping 第6回 Unit 3 Transportation 第7回 Unit 3 Transportation 第8回 Unit 4 Directions 第9回 Unit 4 Directions 第10回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第11回 Unit 5 Living Abroad 1. School 第12回 IPテスト対策（IPテストの日程により変動の可能性あり） 第13回 IPテスト対策（IPテストの日程により変動の可能性あり） 第14回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life 第15回 Unit 6 Living Abroad 2. Daily Life</p> <p>定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュ A			
英文名：Science English A			
担当者： ^{ハセガワ ユミ ナガオ アキコ} 長谷川 由美・長尾 明子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュ Aでは、特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュ B」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、とことどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・授業中の発表など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業の予習と指示された課題は必ずすること。英英辞典で単語の意味を調べること。</p> <p>■教科書 Reading Explore 4 Cengage Learning</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュ B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 長谷川研究室 (2号館5階512)・hasegawa@waka.kindai.ac.jp 長尾研究室 (2号館5階514)・nagao@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 長谷川：火曜日2限目(その他の時間帯は必ず予約すること) 長尾：水曜日3限目(その他の時間帯は必ず予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 1_ The Power of Image 第3回 Unit 1_ The Power of Image 第4回 Unit 2_ Love and Attraction 第5回 Unit 2_ Love and Attraction 第6回 Unit 3_ Food and Health 第7回 Unit 3_ Food and Health 第8回 Unit1～3のまとめ 第9回 Unit 4_ Design and Engineering 第10回 Unit 4_ Design and Engineering 第11回 Unit 5_ Human Journey 第12回 Unit 5_ Human Journey 第13回 Unit 6_ Conservation Challenges 第14回 Unit 6_ Conservation Challenges 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュ A			
英文名：Science English A			
担当者： ^{タケチ カオルコ} 武知 薫子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュ Aでは、特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュ B」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、とことどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・授業中の発表など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業の予習と指示された課題は必ずすること。英英辞典で単語の意味を調べること。</p> <p>■教科書 大学生のための科学英語入門—An Introduction to Scientific English for Japanese College Students [南雲堂]</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュ B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>1回目：Ch1、(1) (2) 2回目：Ch1、(3) (4) 3回目：Ch1、(5) Review 4回目：演習発表 5回目：Ch2、(1) (2) 6回目：Ch2、(3) (4) 7回目：Ch2、(5) (6) 8回目：演習発表 9回目：Ch3、(1) (2) 10回目：Ch3、(3) (4) 11回目：Ch3、(5) Review 12回目：演習発表 13回目：Ch4、(1) (2) 14回目：Ch4、(3) (4) 15回目：Ch4、(5) Review</p> <p>定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュA			
英文名：Science English A			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュAでは、特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュB」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、とことどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト及び授業内課題 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習復習各半時間を含む約90分を各授業ごとに確保することが必要。</p> <p>■教科書 『Science Explorer』Yoshinobu Nozaki, Kazuko Matsumoto, Kevin Cleary著 南雲堂</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュB</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 実施規定に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Self-cleaning clothes 第2回 Self-cleaning clothes 第3回 Wet-dog physics 第4回 Wet-dog physics 第5回 Hot technology 第6回 Hot technology 第7回 Elephant songs 第8回 Elephant songs 第9回 The origin of mummies 第10回 The origin of mummies 第11回 Tracing a gem's origins 第12回 Tracing a gem's origins 第13回 Costs of missing sleep 第14回 Costs of missing sleep 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュB			
英文名：Science English B			
担当者：長谷川 由美・長尾 明子 <small>ハセガワ ユミ ナガオ アキコ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「サイエンスイングリッシュA」に引き続き、学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュBでは特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュA」に引き続き、学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュBでは特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・授業中の発表など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業の予習と指示された課題は必ずすること。英英辞典で単語の意味を調べること。</p> <p>■教科書 Reading Explore 4 Cengage Learning</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュA</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 長谷川研究室（2号館5階512）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp 長尾研究室（2号館5階514）・naga@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 長谷川：火曜日2限目(その他の時間帯は必ず予約すること) 長尾：水曜日3限目(その他の時間帯は必ず予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 7_Ritual Lives 第3回 Unit 7_Ritual Lives 第4回 Unit 8_Investigations 第5回 Unit 8_Investigations 第6回 Unit 9_Rediscovering the Past 第7回 Unit 9_Rediscovering the Past 第8回 Unit7～9のまとめ 第9回 Unit10_Earth and Beyond 第10回 Unit10_Earth and Beyond 第11回 Unit11_Green Concerns 第12回 Unit11_Green Concerns 第13回 Unit12_Living Longer 第14回 Unit12_Living Longer 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュ B			
英文名：Science English B			
担当者： ^{タケチ カオルコ} 武知 薫子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「サイエンスイングリッシュ A」に引き続き、学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュ Bでは特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュ A」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、とことどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・授業中の発表など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業の予習と指示された課題は必ずすること。英英辞典で単語の意味を調べる</p> <p>■教科書 学生のための科学英語入門—An Introduction to Scientific English for Japanese College Students [南雲堂]</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュ A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>1 回目：Ch5、(1) (2) 2 回目：Ch5、(3) (4) 3 回目：Ch5、(5) Review 4 回目：演習発表 5 回目：Ch6、(1) (2) 6 回目：Ch6、(3) (4) 7 回目：Ch6、Review 8 回目：演習発表 9 回目：Ch7、(1) (2) 1 0 回目：Ch7、(3) (4) 1 1 回目：Ch7、(5) Review 1 2 回目：演習発表 1 3 回目：Ch8、(1) (2) 1 4 回目：Ch8、(3) (4) 1 5 回目：Ch8、(5) Review 定期試験</p>	

科目名：サイエンスイングリッシュ B			
英文名：Science English B			
担当者： ^{サワベ コウヘイ} 澤邊 興平			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「サイエンスイングリッシュ A」に引き続き、学術英語力を身に付ける授業を行う。サイエンスイングリッシュ Bでは特に書き言葉に焦点を当て、複雑な文の構造解析、文章の要点を掴むトレーニングを行う。また、場合によって、論文抄録の読み方、書き方等の実践的な内容も含む。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「サイエンスイングリッシュ A」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、とことどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 30% 課題・授業中の発表など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業の予習と指示された課題は必ずすること。英英辞典で単語の意味を調べる</p> <p>■教科書 『Science Explorer』Yoshinobu Nozaki, Kazuko Matsumoto, Kevin Cleary 著 南雲堂</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■関連科目 サイエンスイングリッシュ A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Unit 8_ Lasers of a feather 第2回 Unit 8_ Lasers of a feather 第3回 Unit 9_ Paralyzed rats walk again 第4回 Unit 9_ Paralyzed rats walk again 第5回 Unit10_ Threatened coral get fishy rescue 第6回 Unit10_ Threatened coral get fishy rescue 第7回 Unit11_ Mammals feel the heart 第8回 Unit11_ Mammals feel the heart 第9回 Unit12_ Sugar-pill medicine 第10回 Unit12_ Sugar-pill medicine 第11回 Unit13_ Food Web woes 第12回 Unit13_ Food Web woes 第13回 Unit14_ Climate coolers 第14回 Unit14_ Climate coolers 第15回 まとめ 定期試験</p>	

科目名：英語プレゼンテーションA			
英文名：Presentation in English A			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを、テキストのDVDや、他のメディアからの実例を通して学んでいきます。プレゼンテーションの準備・発表・評価を繰り返すなかで段階的にスキルを高め、英語の運用能力の向上をもちかりながら、実践的なプレゼンテーション力を育成することをめざします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを学び、英語の運用能力を高めながら、論理的で説得力のあるプレゼンテーションをおこなう実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% プレゼンテーション&レポート 60%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の課題に各自取り組むこと。</p> <p>■教科書 Presentations to Go (センゲージ ラーニング)</p> <p>■参考文献 講義内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語プレゼンテーションB</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Orientation, Basics of the English Presentation 第2回 Project 1: Introducing Yourself Step 1 第3回 Project 1: Introducing Yourself Step 2 第4回 Project 1: Introducing Yourself Step 3 第5回 Project 1: Introducing Yourself PRESENTATION 第6回 Project 2: News Digests Step 1 第7回 Project 2: News Digests Step 2 第8回 Project 2: News Digests Step 3 第9回 Project 2: News Digests PRESENTATION 第10回 Review 第11回 Project 3: Promoting Your Vacation Plans step 1 第12回 Project 3: Promoting Your Vacation Plans step 2 第13回 Project 3: Promoting Your Vacation Plans step 3 第14回 Project 3: Promoting Your Vacation Plans PRESENTATION 第15回 Review</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語プレゼンテーションA			
英文名：Presentation in English A			
担当者： ^{ハットリ ケイコ ヤタ ヒロコ} 服部 圭子・矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 英語で情報や自分の考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技能を育成する。DVDにより実例を視聴し、効果的なスキルを身に付ける。英語力を強化しつつ、プレゼンテーションの準備・発表を行い実践力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語で情報や自分の考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技能を育成することを目標とする。段階的にスキルを高めながら、収集した情報と自分の考えを構成し発信力のあるプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% プレゼンテーション 30% 小テスト 10% 課題等の提出物 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示される課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 SPEAKING of SPEECH New Edition (MACMILLAN)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語プレゼンテーションB</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 服部研究室 (2号館5階513室)・服部 khattori@waka.kindai.ac.jp(その他の時間帯は必ず予約すること) 講師控室 (2号館2階)・矢田 hirokoyata2@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします(他の時間帯は予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、Unit 1 Speech Skill 1 第2回 Unit 1 Episode 1 第3回 Unit 1 Informative Speech 第4回 Unit 1 プレゼンテーションの準備 第5回 Unit 1 プレゼンテーションと評価1 第6回 Unit 1 プレゼンテーションと評価2 第7回 Unit 2 Speech Skill 2 第8回 Unit 2 Episode 2 第9回 Unit 2 Descriptive Speech 第10回 Unit 2 プレゼンテーションの準備 第11回 Unit 2 プレゼンテーションと評価1 第12回 Unit 2 プレゼンテーションと評価2 第13回 Unit 3 Speech Skill 3 第14回 Unit 3 Episode 3 第15回 Unit 3 Demonstrative Speech</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語プレゼンテーションB			
英文名：Presentation in English B			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを、テキストのDVDや、他のメディアからの実例を通して学んでいきます。プレゼンテーションの準備・発表・評価を繰り返すなかで段階的にスキルを高め、英語の運用能力の向上をもちながら、実践的なプレゼンテーション力を育成することをめざします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを学び、英語の運用能力を高めながら、論理的で説得力のあるプレゼンテーションをおこなう実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% プレゼンテーション&レポート 60%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の課題に各自取り組むこと。</p> <p>■教科書 Presentations to Go (センゲージ ラーニング)</p> <p>■参考文献 講義内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語プレゼンテーションA</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) hatanaka@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Orientation, Basics of the English Presentation 第2回 Project 4: Introducing Japan Step 1 第3回 Project 4: Introducing Japan Step 2 第4回 Project 4: Introducing Japan Step 3 第5回 Project 4: Introducing Japan PRESENTATION 第6回 Project 5: Discussing Social Issues Step 1 第7回 Project 5: Discussing Social Issues Step 2 第8回 Project 5: Discussing Social Issues Step 3 第9回 Project 5: Discussing Social Issues PRESENTATION 第10回 Project 6: Talking about Your Future Plans Step 1 第11回 Project 6: Talking about Your Future Plans Step 2 第12回 Project 6: Talking about Your Future Plans Step 3 第13回 Project 6: Talking about Your Future Plans PRESENTATION 第14回 Project 6: Talking about Your Future Plans PRESENTATION 第15回 Review</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語プレゼンテーションB			
英文名：Presentation in English B			
担当者： ^{ヤタ ヒロコ} 矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 英語で情報や自分の考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技能を育成する。DVDにより実例を視聴し、効果的なスキルを身に付ける。英語力を強化しつつ、プレゼンテーションの準備・発表を行い実践力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語で情報や自分の考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技能を育成することを目標とする。収集した視覚的・言語的情報や自分の考え等を構成するスキルを高め、説得力のあるプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% プレゼンテーション 30% 小テスト 10% 課題等の提出物 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示される課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 SPEAKING of SPEECH New Edition (MACMILLAN)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語プレゼンテーションA</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) hirokoyata2@yahoo.co.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間 とします。(他の時間帯は予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、Unit 4 Speech Skill 4 第2回 Unit 4 Episode 4 第3回 Unit 5 Speech Skill 第4回 Unit 5 Episode 5 第5回 プレゼンテーションの準備 第6回 プレゼンテーションと評価1 第7回 プレゼンテーションと評価2 第8回 Unit 6 Speech Skill 6 第9回 Unit 6 Episode 6 第10回 Unit 7 Speech Skill 7 第11回 Unit 7 Episode 7 第12回 Unit 8 Speech Skill 8, Episode 8 第13回 プレゼンテーションの準備 第14回 プレゼンテーションと評価1 第15回 プレゼンテーションと評価2</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語特別演習 1 A			
英文名：English Special Seminar 1A			
担当者：ハットリ ケイコ 服部 圭子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>英語を手段として様々な内容の素材を解釈・理解したり、英語力そのものの向上のための訓練を演習形式で行う。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>自分自身のことや、自文化について説明できるようになること。日本文化を題材に、リスニング力の向上を図ると同時に、ノートテキングの技術を高め、聞き取ったものをまとめて発表したり、自分自身の意見を述べたりする力を養成する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>小テスト 30% レポート 20% 授業中の発表および課題 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと。与えられたトピックについて調べる。各自、文章表現や語彙などをリストアップし参考資料としてまとめる。</p> <p>■教科書</p> <p>Hot Topics Japan2: A Culturally Specific Discussion Book Stephanie Alexander Compass Publishing</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>言語演習（英語）1、言語演習（英語）3、言語演習（英語）4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>服部研究室（2号館5階513号室）・khattori@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜3限（その他の時間帯は、事前にメールでアポをとってください）。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ</p> <p>第2回 Unit1_ Holidays in Japan</p> <p>第3回 Unit2_ The Low Crime Rate of Japan</p> <p>第4回 Unit3_ WaiWai Stories and International Media</p> <p>第5回 Unit4_ The Healthy Habits of Japanese Women</p> <p>第6回 Unit5_ Otsukare</p> <p>第7回 Unit6_ Traditional Japanese Foods</p> <p>第8回 Unit7_ Martial Arts in Schools</p> <p>第9回 Unit8_ Whole Person Education</p> <p>第10回 Unit9_ The Suzuki Method</p> <p>第11回 Unit10_ Internet Cafe Kids</p> <p>第12回 Unit11_ E-wallets</p> <p>第13回 Unit12_ The Space Program</p> <p>第14回 プレゼンテーション (1)</p> <p>第15回 プレゼンテーション(2)</p>	

科目名：英語特別演習 1 A			
英文名：English Special Seminar 1A			
担当者：ヤマシタ ヤヨイ 山下 弥生			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>この科目では、英字新聞、学会誌、雑誌などから集めた幅広い分野の記事を、できるだけたくさん読むと同時にインターネットを使って関連事項を映像や音声等で確認します。また、学会や雑誌の英文HPを使い、専門分野の語彙や表現を学びます。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>多読・多聴は英語力アップの基本です。日々の身近なニュースやサイエンス系の最新情報など、関心のあるものを出来るだけたくさん読むことと、インターネット上に配信されているニュースなどの音声或少しでも多く聴くことで、速読力・リスニング力のアップを目標にします。また、英文の構造をつかむ練習をし、長文読解力の向上を目指します。このコースを終了するところにはかんたんな英字新聞の記事や英語のホームページが理解できるようになることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>課題レポート 50% 小テスト 20% 授業中の発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>海外メディアなどのニュースを常に、積極的に、英語で聞くように心がけてください。</p> <p>■教科書</p> <p>なし。（教員より配布します）</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>英語特別演習 1 B・英語特別演習 2 A・英語特別演習 2 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）ys-yama@mti.biglobe.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、英字新聞、インターネット</p> <p>第2回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (1)</p> <p>第3回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (2)</p> <p>第4回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (3)</p> <p>第5回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (4)</p> <p>第6回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (5)</p> <p>第7回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (6)</p> <p>第8回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (7)</p> <p>第9回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (8)</p> <p>第10回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (9)</p> <p>第11回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (10)</p> <p>第12回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (11)</p> <p>第13回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (12)</p> <p>第14回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット (13)</p> <p>第15回 ポイントの整理・まとめなど</p>	

科目名：英語特別演習 1 A			
英文名：English Special Seminar 1A			
担当者：ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 英語を手段として様々な内容の素材を解釈・理解したり、英語力そのものの向上のための訓練を演習形式で行う。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 中間テスト 25% 期末テスト 25% 口頭発表 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 Review the text-related DVD and CD. Use the internet to learn about other countries and cultures.</p> <p>■教科書 Lonely Planet, Traveling the World on DVD</p> <p>■参考文献 Loose leaf paper, dictionary</p> <p>■関連科目 言語演習 2</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Orientation 第2回 World Information 第3回 New Zealand 第4回 World Cities: Auckland, New Zealand 第5回 Nations of the World: Africa 第6回 Australia 第7回 World Cities: Istanbul, Turkey 第8回 Review 第9回 Introduction to Canada 第10回 World Cities: Bangkok 第11回 Nations of the World: Asia 第12回 Introduction to the USA 第13回 USA, part 2 第14回 World Religions 第15回 Review the text-related DVD and CD. Use the internet to learn about other countries and cultures.</p>	

科目名：英語特別演習 1 A			
英文名：English Special Seminar 1A			
担当者：ロバート パーキンス			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目は、科学技術的なビデオクリップ等を使用し、各自の英語能力向上のための英語による受信・発信能力を高めることを目指す。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ビデオクリップ (2～5分) などによる現代や未来の身近なトピックスと英語の歌等を使う中で、リスニングやリーディング能力の改善・進歩を図ることを学習目標とする。また、グループディスカッションやクラスディスカッションを通して自分の考えを英語で効果的に伝えたり、他者の考えを論理的に理解したりする能力を高める養成やトレーニングを行なう。 "英語で考え、英語で表現する姿勢を心がけてください。集中講座として開講されます。上級レベルの英語習得を目指す者を対象とする。(英語スキル上級A・B受講者など)"</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 20% 授業中課題 40% 復習 20% ディスカッション 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 授業内で指示します。</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・yourteacherbob@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、リスニング (Shopping) 第2回 ビデオ視聴 (Part 1: Looking your best in photos), questions and answers 第3回 ビデオ視聴 (Part 2: Looking your best in photos), questions and answers 第4回 ビデオ視聴 (Part 1: Choosing clothing that flatters you), questions and answers; リスニング (Pop Song #1) 第5回 リスニング (Hobbies), questions and answers 第6回 ビデオ視聴 (Part 2: Choosing clothing that flatters you), questions and answers 第7回 ビデオ視聴 (Exchanging business cards), questions and answers 第8回 ビデオ視聴 (Making an elevator pitch), questions and answers; リスニング (Pop Song #2) 第9回 リスニング (Music), questions and answers 第10回 ビデオ視聴 (Future Hospitals), questions and answers 第11回 ビデオ視聴 (Senior Care), questions and answers 第12回 ビデオ視聴 (Housing), questions and answers; リスニング (Pop Song #3) 第13回 ビデオ視聴 (Transportation), questions and answers 第14回 ビデオ視聴 (University), questions and answers 第15回 Final Review</p>	

科目名：英語特別演習 1 A			
英文名：English Special Seminar 1A			
担当者：ヤマシタ ヤヨイ 山下 弥生			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目では、英字新聞、学会誌、雑誌などから集めた幅広い分野の記事を、できるだけたくさん読むと同時にインターネットを使って関連事項を映像や音声等で確認します。また、学会や雑誌の英文HPを使い、専門分野の語彙や表現を学びます。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 多読・多聴は英語力アップの基本です。日々の身近なニュースやサイエンス系の最新情報など、関心のあるものを出来るだけたくさん読むことと、インターネット上に配信されているニュースなどの音声を少しでも多く聴くことで、速読力・リスニング力のアップを目標にします。また、英文の構造をつかむ練習をし、長文読解力の向上を目指します。このコースを終了するところにはかんたんな英字新聞の記事や英語のホームページが理解できるようになることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 課題レポート 50% 小テスト 20% 授業中の発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 海外メディアなどのニュースを常に、積極的に、英語で聞くように心がけてください。</p> <p>■教科書 なし。(教員より配布します)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語特別演習 1 B・英語特別演習 2 A・英語特別演習 2 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) ys.yama@mti.biglobe.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、英字新聞、インターネット 第2回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(1) 第3回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(2) 第4回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(3) 第5回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(4) 第6回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(5) 第7回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(6) 第8回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(7) 第9回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(8) 第10回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(9) 第11回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(10) 第12回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(11) 第13回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(12) 第14回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(13) 第15回 ポイントの整理・まとめなど</p>	

科目名：英語特別演習 1 B			
英文名：English Special Seminar 1B			
担当者：ヤマシタ ヤヨイ 山下 弥生			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目は、英語特別演習 1 Aと同様に、英字新聞、学会誌、雑誌などから集めた、さまざまな内容の記事をできるだけたくさん読むと同時に、インターネットを使って記事や関連事項を映像や音声等で確認します。また、学会や雑誌の英文HPを使い、専門分野の語彙や表現を学びます。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語特別演習 1 Aに引き続き、身近なニュースやサイエンス系の最新情報など、関心のあるものをたくさん読むことと、インターネット上に配信されているニュースなどの音声を活用することで、速読力・リスニング力のアップを目標にします。また、英文の構造をつかむ練習をし、長文読解力の向上を目指します。このコースを終了するところには一般的な英字新聞の記事や英語のホームページの概略が理解できるようになることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 課題レポート 50% 小テスト 20% 授業中の発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 海外メディアなどのニュースを常に、積極的に、英語で聞くように心がけてください。</p> <p>■教科書 なし。(教員より配布します)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語特別演習 1 A・英語特別演習 2 A・英語特別演習 2 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) ys.yama@mti.biglobe.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、英字新聞、インターネット 第2回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(1) 第3回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(2) 第4回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(3) 第5回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(4) 第6回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(5) 第7回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(6) 第8回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(7) 第9回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(8) 第10回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(9) 第11回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(10) 第12回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(11) 第13回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(12) 第14回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(13) 第15回 ポイントの整理・まとめなど</p>	

科目名：英語特別演習 1 B			
英文名：English Special Seminar 1B			
担当者：ヤマシタ ヤヨイ 山下 弥生			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目は、英語特別演習 1 Aと同様に、英字新聞、学会誌、雑誌などから集めた、さまざまな内容の記事をできるだけたくさん読むと同時に、インターネットを使って記事や関連事項を映像や音声等で確認します。また、学会や雑誌の英文HPを使い、専門分野の語彙や表現を学びます。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語特別演習 1 Aに引き続き、身近なニュースやサイエンス系の最新情報など、関心のあるものをたくさん読むことと、インターネット上に配信されているニュースなどの音声を活用することで、速読力・リスニング力のアップを目標にします。また、英文の構造をつかむ練習をし、長文読解力の向上を目指します。このコースを終了するころには一般的な英字新聞の記事や英語のホームページの概略が理解できるようにすることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 課題レポート 50% 小テスト 20% 授業中の発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 海外メディアなどのニュースを常に、積極的に、英語で聞くように心がけてください。</p> <p>■教科書 なし。(教員より配布します)</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語特別演習 1 A・英語特別演習 2 A・英語特別演習 2 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) ys-yama@mti.biglobe.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、英字新聞、インターネット 第2回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(1) 第3回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(2) 第4回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(3) 第5回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(4) 第6回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(5) 第7回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(6) 第8回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(7) 第9回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(8) 第10回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(9) 第11回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(10) 第12回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(11) 第13回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(12) 第14回 英字新聞、学会誌、雑誌の記事およびインターネット(13) 第15回 ポイントの整理・まとめなど</p>	

科目名：英語特別演習 1 B			
英文名：English Special Seminar 1B			
担当者：ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 25% 口頭発表 50% 宿題/レポート 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 Watch and listen to the textbook DVD & CD. Use the internet to learn about other countries and cultures.</p> <p>■教科書 Lonely Planet, Traveling the World on DVD</p> <p>■参考文献 Loose-leaf paper, dictionary</p> <p>■関連科目 言語演習 1</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)・gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Orientation 第2回 United Kingdom 第3回 United Kingdom, part 2 第4回 Cities of the World: Mexico City 第5回 Introduction to Aboriginal Australia 第6回 Rabbit-Proof Fence 第7回 Halloween 第8回 Review 第9回 Cities of the World: Dublin 第10回 American Indians 第11回 M-Time vs. P-Time 第12回 Cities of the World: San Francisco 第13回 Christmas Customs 第14回 Music of the 20th Century 第15回 Review</p>	

科目名：英語特別演習 1 B			
英文名：English Special Seminar 1B			
担当者： ^{ナガオ アキコ} 長尾 明子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>指定テキストや医用工学に関するテキストをもとに、ジャンル・アプローチを導入したライティング・リーディング・リスニング・スピーキングの実践参加を通し、英語の運用能力を向上させることを目標とする。ペアやグループ活動によるプレゼンテーション（口頭発表）と学習者が書いたエッセーを相互フィードバックする作業が含まれる。さらに、Self reflection(自己反省)に関する自由記述文章を継続し、学習の振り返りを記録することで自律学習者の育成を図る。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>卒業後に必要な国際教養・異文化理解の素養・英語運用能力等を習得することを目標とする。個人・ペア・グループワークを通して聞いた内容や読んだ内容を自分のことばにし、再話する能力(retelling)を養う。自身および他者が書いたエッセーの言語的特徴・構成を分析する能力を養う。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>小テスト 30% レポート 20% 授業中の発表および課題 30% 定期試験 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>グループまたはペアと円滑に連絡をとり課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書</p> <p>Milner, M. (2006). English for Health Sciences. Heinle, Cengage Learning</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>言語演習（英語）1、言語演習（英語）3、言語演習（英語）4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>長尾研究室（2号館5-514）・nagao@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>水曜日3限目(その他の時間帯は必ず予約すること)</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション, ペア・グループ発表</p> <p>第2回 Unit 1</p> <p>第3回 ジャンル・アプローチを導入したライティング1-1回目</p> <p>第4回 ジャンル・アプローチを導入したライティング1-2回目, Unit 1</p> <p>第5回 Unit 1</p> <p>第6回 Unit 2</p> <p>第7回 Unit 2</p> <p>第8回 ジャンル・アプローチを導入したライティング2-1回目</p> <p>第9回 ジャンル・アプローチを導入したライティング2-2回目, Unit 3</p> <p>第10回 Unit 3, プレゼンテーション準備（グルーピング・トピック決定等）</p> <p>第11回 Unit 3・Unit 4, プレゼンテーション準備</p> <p>第12回 Unit4, プレゼンテーション準備</p> <p>第13回 Unit 5, プレゼンテーション準備</p> <p>第14回 プレゼンテーション(1)</p> <p>第15回 プレゼンテーション(2)</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語特別演習 2 A			
英文名：English Special Seminar 2A			
担当者： ^{カタオカ ヒロヒト} 片岡 宏仁			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>大学院進学レベルで求められる英語文献の読解力を養成する科目です。Scientific American, National Public Radio, TED Talk などからの抜粋を題材に、パラグラフ単位で文章を理解するトレーニングを行います。また、英語で1～2分程度の簡単なプレゼンテーションをする練習も行います。</p> <p>なお、教育効果を考慮し、受講者数によりクラスの変更、または人数調整を行う場合があります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>この授業では、受講者が次の3点の能力をのばすことを目指します： [1] 英語の基本文法と語彙を理解し、みずから使いこなす能力 [2] 英文パラグラフの構成を読み取って理解する能力 [3] 簡単な題材について、英語で他人に解説する能力</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>課題および授業内クイズ 40% プレゼン 20% 定期試験 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと。とくにワークシートによる予習課題はその次の授業理解に不可欠となります。</p> <p>■教科書</p> <p>授業内で配布するハンドアウトを使用します。指定の教科書はありません。</p> <p>■参考文献</p> <p>英和辞書は必須です。また、とくに基本文法に不安がある受講者には、別途、自習用の課題をいくつか推薦します。</p> <p>■関連科目</p> <p>英語特別演習2B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 導入</p> <p>第2回 トピック#1の導入、プレリーディング</p> <p>第3回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング1</p> <p>第4回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング2</p> <p>第5回 担当者ショートプレゼンテーション,まとめとディスカッション</p> <p>第6回 トピック#2の導入、プレリーディング</p> <p>第7回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング1</p> <p>第8回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング2</p> <p>第9回 担当者ショートプレゼンテーション,まとめとディスカッション</p> <p>第10回 トピック#3の導入、プレリーディング</p> <p>第11回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング1</p> <p>第12回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング2</p> <p>第13回 担当者ショートプレゼンテーション,リーディング/リスニング3</p> <p>第14回 担当者ショートプレゼンテーション,まとめとディスカッション</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語特別演習 2 B			
英文名：English Special Seminar 2B			
担当者：カトオカ ヒロヒト 片岡 宏仁			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>大学院進学レベルで求められる英語文献の読解と論述のスキルを養成する科目です。一般向け科学エッセイなどからの抜粋および論文を題材に、パラグラフ単位で文章を理解するトレーニングを行います。また、英語で2～3分程度の簡単なプレゼンテーションをする練習も行います。</p> <p>なお、教育効果を考慮し、受講者数によりクラスの変更、または人数調整を行う場合があります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>この授業では、受講者が次の3点の能力をのばすことを目指します： [1] 英語の基本文法と語彙を理解し、みずから使いこなす能力 [2] 英文パラグラフの構成を理解する能力 [3] 簡単な題材について、英語で他人に解説する能力</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>課題および授業内クイズ 40% プレゼン 20% 定期試験 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと、とくにワークシートによる予習課題はその次の授業理解に不可欠となります。</p> <p>■教科書</p> <p>授業内で配布するハンドアウトを使用します。指定の教科書はありません。</p> <p>■参考文献</p> <p>英和辞書は必須です。また、とくに基本文法に不安がある受講者には、別途、自習用の課題をいくつか推薦します。</p> <p>■関連科目</p> <p>英語特別演習2A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 導入 第2回 トピック#1の導入、プレリーディング 第3回 パラグラフ・リーディング1 第4回 パラグラフ・リーディング2 第5回 まとめとディスカッション 第6回 トピック#2の導入、プレリーディング 第7回 パラグラフ・リーディング1 第8回 パラグラフ・リーディング2 第9回 まとめとディスカッション 第10回 トピック#3の導入、プレリーディング 第11回 パラグラフ・リーディング1 第12回 パラグラフ・リーディング2 第13回 パラグラフ・リーディング3 第14回 まとめとディスカッション 第15回 全体のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：英語スキル上級 A			
英文名：Advanced Skills in English A			
担当者：カミムラ ナオミ 上村 バックES 尚美			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>この科目は、英語圏在住経験者や、すでにTOEIC 500点以上（目安）またはそれ相当の資格を取得している学生を対象に実施する。アカデミックリスニングとリーディングを通してレセプティブな理解力養成を行ない、アカデミックなトピックについて情報を収集し、内容を要約し、レポートにまとめるような、高度な英語スキルを養成することを旨とする。総合的な英語力を伸ばす一方で、専門領域において英語を駆使できるスキルを学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>理工系分野において最新の情報は英語で発信されており、学科や研究分野に関わらず常日頃から英語能力の向上を図ることが不可欠である。本講座は基礎的英語運用能力を有する者を対象に、学術系文書特有の英文を中心に読解力と聴解力の向上を目指し、内容理解だけでなく文章構造の分析能力も養うことを目標とする。本講座受講後も各自英語能力向上のための学習を継続することを前提とし、それに必要なスキル（文章要約、言語特徴観察と分析、リスニングの際のノートテイキング等）を習得することを到達目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>ポートフォリオ 50% 授業中の発表および課題提出 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと。各自、文章構造の発見や語彙などをリストアップし参考資料としてまとめる。</p> <p>■教科書</p> <p>適時プリント配布</p> <p>■参考文献</p> <p>授業内で指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>英語スキル上級 B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）.backes@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 読解力や聴解力練習のためのウェブサイトなどの紹介 第2回 学術系文書の言語特徴の検証 第3回 Nature誌、Science誌論文要旨講読（1） 第4回 Nature誌、Science誌論文要旨講読（2） 第5回 Nature誌、Science誌論文序論講読（1） 第6回 Nature誌、Science誌論文序論講読（2） 第7回 論文序論の内容を要約し、発表と質疑応答 第8回 理系関連ニュースリスニング（1） 第9回 理系関連ニュースリスニング（2） 第10回 理系ポッドキャスト・リスニング（1） 第11回 理系ポッドキャスト・リスニング（2） 第12回 理系レクチャー・リスニング（1） 第13回 理系レクチャー・リスニング（2） 第14回 理系トピック・プレゼンテーション（1） 第15回 理系トピック・プレゼンテーション（2）</p>	

科目名：英語スキル上級B			
英文名：Advanced Skills in English B			
担当者： ^{カミムラ} 上村 ^{ナオミ} バックス 尚美			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目は、英語圏在住経験者や、すでにTOEIC 500点以上（目安）またはそれ相当の資格を取得している学生を対象に実施する。アカデミックリスニングとリーディングを通してレセプティブな理解力養成を行ない、さらにアカデミックなトピックについて情報を収集し、内容を要約し、レポートにまとめるような、プロダクティブな能力や発信能力など、高度な英語スキルを養成することを旨とする。総合的な英語力を伸ばす一方で、専門領域において英語を駆使できるスキルを学ぶ。Classes will be conducted in English. Bring a dictionary and a timer to class. *A smartphone is not a dictionary.授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合がある。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 理工系分野において最新の情報は英語で発信されており、学科や研究分野に関わらず常日頃から英語能力の向上を図ることが不可欠である。本講座は基礎的英語運用能力を有する者を対象に、理系トピックのプレゼンテーションやディスカッションを通して、内容だけでなく使用頻度の高い言い回しや発音などの練習を行い発信能力向上を養うことを目標とする。本講座受講後も各自英語能力向上のための学習を継続することを前提とし、それに必要な発信スキル（口頭発表、ディスカッション等）を習得することを到達目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 30% 授業中の発表 20% レポート 25% プレゼンテーション 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。各自、文章構造の発見や語彙などをリストアップし参考資料としてまとめる。</p> <p>■教科書 適時プリント配布</p> <p>■参考文献 授業内で指示します。</p> <p>■関連科目 英語スキル上級A</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） gogaku@waka.kindai.ac.jp <このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること。></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時間の前後休憩時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 一般常識としての理系用語の紹介 第2回 様々な情報発信方法－口頭発表・ポスター発表比較 第3回 分野別研究者紹介（1） 第4回 分野別研究者紹介（2） 第5回 理系トピック・今注目の研究（1） 第6回 理系トピック・今注目の研究（2） 第7回 ディスカッションで使用される言い回しとロールプレー 第8回 理系トピック・グループディスカッション（1） 第9回 理系トピック・グループディスカッション（2） 第10回 理系トピック（1） 第11回 理系トピック（2） 第12回 理系トピック（3） 第13回 理系トピック・ポスター発表（1） 第14回 理系トピック・ポスター発表（2） 第15回 理系トピック・ポスター発表（3）</p>	

科目名：海外研修（英語）			
英文名：Study Abroad Program (English)			
担当者： ^{ハットリ ケイコ} 服部 ^{ハセガワ ユミ} 圭子・長谷川 由美			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：通年	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この科目は、本学国際交流室所管の夏期または春期英語研修に参加し、海外における研修を修了して規定の成績を得た者に、所定の手続きを経て単位が与えられるものである。国際交流室主催の研修に加えて、学部での海外研修の事前・事後研修授業に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。 なお、研修の申し込みは、各自行う必要がある。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 英語圏で実際に生活することによって、日頃の学習の成果を試し、リスニング力、スピーキング力、ライティング力、リーディング力などの総合的英語力を身につけることを目標とする。また、異文化適応力をつけ、自らの意見を発信する力を養成する。さらに、海外での体験をまとめて、わかりやすく発表できるようになることを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート・課題 50% 発表 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 初日に提示</p> <p>■参考文献 初日に提示</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 服部研究室（2号館5階513）・khattori@waka.kindai.ac.jp 長谷川研究室（2号館5階514）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 前期 火曜3限（服部）（その他の時間帯は、事前に予約してください） 後期 火曜2限（長谷川）（その他の時間帯は、事前に予約してください）</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 第2回 自己紹介（1） 第3回 自己紹介（2） 第4回 自文化紹介（1） 第5回 自文化紹介（2） 第6回 自文化紹介（3） 第7回 ホームステイでの英語（1） 第8回 ホームステイでの英語（2） 第9回 海外研修報告（1） 第10回 海外研修報告（2） 第11回 プレゼンテーション準備活動（1） 第12回 プレゼンテーション準備活動（2） 第13回 プレゼンテーション（1） 第14回 プレゼンテーション（2） 第15回 まとめ</p>	

科目名：ドイツ語総合1			
英文名：Basic German 1			
担当者： <small>タナカ ヒデホ ミナミタニ マ キ キタガワ ヒサシ</small> 田中 秀穂・南谷 真紀・北川 尚			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表及び課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。</p> <p>■教科書 山本 洋一『ドイツ語一步一步』(都文堂) 2800+税</p> <p>■参考文献 授業で紹介いたします。 「ドイツ語について」の項を参照</p> <p>■関連科目 ドイツ語総合2・3・4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 学部実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ドイツ語はこんな音 第2回 Lektion 1. 私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。 第3回 Lektion 1. 私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。 第4回 Lektion 2. これは何？ 第5回 Lektion 2. これは何？ 第6回 まとめと復習・小テスト 第7回 Lektion 3. 何を買うの？ 第8回 Lektion 3. 何を買うの？ 第9回 Lektion 4. 手伝ってあげて！ 第10回 Lektion 4. 手伝ってあげて！ 第11回 Lektion 5. ぼくと一緒に来る気はある？ 第12回 Lektion 5. ぼくと一緒に来る気はある？ 第13回 Lektion 6. 赤い車それとも白い車、どちらの車？ 第14回 Lektion 6. 赤い車それとも白い車、どちらの車？ 第15回 まとめと復習・補足・小テスト</p> <p>定期試験</p>	

科目名：ドイツ語総合2			
英文名：Basic German 2			
担当者： <small>タナカ ヒデホ ミナミタニ マ キ キタガワ ヒサシ</small> 田中 秀穂・南谷 真紀・北川 尚			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表及び課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。</p> <p>■教科書 山本 洋一『ドイツ語一步一步』(都文堂) 2800+税</p> <p>■参考文献 授業で紹介いたします。 「ドイツ語について」の項を参照</p> <p>■関連科目 ドイツ語総合1・3・4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 前期の復習 第2回 Lektion 7. 別な列車に乗り換えなければならない 第3回 Lektion 7. 別な列車に乗り換えなければならない 第4回 Lektion 8. 携帯の電源を切らなければならなかった 第5回 Lektion 8. 携帯の電源を切らなければならなかった 第6回 まとめと復習 第7回 Lektion 9. 先週末ミュンヘンに行ってきた 第8回 Lektion 9. 先週末ミュンヘンに行ってきた 第9回 Lektion 10. 旧友との再会が待ちどおしい 第10回 Lektion 10. 旧友との再会が待ちどおしい 第11回 Lektion 11. 貸した本は気に入った？ 第12回 Lektion 11. 貸した本は気に入った？ 第13回 補足と復習 第14回 補足と復習 第15回 まとめと復習・補足・小テスト</p> <p>定期試験</p>	

科目名：ドイツ語総合3			
英文名：Basic German 3			
担当者：ナカムラ ムツオ ミナミタニ マキ 中村 睦夫・南谷 真紀			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習として単語を調べておくこと、復習としては課題の練習問題を自ら解くことにより、理解を確かなものにする。</p> <p>■教科書 『ドイツ語の時間-読解編-く読めると楽しい!』(清野 智昭ほか, 朝日出版社)</p> <p>■参考文献 授業で紹介いたします。</p> <p>■関連科目 ドイツ語総合1・2・4 ドイツ語総合A・B ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4 ドイツ語カルチャーセミナー A・B</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Lektion1 第2回 Lektion1 第3回 Lektion2 第4回 Lektion2 第5回 Lektion3 第6回 Lektion3 第7回 復習、小テスト 第8回 Lektion4 第9回 Lektion4 第10回 Lektion5 第11回 Lektion5 第12回 Lektion6 第13回 Lektion6 第14回 学び残しと復習 第15回 総復習</p> <p>定期試験</p>	

科目名：ドイツ語総合4			
英文名：Basic German 4			
担当者：ナカムラ ムツオ ミナミタニ マキ 中村 睦夫・南谷 真紀			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表及び課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習として単語を調べておくこと、復習としては課題の練習問題を自ら解くことにより、理解を確かなものにする。</p> <p>■教科書 『ドイツ語の時間-読解編』(清野 智昭ほか, 朝日出版社) 2300+税</p> <p>■参考文献 授業で紹介いたします。</p> <p>■関連科目 ドイツ語総合1・2・3</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Lektion 7 第2回 Lektion 7 第3回 Lektion 8 第4回 Lektion 8 第5回 Lektion 9 第6回 Lektion 9 第7回 復習、小テスト 第8回 Lektion 1 0 第9回 Lektion 1 0 第10回 Lektion 1 1 第11回 Lektion 1 1 第12回 Lektion 1 2 第13回 Lektion 1 2 第14回 学び残しと復習 第15回 総復習</p> <p>定期試験</p>	

科目名：中国語総合1			
英文名：Basic Chinese 1			
担当者：ヒラサカ ヒトシ ムラタ ヒロシ トリヤ マユミ ワタナベ ナオト 平坂 仁志・村田 浩・鳥谷 まゆみ・渡辺 直土			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記(ピンイン)に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表及び課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。 講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。</p> <p>■教科書 本間史・孟広学『中国語ポイント42』白水社 2205円</p> <p>■参考文献 辞書：『デイリーコンサイス中日・日中辞典』(三省堂)・『中日辞典 第二版』(小学館)など 参考書：相原茂『はじめての中国語』(講談社現代新書)・木村英樹『中国語はじめての一步』(ちくま新書)など</p> <p>■関連科目 中国語総合2、中国語総合3、4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 学部実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 発音1 声調・単母音 第2回 発音2 複合母音・子音1 第3回 発音3 子音2・鼻母音 第4回 発音4 ㄱ化・声調の組み合わせ・軽声・声調の変化・日常のあいさつ 第5回 第1課 1)人称代名詞・2)“是”の文 第6回 第1課 3)m aの疑問文・4)名前の言い方 第7回 第2課 5)動詞が述語になる文・6)指示代名詞 第8回 第2課 7)疑問詞疑問文・「8)的」 第9回 第3課 9)形容詞述語文・10)所有をあらわす「有」 第10回 第3課 11)反復疑問文・12)副詞「也」と「都」 第11回 第4課 13)場所をあらわす代名詞・14)存在をあらわす「在」 第12回 第4課 15)動詞の重ね型・16)省略疑問文 第13回 第5課 17)数詞・18)量詞 第14回 第5課 19)数のたずね方・20)語気助詞 b a 第15回 総合1の総復習</p> <p>定期試験</p>	

科目名：中国語総合2			
英文名：Basic Chinese 2			
担当者：ヒラサカ ヒトシ ムラタ ヒロシ トリヤ マユミ ワタナベ ナオト 平坂 仁志・村田 浩・鳥谷 まゆみ・渡辺 直土			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表及び課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。 講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。</p> <p>■教科書 本間史・孟広学『中国語ポイント4 2』白水社 2205円</p> <p>■参考文献 辞書：『デイリーコンサイス中日・日中辞典』(三省堂)・『中日辞典 第二版』(小学館)など 参考書：相原茂『はじめての中国語』(講談社現代新書)・木村英樹『中国語はじめての一步』(ちくま新書)など</p> <p>■関連科目 中国語総合1、中国語総合3、4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 第6課 21)存在をあらわす「有」・21)連動文 第2回 第6課 22)月日・曜日 23)時刻 第3回 第7課 25)助動詞「要」「想」 26)介詞「在」「从」 第4回 第7課 27)完了をあらわす「了」 第5回 第8課 28)助動詞「能」「会」「可以」 29)経験をあらわす「过」 第6回 第8課 30)時間の長さのあらわし方 第7回 第9課 31) 介詞「給」「对」 32)動作の進行をあらわす「正」「在」「正在」 第8回 第9課 33)動作・状態の持続をあらわす「着」 第9回 第10課 34)結果補語 第10回 第10課 35)動作の状態や程度の表現 36)選択疑問文 第11回 第11課 37)方向補語 第12回 第11課 38)「把」構文 39)比較の表現 第13回 第12課 40)可能補語 第14回 第12課 41)二重目的語をとる動詞 42)「是～的」表現 第15回 総合2の総復習</p> <p>定期試験</p>	

科目名：中国語総合3			
英文名：Basic Chinese 3			
担当者：カキウチ トモユキ ヤマガチ ヒロコ 垣内 智之・山口 博子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項を習得した学生を対象とする科目です。中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、単語量と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養います。「総合3」では、主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語運用能力の基礎を身につけます。中国語を読んで理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えられることを目指します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 総合4とあわせて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。 授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。 講義内で重要とされる部分をノートし、予習・復習に役立つよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。 学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。</p> <p>■教科書 [2年めの中国語ポイント45] 本間史・孟広学著 白水社</p> <p>■参考文献 シラバス「中国語について」の項を参照</p> <p>■関連科目 中国語総合1・2・4</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 中国語基礎文法の復習 第2回 第1課 1) 名詞の前に置く“的” 2) 動詞の前に置く“地面” 第3回 第1課 3) 助動詞“要”の用法 4) 連動文 第4回 第2課 5) 動態助詞の“了” 6) 語気助詞の“了” 第5回 第2課 7) 語気助詞の“吗” 8) 禁止の表現 第6回 第3課 9) 経験・経過を洗わす“过” 10) “怎么”の2つの用法 第7回 第3課 11) 離合詞 12) 副詞“才”の用法 第8回 第1～3課のまとめ 第9回 第4課 13) 動作の進行 14) 動作・状態の持続を表わす“着” 第10回 第4課 15) 動作を行う時間の長さ・動作の回数 16) “因为～所以…” 第11回 第5課 17) 近い未来“要～了”・“快～了” 18) 反語の表現 第12回 第5課 19) 副詞“就”の用法 20) “要是(／如果)～就…” 第13回 第6課 21) 結果補語 22) 感嘆文 第14回 第6課 23) 副詞“还”の用法 24) “虽然～但是…” 第15回 第4～6課のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：中国語総合4			
英文名：Basic Chinese 4			
担当者：カキウチ トモユキ ヤマガチ ヒロコ 垣内 智之・山口 博子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 「総合3」に引き続き、語彙と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養い、総合的な中国語運用能力を伸ばしてゆきます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 総合3と併せて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表および課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 中国語総合1, 2, 3で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。 授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。 講義内で重要とされる部分をノートし、予習・復習に役立つよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。 学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。</p> <p>■教科書 [2年めの中国語ポイント45] 本間史・孟広学著 白水社</p> <p>■参考文献 シラバス「中国語について」の項を参照</p> <p>■関連科目 中国語総合1・2・3</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) gogaku@waka.kindai.ac.jp<このメールアドレスに連絡をする場合は、授業名、担当教員、授業の曜日、授業の時間帯を明記すること></p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 中国語総合3の復習 第2回 第7課 25) 様態補語 26) 比較の表現 第3回 第7課 27) 形容詞の重ね型 28) “不但～而且…” 第4回 第8課 29) 方向補語 30) 複合方向補語 第5回 第8課 31) 強調表現“连～也(／都)…” 32) “一～就…” 第6回 第9課 33) “把”構文 34) 受身の表現 第7回 第9課 35) 副詞“再”と“又”の用法 36) “只要～才…” 第8回 第7～9課のまとめ 第9回 第10課 37) 可能補語 38) “是～的”の構文 第10回 第10課 39) “只有～就…” 第11回 第11課 40) “～得了”／“～不了” 41) 兼語文 第12回 第11課 42) “不是～而是…” 第13回 第12課 43) 存現文 44) 同じ疑問詞の呼応 第14回 第12課 45) “不管～都…” 第15回 第10～12課のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学Ⅰ			
英文名：Chemistry 1			
担当者：フジサワ マサオ 藤澤 雅夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学は物質の本質を究明し、物質の変化と物質間の相互作用を研究する学問である。化学・では物質の構成、物質の状態などの内容を理解することを目的とする。はじめに、原子量および物理量の単位であるモルの定義を明らかにする。原子核から原子、分子、結晶までの構造論を取り扱う。物質の三態とその変化を取り扱ったあと、分析化学の基礎となるpHや酸塩基平衡を解説する。有機化合物の構造に関する知識を習得させることで、合成高分子と生体高分子の学習の基礎とする。以上の学習に有効な問題演習も取り入れる。この講義は、高校で化学の全単元を履修しなかった学生にも配慮して進める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>原子の構造に関する基礎的事項を理解する。 電子配置の規則を説明できる。 化学結合の種類と特徴を説明できる。 物質の三態に関する基礎的事項を理解する。 酸・塩基の概念を理解する。 有機化合物の構造式を記述し、それらの構造式から化合物の性質を理解する。 高分子化合物の特徴を理解し、説明できる。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 85% 小テスト 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義中に教員が解いて示した、例題およびそれらに類似した問題を自分で解いてみる。 不明な点があれば教員に質問する。 ある一つの溶液に関して数種以上の濃度で記述すること。 何種類かの化合物それぞれについて、組成式、分子式、構造式で記述すること。</p> <p>■教科書 『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(実教出版：2013)</p> <p>■参考文献 『新化学概論(サイエンスライブラリ化学)』(吉岡 甲子郎, サイエンス社：1997)</p> <p>■関連科目 化学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 藤澤研究室(2号館5階504号室)・fujisawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日1限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 イントロダクション：化学という学問・SI単位・化学に必要な最低限の数学</p> <p>第2回 原子の構造</p> <p>第3回 原子の電子軌道</p> <p>第4回 化学結合：共有結合</p> <p>第5回 化学結合：金属結合とイオン結合</p> <p>第6回 分子間力</p> <p>第7回 分子間相互作用</p> <p>第8回 物質の状態変化</p> <p>第9回 気体</p> <p>第10回 固体の構造</p> <p>第11回 液体、溶液の濃度と溶解度</p> <p>第12回 化学平衡と酸・塩基</p> <p>第13回 元素の分類と無機化合物</p> <p>第14回 有機化合物の分類と異性体</p> <p>第15回 合成高分子と生体高分子</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学Ⅰ			
英文名：Chemistry 1			
担当者：サクライ カズマサ 櫻井 一正			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学とは、物質の性質や変化を理解するための考え方をまとめたものである。化学の考え方は、新たな材料や薬品の合成法の開発、およびDNAの複製や酵素反応といった生物現象の理解まで広く利用することができる。そのための第一歩として、化学Ⅰでは高校化学で習った内容を復習し、今後の関連する科目に必要な知識を固める。また、授業中では演習問題を多く取り入れ、授業内容の理解を進める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>1) 高校化学の範囲を復習し、基礎を固める 2) モル数や濃度、pHなどの化学の基本概念をマスターする 3) 化学結合の機構を知り、分子構造を視覚的、立体的に理解する</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期テスト 75% 授業中の演習 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業で触れた用語を他の書籍やネットでも調べ、その概念を十分理解すること。</p> <p>■教科書 『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(金原 榮 監修、実教出版：2013年)</p> <p>■参考文献 『基礎化学(新・物質科学ライブラリ)』(梶原 篤・金折 賢二 共著, サイエンス社：2011年)</p> <p>■関連科目 化学実験、化学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 櫻井 一正(高圧力蛋白質研究センター)・sakurai@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日2、3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 物質の成り立ち、化学の計算</p> <p>第2回 原子の構造</p> <p>第3回 原子軌道とエネルギー準位図</p> <p>第4回 共有結合と分子軌道</p> <p>第5回 化学結合と分子の構造</p> <p>第6回 共有結合以外の結合</p> <p>第7回 物質の状態</p> <p>第8回 状態方程式</p> <p>第9回 反応熱</p> <p>第10回 化学平衡</p> <p>第11回 酸と塩基・pH</p> <p>第12回 酸化還元反応</p> <p>第13回 無機化合物</p> <p>第14回 有機化合物の命名法</p> <p>第15回 有機化学の反応</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学Ⅰ			
英文名：Chemistry 1			
担当者：タカギ リョウスケ 高木 良介			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学Ⅰでは、原子や分子の構造と性質、化学結合の種類、溶液の濃度の計算など、他の専門科目を学ぶ上で必要となる化学的基礎知識を習得することを目的とする。はじめに、物質、生体の基本をなす原子の構造と性質を理解し、原子どうしの反応による分子の形成と化学結合について学ぶ。溶液の濃度について解説し、溶液の濃度計算を習得するための演習問題を行う。さらに、生体を構成する有機化合物の構造と性質を解説し、生体高分子や生化学に関する基礎的な内容を理解する。この講義は、高校で化学を十分に学ばなかった学生に配慮して進める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>この授業を履修することで、以下の各項目について理解することを到達目標とする。 原子の構造と性質および質量数について理解する。 化学結合の種類と性質、分子間力について理解する。 溶液の濃度について理解し、濃度計算、変換ができる。 有機化合物について基礎的な知識を習得し、有機化学反応について理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% 授業中の課題およびレポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各回の予習、復習を必ず行うこと。 教科書・参考書・インターネットなどを使って自習し、内容の理解に勤めること。</p> <p>■教科書</p> <p>メディカル化学 - 医歯薬系のための基礎化学 - 齋藤勝裕・太田好次・山倉文幸・八代耕児・馬場猛 [共著] 裳華房</p> <p>■参考文献</p> <p>生命科学のための基礎化学 無機物理化学編 生命科学のための基礎化学 有機・生化学編 Chemistry and the Living Organism Molly M. Bloomfield 伊藤俊洋・伊藤佑子・岡本義久・北山憲三・清野肇・松野昂士 共訳</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>高木研究室 (10号館1-101) rtakagi@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜日3限と水曜日3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 原子の構造 第2回 原子量と物質量 (モル) 第3回 電子配置と周期表 第4回 溶液の濃度、濃度計算と変換/溶液の重量濃度とモル濃度、アボガドロ数 第5回 電気陰性度と分子の極性 第6回 化学結合 (共有、配位、イオン、疎水性など) 第7回 分子間にはたらく弱い力 (静電力、ファンデルワールス力、水素結合、疎水結合など) 第8回 化学反応式の書き方 (質量保存の法則) 第9回 化学反応速度論と化学平衡 第10回 酸と塩基 第11回 酸化還元反応 第12回 有機化合物の構造と種類 第13回 有機化合物の命名法 第14回 有機化合物の化学反応 第15回 生体エネルギー</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学Ⅱ			
英文名：Chemistry 2			
担当者：フジサワ マサオ 藤澤 雅夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学は物質の本質を究明し、物質の変化と物質間の相互作用を研究する学問であり、物質を扱う他の科目の基礎となる。化学Ⅱでは分子構造、化学変化や分子間相互作用などの内容を理解することを目的とする。はじめに、初歩的な量子論を用いて原子の構造を解説する。エントロピー、ギブスエネルギーについて詳しく解説したのち、熱力学に基づいて化学平衡を説明する。また生物学的な系での平衡、物理的平衡なども解説する。そして順次、反応速度論、有機化学、立体異性、高分子および生化学に関する基礎的な問題を扱う。以上の学習に有効な問題演習も取り入れる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>水素原子の波動関数が3種類の量子数によって規定されることを理解できる。 平衡論、熱力学と反応速度の基礎的な概念を理解できる。 結合状態と混成軌道など、化合物の構造と異性体の種類を理解できる。 構造式から立体分子構造をイメージできる。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 85% 小テスト 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義中に教員が解いて示した、例題およびそれらに類似した問題を自分で解いてみる。 不明な点があれば教員に質問する。 水素原子の軌道が3種類の量子数によって記述されることを学ぶこと。 化学熱力学および化学反応速度に関する基本的な用語の定義を理解すること。</p> <p>■教科書</p> <p>『新化学概論 (サイエンスライブラリ化学)』(吉岡 甲子郎, サイエンス社: 1997)</p> <p>■参考文献</p> <p>『物理化学—分子論的アプローチ (上)』(D.A. マッカーリ, 東京化学同人: 1999) 『物理化学—分子論的アプローチ (下)』(マッカーリ, 東京化学同人: 2000) 『フィーザー—基礎有機化学』(L.F. フィーザー, 丸善: 1975)</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>藤澤研究室 (2号館5階504号室)・fujisawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜日1限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 原子構造と原子軌道 第2回 化学結合と分子の構造 第3回 分子間力 第4回 物質の三態と相平衡 第5回 熱力学第一法則と熱化学 第6回 熱力学第二法則とエントロピー 第7回 エントロピーのもうひとつの意味 第8回 化学平衡 第9回 物質変化の方向：ギブスエネルギー 第10回 電離平衡 第11回 化学反応速度と反応次数 第12回 反応速度と温度 第13回 有機化合物：結合と構造異性 第14回 有機化合物：配座異性、幾何異性と立体異性 第15回 合成高分子・生体高分子の構造と分子間相互作用</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学Ⅱ			
英文名：Chemistry 2			
担当者：サクライ カズマサ 櫻井 一正			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学とは、物質の性質や変化を理解するための考え方をまとめたものである。化学の考え方は、新たな材料や薬品の合成法の開発、およびDNAの複製や酵素反応といった生物現象の理解まで広く利用することができる。化学Ⅱではよく耳にする「エネルギー」の正体が、分子や原子の振る舞いであることを理解する。そして化学反応の進行方向や物質の状態がどのように決められるのかを、エネルギーの考え方にに基づき理解する。期間中3回程度小テストを行い、授業内容の理解を深める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「エネルギー」とは「モノ」ではなく「概念」であることを理解する 2) エントロピー最大の点が化学平衡点であるという概念を理解する 3) 化学反応や化学平衡の方向を知るための具体的な計算方法を理解する <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期テスト 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業で触れた用語を他の書籍やネットでも調べ、その概念を十分理解すること。</p> <p>■教科書</p> <p>『基礎化学(新・物質科学ライブラリ)』(梶原 篤・金折 賢二 共著, サイエンス社: 2011年)</p> <p>■参考文献</p> <p>『基礎 化学演習(新・演習物質科学ライブラリ)』(梶原 篤・金折 賢二 共著, サイエンス社: 2013)</p> <p>『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(金原 榮 監修, 実教出版: 2013年)</p> <p>『生命科学系のための基礎化学(CatchUP)』(M. Fry, E. Page 著, 林利彦 訳, 東京化学同人: 2009年)</p> <p>『万物を駆動する四つの法則—科学の基本、熱力学を究める』(ピーター・アトキンス 著, 斉藤 隆史 訳, 早川書房: 2009年)</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅰ、化学実験</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>櫻井 一正 (高圧力蛋白質研究センター)・sakurai@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>月曜日2、3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 SI単位系と物理量、状態量</p> <p>第2回 物質の状態図</p> <p>第3回 化学ポテンシャル</p> <p>第4回 混合溶液の状態図</p> <p>第5回 束一的性質</p> <p>第6回 熱力学第一法則とエンタルピー</p> <p>第7回 エンタルピーの温度依存性</p> <p>第8回 化学平衡と平衡定数</p> <p>第9回 熱力学第二法則とエントロピー</p> <p>第10回 化学平衡とギブスエネルギー</p> <p>第11回 ギブスエネルギーの温度依存性</p> <p>第12回 反応速度と速度定数</p> <p>第13回 一次反応と二次反応</p> <p>第14回 微分速度式と積分速度式</p> <p>第15回 反応速度の温度依存性</p> <p>定期試験</p>	

科目名：基礎数学			
英文名：Basic Mathematics			
担当者：ツツミ ヒロユキ 堤 裕之			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>生物理工学部における専門課程の基礎的な理論を学ぶために必要な数学の基礎を学習する。本講義では、計算の技法、式の文法、式と図形についての基本概念を俯瞰すると共に、初等関数について理解することを目標とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微積分、線形代数学、物理学の基礎となる内容を学習し、基本的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の技法を身に付ける。 ・式の文法を理解する。 ・式と図形の関係を理解する。 ・初等関数について理解する。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>指定される課題をすべて解くこと。分からない内容がある場合は次回以降担当教員に質問して理解すること。基礎教育センターも大いに活用すること。</p> <p>■教科書</p> <p>『教養としての数学』(堤 裕之, ナカニシヤ出版: 2013)</p> <p>指数関数・対数関数についてはプリントを配布</p> <p>■参考文献</p> <p>『オイラーの贈物—人類の至宝$e^{i\pi}=-1$を学ぶ』(吉田 武, 東海大学出版会: 2010)</p> <p>■関連科目</p> <p>ブラクティス基礎数学、微積分学、線形代数学、基礎物理学、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室(2号館2階): tsutsumi@ouhs.ac.jp 備考: 携帯からの質問メールは受け付けない。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 四則演算と計算順序</p> <p>第2回 べき</p> <p>第3回 計算とその結果の表現</p> <p>第4回 演算の特色</p> <p>第5回 関係演算子と文字の利用</p> <p>第6回 公式と方程式</p> <p>第7回 関数とグラフ</p> <p>第8回 種々の関数と漸化式</p> <p>第9回 比例・反比例と比、割合と単位</p> <p>第10回 長さ・面積・体積</p> <p>第11回 座標と角度(三角関数)</p> <p>第12回 方程式と図形</p> <p>第13回 指数関数</p> <p>第14回 対数関数</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>ナカサコ ノボル</small> 中迫 昇			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 大学で学ぶ数学、情報学ならびに殆どの専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎知識の第一歩として微分積分学、線形代数学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学、線形代数学ではなく、生物理工学に必要な実用道具としての微分積分学、線形代数学を修得することを目的としている。したがって、基本的な意味や使い方、例題などにも時間をかけて講義を進める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学の基礎から応用までと、線形代数学の基礎を学習し、数学的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。 ・1変数の微分と積分について基礎から応用まで理解する。 ・行列演算の基礎を理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業中の板書を書き写したノートから、自分の言葉で講義ノートを作り直して何度も復習しましょう。それでも分からない時は質問してください。</p> <p>■教科書 高遠 節夫 他5名「新 微分積分 I」大日本図書</p> <p>■参考文献 藤田岳彦、石村直之、藤岡敬「Primary大学ノート微分積分」実教出版 石村園子「すぐわかる微分積分」東京図書 石原 繁、浅野重初「理工系入門 微分積分」裳華房</p> <p>■関連科目 微分積分学、線形代数学、その他の物理学や専門科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 中迫研究室（東1号館3階319）・nakasako@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜2、4、5限 事前にメール等で予約をとってもらえると助かります。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 数と連続 第2回 数列の極限 第3回 変数と初等関数Ⅰ（多項式関数、有理関数） 第4回 初等関数Ⅱ（対数関数、指数関数） 第5回 初等関数Ⅲ（三角関数、双曲線関数） 第6回 関数の極限と連続 第7回 導関数とその計算 第8回 微分法 第9回 テイラー展開 第10回 不定積分と定積分 第11回 積分の性質 第12回 積分の計算 第13回 ベクトルと行列 第14回 行列の演算 第15回 逆行列</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>サワイ トオル</small> 澤井 徹			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 大学における自然科学系の教養科目ならびに専門科目にとって必要不可欠な基礎知識となる微分積分学、線形代数学を学習する。この科目は、高校で数学Ⅲ、数学Cを履修していない学生にも理解できるように、演習も取り入れて授業を進めていく。自然科学や工学現象の理解に必要な道具としての微分積分学、線形代数学を修得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学、線形代数学の基礎を学習し、基礎的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につけることができる。 ・初等関数の微分の基礎が理解できるようになる。 ・初等関数の積分の基礎が理解できるようになる。 ・行列演算の基礎が理解できるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 小テスト（毎回）20% 中間試験 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の講義のノートを整理し、与えられた課題に取り組む。</p> <p>■教科書 藤田岳彦、石村直之、藤岡敬「Primary大学ノート微分積分」実教出版</p> <p>■参考文献 石原 繁、浅野重初「理工科系の基礎 微分積分 増補版」裳華房 有馬 哲・石村貞夫「よくわかる微分積分」東京図書 高遠 節夫、齊藤 斉 他4名「新訂 微分積分 I」大日本図書</p> <p>■関連科目 1年後期の微分積分学・線形代数学、物理学および専門科目の基礎となる科目です。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 澤井研究室（西1号館2階252）・sawai@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜2限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 数列 第2回 数列の極限 第3回 初等関数 第4回 関数の極限 第5回 逆三角関数 第6回 関数の微分 第7回 微分の性質 第8回 微分法の応用 第9回 微分法の応用（テイラー展開）：中間試験 第10回 不定積分と定積分 第11回 積分の性質 第12回 積分の計算 第13回 区分求積法 第14回 行列の演算 第15回 逆行列</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>フクダ マコト</small> 福田 誠			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 現在では微分積分学、線形代数学は、あらゆる工学現象を説明・解析する際に必要不可欠な道具になっている。この科目は、高校数学Ⅱの復習を兼ねて、数列、初等関数とグラフから始め、演習も取り入れて授業を進めていく。自然科学や工学現象の理解に必要な道具としての数学力を修得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 学生は、今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学、線形代数学の基礎を学習し、基礎的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数列、関数の基礎を理解する。 ・初等関数の微分と積分の基礎を理解する。 ・微分方程式の概念と解法の基礎を理解する。 <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書、参考書で調べ、自分のノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。各講義時間に指示された課題は自分で解いてみる。</p> <p>■教科書 藤田岳彦、石村直之、藤岡 敬「Primary 大学ノート微分積分」実教出版</p> <p>■参考文献 高校数学Ⅱ、Ⅲの教科書、参考書 石村園子「大学新入生のための微分積分入門」共立出版 馬場敬之「単位が取れる微積分ノート」講談社サイエンティフィク 和達三樹、十河 清 著「理工系の数学入門コース 微分積分演習」岩波書店</p> <p>■関連科目 1年後期 微分積分学、線形代数学の基礎となる科目です。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 福田研究室（東1号館1階120）：fukuda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜5限、金曜4限 (事前に連絡などをお願いします。)</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 数列 第2回 数列の極限 第3回 初等関数 第4回 関数の極限 第5回 関数の微分 第6回 微分の性質 第7回 微分法の応用 第8回 微分法の応用（テイラー展開） 第9回 不定積分と定積分 第10回 積分の性質 第11回 置換積分と部分積分 第12回 有理関数の積分 第13回 区分求積法 第14回 微分方程式（1） 第15回 微分方程式（2）</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>フジイ マサオ</small> 藤井 雅雄			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 大学における自然科学系の教養科目および専門科目を履修するにあたって、必要不可欠な基礎知識である微分積分学、線形代数学を学習する。この科目では、高校で数学Ⅲ、数学Cを履修していない学生にも理解できるように、毎回演習を取り入れた方法で授業を進める。 自然科学の仕組みや現象の論理的知識の理解に必要な数学の学力を習得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は今後習得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学、線形代数学の基礎を学習し、基礎的な考え方の理解と、実際の応用場面において、活用できるための計算力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等関数の微分と積分についての基礎とその応用を理解する。 ・行列演算の基礎を理解する。 <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中の課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業中の板書を書き写したノートの内容および課題の演習問題を十分理解できたことを確認する。少しでも理解の至らないところは、そのままにせず必ず次回質問してください。</p> <p>■教科書 適時プリント配布</p> <p>■参考文献 石原繁、浅野重初 「理工系入門 微分積分」裳華房</p> <p>■関連科目 微分積分学、線形代数学など。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階254）・fuji@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 数学の広がり 第2回 数と式 第3回 直線の傾き 第4回 関数の極限 第5回 3次・4次関数 第6回 微分係数と導関数 第7回 導関数の計算 第8回 微分法の応用(1) 第9回 不定積分 第10回 定積分 第11回 定積分の応用 第12回 いろいろな関数の微分法 第13回 微分法の応用(2) 第14回 行列 第15回 行列式</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生物学Ⅰ			
英文名：Biology 1			
担当者：ヤマサキ ヒサシ 山崎 尚			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 生物理工学部全学科対象の学部基礎科目です。生物学に関する基礎的な知識を高校生Ⅰ、理科総合Bを選択していなかった学生にも理解できるレベルからスタートし、大学初等教育のレベルの知識が習得できることを目標とします。この授業では、特にヒトの疾患を中心とした様々な具体例を取り上げながら、遺伝の仕組みを解説すると共に、生物の多様性がどの様にして生じるか、と言う問題を扱います。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生は、生物学で最も重要な分野の1つでもある「遺伝の仕組み」と「遺伝子の役割」について習得できます。更に、ヒトを中心とした哺乳類で様々な形質が現れる理由や、それが遺伝する仕組みを理解できるようになります。「個体差」や「生物多様性」がなぜ生じるか、と言う誰もが興味を持つ生物学上の大きな命題を科学的に第三者に解説できるようになることを目指します。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 15% ミニッツレポート(授業時提出の課題) 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各講義中に指示した内容に関して自ら新聞、雑誌、あるいはインターネット上の記事などを調べる。また、各種情報媒体で報道される日常の様々な出来事に常に関心を持ち、それらのニュースを科学的に見るよう心がけて欲しい。</p> <p>■教科書 特定の教科書は使用せず、適時プリントを配布する。</p> <p>■参考文献 レーブン・ジョンソン「生物学(上)」培風館 今泉洋子 編「人間の遺伝学入門」培風館 柄内 新 著「進化から見た病気」講談社ブルーバックス</p> <p>■関連科目 引き続き生物学Ⅱを履修することが望ましい。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)・hisay@wakayama-med.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 メンデル遺伝とその仕組み 第2回 常染色体劣性遺伝形質－遺伝病は珍しいわけではない 第3回 常染色体優性遺伝形質－歴史上の偉人と遺伝病の関係 第4回 性染色体の役割－雄の三毛猫が珍しい理由 第5回 性染色体と性分化－性染色体から判る人類の起源 第6回 遺伝的多様性－減数分裂が全ての源である 第7回 倍数性と異数性－進化とリスク 第8回 様々な突然変異－先天性疾患の生物学 第9回 量的形質の遺伝(1)－体質と生活習慣病 第10回 量的形質の遺伝(2)－糖尿病とメタボリックシンドロームを例に 第11回 老化の仕組み－環境要因と遺伝的要因の関係 第12回 エピジェネティック調節とは何か～獲得形質が遺伝する？ 第13回 遺伝子治療の原理と歴史－理想と現実 第14回 遺伝子治療の現状－悪性腫瘍への挑戦 第15回 全体のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生物学Ⅰ			
英文名：Biology 1			
担当者：コタニ タカオ 小谷 猛夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 生物は約40億年前に単細胞生物として海中に出現したのが最初であると考えられている。また、最初の脊椎動物として出現したのは魚類であり、やがて長い年月の経過とともに陸生動物が出現し、現在に至っている。本講義では、生物が最初に出現した当時とよく似た環境であると考えられている海底熱水噴出孔と生物、生物の進化、脊椎動物・主に哺乳動物の体を構成している各種細胞や組織の構造とそこにみられる生物現象について学修します。なお、この科目は全学科共通の学部基礎科目であり、高校で生物を履修していなかった学生を主たる対象とします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生物の出現とその進化の概要、 2) 生物体の最小構成単位である細胞の構造と機能、 3) 我々ヒトを含めた哺乳動物の体を構成している各種組織の構造と機能を理解し、 4) 生物学的に生命とは何かを考える基礎的知識を修得することができます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を参考書やインターネットで調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 教科書は使わない。必要に応じてプリントを配付する。</p> <p>■参考文献 黒谷明美 著「絵でわかる細胞の世界」講談社。 その他参考書としては医学・獣医学系の組織学・解剖学・生理学に関する本なら入門書から専門書までどれでもよい。</p> <p>■関連科目 生物学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) kotani1945@t.zaq.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 生命の起源：海底熱水噴出孔と生物 第2回 各種顕微鏡の特性と顕微鏡標本作成法の概略 第3回 細胞の構造と機能-1 第4回 細胞の構造と機能-2 第5回 細胞増殖と細胞死 第6回 生殖細胞と初期発生 第7回 上皮組織の種類・構造・役割 第8回 外分泌腺と内分泌腺の構造・役割 第9回 結合組織の種類・構造・役割 第10回 骨・軟骨組織の構造と役割 第11回 筋組織の種類と構造・収縮機構 第12回 神経組織の構造と役割 第13回 血液細胞とその役割 第14回 遺伝の基礎知識 第15回 がん細胞</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生物学Ⅱ			
英文名：Biology 2			
担当者：ヤマサキ ヒサシ 山崎 尚			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 学部基礎科目です。生物学の中でも注目を集めている話題、「生物の進化」を中心課題に据えて、生命現象を様々な角度から検討していく授業です。進化を、遺伝子、細胞の構造、組織分化、生物多様性、生物の生態、集団遺伝学など生物学の幅広い視野にたった切り口で分析、解説していきます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生は、生物の進化が、分子・遺伝子レベルから、個体、社会・集団レベルまで様々な角度から現在のどの様な理解されているかについて学習します。これにより、分子・遺伝子の構造や機能、細胞の構造や分化、動物の身体の構造、生物種の系統分類、集団遺伝学など生物学の様々な分野の基本的な知識を確認することができます。進化という現象を正確にとらえることで、生物学だけでなく社会現象を幅広い視野で見る力にもつながるものと思います。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 15% ミニッツレポート(授業時に配布する課題) 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分は、参考書やインターネット上の情報を元にして調べ、疑問があれば次週以降に教員に直接質問したり、ミニッツレポートまたレポートの話題として積極的に疑問を深めていくこと。</p> <p>■教科書 特に指定しない。適時プリントを配布。</p> <p>■参考文献 レーア／ジョンソン「生物学(上)」培風館 柄内 新 著「進化から見た病気」講談社ブルーバックス LEWIN「遺伝子 第8版」東京化学同人 現代進化学入門 C.パターソン 岩波書店</p> <p>■関連科目 生物学Ⅰを受講していることが望ましいが、必須ではない。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)・hisay@wakayama-med.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 生物の系統分類－系統分類と生物進化の関連 第2回 様々な進化の考え方－自然選択と形質の中立性 第3回 分子時計とは何か－生物進化の時間を計る 第4回 遺伝子の進化－減数分裂における不等交差の役割 第5回 遺伝子進化のメカニズム－サテライトDNAとは何か 第6回 遺伝子の進化と多様性－遺伝子進化におけるイントロンの役割 第7回 遺伝暗号(コドン)の進化－遺伝暗号は不変ではない 第8回 生物の形態はどうやって決まるのか－脊椎動物と無脊椎動物の違い 第9回 集団遺伝学の基礎－集団の遺伝的組成とは何か？ 第10回 ハーディワインベルグの法則の意味－進化の要因は何か？ 第11回 任意交配と集団の大きさ－近親交配と遺伝子の機能的変動 第12回 選択と適応進化－進化の原動力は何か 第13回 ヒトの進化－何が人間を作り出したのか 第14回 生命の歴史と将来の展望－改めて生命の起源を考える 第15回 全体のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生物学Ⅱ			
英文名：Biology 2			
担当者：コタニ タカオ 小谷 猛夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 生物学Ⅰにおいて得られた脊椎動物、特に哺乳動物の体を構成している細胞・組織の構造と機能についての知識をもとにして、生物学Ⅱにおいてはヒトを含めて哺乳動物の各器官系の構造と機能について、動物間の差異や病的状態に言及しながら講義します。また、ウイルスや細菌などから生体をまもる機構や傷害された組織の修復機構について学修します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1) 脊椎動物、特にヒトを含めた哺乳動物の正常な体の構造と機能、および 2) それらの動物間差異や異常(病的状態)を知り、 3) いろいろな傷害に対する巧妙な生体の防御機構や修復機構についての基礎的知識を修得することができます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を参考書やインターネットで調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 教科書は使わない。必要に応じてプリントを配付する。</p> <p>■参考文献 参考書としては医学・獣医学系の組織学・解剖学・生理学・病理学に関する本なら入門書から専門書までどれでもよい。</p> <p>■関連科目 生物学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) kotani1945@tzaq.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 心臓の構造と機能 第2回 呼吸器系の構造と機能 第3回 消化器系の構造と機能1：消化管 第4回 消化器系の構造と機能2：肝臓と膵臓 第5回 泌尿器系の構造と機能 第6回 脳・脊髄の構造と機能 第7回 感覚器系の構造と機能 第8回 運動器系(骨・関節・筋肉)の構造と機能 第9回 内分泌系および生殖器系の構造と機能 第10回 動物組織の傷害 第11回 動物組織の傷害に対する修復機構 第12回 免疫とアレルギー 第13回 細菌感染と生体の防御反応 第14回 ウイルス感染と生体の防御反応 第15回 腫瘍</p> <p>定期試験</p>	

科目名：基礎物理学			
英文名：Basic Physics			
担当者：ニシガキ ツトム ムカイ セイイチ クサカベ ケンイチロウ タナカ カツヒロ フジオカ ヒデアキ 西垣 勉・向井 誠一・草壁 健一郎・田中 克弘・藤岡 秀彰			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>はじめに、物理現象を理解するのに必要なベクトルと数学的知識を学習し、静力学（力の釣り合い、モーメント、支点と反力）および運動と力（ニュートンの運動の法則）を中心とした力学の基礎を学ぶ。またブラクティス物理の時間にて演習を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>物理学は“自然現象にひそむ法則を探索する”学問であり、数学・化学・生物学・地学とともに科学および理工学の基礎となる。本講では、物理学の基本的な考え方を理解することができるように授業を進めていく。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 50% 小テスト 15% 課題演習及び宿題 15% e-ラーニング 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>演習問題は全て解き理解すること。e-ラーニング課題も毎時間指定されたところを全て解き全て理解すること。問題集は必ず指定されたところは解くこと。テキストを熟読してから受講してください。分からない内容があれば、次回以降に担当教員に質問してください。基礎教育センターも大いに活用すること。</p> <p>■教科書</p> <p>『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動』（大野 秀樹, 森北出版:2013） 『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』（大野 秀樹, 森北出版:2013）</p> <p>■参考文献</p> <p>『これだけはおさえてたい物理 (Primary大学テキスト)』（金原 稔, 実教出版:2009） 『物理1問1答「力学」(大学JUKEN新書)』（土屋 博資, 旺文社:2007）</p> <p>■関連科目</p> <p>ブラクティス基礎物理学、物理学Ⅱ、基礎数学、数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階） hirokazu_miyamoto@wao-corp.com</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」では、プレイズメントの結果により履修科目（「基礎物理学」あるいは「物理学Ⅰ」）が決まります。なお、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」の2科目のうち1科目しか履修出来ません。（来年度以降も履修出来ません。）</p> <p>第1回 運動の表し方 第2回 力と運動の法則（1） 第3回 力と運動の法則（2） 第4回 いろいろな運動 第5回 力積と運動量（1） 第6回 力積と運動量（2） 第7回 力学的エネルギー（1） 第8回 力学的エネルギー（2） 第9回 平面・空間での運動（1） 第10回 平面・空間での運動（2） 第11回 平面・空間での運動（3） 第12回 平面・空間での運動（4） 第13回 平面・空間での運動（5） 第14回 剛体や流体にはたらく力（1） 第15回 総復習</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者：キムラ ユウイチ 木村 裕一			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>物理学は、様々な自然現象の背景にある法則を明らかにする学問であり、理工学の諸分野の基礎となる。また、物理学を理解するための学習の過程は、より専門的で高度な事柄を理解するためのトレーニングともなるので重要な科目である。本講では、力学を取り扱う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>本講の習得により、質量、位置、速度、加速度といった力学の概念を理解すると共に、これらの物理量の間に成立する法則や、基本的な運動である、円運動、単振動、衝突現象や、現象を記述するために使用する力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを理解する。また微分表現など、物理量を取り扱うための方法を理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業ではテキスト中の問題の解説を行うので、授業後復習し、解答の過程に疑問があれば質問すること。</p> <p>■教科書</p> <p>『大学新入生のための物理入門』, 廣岡 秀明, 共立出版, 2008</p> <p>■参考文献</p> <p>特に無し。</p> <p>■関連科目</p> <p>物理学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して実施。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>木村研究室（東1号館4階410）・ukimura@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>水曜日の2限目</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 物理学、力学の概説。 第2回 力の釣り合い。力の表し方、力の合成、力の分解、力の種類、作用と反作用。 第3回 大きさのある物体。質点と剛体、力のモーメント、力の釣り合い、液体や気体による圧力、浮力について。 第4回 力およびモーメントの第2回。 第5回 運動の表し方。瞬間の速度、速さと移動距離、瞬間の加速度、等加速度直線運動について。 第6回 運動の法則。運動と力、重力加速度、運動の法則、運動方程式の解法、重力による運動について。 第7回 運動の法則の解法。 第8回 いろいろな運動1。張力が働く場合、摩擦力が働く場合、空気抵抗張力が働く場合を学ぶ。 第9回 いろいろな運動2。等速円運動、等速円運動の表し方、等速円運動の例について学ぶ。 第10回 いろいろな運動3。単振動、単振動の例について学ぶ。 第11回 仕事。仕事とは、力のする仕事、力に逆らってする仕事、仕事の原理、仕事率とは。 第12回 エネルギー。運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則について。 第13回 仕事・エネルギー。 第14回 運動量。衝突、力積、運動量、運動量保存則、はね返り係数、直線状の衝突運動、エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則について。 第15回 力学の総括。</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者：フジイ マサオ 藤井 雅雄			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 現代社会は、さまざまな科学技術の恩恵を受けています。したがって、科学的知識、とりわけ自然科学の基本である物理学の知識は教養として、また理工学の諸分野の基礎として重要です。本講では、力学の基礎について学びます。力学の基礎を学ぶことで、後年に学ぶ専門分野の理解を容易にすることが期待されます。この講義においては、履修生が高校において物理学を学び、理解していることを前提としていません。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、速さ、速度、加速度といった力学の基礎概念を理解するとともに、これら物理量の間に成立する法則や、基本的な運動である、円運動、単振動、衝突現象や、現象を記述するための力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを理解します。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中の課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 毎回の講義のノートを整理し、与えられた課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 潮秀樹監修 「基礎物理（上）力学・波動」森北出版株式会社</p> <p>■参考文献 潮秀樹監修 「基礎物理準拠問題集」森北出版株式会社</p> <p>■関連科目 物理学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階254）・fujii@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 運動の表し方（1） 速度、加速度 第2回 運動の表し方（2） 等加速度直線運動 第3回 力と運動の法則（1） 第1、2、3法則 第4回 力と運動の法則（2） ばねの力、摩擦力 第5回 いろいろな運動 第6回 力積と運動量 第7回 仕事とエネルギー 第8回 力学的エネルギーの保存 第9回 力の合成と分解 第10回 速度の合成 第11回 平面における運動量保存の法則 第12回 等速円運動 第13回 単振動 第14回 剛体にはたらく力 第15回 流体にはたらく力</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者：マツモト トシロウ 松本 俊郎			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 物理学は自然現象に潜む法則を探索する学問で、理工学の基礎となります。本講では力学を対象とします。最初に、運動の表し方について、速さ、変位、速度、加速度などの基本概念について学びます。つぎに、これらの物理量の間に成り立つ運動の法則を学びます。さらに、この法則を用いて、基本的な運動（円運動、単振動、衝突現象など）を学びます。最後に運動をより深く理解するためのいろいろな物理量（仕事、エネルギー、運動量、反発係数、単振動など）やそれらを用いて成立する法則（力学的エネルギー保存則や運動量保存則など）について学びます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 1. 力、質量、位置、速度、加速度などの基本概念および、このような物理量の取り扱い方に関する知識を持つことができる。 2. つぎに、これらの基本概念間に成り立つ運動の法則や、基本的な運動（円運動、単振動、衝突現象など）を理解できる。 3. さらに、力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを学ぶことにより運動に関する考え方を深めることができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% 授業中の課題およびレポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 1) 教科書の予習を行って、わかりにくいところは講義中に気をつけて聞き疑問点を解消するように努めること。 2) 講義内容を記録したノートについて、教科書を参照しながら復習し理解を深めること。 3) 疑問があれば次週以降もしくは、オフィスアワーの時に教員に質問すること。 4) 章の終わりの演習問題にも取り組むこと。</p> <p>■教科書 大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡鑑一郎、原 嘉昭 「基礎物理 上」森北出版（株） 大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡鑑一郎、原 嘉昭 「基礎物理 準拠 問題集」森北出版（株）</p> <p>■参考文献 柏村昌平「物理学A&B」学術図書出版社 一瀬都夫「力学」学術図書出版社 廣岡秀明「大学新入生のための物理入門」共立出版株式会社</p> <p>■関連科目 物理学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）・matumoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、随時演習を行うので関数電卓を持参のこと。</p> <p>第1回 物理学、力学の概説 物理学の概要、および力学の法則の発見の歴史と人間社会への貢献について理解する。</p> <p>第2回 運動の表し方 速さ、速度と変位、平均の速度、瞬間の速度、加速度、等速直線運動、等加速直線運動について学ぶ。</p> <p>第3回 力と運動の法則（1） 力、質量、運動の第1法則（慣性の法則）、運動の第2法則（運動方程式）、運動の第3法則（作用・反作用の法則）について学ぶ。</p> <p>第4回 力と運動の法則（2） 重力と万有引力、ばねの力、垂直抗力と摩擦力について学ぶ。</p> <p>第5回 いろいろな運動 2物体の運動、自由落下、鉛直投げ上げ、摩擦力がはたらく運動について学ぶ。</p> <p>第6回 力積と運動量（1） 力積、運動量、力積と運動量の変化について学ぶ。</p> <p>第7回 力積と運動量（2） 運動量保存の法則、反発係数、演習問題を解く。</p> <p>第8回 力学的エネルギー（1） 仕事、仕事とエネルギー、運動エネルギーについて学ぶ。</p> <p>第9回 力学的エネルギー（2） 位置エネルギー、力学的エネルギー保存の法則、演習問題を解く。</p> <p>第10回 平面・空間での運動（1） 運動方程式の表し方、力の表し方とベクトルの性質、力の合成について学ぶ。</p> <p>第11回 平面・空間での運動（2） 力の分解、速度の合成、相対速度について学ぶ。</p> <p>第12回 平面・空間での運動（3） 平面における運動量保存の法則、仕事の原理、水平方向に投げ出した運動について学ぶ。</p> <p>第13回 平面・空間での運動（3） 斜めに投げ上げた運動、斜面上にある物体の運動、等速円運動について学ぶ。</p> <p>第14回 平面・空間での運動（3） 惑星の運動（ケプラーの法則）、単振動、単振り子、慣性力について学ぶ。</p> <p>第15回 剛体や流体にはたらく力 力のモーメント、流体の性質、演習問題を解く。</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者： <small>ニシガキ ツトム</small> 西垣 勉			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 物理学は自然現象に潜む法則を探索する学問で、理工学の基礎となる学問です。本講では前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する熱力学、波動、及び電磁気学の基礎について学びます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は温度、熱、波動、電気、磁気、及び関連する物理量の基本概念を理解し、熱力学、光学、電磁気学の基本法則（熱力学の第一・第二法則、反射・屈折の法則、クーロンの法則、オームの法則、ファラデー電磁誘導の法則等）を学びます。これらの基本法則を用いて熱機関の効率、ドップラー効果、レンズの特性、光の回折現象、直流回路や交流回路の特性、モーターの原理などを理解します。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中の課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義内容に対応した演習課題を出しますので、取り組むこと。</p> <p>■教科書 大野秀樹・小島洋一郎・竹中彰継・中岡鑑一郎・原嘉昭「ビジュアルアプローチ 基礎物理 上」森北出版株式会社 大野秀樹・小島洋一郎・竹中彰継・中岡鑑一郎・原嘉昭「ビジュアルアプローチ 基礎物理 下」森北出版株式会社 大野秀樹・小島洋一郎・竹中彰継・中岡鑑一郎・原嘉昭「ビジュアルアプローチ 基礎物理準拠問題集」森北出版株式会社</p> <p>■参考文献 廣岡秀明「大学新入生のための物理入門」共立出版株式会社</p> <p>■関連科目 物理学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 西垣研究室（西1号館3階352）・nisigaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜5限 事前にメールにてアポイントをとって下さい。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 光の進み方 第2回 レンズの性質 第3回 波の表し方 第4回 波の進み方 第5回 平面・空間を伝わる波 第6回 音波とその性質 第7回 音波の干渉 第8回 光の回折と干渉 第9回 温度と熱 第10回 気体分子の運動 第11回 熱力学の法則 第12回 静電気力と電界、電位 第13回 電流と磁場 第14回 直流回路 第15回 交流回路</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者： <small>キムラ ユウイチ</small> 木村 裕一			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 物理学は、様々な自然現象の背景にある法則を明らかにする学問であり、理工学の様々な分野の基礎となる。また、物理学を理解するための学習・理解の過程は、より専門的で高度な事柄を理解するためのトレーニングとなるので重要である。本講では、物理学Ⅰに引き続いて、熱、波動、電磁気学について学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、温度、熱、波動、電気、磁気、及び関連する物理量の基本概念を理解し、熱力学、光学、電磁気学の基本法則（熱力学の第一・第二法則、反射・屈折の法則、クーロンの法則、オームの法則、ファラデー電磁誘導の法則等）を学ぶ。これらは、今後のより専門的な科目の基礎となるものである。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業中は自分の言葉でのノートを取り、これを元に復習すること。また疑問点があれば、次回の授業で質問すること。</p> <p>■教科書 「大学新入生のための物理入門」、廣岡 秀明、共立出版、2008</p> <p>■参考文献 特に無し。</p> <p>■関連科目 物理学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して実施。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 木村研究室（東1号館4階410）・ukimura@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜日の2限目</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 熱の表し方 第2回 気体分子の運動 第3回 波の表し方 第4回 波の進み方 第5回 音波 第6回 ドップラー効果 第7回 光波 第8回 光の干渉 第9回 レンズの性質 第10回 電磁気学の歴史 第11回 静電場 第12回 電流と磁場 第13回 直流回路 第14回 交流回路 第15回 電磁気学演習問題</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者：フジイ マサオ 藤井 雅雄			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>現代社会は、さまざまな科学技術の恩恵を受けています。したがって、科学的知識、とりわけ自然科学の基本である物理学の知識は教養として、また理工学の諸分野の基礎として重要です。本講では、前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する波動、熱力学、電磁気学の基礎について学びます。これらの基礎を学ぶことで、後年に学ぶ専門分野の理解を容易にすることが期待されます。この講義においては、履修生が高校において物理学を学び、理解していることを前提としていません。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、光、音、温度、熱、電気、磁気および関連する物理量の基本概念を理解し、光学、音響学、熱力学、電磁気学の基本法則（反射・屈折の法則、熱力学の第1・第2法則、クーロンの法則、オームの法則、ファラデーの電磁誘導の法則など）を学びます。これらの基本法則を用いて、レンズの特性、光の回折現象、ドップラー効果、熱機関の効率、直流回路や交流の特性、モーターの原理などを理解します。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70% 授業中の課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>毎回の講義のノートを整理し、与えられた課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書</p> <p>潮秀樹監修 「基礎物理（上）力学・波動」 森北出版株式会社 潮秀樹監修 「基礎物理（下）熱・電磁気・原子」 森北出版株式会社</p> <p>■参考文献</p> <p>潮秀樹監修 「基礎物理準拠問題集」 森北出版株式会社</p> <p>■関連科目</p> <p>物理学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階254）・fujii@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 光の進み方 第2回 直線上を伝わる波 第3回 平面・空間を伝わる波 第4回 音波 第5回 光波 第6回 温度と熱 第7回 熱力学の第1法則 第8回 熱力学の第2法則 第9回 静電気力 第10回 電界とガウスの法則 第11回 電位 第12回 電流と電圧 第13回 直流回路 第14回 電流と磁界 第15回 電磁誘導と交流</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者：マツモト トシロウ 松本 俊郎			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>物理学は自然現象に潜む法則を探る学問で、理工学の基礎となります。本講義では、前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する波動、熱力学、及び電磁気学の基礎について学びます。波動において、身の回りの光、音や地震などの波動を扱う上で基礎となる波動、正弦波、縦波、縦波等の物理量を解説します。つぎに、光、音波等について学びます。光について、直進するという考え方に伴う反射、屈折の法則、レンズの結像の法則等について学び、波動としての考え方に伴う干渉、回折について学習します。</p> <p>熱力学において、最初に、熱の表し方について、温度、熱、熱量、熱容量などの基本概念について学びます。つぎに、気体分子ひとつひとつの運動を通して、圧力や温度を理解し、気体が持つ運動エネルギーや内部エネルギーについて解説します。さらに、これらの概念を用いて、気体がする仕事や熱効率等から熱力学の第1及び第2法則について学びます。</p> <p>電磁気学において、最初に、電気量やクーロンの法則等、電気による力の表し方、物質の電氣的性質、電解、電位等について解説します。さらに、コンデンサー、電流と電圧、直流回路、電磁波について学習します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>1. 音、光や地震等の物理現象に対して、波の基礎や縦波や横波、干渉及び回折の考え方が理解できる。レンズによる結像の考え方やカメラ等の性能に関する考察が可能になる。</p> <p>2. 熱現象に関する日常的事実から出発し、それらの経験法則の相互関連を理解し、体系的に理解できる。熱と温度や熱容量と比熱という概念を把握し気体の状態に関する考え方を確立できる。</p> <p>3. 熱力学の第1及び第2法則を導き、熱現象とエネルギー保存則を考察できる。</p> <p>4. 物質の電氣的性質、オームの法則の成り立ち、磁気力及び電磁誘導について理解できる。</p> <p>5. 直流電源と電気抵抗とコンデンサーを含む回路に関する計算方法を体得できる。交流回路における基本的な素子の役割及び電磁波の波動的性質を理解できる。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 80% 授業中の課題及びレポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>1) 教科書の予習を行って、わかりにくいところは講義中に気をつけて聞き疑問点を解消するように努めること。</p> <p>2) 講義内容を記録したノートについて、教科書を参照しながら復習し理解を深めること。</p> <p>3) 疑問があれば次週以降もしくは、オフィスアワーの時に教員に質問すること。</p> <p>4) 章の終わりの演習問題にも取り組むこと。</p> <p>■教科書</p> <p>大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡龍一郎、原 嘉昭「基礎物理 下」森北出版（株） 大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡龍一郎、原 嘉昭「基礎物理 準拠 問題集」森北出版（株）</p> <p>■参考文献</p> <p>柏村昌平「物理学A&B」学術図書出版社 廣岡秀明「大学新入生のための物理入門」共立出版株式会社</p> <p>■関連科目</p> <p>物理学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）・matumoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、随時演習を行うので関数電卓を持参すること。</p> <p>第1回 光の進み方 幾何光学と波動光学の取り扱いについて、光の速さ、反射と屈折</p> <p>第2回 レンズ 結像の焦点、近軸光線、結像の式、凸レンズ、凹レンズへの適用、眼やカメラの結像について学ぶ。</p> <p>第3回 直線上を伝わる波 媒質を伝わる波、正弦波、横波と縦波について学ぶ。</p> <p>第4回 平面・空間を伝わる波 (1) ホイヘンスの原理、光路差、波の干渉について学ぶ。</p> <p>第5回 平面・空間を伝わる波 (2) 光路差、波の干渉について学ぶ。</p> <p>第6回 波の回折 (1) 1開口の回折、2開口の回折について学ぶ。</p> <p>第7回 波の回折 (2) 2開口の回折、回折格子の回折について学ぶ。</p> <p>第8回 温度と熱 温度、熱、温度の測定、熱容量について学ぶ。</p> <p>第9回 気体分子の運動 理想気体の状態方程式、気体の運動エネルギーについて学ぶ。</p> <p>第10回 熱力学第1及び第2法則 気体がする仕事、カルノーサイクルについて学ぶ。</p> <p>第11回 静電気力、電界、電位 帯電、クーロンの法則、電界、電位と電位差について学ぶ。</p> <p>第12回 コンデンサー コンデンサーと電気容量、コンデンサーの接続について学ぶ。</p> <p>第13回 電流と電圧 電流、オームの法則、電力について学ぶ。</p> <p>第14回 直流回路、電流と磁界 抵抗の接続、電流計及び電圧計、電流による磁界について学ぶ。</p> <p>第15回 電磁誘導と交流 電磁誘導、交流、電磁波について学ぶ。</p> <p>定期試験</p>	

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：ニシカワ ヒロアキ 西川 博昭			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本講義は、大学で学ぶ数学、物理学ならびにほとんど全ての専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎として、微分積分学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分積分学を修得することを目標としている。したがって、学術的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講義では、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2変数関数を例にして、多変数関数という概念を理解すること。 2. 多変数関数の解析に重要な、偏微分、全微分、接平面などの基本的な概念を理解し、実際に計算技法をマスターする。 3. さらに2次形式を学び、偏微分概念とともに多変数関数の極値問題を理解する。 4. 多変数関数における重積分の概念を理解し、計算技法をマスターする。 5. 多変数関数の変数変換を理解し、重積分の計算を容易にする方法を修得する。 <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 中間試験 30% 授業時間内に実施する練習問題（各回1から5問程度）5% 宿題（各回5問程度の演習問題）5%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 中間試験および定期試験の対策をかねて、授業を受けたらその日のうちに講義ノートを十分に整理・復習すること。その際、各授業で勉強した範囲に該当する教科書の練習問題を全て解いておく。また、宿題を課すことがある。</p> <p>■教科書 高藤節夫 ほから名 「新微積分Ⅱ」 大日本図書 高藤節夫 ほから名 「新微積分Ⅱ 問題集」 大日本図書</p> <p>■参考文献 有馬 哲・石村貞夫 「よくわかる微積分」 東京図書 高藤節夫 ほから名 「新微積分Ⅰ」 大日本図書 高藤節夫 ほから名 「新微積分Ⅰ 問題集」 大日本図書</p> <p>■関連科目 基礎数学、数学、その他の専門科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 西川研究室（東1号館3階312）・nishik32@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 前期 木曜 4限 後期 木曜 4限 ただし、出張中、会議中を除く</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 2変数関数と曲面 第2回 多変数関数と極限・連続 第3回 偏導関数 第4回 接平面と全微分 第5回 合成関数の微分法 第6回 高次偏導関数 第7回 多項式による近似 第8回 中間試験、極大・極小 第9回 陰関数の微分法 第10回 条件付き極値問題 第11回 重積分の定義 第12回 重積分の計算 第13回 2変数関数の変数変換 第14回 広義重積分・3重積分 第15回 重積分の応用</p> <p>定期試験</p>	

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：ニシガキ ツトム 西垣 勉			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 微分積分学は、線形代数と並んで理工系のほとんどの専門科目の基礎であり、その習得は必要不可欠であるといえる。本講義では、高学年において実際に各種の専門科目で微分積分学を応用することができるよう、数学としての微分積分学ではなく、実用道具としての微分積分学を修得することを目標としている。したがって、学術的な定義・定理・証明よりも、基本的な意味や実際の使い方、例題および練習問題の実践に主眼をおいて進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講義では、各種専門科目に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1変数の初等関数に関する微分積分の概念を復習し、合成関数や逆関数、それに対数関数微分法を使いこなせるようにする。 2. 微分法の応用について学び、関数の極値や曲線の凹凸などを微分を使って解析できることを理解する。 3. 不定積分、定積分の関係を理解し、積分計算法（置換積分、部分積分、有理関数・無理関数）などについてマスターする。 4. 面積、体積、曲線の長さなど積分計算の応用について学び、これを理解する。 5. 2変数関数を例にして、多変数関数という概念の理解とその微分積分学の基本的な考え方を理解すること、また計算技法を身につける。 <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 中間試験 25% 小テスト 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義ノートと演習ノートを作り、毎回の講義内容および演習問題を復習するとともに、講義で省略した問題にも取り組むことで理解を深めること。</p> <p>■教科書 岡本和夫「新版 微積分Ⅰ」実教出版 岡本和夫「新版 微積分Ⅱ」実教出版</p> <p>■参考文献 「新 微積分Ⅰ」大日本図書 「新 微積分Ⅱ」大日本図書</p> <p>■関連科目 基礎数学、数学、各学科の専門科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 西垣研究室（西1号館3階352）・nisiigaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜 5限 事前にメールにてアポイントをとって下さい。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 初等関数の微分積分 第2回 合成関数、逆関数の微分 第3回 対数微分法 第4回 微分法による関数の増減の解析 第5回 微分法（2階微分）による関数の凹凸の解析 第6回 微分と不定積分 第7回 不定積分と定積分 第8回 不定積分および定積分の計算、中間試験 第9回 有理関数の積分 第10回 無理関数の積分 第11回 三角関数を含む有理関数の積分 第12回 長さ、体積の計算 第13回 テイラー展開、マクローリン展開 第14回 多変数関数と偏微分 第15回 重積分</p> <p>定期試験</p>	

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：ヨシダ ヒサシ 吉田 久			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>本講義は、大学で学ぶ数学、物理学ならびにほとんど全ての専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎として、微分積分学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>本講義では、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1変数の初等関数に関する微分積分の概念を復習し、合成関数や逆関数、それに対数関数微分法を使いこなせるようにする。 2. 微分法を修得した後、微分法の応用について学び、関数の極値や曲線の凹凸などを微分を使って解析できることを理解する。 3. 不定積分、定積分の関係を理解し、積分計算法（置換積分、部分積分、有理関数・無理関数）などについてマスターする。 4. 面積、体積、曲線の長さなど積分計算の応用について学び、これを理解する。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 60% 中間試験 30% 授業中の発表 5% 授業中の課題 5%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>教科書の演習問題から、講義該当箇所に関連したところを選択し、必ず自ら問題に取り組み、解答を導き復習すること。</p> <p>■教科書</p> <p>「新 微分積分Ⅰ」大日本図書 「新 微分積分Ⅱ」大日本図書</p> <p>■参考文献</p> <p>有馬 哲・石村貞夫「よくわかる微分積分」東京図書 「新 微分積分Ⅰ 問題集演習」大日本図書 「新 微分積分Ⅱ 問題集演習」大日本図書</p> <p>■関連科目</p> <p>基礎数学、数学、その他の専門科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>吉田研究室（東1号館4階418）・yoshida@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>前期：水曜 4、5 限 後期：水曜 2、5 限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 数列とその和、数列の極限</p> <p>第2回 関数の極限と連続</p> <p>第3回 導関数1（性質、合成関数の微分）</p> <p>第4回 導関数2（逆関数微分法）</p> <p>第5回 導関数3（対数関数微分法）</p> <p>第6回 微分法の応用1（関数の増減と極値）</p> <p>第7回 微分法の応用2（高次導関数と曲線の凹凸）</p> <p>第8回 微分法の応用3（変曲点）</p> <p>第9回 不定積分と定積分、中間試験</p> <p>第10回 積分の計算1（置換積分法）</p> <p>第11回 積分の計算2（部分積分法）</p> <p>第12回 積分の計算3（有理・無理関数の積分）</p> <p>第13回 積分の計算4（三角関数の積分）</p> <p>第14回 積分の応用1（面積、体積）</p> <p>第15回 積分の応用2（長さ）</p> <p>定期試験</p>	

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：ツツミ ヒロユキ 堤 裕之			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>本講義は、大学で学ぶ殆ど全ての理数系専門科目に必要な微分積分学の基礎知識を学習する。数学としての微積分ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分・積分の応用を習得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する一変数の微分積分の知識を更に補充するために、微積分の基本定理やその応用について学習する。続いて、二変数関数の場合の偏微分や重積分とその応用について学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>本講義では、生物理工系の学生が関連専門科目を履修するにあたって必要な、実用的な微積分の知識を修得するために、以下のことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1変数の初等関数の微分・積分の高度な問題に再挑戦し、計算技法をマスターする。 2. 1変数の微分法の応用として、曲線の関数の特性を解析し、極値、凹凸などを求める。 3. 1変数の積分法の応用として、平面曲線の面積、長さ、および回転体の体積、表面積の計算法を究める。 4. 多変数関数の偏微分法、重積分法の基本定理を理解し、その技法を身につける。 5. 2変数関数の偏微分の応用として、テューラー展開、ラグランジェの乗数法などの解析法を修得する。 6. 重積分の応用として、立体図形の求積法を修得する。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70% 中間まとめレポート 10% 期末まとめレポート 10% 授業内レポート 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義ノートと毎回配布する演習問題を復習し、十分理解したことを確認する。少しでも理解できなかったことがあれば、そのままにせず、必ず次回質問してください。</p> <p>■教科書</p> <p>石原繁、浅野重初「理工系入門 微分積分」裳華房</p> <p>■参考文献</p> <p>石村園子「やさしく学べる微分積分」共立出版</p> <p>■関連科目</p> <p>基礎数学、数学、線形代数学など</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）：tsutsumi@ouhs.ac.jp 備考：携帯からの質問メールは受け付けない。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 1変数の微分・積分法 初等関数の体系、微積分の公式、微分百番勝負、積分百番勝負</p> <p>第2回 関数のグラフ 2次導関数、2次曲線、極値、凹凸、接線と法線</p> <p>第3回 極座標による面積 直交座標と極座標、極方程式、カージオイド</p> <p>第4回 曲線の長さ 曲率、接触円、円周、サイクロイドの弧長</p> <p>第5回 回転体の体積、表面積 球、トーラス、回転楕円体、放物体の体積・表面積</p> <p>第6回 1変数の微分・積分のまとめ（中間テスト） 1変数の微分・積分とその応用</p> <p>第7回 多変数関数の微分 偏導関数の計算、高次偏導関数、ラブラシアン</p> <p>第8回 偏微分法の諸定理 合成関数の微分</p> <p>第9回 陰関数定理 陽関数と陰関数、全微分、陰関数定理</p> <p>第10回 曲面の接平面と法線 陰関数の接平面・法線の公式、球面の接平面</p> <p>第11回 2変数のテューラー展開 微分演算子、テューラーの定理、マクローリン展開</p> <p>第12回 2変数関数の極値 極値の必要条件と十分条件、条件付き極値</p> <p>第13回 ラグランジェの未定乗数法 条件付き極大・極小の求め方。</p> <p>第14回 重積分 二重積分の計算法、2変数の積分変数の変換、極座標変換</p> <p>第15回 重積分の応用 立体の体積の計算例</p> <p>定期試験</p>	

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： ^{シブエ タダシ} 渋江 唯司			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 線形代数学は、微積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決する時に利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学などの広範な分野でも用いられている。とりわけ、通信・システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医学などに関連する基礎分野では、線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。特に、行列・行列式の計算は、コンピュータを効率的に利用して、力学、制御工学などの計算を行う上で、不可欠の知識である。本講では実数成分の数ベクトルを中心に、行列と行列式、連立一次方程式、ベクトル、行列の対角化などの線形代数学の基本事項について講述する。授業は板書により行われる。各授業の最後に、ミニテストで当日学んだ内容を確認する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講では、ベクトルの考え方と行列・行列式計算における四則演算の基本的な方法を理解し、行列・行列式に関する基礎的な計算ができるようになることを目的とする。また、学習した計算法を用いて連立一次方程式を解くことができるようになる。具体的には、教科書に取り上げられている練習問題程度を解く力を身につけることを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業では、教科書の主要な部分について学ぶが、それ以外の部分については授業時間に学んだ知識を基に、教科書を読んで自分の力で理解するように努めること。また、章末の練習問題に取り組むこと。</p> <p>■教科書 「やさしく学べる線形代数」(石村 園子、共立出版：2000)</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 基礎数学、数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 渋江研究室 (西1号館3階353)・shibue@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜4限 事前メールでアポを取ってください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 行列の定義と演算 第2回 正方向行列と逆行列 第3回 連立1次方程式と行基本変形 第4回 行列の階数 第5回 連立一次方程式の解 第6回 逆行列の求め方 第7回 行列の計算の確認 第8回 行列式の定義 第9回 行列式の性質 第10回 行列式の計算 第11回 逆行列の存在条件 第12回 ベクトルと内積 第13回 行列の固有値 第14回 行列の対角化 第15回 行列式の計算の確認</p> <p>定期試験</p>	

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： ^{ミヤシタ ナオユキ} 宮下 尚之			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 線形代数学は、微積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決する時に利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学などの広範な分野でも用いられている。とりわけ、通信・システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医学などに関連する基礎分野では、線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。線形代数学には深淵な学術的な側面もあるが、本講義では将来、学生諸君の役に立つ「実学」として使える線形代数の「知識(概念)」と「技術」を教える。最初に行列の概念と基礎演算を学ぶ。前半は行列を用いた連立1次方程式の解法や、行列式、逆行列、など行列演算の基礎を、後半は線形空間や、固有値と固有ベクトル、行列の対角化など線形代数学の基本事項について講述する。講義は具体例を挙げながら進める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 連立1次方程式の解法、行列式の計算、固有値問題等を学習することを通して、線形代数学の基本となるベクトルや行列の「有用性」と「概念」を理解するとともに、それらの基本的計算「技術」を修得する。具体的には、教科書に取り上げられている練習問題程度を確実に解く力を身につけることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習と復習をして授業に臨み、授業時間中に理解できるよう努めること。講義で省略した部分は教科書・参考書で調べ、理解できたらノートにまとめる。疑問点があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 石村園子「やさしく学べる線形代数」共立出版</p> <p>■参考文献 三宅敏恒「入門線形代数」培風館</p> <p>■関連科目 基礎数学、数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 宮下研究室 (東1号館2-217) miya@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 前期は水曜4限、後期は木曜3限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンスと行列の基礎 第2回 行列の基本演算 第3回 基本変形と連立1次方程式の解法 第4回 行列の階数と連立1次方程式 第5回 掃き出し法による逆行列の求め方 第6回 行列式の定義 第7回 行列式の性質と余因子展開 第8回 行列式を用いた逆行列の求め方、連立1次方程式の解法(クラメールの公式) 第9回 空間ベクトル 第10回 線形空間の定義 第11回 線形独立と線形従属 第12回 内積空間 第13回 正規直交基底 第14回 固有値と固有ベクトル 第15回 行列の対角化</p> <p>定期試験</p>	

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： ^{クスノキ マサノブ} 楠 正暢			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決するときに利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学等の広範な分野で用いられている。とりわけ、ライフサイエンス系の課題に取り組む、システム生命科学科、人間工学科、医用工学科では、システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などを関連基礎分野として位置づけており、これらを理解する上で線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。本講では、ベクトル、行列と行列式、連立1次方程式、固有値と固有ベクトル、行列の対角化などの線形代数学の基本事項について講述する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行列の和、差、積の計算ができること。 ・拡大係数行列の基本変形を用いて連立一次方程式を解くことができること。 ・逆行列を用いて連立一次方程式を解くことができること。 ・クラメルの公式を用いて連立一次方程式を解くことができること。 ・ベクトルの内積、外積の計算ができること。 <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>予習は必ずしもする必要はない。ノートの内容を完全に理解するまで復習に時間を割くこと。また、ほぼ毎回宿題を課すので、自分で解く力を身につけること。</p> <p>■教科書</p> <p>石村園子 著「やさしく学べる線形代数」共立出版</p> <p>■参考文献</p> <p>指定しない</p> <p>■関連科目</p> <p>他の数学科目、専門科目全般</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>楠研究室(東1号館3階310)・kusu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>土曜1～2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 線形代数ガイダンス</p> <p>第2回 行列とベクトル</p> <p>第3回 行列の演算</p> <p>第4回 行列と連立一次方程式</p> <p>第5回 行基本変形</p> <p>第6回 階段行列と掃き出し法</p> <p>第7回 行列の階数</p> <p>第8回 行列の基本変形を用いた連立一次方程式の解法</p> <p>第9回 単位行列と逆行列</p> <p>第10回 逆行列を用いた連立一次方程式の解法</p> <p>第11回 余因子行列</p> <p>第12回 行列式とその性質</p> <p>第13回 クラメル公式</p> <p>第14回 ベクトルの内積</p> <p>第15回 ベクトルの外積</p> <p>定期試験</p>	

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： ^{ツツミ ヒロユキ} 堤 裕之			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決するときに利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経営学などの広範な分野でも用いられている。とりわけ、通信・システム・情報工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などに関連する基礎分野では、線形代数学は、その基礎理論を提供する重要な役割を果たしている。特に、行列、行列式、ベクトルは、コンピュータを利用した科学技術計算の理論と方法を理解する上での不可欠な知識である。本稿では、行列と行列式、ベクトル、連立一次方程式、固有値と固有ベクトルなどの線形代数学の基本事項について講述する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>線形代数学の基礎知識とその有用性を理解し、行列・行列式・ベクトルの具体的な計算技術を修得する。連立一次方程式、逆行列、行列式や固有値・固有ベクトルなどの学習を通じて、教科書に取り上げられている程度の問題が確実に解ける能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70%</p> <p>中間まとめレポート 10%</p> <p>期末まとめレポート 10%</p> <p>授業内レポート 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業中の板書を書いたノートおよび配布した演習問題を十分に理解できることを確認する。少しでも、理解できない所は、そのままにせず、質問して納得すること。</p> <p>■教科書</p> <p>石村園子 「やさしく学べる線形代数」共立出版</p> <p>■参考文献</p> <p>特になし。</p> <p>■関連科目</p> <p>基礎数学、数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室(2号館2階) : tsutsumi@ouhs.ac.jp 備考：携帯メールからの質問は受け付けない。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 線形代数とその内容</p> <p>第2回 行列の定義と演算</p> <p>第3回 正方行列と逆行列</p> <p>第4回 行列の階数</p> <p>第5回 連立一次方程式</p> <p>第6回 逆行列</p> <p>第7回 行列のまとめ</p> <p>第8回 行列式</p> <p>第9回 行列式の性質</p> <p>第10回 逆行列</p> <p>第11回 クラメル公式</p> <p>第12回 空間ベクトル</p> <p>第13回 内積空間</p> <p>第14回 固有値と固有ベクトル</p> <p>第15回 行列の対角化</p> <p>定期試験</p>	

科目名：化学実験			
英文名：Chemistry Experiments			
担当者：フジサワ マサオ 藤澤 雅夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学の基礎的概念を実験によって習得させ、実験の進め方・結果のまとめ方、実験のマナーを体得させることを目的とする。まず、実験を始めるに当たっての心構え、安全指針から、使用する機器；器具類の正しい名称と操作法、および薬品類の安全な取り扱い方法などを体得させる。実験の記録のとり方、レポートの書き方等を学習することによって、実験に対する考察力を育成する。実験テーマとして、定性：定量分析、無機化合物の合成と精製、有機化合物の合成、物理化学実験を行う。また、理解を深めるために複数回の小テストを行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>基礎的実験テクニックだけではなく、講義では得られない文献探索能力や問題解決能力を育成する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>実験レポート 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>実験ノートをもとに実験実施日中にレポートの大部分を書き終えること。考察等、参考文献の閲覧を必要とする部分もできる限り早めに記述する。</p> <p>■教科書</p> <p>特に指定しない。テーマごとにテキストを配布する。 近畿大学編「安全要覧」</p> <p>■参考文献</p> <p>「化学のレポートと論文の書き方」(泉 美治, 化学同人: 1999)</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅰ、化学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>藤澤研究室 (2号館5階504号室)・fujisawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜日1限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 安全教育 (危険物質・有害物質の取り扱い)</p> <p>第2回 実験器具、装置類の操作法</p> <p>第3回 定性分析 (金属イオンの反応)</p> <p>第4回 定量分析 (中和滴定)</p> <p>第5回 定量分析 (pHメーターと緩衝液)</p> <p>第6回 酸化還元滴定と化学的酸素要求量の測定</p> <p>第7回 ミヨーバンの合成と精製</p> <p>第8回 塩化ナトリウムの単結晶の作成</p> <p>第9回 玉ねぎからのケルセチンの抽出と草木染</p> <p>第10回 石けんの合成</p> <p>第11回 香りエステルの合成</p> <p>第12回 高分子化合物の合成 (PMMA)</p> <p>第13回 常圧蒸留</p> <p>第14回 紫外可視分光光度法と線形最小二乗法</p> <p>第15回 分子模型およびコンピュータによる分子設計</p>	

科目名：化学実験			
英文名：Chemistry Experiments			
担当者：タキカワ ヨシヒロ 瀧川 義浩			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>実験は独学することが困難な科目である。化学が関わる分野は非常に広い範囲 (一般化学、生物化学、物理化学等) に及ぶので、全てを扱うことは不可能であるが、できるだけ多岐にわたる化学分野のテーマを取り入れる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>一般化学ならびに生化学の基礎を体験的に理解する。実際の計画、準備、実験の実施、後処理、データ整理、レポート作成といった一連の流れを身につける。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>実施した実験のレポート 95% その他のレポート 5%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと。</p> <p>■教科書</p> <p>特になし。</p> <p>■参考文献</p> <p>図解とフローチャートによる定量分析 (第二版) 浅田誠一、内出 茂、小林基宏 共著 技報堂出版</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅰ、Ⅱ、生化学Ⅰ、Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>先端技術総合研究所 教員控室 (2号館5階 510) 生物生産工学実験室 (I) (東1号館 5階512号室)</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>随時。事前にご予約をお願いします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 安全教育 (実験を行うための心構え、実験室の使い方)</p> <p>第2回 安全教育 (危険物質・有害物質の取り扱い)</p> <p>第3回 安全教育 (実験器具、試薬調整等および装置類の操作方法)</p> <p>第4回 金属イオン分析</p> <p>第5回 容量分析 滴定 (1)</p> <p>第6回 容量分析 滴定 (2)</p> <p>第7回 容量分析 滴定 (3)</p> <p>第8回 容量分析 滴定 (4)</p> <p>第9回 抗酸化活性分析 (1)</p> <p>第10回 抗酸化活性分析 (2)</p> <p>第11回 抗酸化活性分析 (3)</p> <p>第12回 有機合成</p> <p>第13回 セッケンの合成</p> <p>第14回 生化学分析</p> <p>第15回 まとめと演習</p>	

科目名：化学実験			
英文名：Chemistry Experiments			
担当者：サクライ カズマサ 櫻井 一正			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>化学の基礎的概念を実験によって習得させ、実験の進め方、結果のまとめ方、実験のマナーを体得させることを目的とする。実験を始めるに当たっての心構え、安全指針から、使用する機器や器具類の正しい名称と操作法、および薬品類の安全な取り扱い方法などを体得させる。実験の記録のとり方、レポートの書き方等を指導し、実験結果のまとめ方とレポート作成における留意点を理解させる。実験テーマとして、定性分析、定量分析、無機や有機化合物の合成と精製、物理化学実験を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>一般化学の基礎を体験的に理解する。実験の計画、準備、実験の実施、後処理、データ整理、レポート作成といった一連の流れを学び、実験を自分の手で実施する技術、及び、自身の行った実験や考えを他人に伝達する技術を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>毎回のレポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各講義で指示された課題に取り組むこと</p> <p>■教科書</p> <p>配布プリント</p> <p>■参考文献</p> <p>『安全要覧』(近畿大学編) 『理科系の作文技術(中公文庫(624))』(木下 是雄, 中央公論新社: 1981年) 『化学のレポートと論文の書き方』(芝 哲夫 監修, 化学同人: 1999年)</p> <p>■関連科目</p> <p>化学Ⅰ、化学Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>櫻井 一正 (高圧力蛋白質研究センター)・sakurai@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>月曜日2、3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 安全教育(危険物質・有害物質の取り扱い)</p> <p>第2回 実験ノート・レポート指導</p> <p>第3回 実験器具、装置類の操作法</p> <p>第4回 アボガドロ数の決定</p> <p>第5回 ナイロン、レーヨンの合成</p> <p>第6回 セッケンの合成</p> <p>第7回 中和滴定</p> <p>第8回 酸化還元滴定と化学的酸素要求量の測定</p> <p>第9回 ミョーバンの合成と単結晶の作製</p> <p>第10回 エステルの合成</p> <p>第11回 NMRによる定性分析</p> <p>第12回 ショ糖の酵素反応物の定性分析</p> <p>第13回 蒸留</p> <p>第14回 デュマ法による分子量の決定</p> <p>第15回 線形最小二乗法によるデータ処理</p>	

科目名：物理学実験			
英文名：Physics experiment			
担当者：キムラ ユウイチ クボタ ヒトシ ドイ マコト ムラタ カズオ 木村 裕一・久保田 均・土井 誠・村田 一夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>本実験では各種の実験装置を用いて、力学・熱学・光学・電磁気学等の基本的物理量の測定を行い、基本的な物理法則やその測定のための実験方法を理解するとともに、科学レポートの書き方を学習する。中学理科教員の資格取得のための科目でもある。受講者には、物理学に対する理解を前提とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>物理学実験では様々な装置を用いて身近な自然現象を観測し、それを支配する物理法則を実験や測定により深く理解することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>各テーマの終了後、直ちにレポート作成を行うこと。提出期限は翌週の実験開始前である。</p> <p>■教科書</p> <p>各テーマごとに指導書を配付する。</p> <p>■参考文献</p> <p>理科年表 国立天文台編 丸善</p> <p>■関連科目</p> <p>物理学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行う。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>(代表) 木村研究室(東1号館4階410)・ukimura@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>複数教員のためユニバーサルパスポートを参照のこと。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 実験ガイダンス</p> <p>第2回 測定値と有効数字、誤差などに関する実験(1/2)</p> <p>第3回 測定値と有効数字、誤差などに関する実験(2/2)</p> <p>第4回 基礎電気回路(オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性)(1/3)</p> <p>第5回 基礎電気回路(オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性)(2/3)</p> <p>第6回 基礎電気回路(オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性)(3/3)</p> <p>第7回 重力加速度の測定(1/2)</p> <p>第8回 重力加速度の測定(2/2)</p> <p>第9回 光学系の特性に関する実験(結像および回折)(1/2)</p> <p>第10回 光学系の特性に関する実験(結像および回折)(2/2)</p> <p>第11回 電気抵抗に関する実験(1/2)</p> <p>第12回 電気抵抗に関する実験(2/2)</p> <p>第13回 熱の仕事等量に関する実験(1/2)</p> <p>第14回 熱の仕事等量に関する実験(2/2)</p> <p>第15回 レポート指導</p>	

科目名： 科学倫理			
英文名：Scientific Ethics			
担当者：マエダ ナオヤ 前田 直哉			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この講義では、科学分野の専門研究を行う者として看過することのできない倫理的問題に習熟し、社会の中で科学者として生きる上で備えるべき道徳意識を養います。 授業前半では、科学者が犯してきた様々な不正行為や、科学的な装いのもとで非合理的な主張を展開する疑似科学（ニセ科学）の問題性について検討します。こうした、言わば負の事例を確認した上で、そもそも科学とは何なのか、技術とは何か、科学者とはどのような集団であり、誰に対していかなる責任を負うべきか等、根本的な問題について検討します。 そして授業後半では、地球温暖化や生物多様性の喪失、出生前診断や代理懐胎など、現代社会が直面している幾つかの具体的な問題を取り上げ、科学者の社会的責任について引き続き検討します。 授業は配布資料をもとにした講義形式で行います。また、成績評価と単位の認定は、授業時間内に指示する小レポートと、中間試験および定期試験の内容によって判断します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を通して、倫理的意識を欠いた一部の科学者が犯した不正行為の実態や、合理的な裏付けを欠いた疑似科学的言説が社会にもたらす弊害に目を向け、科学者に課せられた責任の重さについて考察します。 また今現在、環境倫理や生命倫理の分野で議論されている諸問題——地球温暖化や生物多様性の保全、安楽死・尊厳死や、生殖医療における倫理的課題など——に対して、主体的に向き合う姿勢を身に付けます。 そして、レポートの作成を通して、批判的な問題意識を養うとともに、受講者自身が自らの見解、立場を明確に表明することを最終的な目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 中間試験 30% 小レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 参考文献の読解やレポート作成など、授業の中で指示した課題に積極的に取り組むこと。 新聞やインターネットなどで科学者や科学技術に関連する報道に接して、科学者としての倫理観に問題がないか検討すること。</p> <p>■教科書 特に指定しません。毎回、プリントを配布し、それをもとに授業を進めます。</p> <p>■参考文献 幅広いテーマを取り扱うため、参考文献は数多くあります。毎回の配布資料に明記し、とりわけ重要な文献に関しては授業の中で指示します。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階254）</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時間の前後休憩時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 序論——授業の目的と概要 第2回 科学者と社会（1）——科学者の倫理的意識 第3回 科学者と社会（2）——科学者の不正行為 第4回 疑似科学（1）——身の周りの不合理な＜科学＞ 第5回 疑似科学（2）——深刻な被害をもたらす＜科学＞ 第6回 科学と技術（1）——科学革命と近代自然科学の成立 第7回 科学と技術（2）——科学と技術の融合 第8回 前半授業のまとめと中間試験 第9回 進化と倫理（1）——ダーウィンの進化論と倫理 第10回 進化と倫理（2）——倫理の進化 第11回 環境と倫理（1）——自然の生存権 第12回 環境と倫理（2）——環境差別と環境正義 第13回 生命と倫理（1）——生殖医療 第14回 生命と倫理（2）——終末期医療 第15回 結論——科学者の社会的責任</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 情報倫理			
英文名：Information Ethics			
担当者：オカ ヒロシ 岡 宏			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 2003年より高校で普通教科「情報」が必修となり、情報活用の実践力、情報の科学的な理解力、情報社会に参画する姿勢を軸に教育が行われている。大学での情報教育は、高校での教科「情報」の履修を前提に行われる。さて、1990年代終わりから商用インターネットの利用が急速に進み、世界的に利用者が激増した。利用者は利便性を享受する一方、インターネット利用時の危険について理解し、身を守る対策をとり、情報を個人が自由に発信できることに伴う課題を理解し、さらに他人に危害を与えないための配慮も求められる。さらに近年、サイバー犯罪に隣接し少年少女が性犯罪に巻き込まれる危険性が増大している。国際的には、少年少女への商業的性的搾取は「児童虐待」という重大問題であることの認識を深め、社会全体で対応を考へることが喫緊の課題である。また大学でも、日常生活でインターネットを利用し、情報の受発信を行う学生が少なくないが、時に外部から著作権侵害などの警告を受けることもある。このような状況下で情報倫理教育は必須のものとなって来た。本来、情報倫理意識とは道徳的判断に委ねられている。そのため、個人の道徳的規範意識が大きく影響する。道徳的・倫理的背景には、その国の文化や社会構造が働いている。その点で、日本における情報倫理教育も完全にユニバーサルなものにはならないが、各国における課題の差異性は、異文化理解という視点では興味深い。その一例である「OECD9原則」にも触れながら、情報倫理教育の入門的内容を学修します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この講義を履修することによって、</p> <p>①情報倫理を学ぶ理由を考え、その必要性を説明し、 ②現代社会における情報倫理の必要性和限界性を考え、 ③情報倫理教育の今後の展望を表現する</p> <p>ことができるようになります。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 講義中試験 30% 講義中課題 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 (1)「情報倫理研究ノート」の作成。 2週間に1テーマを挙げ（但し、新聞・ニュース番組は用いない）、 ①テーマ選定の理由。 ②テーマに関連して調べた内容。 ③「思い、感じ、考え」たこと。 ④第2週目では、第1週目の記述を再考する。 ⑤どのように考えが変化したか、あるいは深化したかを分析する。</p> <p>(2) 各回の講義批評を書く。</p> <p>■教科書 各回、講義レジュメ配付。</p> <p>■参考文献 下田博次「子どものケータイ利用と学校の危機管理」少年写真新聞社、2011。その他は講義中に適宜指示する。</p> <p>■関連科目 情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 「生物理工学部実施規程」に準拠して行います。」</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階254室）・itumichijun.mina@mopera.net</p> <p>■オフィスアワー 金曜日3時限後の休憩時間、4時限後の休憩時間。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 「情報倫理教育を学ぶ理由・授業概要と成績評価の説明」 第2回 「子どものケータイ利用への危険意識と対応の混乱」 第3回 「なぜネット遊びが増殖するのか」 第4回 「リスクを発生させる情報環境・構造」 第5回 「ネットいじめの時代」 第6回 「学校のリスク管理」 第7回 「サイバー犯罪の脅威」 第8回 「中間試験（第1回～第7回）」 第9回 「プライバシー概念」 第10回 「個人情報保護法」 第11回 「知的財産権」 第12回 「著作権と著作隣接権」 第13回 「情報社会と危機管理」 第14回 「人権問題と情報倫理」 第15回 「情報社会のなかの責任を考える」～【自己責任原則】</p> <p>定期試験</p>	

科目名：Webデザイン			
英文名：Design practice for World Wide Web page			
担当者： <small>ヨシダ ヒサシ</small> 吉田 久			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 様々な情報の発信、交換、活用インターネットは不可欠である。近畿大学ではe-learningシステムを利用した教育、主に研究のための電子ジャーナル検索ポータルあるいは学生生活を快適にする各種情報のWebによる提供などにインターネットを活用している。このような情報がどのように作成され発信されているのかを知ることは、情報を発信する者に限らず、情報を利用する者にとっても重要である。本学に学ぶ学生は、在学中にも社会人となってもその両方の立場に立つことになる。本講では、情報の整理と発信のためのビジュアルデザインについて実習によってその手法を知り、意味を考える。Web制作に必要なソフトウェアと独特の手法について、ソフトの実際操作、情報の発信シミュレーションといった実習を通して体得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 情報を如何に整理し、如何にわかりやすく発信するかについては、多様な方法論が存在する。そのなかで、もっとも汎用性が高いソフトウェアの基本操作と機能を知り、オーソドックスな方法を学びつつ、将来の研究発表や成果報告に必要な技術とセンスを会得する。同時に、わかりやすい情報のデザインテクニックとグローバルに公表する技術の基礎も会得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 課題の提出状況と内容 90% プレゼンテーション 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 情報処理に関する手技・手法だけを学ぶのではなく、各課題の目的を理解して自ら提示・発信することの意義やその情報の意味について考察しながら受講すること。</p> <p>■教科書 プリント、パワーポイントによる講義</p> <p>■参考文献 新田光敏 他著 WEBデザインの基本ルール「デザインラボ」ソフトバンククリエイティブ 「情報リテラシー」制作：NTTラーニングシステムズ</p> <p>■関連科目 学科専門科目として開講される 情報リテラシー、情報処理基礎 およびそれらに対応する科目。 <事務部注⇒26年度より基礎情報計の科目は各学科とも共通教養科目「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」として統合されます。></p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階254室)</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休講時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業概要 (授業日程・成績評価・出欠などについて) 情報交換の手法 インターネット、情報社会の歩き方 ネット社会のリスクマネジメント (SNS、ブログなど)</p> <p>第2回 ローカルな情報交換の手法Ⅰ PowerPointによるプレゼンテーション作成①</p> <p>第3回 ローカルな情報交換の手法Ⅱ PowerPointによるプレゼンテーション作成② Officeコンテンツの連携 (Excel, Word)</p> <p>第4回 表現テクニックⅠ アニメーション効果</p> <p>第5回 表現テクニックⅡ マルチメディア 映像、音楽</p> <p>第6回 中間課題 PowerPoint課題①作成・提出</p> <p>第7回 WebデザインテクニックⅠ デザインテクニックの習得、レイアウト</p> <p>第8回 WebデザインテクニックⅡ 色彩 文化と色</p> <p>第9回 Webデザイン構成 画面遷移</p> <p>第10回 パワーポイントを使った擬似ホームページの作成Ⅰ ハイパーリンク</p> <p>第11回 パワーポイントを使った擬似ホームページの作成Ⅱ</p> <p>第12回 プレゼンテーション演習Ⅰ 3分間プレゼンテーション</p> <p>第13回 プレゼンテーション演習Ⅱ 3分間プレゼンテーション</p> <p>第14回 期末課題 PowerPoint課題②作成・提出</p> <p>第15回 グローバルな情報交換の手法Ⅰ HTMLの概要 (GIF、JPEG、PNGについて)、作成・編集</p>	

科目名：バイオテクノロジー技術論			
英文名：Guidance for Experience to Biotechnology			
担当者： <small>タキカワ ヨシヒロ</small> 瀧川 義浩			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 近年、農業、医薬ならびに食品といった様々な分野で活用されているバイオテクノロジーの役割は大きい。本講義では、それらを理解するために必要なバイオテクノロジーの知識および技術的な内容をわかりやすく説明する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 バイオテクノロジーに必要な植物組織培養技術、遺伝子工学技術ならびに微生物工学技術などの基礎知識を養う。本講義終了後の期末試験に合格すれば2単位を習得する。さらに夏期休暇中には講義で学んだ知識をもとに植物組織培養、遺伝子操作に必須の基礎技術を習得するための実習を行う (自由参加)。それを修了すれば、近畿大学先端技術総合研究所より「バイオテクノロジー2級技能士」の認定証が授与される。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期テスト 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 バイオテクノロジー関連書籍を読むことが望ましい。</p> <p>■教科書 特に指定しない。</p> <p>■参考文献 高山真策「植物バイオテクノロジー」幸書房 大沢勝次「植物バイオテクノロジーの基礎知識」農文協</p> <p>■関連科目 分子生物学Ⅰ、Ⅱ、植物生理学、遺伝子工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 先端技術総合研究所 教員控室 (2号館5階 510) 生物生産工学実験室 (I) (東1号館 5階512号室) takikawa@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日 4時限目。事前にはアポイントをとってください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 バイオテクノロジーの歴史、体系と基本原理 (1)</p> <p>第2回 バイオテクノロジーの歴史、体系と基本原理 (2)</p> <p>第3回 バイオ実験に必須な設備、機器類および培地作製方法 (1)</p> <p>第4回 バイオ実験に必須な設備、機器類および培地作製方法 (2)</p> <p>第5回 植物体の再生経路、植物ホルモンの種類とその作用について (1)</p> <p>第6回 植物体の再生経路、植物ホルモンの種類とその作用について (2)</p> <p>第7回 植物組織培養技術 (1)</p> <p>第8回 植物組織培養技術 (2)</p> <p>第9回 植物組織培養技術 (3)</p> <p>第10回 遺伝子工学技術と遺伝子導入技術 (1)</p> <p>第11回 遺伝子工学技術と遺伝子導入技術 (2)</p> <p>第12回 遺伝子工学技術と遺伝子導入技術 (3)</p> <p>第13回 微生物を利用したバイオテクノロジー (1)</p> <p>第14回 微生物を利用したバイオテクノロジー (2)</p> <p>第15回 バイオテクノロジー技術論総括</p> <p>定期試験</p>	

科目名：ロボットメカニクス技術論			
英文名：Guidance for Experience to Robot Mechanics			
担当者： ^{ドイ マコト} 土井 誠			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本講義では、全学部生を対象にロボット技術の概要を平易に解説する。ロボットメカニクスを中心に、センサー技術や制御技術も含めたロボット全体の仕組みと原理を理解・把握することを目的とする。 本講義を履修した学生（希望者）を対象に、夏季休暇を利用して「ロボット夏季宿泊実習」を実施し、ロボットメカニクス、センサー、制御回路、制御ソフトの製作を体験学習することができる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ロボットは、機構、センサー、自動制御、制御回路、制御ソフトなど総合的な工学・技術を必要とするものであり、その工学・技術は様々な産業機械や家電機器にも使用されている。受講者は、この授業を履修することにより、産業用ロボットを題材としてこれらの工学・技術の概要を把握し、幅広い分野の学生が「自動的に動く機械の仕組み」を理解でき、高学年で本格的なロボット工学の履修を目指している学生が「工学の重要性」と「技術の面白さ」を理解できる。「ロボット夏季宿泊実習」に参加することで、モデルの製作、動作の実習を通じ、「自動的に動く機械の仕組み」を体験することができる。また近畿大学先端技術総合研究所より、「ロボットメカニクス技術論2級技能士」の認定書を授与される。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で習った部分を教科書や講義資料で確認、疑問点があれば質問する。各講義で指示された課題に取り組む。</p> <p>■教科書 井上利勲・土井誠「ロボットメカニクス技術論」改訂第2版(株)貴志</p> <p>■参考文献 川崎晴久「ロボット工学の基礎」森北出版(株) 土谷武士他「メカトロニクス入門」森北出版(株)</p> <p>■関連科目 ロボット制御技術論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 土井研究室（先端技術総合研究所 ロボット工学・技術センター） doi@waka.kindai.ac.jp 講師控室（2号館2階254室）</p> <p>■オフィスアワー 月曜日 4限 事前にメールでアポイントを取ること。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ロボット工学・技術の歴史・定義・概要 第2回 ロボットの骨格と自由度 第3回 ロボットの自由度と分類 第4回 リンク機構とロボットの関節の概要 第5回 ロボットの関節とその構造 第6回 ロボットの駆動源とモータ 第7回 力の変換と減速機 第8回 回転/直動変換、関節の構成 第9回 ロボット感覚機能と関節角度センサーの構造 第10回 力覚センサ 第11回 視覚認識と信号伝達 第12回 ロボットコントローラの働きと数値制御 第13回 サーボ機構とデジタル回路 第14回 ロボット軌道生成と運動学 第15回 ロボットへの命令・ロボット言語</p> <p>定期試験</p>	

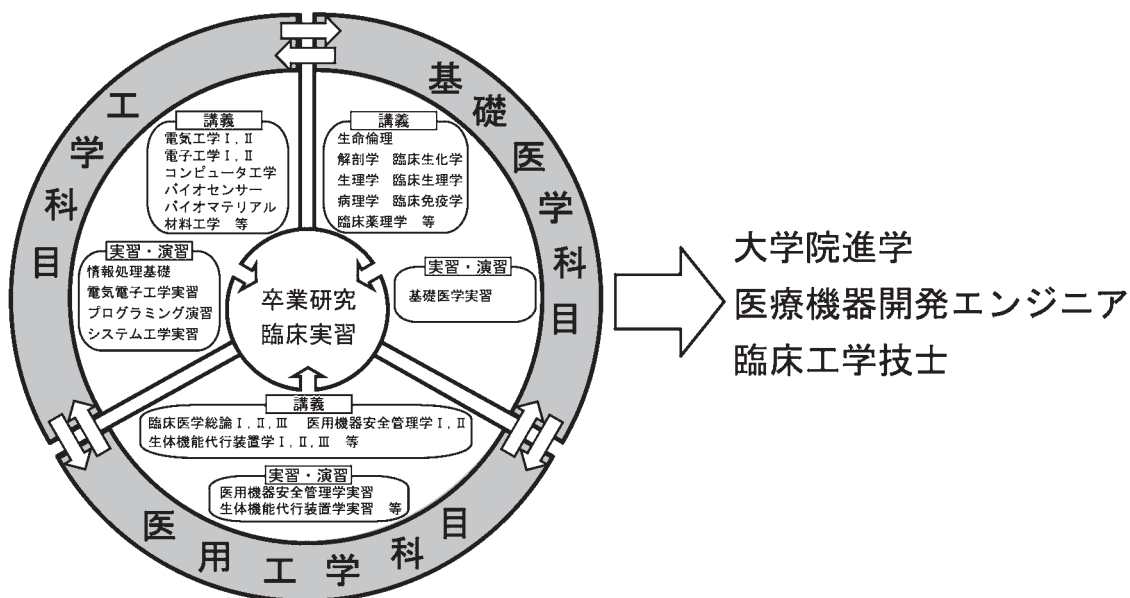
科目名：ロボット制御技術論			
英文名：Guidance for Experience of Robot Controls			
担当者： ^{クボタ ヒトシ} 久保田 均			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 ロボットを初めて学習する者を対象にして、制御技術・エレクトロニクスを解りやすく解説する。 [授業概要] ①ロボットの制御方法の基礎的解説。 ②ロボットのエレクトロニクスの基礎的解説。 [授業方法] ①できる限り演習を主体にし、自ら考え学ぶようにする。 ②題材として、紙ロボットの製作、ライントレーサを使ったプログラムづくりを学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講義を通じて、ロボットの制御技術・エレクトロニクスの基礎が理解できると共に、マイコンを利用した機器の仕組みが理解できる。 また、夏季休暇中開催の「ロボット夏期実習」は、本科目の実技に相当する部分であり、両方受講する事により一層の理解が進む。 *本科目を合格し、「ロボット夏期実習」を修了すれば、近畿大学 先端技術総合研究所より「ロボット2級技能士」を授与する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 授業中の演習 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 必ず復習を実施し疑問を残さないようにする事。</p> <p>■教科書 久保田 均「ロボット工学ABC」(株) 貴志</p> <p>■参考文献 土井 誠「ロボットメカニクス技術論」(株)貴志</p> <p>■関連科目 ロボットメカニクス技術論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 先端技術総合研究所 ロボット工学・技術センター・kubota@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜日 2時限。事前にメールをすること。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ロボットの歴史と現状 第2回 紙ロボット製作によるPTP制御の基礎 第3回 紙ロボット製作によるCP制御の基礎 第4回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎 第5回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎 第6回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎 第7回 ライントレーサのプログラム作成 第8回 ライントレーサのプログラム作成 第9回 ライントレーサのプログラム作成 第10回 ライントレーサのプログラム作成 第11回 ライントレーサのプログラム作成 第12回 エレクトロニクスの基礎 第13回 エレクトロニクスの基礎 第14回 モータの基礎 第15回 モータの基礎</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 自主演習			
英文名： Autonomous seminar for the biology-oriented science and technology			
担当者： <small>セイブツリコウガクブゼンキョウイン</small> 生物理工学部全教員			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 通年	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 自主演習は、学生が生物理工学部の教育・研究理念に沿った課題を自主的に提案し、その解決に向けて大学生としての主体性を持った創造的な活動を、単独またはグループで行う演習科目です。自主演習は2年生以上の学生が履修でき、個人または数人のグループが指導教員のもとで行います。履修に先立って、履修希望者は自主演習計画書を大学に提出する必要があり、その内容等をもとに最も適任と思われる指導教員が選任されます。履修希望者は指導教員との間で課題の妥当性や解決に向けた活動計画を練り上げ、綿密な打ち合わせのもとに演習を遂行していきます。なお、演習課題は生物理工学と関連をもったものであればよく、他の授業等に差し障りがなければBOST工房にある作業台、工具等のほか、キャンパス内の設備を利用することができます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 学生個人または小規模なグループで、自らが課題を設け、解決に向けた計画を立てる。自ら立案した遂行計画を成し遂げることができる。 個人、グループにかかわらずコミュニケーション力、交渉力の必要性を経験的に理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準 プレゼンテーション 25% 目的の達成度・最終報告書 35% 設定課題に対する計画書・調査等報告書 15% 取り組みとして演習日誌への記録の充実度 25%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 本演習は受講許可申請の段階から、履修計画書を作成する必要があります。そのため各種の綿密な調査が必要となるので、目的と動機をよく認識しながら演習を進めることにしてください。 毎回の作業では事故や怪我の無いように、生物理工学部安全要覧およびBOST工房利用規程等、設備利用に関する規則を遵守し、指導教員の指示を守ってください。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス (代表) 吉田研究室 (東1号館4階418) ・ yoshida@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 本演習指導教員のオフィスアワー</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>本授業は前もって提出された計画書に基づき、その達成に至る手順を指導教員と綿密に打ち合わせてから作業に取り組む必要があります。演習の授業回数に決まりはありませんが、延べ30時間以上の演習と15時間以上の授業時間外学習が必要です。</p>	

医用工学科

本学科の教育と研究の概要

本学科では、医療の多様な発展に貢献できる医用工学技術者を養成することを目的として、電気・電子工学、情報工学、制御工学、材料工学、機械工学などに関する高度な専門知識を、基礎医学・臨床医学に関する基礎知識と効率的に融合させるカリキュラムを編成しています。また、本学科の開講科目の中から指定された科目を修得することで、臨床工学技士国家試験の受験資格を得ることが可能です。専門科目は、工学科目、基礎医学科目、医用工学科目の3群に大別され、各群には講義科目と密接に連携した実験・実習・演習科目を配して、講義科目で修得した知識をより実践的な能力に発展させます。工学科目と基礎医学科目では、医療機器の動作原理に関連する工学の知識と、治療対象となる人体の構造や機能、主要疾患の成因や病態を総合的に学びます。さらに、工学・基礎医学分野の学修を基盤として、医用工学科目では先端医療機器の設計エンジニアとしても活躍できる専門知識を身に付けます。4年次の卒業研究と臨床実習では、工学と医学に関する知識の理解を深化させ、医療機器や治療技術の開発に不可欠とされる工学的思考力を培うとともに、臨床工学技士に必要な実践的技能を修得します。



医用工学科

カリキュラム一覧76

工 学 科 目

応用数学	81
コンピュータ工学	81
医用工学概論	82
電気工学Ⅰ	82
電気工学Ⅱ	83
電気電子工学	83
機械工学	84
電子工学Ⅰ	84
信号処理	85
計測工学	85
バイオセンサー	86
電子工学Ⅱ	86
制御工学	87
材料工学	87
放射線工学概論	88
バイオマテリアル	88
生物物性工学	89
メカトロニクス	89

基 礎 医 学 科 目

生命倫理	90
基礎医学総論（法規・衛生）	90
解剖学	91
生理学	91
病理学	92
臨床生化学	92
臨床免疫学	93
臨床生理学	93
臨床薬理学	94
看護学概論	94
医療社会学	95
医用機能材料学	95
医療情報学	96

医 用 工 学 科 目

医用機器学概論	96
生体計測装置学	97
臨床医学総論Ⅰ	97
生体機能代行装置学Ⅰ	98
医用治療機器学	98
臨床医学総論Ⅱ	99
生体機能代行装置学Ⅱ	99
臨床医学総論Ⅲ	100
生体機能代行装置学Ⅲ	100
医用機器安全管理学Ⅰ	101
医用機器安全管理学Ⅱ	101
医用機器設計工学	102

実 験 ・ 実 習 ・ 演 習

専門ゼミ	102
応用数学演習	103
電気電子工学実習	103
基礎医学実習	104
プログラミング演習	104
システム工学実習	105
医療治療機器学・生体計測装置学実習	105
生体機能代行装置学実習	106
医用機器安全管理学実習	106
臨床実習	107
臨床工学特別演習Ⅰ	107
臨床工学特別演習Ⅱ	108
卒業研究	108

医用工学科

授業科目		配当年次	単位数		担当教員
			必修	選択	
工 学 科 目	応用数学	1(後期)	2		山脇 伸行
	コンピュータ工学	1(後期)	2		加藤 暢宏
	医用工学概論	1(前期)	2		山脇 伸行
	電気工学Ⅰ	1(後期)	2		楠 正暢
	電気工学Ⅱ	2(前期)		2	楠 正暢
	電気電子工学	2(前期)		2	本津 茂樹
	機械工学	2(前期)	2		山本 衛
	電子工学Ⅰ	2(後期)	2		西川 博昭
	信号処理	2(後期)		2	山脇 伸行
	計測工学	2(後期)	2		加藤 暢宏
	バイオセンサー	2(後期)	2		本津 茂樹
	電子工学Ⅱ	3(前期)		2	西川 博昭
	制御工学	3(前期)	2		宮下 尚之
	材料工学	3(前期)	2		本津 茂樹
	放射線工学概論	3(後期)	2		村上・石井・門前
	バイオマテリアル	3(後期)	2		古菌 勉
	生体物性工学	3(後期)	2		山本 衛
メカトロニクス	3(後期)		2	渡辺 俊明	
基 礎 医 学 科 目	生命倫理	1(前期)	2		吉田 浩二
	基礎医学総論(法規・衛生)	1(前期)	2		古菌・西手・徳嶺
	解剖学	1(後期)	2		吉田 浩二
	生理学	2(前期)	2		吉田 浩二
	病理学	2(後期)	2		伊藤(彰)・井上
	臨床生化学	2(後期)	2		吉田(浩)・西尾
	臨床免疫学	3(前期)	2		宮澤・高村・河原
	臨床生理学	3(前期)	2		稲瀬・梶・河尾
	臨床薬理学	3(後期)	2		高橋・丹羽・小堀・加藤(貴)
	看護学概論	3(後期)	2		脇坂・田上・平松・森
	医療社会学	3(後期)		2	奥村・東・水越・門脇・吉田(浩)
	医用機能材料学	3(後期)		2	西川 博昭
	医療情報学	4(前期)		2	山脇 伸行

授業科目		配当年次	単位数		担当教員
			必修	選択	
医 用 工 学 科 目	医用機器学概論	1(後期)	2		徳嶺 朝子
	生体計測装置学	2(後期)	2		加藤 暢宏
	臨床医学総論Ⅰ	2(前期)	2		正木 秀幸 他
	生体機能代行装置学Ⅰ	2(後期)	4		西手・福田
	医用治療機器学	2(前期)	2		古菌 勉
	臨床医学総論Ⅱ	2(後期)		2	正木 秀幸
	生体機能代行装置学Ⅱ	3(前期)		4	福田・西手
	臨床医学総論Ⅲ	3(前期)		2	正木・有馬 他
	生体機能代行装置学Ⅲ	3(後期)		2	徳嶺・西垣(孝)
	医用機器安全管理学Ⅰ	3(前期)	2		徳嶺 朝子
	医用機器安全管理学Ⅱ	3(後期)		2	福田・今本
	医用機器設計工学	3(後期)		2	楠・加藤(暢)・渡辺
実 験 ・ 実 習 ・ 演 習	情報処理基礎	1(前期)	2		—
	専門ゼミ	2(後期)	1		全教員
	応用数学演習	1(後期)		1	山本・松本(俊)
	電気電子工学実習	2(前期)	2		本津・楠・山脇・西川・渡辺
	基礎医学実習	2(前期)	2		吉田・山脇・加藤(暢)・山本(衛)・福田・正木
	プログラミング演習	2(後期)	1		山脇 伸行
	システム工学実習	3(前期)	2		楠・加藤(暢)・山本(衛)・福田・渡辺
	医療治療機器学・生体計測装置学実習	3(前期)	3		本津・古菌・加藤(暢)・正木 西手・徳嶺・山下・小谷
	生体機能代行装置学実習	3(後期)	3		古菌・山本(衛)・山脇・西手・徳嶺
	医用機器安全管理学実習	3(後期)	2		本津・西川・西手・徳嶺・渡辺
	臨床実習	4(通年)		4	全教員
	臨床工学特別演習Ⅰ	4(前期)		1	吉田(浩)・山本(衛)・西川 加藤(暢)・正木・西手・福田
	臨床工学特別演習Ⅱ	4(後期)		1	本津・吉田(浩)・加藤(暢)・山本 (衛)・福田・正木・徳嶺
卒業研究	4(通年)	4		全教員	

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、シラバス・時間割等で確認してください。

講 義 要 項

科目名： 応用数学			
英文名： Applied Mathematics			
担当者： ヤマワキ ノブユキ 山脇 伸行			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 様々な生命現象や工学的現象を解析するために使われる微分、積分、微分方程式、フーリエ級数展開、フーリエ変換などについて、具体例を挙げながら解説する。また、医療分野で不可欠な数理的検証法として活用されている統計学についても、具体例を題材にしながら教授する。 ■学習・教育目標および到達目標 生命現象または工学的現象を客観的に評価するために必要な数理的手法や統計学的手法に関する基礎知識を身につけることが目標となる。また、得られた知識を機械工学、電子工学ならびに医療機器工学に応用する能力を養っていく。 ■成績評価方法および基準 小テスト15回 50% 定期試験 50% ■授業時間外に必要な学修 教科書の中の講義内容と関連する部分をよく読んで理解を深めてください。授業時間外学修時間の目安は予習に1時間、復習に3時間です。 ■教科書 西村千秋「臨床工学シリーズ5 応用数学」コロナ社 ■参考文献 加藤末広、下田保博、大橋常道「マスターしておきたい数学の基礎」コロナ社 ■関連科目 応用数学演習 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 水曜1限、5限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 集合と論理 第2回 関数と極限 第3回 導関数 第4回 微分法の基礎定理 第5回 導関数の計算、導関数の性質 第6回 高次導関数 第7回 関数の展開 第8回 微分法的应用 第9回 不定積分 第10回 定積分 第11回 積分法的应用 第12回 1階微分方程式 第13回 定数係数線形微分方程式 第14回 フーリエ解析 第15回 確率と統計 定期試験	

科目名： コンピュータ工学			
英文名： Computer Engineering			
担当者： カトウ ノブヒロ 加藤 暢宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 「読み・書き・パソコン」が大学生の教養と言われ始めてずいぶん時間がたちました。「道具」としてコンピュータを使いこなすことは勿論ですが、コンピュータそのものの本質を理解することは医用工学エンジニアとして必須の教養と言えるでしょう。 本講では、コンピュータ(計算機)の根幹をなす2値理論、ブール代数、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステムなどを入門レベルから学修します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は臨床工学技士の国家試験問題の出題範囲のうち、II 医用電気電子工学(臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎)、(3)情報処理工学の大項目1.電子計算機(コンピュータ)と2.情報処理のうち「(1)情報表現と論理演算」について国家試験問題を解くために必要な知識を習得します。 ■成績評価方法および基準 中間テスト 20% 定期試験 80% ■授業時間外に必要な学修 5回目と10回目に中間テストを予定しています。テキストの章末問題を中心に復習しておくこと。 10回目から15回目の内容は応用的な話題となるので、実社会で使用されているコンピュータの仕組みについても興味を持って見ておくこと。 ■教科書 松山 実、杉本公弘、横井俊彰 共著「よくわかるコンピュータ概論」オーム社 ■参考文献 矢沢久雄 著「プログラムはなぜ動くのか」日経BP社 ■関連科目 情報処理基礎、電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱ、プログラミング演習 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 加藤暢宏研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 月曜1限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 情報とコンピュータ 第2回 2値論理と情報の表現 第3回 2進数と10進数 第4回 16進数、負数の表現 第5回 数値の表現/中間テスト 第6回 ブール代数と論理回路 第7回 論理式と論理回路 第8回 各種の論理ゲート・組み合わせ回路(1) 第9回 組み合わせ回路(2)・順序回路 第10回 ハードウェア(1)/中間テスト 第11回 ハードウェア(2) 第12回 ソフトウェア 第13回 コンピュータシステム 第14回 コンピュータネットワーク 第15回 コンピュータ工学総括 定期試験	

科目名： 医用工学概論			
英文名： Medical Engineering			
担当者： ヤマワキ ノブユキ 山脇 伸行			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 「医用工学の目指すところは何か」から、各種医療機器の機能と構造に至るまでを論じることにより、医用工学の全体像を把握させる。医学と工学の歴史的関係、医用工学と関わる生体の諸機能、人工臓器・生体材料の現状と問題点、生命維持装置の機能と構造の概略、医療機器の安全対策、各種診断治療機器の動作原理などの項目について、医用工学全体を縦断する形で体系的に論じる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 医学分野で利用されている工学の技術および、生体の呼吸、筋収縮、血流制御、神経系の情報伝達など様々な活動の計測方法を学修し、医学分野における工学の役割を具体例を学ぶことで理解することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト15回 50% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 教科書と参考文献(1)の中の講義内容と関連する部分をよく読んで理解を深めてください。特に、電気・電子の内容については高校の物理学の教科書や参考書等も利用してください。授業時間外学修時間の目安は予習に1時間、復習に3時間です。</p> <p>■教科書 日本生体医工学会「医用工学概論」コロナ社</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺敏 他「臨床工学技士標準テキスト（第2版増補）」金原出版</p> <p>■関連科目 計測工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜 1限、5限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医用工学の概要 第2回 医学系専門基礎 第3回 電気系専門基礎 第4回 電子系専門基礎機 第5回 機械工学系専門基礎 第6回 制御工学系専門基礎 第7回 生体物性 第8回 生体信号（心電図） 第9回 生体信号（脳波） 第10回 生体信号処理 第11回 計測にかかわる医用機器 第12回 診断にかかわる医用機器 第13回 治療にかかわる医用機器 第14回 医用情報と関連システム 第15回 医用機器の安全管理</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 電気工学 I			
英文名： Electrical Engineering 1			
担当者： クスノキ マサノブ 楠 正暢			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 臨床工学技士または医療機器開発技術者として必要な、医用工学、医用機器学、医用治療機器学、生体計測装置学、医用機器安全管理学、生体機能代行装置学などを学習する上で、その基礎科目となる電気工学はきわめて重要である。電気工学 I では、電気回路論を主に学習する。本講義では、交流回路を現象に忠実に微積分方程式を用いて解析する手法と、その数学的な煩わしさを技術的に簡素化できる複素代数方程式を用いた解法を学ぶ。また、CR回路、LR回路、RLC回路応答を理解すると同時に、応用上重要性の高い、共振回路、フィルタについても学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・抽象化された電気回路に対し、できるだけ物理的イメージを持って学習できるよう、電荷、電流、電界、電圧、電力などについて学んだ後、その記号的記述法として回路図を理解できることを目標にする。 ・電気回路を解析する上での基本法則である、オームの法則、キルヒホッフの法則を自在に扱えるようになることを目指す。 ・コンデンサ、コイルの性質と、その電気回路内での役割を知り、数学的に記述できるレベルになることを目標とする。 ・C、Lを含む回路に対し、微積分方程式を用いて解く能力、また、これを複素代数に置き換えて解を得る手法を習得するとともに、インピーダンス、周波数を意識し、共振回路やフィルタについても理解する。 ・臨床工学技士国家試験に出題される程度の問題を解くことができる力を身につけることを最終目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習は必ずしも必要はない。ノートの内容を完全に理解するまで復習に時間を割くこと。または、ほぼ毎宿題を課すので、自分で解く力を身につけること。</p> <p>■教科書 戸畑裕志、中島章夫 著「医用電気工学 I」医歯薬出版</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版株式会社（2012）</p> <p>■関連科目 電子工学 I・II、電気電子工学、計測工学、医用工学概論、医用機器学概論、医用治療機器学、生体計測装置学、医用機器安全管理学 I・II、生体機能代行装置学 I・II・III、など</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 楠研究室(東1号館3階310)・kusu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜 1～2限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 電気工学 I ガイダンス 第2回 電流と電圧の関係 第3回 直流回路 第4回 オームの法則 第5回 キルヒホッフの法則 第6回 電力、ジュール熱 第7回 交流回路 第8回 交流に対する素子特性（抵抗、コイル、コンデンサー） 第9回 複素ベクトルを用いた交流回路の解析 第10回 ベクトル図 第11回 インピーダンス 第12回 交流の電力 第13回 直列共振回路 第14回 並列共振回路 第15回 フィルタ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：電気工学Ⅱ			
英文名：Electrical Engineering 2			
担当者：クスノキ マサノブ 楠 正暢			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 本科目は、電気工学Ⅱに加え、臨床工学技士または医療機器開発技術者になるために不可欠な基礎科目として位置づけられる。電気工学Ⅱでは、電磁気学を中心とした学習を行う。電気工学Ⅰで学んだ電気回路論は、電磁気現象を極めて抽象化した形の、記号、数学として扱うため、回路内で起こる現象をイメージしにくく、電気工学に対する理解を深めることが困難な面がある。一方、電気工学Ⅱで扱う電磁気学では、電気回路で学んだ内容を、物理的現象を強く意識し違った角度から学ぶため、電気工学に対して一層理解を深められることを期待できる。講義の一部には、電磁気学以外にも電気回路に分類されるテーマの時間も設け、過渡現象について学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・クーロンの法則、電磁誘導の法則を基礎として、電荷、電界、電位、電流、磁界、静電容量、インダクタンス、電磁波などについて理解する。 ・コイル、コンデンサの物理的性質を意識しながら、電気回路の過渡現象を理解する。 ・物理的現象を強く意識するとともに、ベクトル解析を用いた数学的な裏付けも行い、臨床工学技士国家試験に出題される程度の問題を解くことができる力を身につけることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習は必ずしもする必要はない。ノートの内容を完全に理解するまで復習に時間を割くこと。また、ほぼ毎回宿題を課すので、自分で解く力を身につけること。</p> <p>■教科書 戸畑裕志、中島章夫 著「医用電気工学1」、「医用電気工学2」 医歯薬出版</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版株式会社 (2012)</p> <p>■関連科目 電子工学Ⅰ・Ⅱ、電気電子工学、計測工学、医用工学概論、医用機器学概論、医用治療機器学、生体計測装置学、医用機器安全管理学Ⅰ・Ⅱ、生体機能代行装置学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、など</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 楠研究室(東1号館3階310)・kusu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜1～2限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 過渡現象 第2回 時定数 第3回 静電気とその性質 第4回 電界 第5回 ガウスの定理 第6回 電位 第7回 電流と導体 第8回 誘電体 第9回 静電容量 第10回 磁気の性質 第11回 電流と磁界 第12回 電磁誘導 第13回 インダクタンス 第14回 電磁力 第15回 電磁波</p> <p>定期試験</p>	

科目名：電気電子工学			
英文名：Electrical and Electronic Engineering for Medicine			
担当者：ホンツ シゲキ 本津 茂樹			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 科学技術の急速な進歩にともない、電気電子工学は電気工業のみならず機械系、化学系、情報系、物質系の専門分野、さらには医学分野においても必要不可欠となっている。本講義では医用工学科で電気系の学問に接する学生を対象として、電気工学の基本的な知識である直流回路や交流回路の基礎理論と、電子工学の基礎知識としての磁気現象、電磁誘導現象、半導体デバイスなどについて学習する。講義を通して電気・電子工学分野の基本的知識の理解とその活用を目指した授業内容とし、2年後期配当の電子工学Ⅰを学ぶ準備を行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ① 直流回路、交流回路の構成と特性を理解し説明できる力を身につける。 ② 静電気・磁気現象に関する基礎を理解し説明できる力を身につける。 ③ 医用工学に必要なアナログならびにデジタル回路の材料について説明できる力を身につける。 ④ 電気電子回路に使われる半導体素子の動作を説明できる力を身につける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 中間試験 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義ノートを自分なりに整理して、復習ノートを作り、内容に疑問があれば次回以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 飯田孝保、高瀬勝也、福田 覚「医用工学演習－よくわかる電気電子の基礎知識－」東洋書店 (2008)</p> <p>■参考文献 伊理正夫「電気・電子概論」実教出版 酒井善雄「電気電子工学概論」丸善 堀川宗之「医・生物学系のための電気・電子回路」コロナ社</p> <p>■関連科目 電気工学Ⅰ、材料工学、電子工学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜日 2限、4限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 電気電子工学概論 第2回 静電気（電荷と電界） 第3回 電気容量（コンデンサの直・並列回路） 第4回 直流回路（電流・電圧） 第5回 直流回路（抵抗の性質・キルヒホッフの法則） 第6回 直流回路（電力・倍率器・分流器） 第7回 磁気（電流と磁界） 第8回 磁気（誘導起電力） 第9回 交流回路（正弦波交流の表し方） 第10回 交流回路（交流のベクトル表示・共振） 第11回 交流回路（過度応答・3相交流） 第12回 半導体とデバイス1（真性半導体・不純物半導体） 第13回 半導体とデバイス2（ダイオード、トランジスタ） 第14回 電子回路（ダイオード回路） 第15回 演算増幅器</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 機械工学			
英文名： Mechanical Engineering			
担当者： ヤマモト エイ 山本 衛			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 医療機器はすべて機械であり、その設計のみならず、保守、点検、操作においても、機械の動作原理を深く理解することが不可欠である。本講義では、機械工学分野の基本的な原理や法則あるいは解析手法などを述べ、血液循環、呼吸、損傷治療、体温維持などの生体機能を機械工学的観点から理解するために必要となる基本知識について講義する。 ■学習・教育目標および到達目標 医療機器を設計・製作するために必要な機械工学の基礎知識を学修する。特に、生命維持装置や人工臓器などを設計する際に、材料学、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学などの基礎的理論がいかに重要であるのかを深く認識させる。 ■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 30% ■授業時間外に必要な学修 本講義では、機械工学の基礎知識について学習する。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習してください。自分で解決できない疑問点がある場合は、教員への質問を積極的に行ってください。 ■教科書 「バイオメカニクス入門」 コロナ社 (2013) ■参考文献 日本機械学会編「生体機械工学」丸善 (2005) 日本機械学会編「バイオメカニクス概説」オーム社 (1993) ■関連科目 特に無し。 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 山本 衛研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 月曜 1限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 医療機器と機械工学の関連 第2回 流体の性質 第3回 流体静力学 (流体の圧力と位置エネルギー) 第4回 流体動力学1 (連続の式とベルヌーイの定理) 第5回 流体動力学2 (粘性とせん断力) 第6回 流体動力学3 (ハーゲン・ポアズイユの法則) 第7回 熱力学1 (熱力学の第一法則、第二法則、気体の状態方程式) 第8回 熱力学2 (等積変化、等圧変化、断熱変化) 第9回 熱力学3 (温度と内部エネルギー) 第10回 材料力学1 (応力とひずみ) 第11回 材料力学2 (曲げモーメントとせん断応力) 第12回 材料力学3 (ラプラスの定理) 第13回 機械力学1 (リンク機構と運動自由度) 第14回 機械力学2 (振動現象とラグランジュの運動方程式) 第15回 力学による生体機能の解明 定期試験	

科目名： 電子工学 I			
英文名： Electronic Engineering 1			
担当者： ニシカワ ヒロアキ 西川 博昭			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 トランジスタやダイオード、およびこれらを用いた半導体素子は制御回路や通信回路、計測回路などに必要不可欠であり、これらを抜かして現代社会は成り立たない。これらの半導体素子からなる回路を電子回路といい、電子回路の動作を扱う学問が電子工学である。高度に発達した近年の高機能医療機器ももちろん電子回路がその中核をなしており、電子工学の知識は臨床工学技士として、また医療機器設計技術者として必須である。本講義では、電子回路のうちアナログ回路を主題とし、基本となるダイオード、トランジスタの動作原理に始まり、その静特性、代表的な電圧・電力増幅回路の構成、発振回路の構成などを学ぶ。 ■学習・教育目標および到達目標 ダイオード、トランジスタの動作原理をベースに半導体素子の基本特性を理解することから始まり、具体的な回路を題材にしてその使用方法を学ぶ。オペアンプを含むいくつかの代表的な回路を通してアナログ回路の基本的知識を修得し、与えられた回路の動作を定性的、定量的に説明できるようになること、および必要とする回路の基本構成が設計できるようになることが目標である。 ■成績評価方法および基準 定期試験 60% 中間試験 30% 授業時間内に実施する練習問題 (各回1から5問程度) 10% ■授業時間外に必要な学修 中間試験および定期試験の対策をかねて、授業を受けたらその日のうちに講義ノートを十分に整理・復習すること。その際、各授業で勉強した範囲に該当する教科書の練習問題を全て解いておく。また、宿題を課すことがある。 ■教科書 松尾正之、根本幾、南谷晴之、内山明彦 著 「臨床工学シリーズ9 改訂医用電子工学」 コロナ社 ■参考文献 特になし。 ■関連科目 電子工学IIを含むすべての専門科目 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 前期 木曜 4限 後期 木曜 4限 ただし、出張中、会議中を除く		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 電子回路とは 第2回 ダイオードの基本動作 第3回 基本的なダイオード回路1 (クリップ回路) 第4回 基本的なダイオード回路2 (スライス回路) 第5回 トランジスタの基本動作 第6回 トランジスタのバイアス回路 第7回 トランジスタを用いた基本的な電圧増幅回路 第8回 中間試験と真性半導体および不純物半導体 第9回 pn接合の基礎 第10回 ダイオードとトランジスタの基本構造 第11回 A級、B級およびC級電力増幅回路 第12回 電界効果トランジスタの基本構造と動作 第13回 オペアンプの基本動作 第14回 オペアンプを用いた基本的な回路 第15回 微分回路と積分回路 定期試験	

科目名：信号処理			
英文名：Signal Processing			
担当者：ヤマワキ ノブユキ 山脇 伸行			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 この講義では機械システムにおける信号の取扱いや表現法の基礎的な事項を学ぶ。信号のデジタル化のためのサンプリング、および信号の周波数特性を表すフーリエ変換と、実際の計算の仕方について解説する。さらに、フーリエ変換の理解を基礎として、不規則な信号の性質とその統計的な取り扱いの中核をなす、相関関数やパワースペクトルの考え方を学ぶ。さらに線形システムの解析方法についても学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 フーリエ級数展開、複素フーリエ級数展開、フーリエ変換、離散フーリエ変換の意味を理解し、アナログ及びデジタルフィルタの原理が分かるようになることを到達目標としている。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト15回 50% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 教科書の中の講義内容と関連する部分と配付資料をよく読んで理解を深めてください。授業時間外学修時間の目安は予習に1時間、復習に3時間です。</p> <p>■教科書 佐藤幸男「信号処理入門 改訂2版」オーム社、配付資料</p> <p>■参考文献 浜田 望「よくわかる信号処理」オーム社</p> <p>■関連科目 応用数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜1限、5限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 信号処理とは 第2回 信号処理の例 第3回 アナログ信号とデジタル信号 第4回 数学の準備 第5回 フーリエ級数 第6回 フーリエ級数(偶関数) 第7回 フーリエ級数(奇関数) 第8回 複素フーリエ級数 第9回 フーリエ変換 第10回 フーリエ逆変換 第11回 デジタル信号のフーリエ解析 第12回 離散フーリエ変換(DFT) 第13回 高速フーリエ変換(FFT) 第14回 高速フーリエ変換(FFT)のパタフライ演算 第15回 フィルタ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：計測工学			
英文名：Instrumentation Engineering			
担当者：カトウ ノブヒロ 加藤 暢宏			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体情報を正確に取得し、正しく解析することは適切な治療にとって欠かすことのできない重要な技術である。本講義では、計測論、生体情報計測の基礎について詳細に講述した後、生体電気および磁気計測についての各論を学ぶ。これらを通して、生体計測の工学的側面に関する十分な知識を習得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 (1) 計測論の基礎が理解できる。 (2) 線形システムの周波数特性が理解できる。 (3) 生体電気・磁気計測の概念、装置が理解できる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% 小テスト 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 2回の小テストを予定しています。教科書の各項目ごとに示されている参考文献などを参考にして、講義内容を深掘し、当該範囲の国試問題・第二種ME試験問題に当たってください。</p> <p>■教科書 石原 謙 編著「臨床工学講座 生体計測装置学」医歯薬出版株式会社</p> <p>■参考文献 橋本成広 著「生体計測工学入門」コロナ社</p> <p>■関連科目 生体計測装置学、医用治療機器学、信号処理</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜1限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 計測論(1) 単位、標準、信号と雑音 第2回 計測論(2) 雑音の種類、計測誤差 第3回 誤差の伝搬/小テスト(1) および 問題解説 第4回 生体情報の計測(1) 生体信号とその特徴 第5回 生体情報の計測(2) 基本的装置構成、ノイズ対策と信号処理 第6回 デジタル信号処理/小テスト(2) および 問題解説 第7回 心電図計測(1) 心電図の医学的基礎 1/2 第8回 心電図計測(2) 心電図の医学的基礎 2/2 第9回 心電図計測(3) 心電図の工学的基礎 第10回 その他の心電図/小テスト(3) および問題解説 第11回 心磁図 第12回 脳波の計測 第13回 脳磁図 第14回 筋電図 第15回 計測工学総括/小テスト(4) および問題解説</p> <p>定期試験</p>	

科目名：バイオセンサー			
英文名：Biosensor			
担当者： <small>ホンツ シゲキ</small> 本津 茂樹			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体情報や機能の計測には、各種の物理量、化学量を電気や光信号に変換するセンサが用いられており、なかでも生体や生体分子のもつ優れた分子認識機能を巧みに利用して化学物質の濃度を測定するバイオセンサが最近注目を集めている。このセンサは測定対象とする酵素、抗体、レセプター、微生物、動・植物細胞や組織などの分子を識別する機能をもつ生体材料と、識別時に発生する物理量や化学量の変化を電気や光信号へと変換するための電極や半導体デバイスなどのトランスデューサから構成され、生体関連化学物質濃度を選択的かつ迅速に計測することができる。本講義では、従来の生体計測用センサからバイオセンサまでの各種センサの動作原理を習得するとともに、医療、工業プロセスや環境分野、さらに人工臓器、調理ロボットなどの幅広い分野へ適用できる能力を養う</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 (1) 生体内圧や生体内の流量・流速を測定するためのセンサの構造と原理が理解できます。 (2) 各種バイオセンサについてその構造と原理を理解できます。 (3) 臨床現場で各種の測定が必要になった場合に、適切な生体計測センサ、バイオセンサを用いることができるようになります。</p> <p>■成績評価方法および基準 中間試験 50% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義ノートを自分なりに整理して、復習ノートを作り、内容に疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 六車仁志「バイオセンサー入門」コロナ社</p> <p>■参考文献 山越憲一・戸川達男「生体用センサと計測装置」日本エム・イー学会編 コロナ社 軽部征夫 他「バイオセンサ」シーエムシー出版 堀池靖浩・宮原裕二「バイオチップとバイオセンサー」共立出版</p> <p>■関連科目 生体計測装置学、計測工学、材料工学 各種医用装置に関係する科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜日 2限、4限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 総論 生体を測る(信号変換) 第2回 生体内圧の測定とセンサー (体外式圧力計) 第3回 生体内圧の測定とセンサー (体内式圧力計) 第4回 生体内の流れの計測 (電磁流量計) 第5回 生体内の流れの計測 (超音波流速計) 第6回 生体内の流れの計測 (レーザー・ドップラー流速計、ホットフィルム流速計) 第7回 化学センサとバイオセンサー (膜電位とイオンセンサー) 第8回 酸素センサーと酵素センサー 第9回 微生物センサー (呼吸活性型と電極活性物質型) 第10回 免疫センサー 第11回 FETバイオセンサー (ISFET) 第12回 フォトバイオセンサー 第13回 圧電素子バイオセンサー 第14回 表面プラズモン共鳴バイオセンサー 第15回 DNAチップ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：電子工学Ⅱ			
英文名：Electronic Engineering 2			
担当者： <small>ニシカワ ヒロアキ</small> 西川 博昭			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 トランジスタやダイオード、およびこれらを用いた半導体素子は制御回路や通信回路、計測回路などに必要不可欠であり、これらを抜きにして現代社会は成り立たない。これらの半導体素子からなる回路を電子回路といい、電子回路の動作を扱う学問が電子工学である。高度に発達した近年の高機能医療機器ももちろん電子回路がその中核をなしており、電子工学の知識は臨床工学技士として、また医療機器設計技術者として必須である。本講義では、電子回路のうちデジタル回路を主題とし、論理回路やA/D変換、D/A変換などを取り扱う。また、通信において重要な技術として、アナログ変調の原理を学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 論理回路の基礎を理解するためのブール代数を含め、デジタル回路の基本的内容を理解することを目的とする。これにより、論理ゲートからなるデジタル回路の動作を理解するとともに、要求に応じた動作をするデジタル回路の設計、またその最適化に関する知識を習得する。その後マルチバイプレータ、フリップフロップ、およびカウンタやシフトレジスタの動作を理解し、要求された順序回路を設計できるようになることが目的である。さらに、現実の信号をデジタル回路で取り扱うことができるよう、アナログ回路とデジタル回路のインタフェースとなるA/D変換、D/A変換についても、その構成と使用方法について学ぶ。このほか、アナログ変調の原理を定式化して理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 中間試験 30% 授業時間内に実施する練習問題 (各回1から5問程度) 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 中間試験および定期試験の対策をかねて、授業を受けたらその日のうちに講義ノートを十分に整理・復習すること。その際、各授業で勉強した範囲に該当する教科書の練習問題を全て解いておく。また、宿題をこなすことがある。</p> <p>■教科書 松尾正之、根本幾、南谷晴之、内山明彦 著 「臨床工学シリーズ9 改訂医用電子工学」 コロナ社</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 電子工学Ⅰを含むすべての専門科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 前期 木曜 4限 後期 木曜 4限 ただし、出張中、会議中を除く</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 デジタル回路 第2回 2進数と10進数変換・2進数と16進数変換 第3回 2進数、16進数の加減算、補数 第4回 論理記号、基本論理演算とブール代数 第5回 論理演算と論理ゲート 第6回 論理関数の簡単化 第7回 マルチバイプレータの基礎 第8回 中間試験とマルチバイプレータの動作 第9回 フリップフロップ 第10回 カウンタとシフトレジスタ 第11回 A/D変換 第12回 D/A変換 第13回 アナログ変調の基礎 第14回 振幅変調 第15回 周波数変調、位相変調</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 制御工学			
英文名： Control Engineering			
担当者： ^{ミヤシタ ナオユキ} 宮下 尚之			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>医療機器に組み込まれている自動制御機構を理解する為の基礎力を身につけることを目的とし、自動制御の基礎およびフィードバック自動制御について説明する。前半は自動制御理論で使われるラプラス変換やブロック線図などの基礎を学び、後半は制御理論の基礎的な内容について学ぶ。さらに、医療分野などでの制御の応用などについても述べる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>医療機器や生体系の制御機構を、制御理論的な視点から考え・理解できる能力の習得を目標とする。さらに臨床工学技士の国家試験レベルの問題が確実に解けるようになることを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70% レポート 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>予習をして授業に臨み、授業時間中に理解できるよう努めること。講義で省略した部分は教科書・参考書で調べ、理解できたらノートにまとめる。疑問点あれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書</p> <p>小林伸明「基礎制御工学」共立出版</p> <p>■参考文献</p> <p>片山 徹「フィードバック制御の基礎」朝倉書店、森 泰親「わかりやすい現代制御理論」</p> <p>■関連科目</p> <p>電気工学Ⅰ・Ⅱ、電気電子工学、医用機器学概論、生体機能代行装置学Ⅰ・Ⅱ、医用機器安全管理学Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>宮下研究室（東1号館2-217）miya@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>前期は水曜4限、後期は木曜3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 自動制御の基礎概念と医用工学分野への適用</p> <p>第2回 自動制御における基礎数学－複素数とラプラス変換</p> <p>第3回 ラプラス変換と逆ラプラス変換</p> <p>第4回 ラプラス変換を用いた線形常微分方程式の解法</p> <p>第5回 物理現象の数学モデル化と伝達関数</p> <p>第6回 ブロック線図の基本概念</p> <p>第7回 自動制御系のブロック線図</p> <p>第8回 伝達関数と動特性</p> <p>第9回 インパルス応答</p> <p>第10回 ステップ応答</p> <p>第11回 周波数応答法</p> <p>第12回 ベクトル軌跡とボード線図</p> <p>第13回 安定性評価法</p> <p>第14回 制御系の性能</p> <p>第15回 制御理論とシステム制御の例</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 材料工学			
英文名： Material Engineering			
担当者： ^{ホンツ シンゲキ} 本津 茂樹			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>各種半導体を組み合わせたトランジスタ、半導体レーザー、石英ガラスを用いた光ファイバを例にしてもわかるように、工学の分野において、材料の発見・発明がすばらしい技術革新をもたらすことは過去の歴史をひもとけば明らかである。よって、医用工学を学ぶ学生は、将来どの方面に就職するにせよ、材料に関連した問題に直面することが多く、その問題を解決するためには材料に関する基礎知識を習得しておく必要がある。本講義では各種材料について単に名称と性質を学ぶのではなく、物理学を基礎とした物性論的立場から論じることにより、固体物質の示す物性は、原子結合や結晶構造を考えることで理解できることを学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>(1) 原子の構造を理解します。(2) X線を用いれば結晶構造が測定できることを理解します。(3) 電子材料の性質は、結晶構造・原子や分子の配列から理解できることを学びます。(4) 原子と原子の間に働く力により結晶をイオン結晶、共有結合結晶、分子結晶に分類できることを理解し、材料の特性はこれらの結晶構造に関係していることを学びます。(5) 金属の電気伝導について理解します。(6) 半導体のキャリアである電子と正孔について学び、半導体の性質を理解します。(7) 誘電体の誘電分極について学び、電界と分極の関係を理解します。(8) 磁性体の磁化の源について学び、磁界と磁化の関係を理解します。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>中間試験 40% 授業中課題（ミニッツペーパー 2回 5%/回）10% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義ノートを自分なりに整理して、復習ノートを作り、内容に疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書</p> <p>中澤達夫、藤原勝幸、押田京一、服部 忍、森山 実「電気・電子材料」コロナ社</p> <p>■参考文献</p> <p>戒能俊邦、菅野了次「材料科学」東京化学同人 北条英光「材料の科学と工学」裳華房 関井康雄「電気材料」丸善</p> <p>■関連科目</p> <p>電気電子工学、バイオセンサー</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>木曜日 2限、4限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 材料工学概論</p> <p>第2回 原子の構造と原子模型</p> <p>第3回 電子と原子－原子間に働く力</p> <p>第4回 原子配列－結晶構造と格子定数</p> <p>第5回 エネルギー準位とバンドモデル</p> <p>第6回 導電材料と抵抗材料</p> <p>第7回 フェルミ・ディラックの分布関数</p> <p>第8回 半導体材料－真性半導体と不純物半導体</p> <p>第9回 半導体材料－ダイオードとトランジスタ</p> <p>第10回 誘電体材料（電場、誘電分極とコンデンサー）</p> <p>第11回 誘電体材料（誘電分散）</p> <p>第12回 誘電体材料（強誘電体）</p> <p>第13回 磁性材料（磁性の源、磁性体の種類）</p> <p>第14回 磁性材料（強磁性と磁化機構）</p> <p>第15回 超伝導材料（超伝導現象とジョセフソン効果）</p> <p>定期試験</p>	

科目名：放射線工学概論			
英文名：Introduction to Radiation Engineering			
担当者：村上卓道・石井一成・門前一			
単位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 放射線診療の物理学的、生物学的基礎を理解し、エックス線、ラジオアイソトープなどによる画像技術および放射線治療について、その概要を学ぶ。放射線物理学、放射線計測学を学んだのち、放射線の発生源に関する知識を習得する。さらに放射線生物学、放射線安全管理学について学ぶことで、放射線が人体に及ぼす影響、危険性などについての理解を深め、病院における放射線科の診療業務（画像診断、核医学、放射線治療）の原理、技術的基礎および臨床上の意義についても学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 放射線の医療での利用に関する基礎的事項を理解し、人体への影響など放射線の安全管理についての考え方を習得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012） 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 丸山浩一「放射線物理学」医療科学社 遠藤真広、西臺武弘 著「放射線物理学」日本放射線技術学会（2006）</p> <p>■関連科目 生体物性工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医療と放射線 第2回 原子、原子核の構造 第3回 放射性同位元素 第4回 放射線 第5回 放射線の測定方法 第6回 放射線が物質へ与える影響 第7回 放射線の人体への影響 第8回 放射線に対する安全管理 第9回 磁気共鳴画像 第10回 X線の利用 第11回 PET、SPECT 第12回 核医学 第13回 放射線治療 第14回 関係法令 第15回 放射線工学と医用工学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：バイオマテリアル			
英文名：Biomaterials			
担当者：古菌 勉			
単位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体に直接接触もしくは埋植して所定の機能を果たす材料を総称してバイオマテリアルと呼び、工学と医学の範疇にある生命科学系学際領域の学問の一つに位置づけられる。各種工学技術と医療が不可分となった今日、バイオセンサー等の開発や情報分析を行う技術者にとって、バイオマテリアルの知識は重要である。本講義では、医用生体材料の必要条件と安全性試験について述べた後、生体反応と生体適合性について解説する。つぎに、生体材料を金属材料、無機系材料、高分子系材料に分類し、それらの特徴と用途について説明する。またバイオマテリアルと生体との相互作用、および改正薬事法について解説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本講では、幅広いバイオマテリアルの特性と機能の中で、システム生命科学と関係が深い項目を取り上げ、その構造、機能および限界を学び生命科学系学際領域で活躍する工学技術者に求められる基礎知識の習得を目的として、以下(1)～(4)の概要について講述する。 (1) バイオマテリアルの条件と安全性、(2) 各種材料の科学的基礎知識とバイオマテリアルとしての特性、(3) 材料界面と生体との相互作用に係る基礎知識、(4) 改正薬事法</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 中間試験 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 基礎化学に関する教科書・参考書を利用し、十分に理解を深めておくこと。</p> <p>■教科書 古菌 勉・岡田正弘著「新版 ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル」学研メディカル秀潤社（2011）</p> <p>■参考文献 堀内 孝・村林 俊 著「医用材料工学」コロナ社（2006） 日本バイオマテリアル学会監、石原一彦・堀 隆夫・前田瑞夫編「バイオマテリアルの基礎」日本医学館（2010） 小野哲章・峰島三千男・堀川宗之・渡辺 敏編「臨床工学技士標準テキスト（第2版）」金原出版（2012）</p> <p>■関連科目 「バイオセンサー」を受講することが望ましい。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して実施。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 古菌研究室(10号館1階116)・furuzono@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜2限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 バイオマテリアルの条件 第2回 バイオマテリアルの安全性 第3回 バイオマテリアルの評価法 第4回 バイオマテリアルに求められる生体適合性 第5回 バイオマテリアルの異物反応 第6回 高分子系材料の基礎 第7回 高分子系バイオマテリアルの特性と用途、中間試験 第8回 金属系材料の基礎 第9回 金属系バイオマテリアルの特性と用途 第10回 セラミックス系材料の基礎 第11回 セラミックス系バイオマテリアルの特性と用途 第12回 再生医療用バイオマテリアルの特性と用途 第13回 医療機器と改正薬事法 第14回 医療機器の生物学的安全性 第15回 先端バイオマテリアル</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 生体物性工学			
英文名： Material Physics on Living Tissues			
担当者： ヤマモト エイ 山本 衛			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体のメカニズムを工学的見地から理解するためには生体物性の知識が不可欠である。本講義では、電気特性、磁場に対する応答特性、力学的特性、振動および超音波に対する特性、熱特性、光学特性、放射線に対する特性など、生体組織が有する物理的性質について解説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 電気、力、超音波、光、放射線などの物理的エネルギーが加えられた際の生体反応を理解することを本講義の目標とする。これにより、医用機器開発や臨床医学において必要な生体組織の電気特性や力学的特性などの基礎知識を修得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義では主として通常状態にある生体組織の物性について学習する。疾患や損傷が発生している組織の物性など、より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習してください。自分で解決できない疑問点がある場合は、教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書 池田研二、島津秀明 著「生体物性/医用機械工学」秀潤社（2004）</p> <p>■参考文献 林紘三郎 著「バイオメカニクス」コロナ社（2000）</p> <p>■関連科目 機械工学、材料工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 山本 衛研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜 1限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 生体物性の概要 第2回 生体の受動的電気特性 第3回 生体の能動的電気特性 第4回 電流の生体作用 第5回 電磁界と生体物性 第6回 生体の静力学 第7回 生体の動力学 第8回 生体の流体力学的特性 第9回 脈管系の生体物性と生体における輸送現象 第10回 生体の音波に対する性質 第11回 生体の超音波に対する性質 第12回 生体の熱に対する性質 第13回 生体の光に対する性質 第14回 生体の放射線に対する性質 第15回 生体物性と許容限界</p> <p>定期試験</p>	

科目名： メカトロニクス			
英文名： Mechatronics			
担当者： ワタナベ トシアキ 渡辺 俊明			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 本講義では、メカトロニクス技術の基礎となるモータなどのアクチュエータ、それらの動きを検出するセンサ、センサにより検出された物理量によってアクチュエータを制御するコントローラの機能と特徴を実物を見ながら理解し、医用工学におけるモノづくりの基礎知識についてのべる。これらの内容は医用工学分野に留まらず、最近の一般的な工業分野においても非常に重要な概念である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 最近の福祉機器および医療機器の開発においては機械技術と電気・電子技術の融合であるメカトロニクスの技術の重要性は高い。学生は、メカトロニクス技術の基礎となるモータなどのアクチュエータ、それらの動きを検出するセンサ、センサにより検出された物理量によってアクチュエータを制御するコントローラの機能と特徴を理解し、医用工学におけるモノづくりの基礎知識を修得し身につける。これらの内容は医用工学分野に留まらず、最近の一般的な工業分野においても非常に重要な概念である。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書、参考書で調べ、自分のノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。各講義時間に指示された課題は自分で解いてみる。</p> <p>■教科書 土谷武士 他「メカトロニクス入門 第2版」森北出版</p> <p>■参考文献 高森 年 編著「メカトロニクス」オーム社</p> <p>■関連科目 電気工学Ⅱ、電子工学Ⅰ、バイオセンサー、制御工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階254)・watanabe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前休後休時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 メカトロニクスの歴史と概要 第2回 抵抗・コンデンサ・半導体などの電気電子部品の種類と機能について 第3回 ベアリング・ギアなどの機械要素部品の種類と機能について 第4回 DCモータ・ACモータ・ステッピングモータなどアクチュエータについて 第5回 制御の基礎について 第6回 モーターの特性と選定方法や使い方について 第7回 半導体のアナログ回路について 第8回 半導体のデジタル回路について 第9回 制御機器に用いるセンサについて 第10回 モーターの制御方法について、トランジスタブリッジやPWM制御方法について 第11回 小型ロボットの制御と駆動について 第12回 マイクロコンピュータの歴史について 第13回 マイクロコンピュータのプログラミングについて 第14回 マイクロコンピュータを用いた制御について 第15回 マイクロコンピュータの他方面への応用</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 生命倫理			
英文名：Bioethics			
担当者： <small>ヨシダ コウジ</small> 吉田 浩二			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生命倫理学における問題は、人間の生死、生殖医療、臓器移植、安楽死、ターミナルケア、インフォームドコンセントなど、多岐に渡る。本講義では、生命倫理学の基礎的知識を理解し、最先端医療の問題を多角的に捉えながら、現代社会における医療の意味を考察する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 医用工学士教育の初めに当たり、医療における様々な問題を認識するとともに、医療人として必要な基本的倫理観を身につけることが目標である。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の内容に関して、理論だけでなく、日常生活において経験する現実を考察すること。</p> <p>■教科書 指定なし。</p> <p>■参考文献 参考書として今井道夫 著「生命倫理学入門」産業図書</p> <p>■関連科目 医療社会学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 吉田研究室（10号館1-117）・kojiy@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 序論 第2回 健康と病気（病は気から） 第3回 患者の権利と自己決定権 第4回 インフォームドコンセント 第5回 告知と守秘義務 第6回 生殖と人工妊娠中絶 第7回 新生児医療 第8回 ターミナルケア 第9回 脳死と臓器移植 第10回 尊厳死・安楽死 第11回 遺伝子操作 第12回 再生医療とクローン技術 第13回 人体実験と科学的医学 第14回 安全管理 第15回 総括講義</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 基礎医学総論（法規・衛生）			
英文名：Introduction to Basic Medicine			
担当者： <small>フルゾノ ツトム ニシテ ヨシアキ トクミネ アサコ</small> 古菌 勉・西手 芳明・徳嶺 朝子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 （概要）生体を構成する各器官がどのような構造と機能に基づいて、その器官独自の働きを発現しているのかを理解させる。さらに、生体機能を代行することのできる機器の現状について解説する。生体を構成する器官に関する基本的内容を系統的に講義し、生命現象の機序を概観する。また、医事法規、医の倫理などの臨床工学技士として熟知していなければならない関係法令を教授する。医療従事者に必要な公衆衛生学に関する知識についても概説する。（オムニバス方式/全15回） （西手芳明/第1回～5回） 医用工学系の分野で役立つような医学の歴史・倫理を含む基礎医学の基本概念を身に付けることを目標とする。生体を構成する筋骨格系、感覚器系、脳神経系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、消化器系などでは、各器官の協調的な相互作用が存在することによって、全体として生体の機能が正常に維持されることを具体的な例を示しながら認識させる。さらに、各器官で発生する代表的な疾患について解説しながら、生体の機能維持に必要な公衆衛生学的対応について考察する。 （徳嶺朝子/第6回～10回） 近年の医用治療機器は、コンピュータ、エレクトロニクス技術や物理・工学の研究成果の集大成として急速に発展している。血液浄化装置、人工呼吸器、人工心臓装置を中心に新しい技術動向を把握するとともに、基本技術、医学的有用性、リスク対利益・費用対効果のバランスなど、医用機器をシステム化して臨床応用する際、考慮すべき基本事項を総合的に理解することを目標とする。また、医療機器を利用する際に必要な公衆衛生学の知識を教授する。 （古菌勉/第11回～15回） 医療は直接人の生命にかかわる内容をもっているため、その業務を行う医療機関や医療に携わる人の資格などについて、厳しい法規が定められているとともに、遵守が義務づけられている。本講義では、これらの法規のうち、特に臨床工学技士として業務に従事する場合に必要な医療法、臨床工学技士法等の関係法規を中心に学習する。また、平成26年11月に施行された新薬事法である「医薬品医療機器等法」において、臨床工学技士が係わる部分についても学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ① 医学および医療の基礎概念と歴史・思想的背景 ② 臨床工学と現代医学の役割と課題の関連性 ③ 臨床工学技士法の概要と臨床工学技士のあり方について理解・習得することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書・参考書で調べ、質問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012）</p> <p>■参考文献 各教員から配付される資料を参考文献とする。</p> <p>■関連科目 医用工学概論、生命倫理</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 古菌研究室(10号館1階116)・fuzuzono@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp 徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医学の歴史と医の倫理（西手） 第2回 医療制度（西手） 第3回 公衆衛生（西手） 第4回 人の構造と機能（西手） 第5回 疾病の種類と分類（西手） 第6回 医用工学の基礎知識（徳嶺） 第7回 医用治療機器の基礎知識（徳嶺） 第8回 血液浄化装置の基礎知識（徳嶺） 第9回 人工呼吸器の基礎知識（徳嶺） 第10回 人工心臓装置の基礎知識（徳嶺） 第11回 医師法・臨床工学技士法（古菌） 第12回 薬事法・関係法規（古菌） 第13回 医療事故（古菌） 第14回 リスクマネジメント（古菌） 第15回 医療機器と安全対策（古菌）</p>	

科目名：解剖学			
英文名：Anatomy			
担当者：ヨシダ コウジ 吉田 浩二			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 医療科学の基礎となる人体の基本的構造と機能について学修する。正常ヒトの神経系、感覚器などの刺激受容伝達系、呼吸器、運動器、消化器、泌尿器などの吸収排泄系、ならびに内分泌器官、生殖器などの増殖調節系について、細胞や組織のレベルでの形態と構造を知るとともに、各器官の位置関係や機能についても理解する。これによって、生命体を構成する循環器系組織、脳神経系組織、筋骨格系組織、消化代謝系組織などの構造的特徴とそれらの機能的役割を正しく理解し、臨床工学分野で必要な解剖学の基礎知識を身に付ける。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 局所解剖を中心に、各臓器の位置と構造および多臓器との関連を、それぞれの機能と関連づけて理解することが目標である。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書・参考書で調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 藤田 恒夫 著「入門人体解剖学」南江堂</p> <p>■参考文献 三木明德・井上貴央 監訳「からだの構造と機能」西村書店</p> <p>■関連科目 生理学、病理学、臨床免疫学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 吉田研究室（10号館1-117）・kojiy@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 序論：細胞と組織 第2回 頸部：喉頭・甲状腺・脊椎 第3回 胸部1：気管支・肺 第4回 胸部2：心臓・動脈 第5回 胸部3：縦隔・食道 第6回 腹部1：消化管 第7回 腹部2：肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓 第8回 腹部3：腎臓・副腎・膀胱 第9回 腹部4：生殖器 第10回 頭部1：感覚器 第11回 頭部2：脳 第12回 末梢神経・皮膚 第13回 筋肉 第14回 骨・関節 第15回 総括講義</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生理学			
英文名：Physiology			
担当者：ヨシダ コウジ 吉田 浩二			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体を構成する器官の機能について詳細に解説するとともに、異なる器官の間での協調動作や相互作用についても理解し、この後に続く専門科目の学習に必要な基礎的知識を修得する。授業では、生命維持の基本ともいえる生体恒常性を概観し、神経・筋・感覚・循環・呼吸・排泄等、系統的に各器官の機能について解説する。これにより、生体を構成している組織・器官の正常な機能を正しく理解するとともに、これらの組織・器官が協調的に機能し、互いに密接に関連しあいながら生命活動が維持されていることを認識する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 疾患の成り立ちを理解するためには正常機能を理解することが不可欠である。解剖学・組織学と併せて学習し、各臓器間の関連について理解することを目的とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書・参考書で調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 藤田 恒夫 著「入門人体解剖学」南江堂</p> <p>■参考文献 三木明德・井上貴央 監訳「からだの構造と機能」西村書店</p> <p>■関連科目 解剖学、病理学、臨床免疫学、臨床生化学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 吉田研究室（10号館1-117）・kojiy@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 細胞の機能 第2回 呼吸運動とその調節 第3回 ガス交換と血液ガス 第4回 心臓の機能 第5回 血液循環 第6回 消化と吸収 第7回 肝臓・胆嚢の機能 第8回 膵臓の機能 第9回 尿の生成と排出 第10回 腎由来生理活性物質と体液の調節 第11回 内分泌 第12回 神経伝達 第13回 皮膚機能と体温調節 第14回 生殖と発生 第15回 総括講義</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 病理学			
英文名： Pathology			
担当者： <small>イトウ アキヒコ</small> <small>イノウエ タカオ</small> 伊藤 彰彦・井上 敬夫			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 障害因子に対する細胞・組織の基礎的病変を深く学習する。さらに、より具体的な事例として代謝異常、循環障害、退行性病変、炎症など、各種疾病によって発生する肉眼的・組織学的な変化を系統的に理解する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 基礎医学と臨床医学を繋ぐものであり、疾患概念と病態を理解することが臨床医学を学ぶ上で不可欠である。生体内で生じる異常の本態と原因を理解することが目標である。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義で省略した部分を教科書・参考書で調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書 深山 正久著「初めの一步のイラスト病理学」羊土社</p> <p>■参考文献 澤井高志・内藤 眞・名倉 宏・八木橋操六 編「エッセンシャル病理学」医歯薬出版</p> <p>■関連科目 解剖学、臨床生理学、臨床生化学、臨床免疫学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 組織傷害と修復 第2回 変性・壊死 第3回 代謝障害 1 第4回 代謝障害 2 第5回 代謝障害 3 第6回 循環障害 1 第7回 循環障害 2 第8回 炎症 1 第9回 炎症 2 第10回 炎症 3 第11回 腫瘍 1 第12回 腫瘍 2 第13回 腫瘍 3 第14回 先天異常 第15回 総括講義</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 臨床生化学			
英文名： Clinical Biochemistry			
担当者： <small>ヨシダ コウジ</small> <small>ニシオ カズト</small> 吉田 浩二・西尾 和人			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体は、多数の有機化合物からなっており、それらは複雑に関連し、相互作用して代謝経路をなしている。従って、生体は極めて精巧に構築された有機化学反応の場であるといえる。このような観点から、生体を構成しているタンパク質・糖・脂質などの生体分子の構造や化学的性質、および体内における代謝について講義する。さらに、体内の臓器や器官、それらの細胞内で行われている生命を支える営みや役割を化学的に分析し、それをもとに疾病の原因や病態を考察し、医療工学への応用を概説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 体物質の代謝と代謝異常、エネルギー代謝、並びに体温調節機能などの臨床生化学的な重要事項を学び、臨床工学技士や医療機器設計技術者としての必要な基礎知識を修得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書 林 典夫、廣野 治子 (監修)「シンプル生化学」南江堂</p> <p>■参考文献 鈴木紘一 (編)「生化学」東京化学同人</p> <p>■関連科目 解剖学、生理学、病理学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 吉田研究室 (10号館1-117)・kojiy@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 糖質代謝 第2回 脂質代謝 第3回 タンパク質・アミノ酸代謝 第4回 核酸代謝 第5回 骨代謝 第6回 代謝異常 第7回 酵素と補酵素 第8回 食品カロリー 第9回 基礎代謝量 第10回 エネルギー所要量 第11回 無機質 第12回 ビタミン 第13回 水代謝 第14回 体温調節機能とその異常 第15回 臨床生化学と医用工学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：臨床免疫学			
英文名：Clinical Immunology			
担当者： ^{ミヤザワ マサアキ} 宮澤 正顯・ ^{タカムラ シ キ} 高村 史記・ ^{カワハラ サチヨ} 河原 佐智代			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>生体の恒常性維持機能を果たす免疫反応について、複雑で多岐にわたる反応因子、並びにそれらの相互作用の基礎知識を習得する。授業では、抗原と抗原抗体反応の概要、抗体分子の構造と機能、補体の性状と生物活性、抗原抗体反応の機序、免疫担当細胞の種類と働き、主要組織適合抗原複合体などについて述べる。次いで、感染免疫、血液型、アレルギー反応、自己免疫疾患、ガンと免疫などについて解説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>個体の恒常性を維持する免疫の仕組みと、炎症反応による生体防御のメカニズムを臨床医学との関連において理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義で省略した部分を教科書・参考書で調べ、自分なりのノートを作り、疑問があれば次週以降に教員に質問すること。</p> <p>■教科書</p> <p>指定しない。</p> <p>■参考文献</p> <p>中島 泉・高橋利忠・吉開泰信 著「シンプル免疫学」 南江堂</p> <p>■関連科目</p> <p>病理学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 免疫学入門 1</p> <p>第2回 免疫学入門 2</p> <p>第3回 抗体の構造と機能 1</p> <p>第4回 抗体の構造と機能 2</p> <p>第5回 補体とマクロファージ 1</p> <p>第6回 補体とマクロファージ 2</p> <p>第7回 Tリンパ球の機能 1</p> <p>第8回 Tリンパ球の機能 2</p> <p>第9回 サイトカイン</p> <p>第10回 血液型と移植 1</p> <p>第11回 血液型と移植 2</p> <p>第12回 アレルギー反応 1</p> <p>第13回 アレルギー反応 2</p> <p>第14回 感染症とワクチン 1</p> <p>第15回 感染症とワクチン 2</p> <p>定期試験</p>	

科目名：臨床生理学			
英文名：Clinical Physiology			
担当者： ^{イナセ マサヒコ} 稲瀬 正彦・ ^{カジ ヒロシ} 梶 博史・ ^{カワオ ナオユキ} 河尾 直之			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>臨床現場では、種々の検査項目を総合的に判断することで疾患を特定した後、適切な治療法を選択していくのが通常的手法である。本講義では、疾病の原因となる生理学的変化やその診断・検査法を学ぶことで、疾病やその治療についての理解を深める。臨床工学技士にとって重要な循環器・腎臓・呼吸器の機能を中心に学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>生理学の知識およびその思考法は、生命現象のメカニズムを明らかにするだけでなく、疾病の診断や治療法を理解するうえでも大変重要である。従って、本講義では病態生理学的な思考能力・分析能力を身につけ、医療従事者に不可欠な知識を修得することを目的とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70%</p> <p>小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書</p> <p>小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012） 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献</p> <p>新臨床検査技師教育研究会（編）「臨床生理学ーガイドライン対応 臨床検査知識の整理」医歯薬出版（2004）</p> <p>■関連科目</p> <p>解剖学、生理学、病理学、臨床生化学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 臨床生理学概論</p> <p>第2回 検体計測</p> <p>第3回 脳機能 1</p> <p>第4回 脳機能 2</p> <p>第5回 脳機能 3</p> <p>第6回 脳機能 4</p> <p>第7回 呼吸機能 1</p> <p>第8回 呼吸機能 2</p> <p>第9回 呼吸機能 3</p> <p>第10回 腎機能 1</p> <p>第11回 腎機能 2</p> <p>第12回 循環機能 1</p> <p>第13回 循環機能 2</p> <p>第14回 循環機能 3</p> <p>第15回 循環機能 4</p> <p>定期試験</p>	

科目名：臨床薬理学			
英文名：Clinical Pharmacology			
担当者：高橋 英夫・丹羽 淳子・上野 浩司・小堀 宅郎			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 薬物を用いた治療はあらゆる臨床現場で行われている。本講義では、薬物治療に関する基本的な知識および各薬物の薬理作用・副作用などについて講述する。薬物はどのようにして生体に作用するのか、また生体は薬物に対してどのような反応をするのかを解説する。また、代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床応用とともに、薬物が作用する生体の特徴的構造や機能についても解説する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 薬物の効果や副作用のメカニズムを理解し、臨床において薬物治療を実施する際に留意する事項を把握することを目的とする。特に、臨床現場で実際に使用されている薬物の作用機序、体内動態、薬効、副作用に関する知識を修得する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012） 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 臨床生化学、病理学、臨床免疫学、臨床生理学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 臨床薬理学の概念と定義 第2回 投与経路と吸収 第3回 生体内での分布と変化 第4回 排泄 第5回 薬理作用と副作用 第6回 作用機序 第7回 用量反応曲線 第8回 薬効を規定する因子 第9回 生活習慣病、ガンに使用する薬 第10回 疼痛、感染症に使用する薬 第11回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 第12回 救命救急時に使用する薬 第13回 アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 第14回 消化器系疾患に使用する薬 第15回 臨床薬理学と医用工学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：看護学概論			
英文名：Nursing			
担当者：脇坂 眞由美・田上 晶子・平松 幸子・森 文美代			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 看護の目的・対象・方法について、看護の社会的役割及び看護の歴史の変遷を含めながら、看護理論の全般を学習する。また、医療チームにおける看護の役割について理解するとともに、看護実践に必要な援助技術の基礎について教授する。これらの学習を通して、小児看護、成人看護、老人看護などの各対象ごとに、医療の現場において臨床工学技士が果たすべき役割を認識し、チーム医療が効果的に行われるために必要な知識・能力を修得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 臨床医学分野での看護の意義を理解し、人々の健康や病気に関わる看護師の役割を認識する。これによって、それぞれの健康障害に応じて必要な援助の基本的技術について理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 山田里津「臨床工学シリーズ、医学概論、看護学概論」コロナ社 川村佐和子、松尾ミヨ子、志自岐康子（編）「基礎看護学 看護学概論」、メディカ出版（2006）</p> <p>■関連科目 臨床医学総論Ⅰ、臨床医学総論Ⅱ、臨床医学総論Ⅲ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 看護の歴史の変遷、看護の役割と機能 第2回 ケアとは何か、看護師の問題解決技法 第3回 チーム医療、他職種との協働について 第4回 医療におけるコミュニケーション技法 第5回 医療倫理、倫理原則 第6回 ケーススタディ 第7回 看護技術の実際、看護技術の特徴 第8回 看護師が行うスクリーニング 第9回 発達段階別対象の理解と看護の特徴 成人看護学 第10回 成人期の身体的・精神的・社会的特徴と看護 第11回 発達段階別対象の理解と看護の特徴 小児看護学 第12回 子どもの権利、インフォームド・アセント、プレバレーション 第13回 医療安全（KYT演習） 第14回 セルフモニタリング（危険予知） 第15回 総括講義</p> <p>定期試験</p>	

科目名：医療社会学			
英文名：Medical Sociology			
担当者：奥村 二郎・東 賢一・水越 厚史・門脇 英子・吉田 浩二			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>少子・高齢社会のなか、社会福祉を総合的に進めるため、地域における福祉サービスと保健・医療サービスの連携は緊急の課題である。そこで、本講義では保健・医療・福祉の連携の必要性について広域的にその現状を整理するとともに、多様な課題や問題点を社会学の視点から明らかにする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>医療従事者の社会的使命を理解するために、医学や治療業務に関連した社会的な問題点を深く認識し、その解決法を検討することによって、臨床工学技士として活躍するために必要な解決能力を養う。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 70% 小テスト 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書</p> <p>清水忠彦 編 わかりやすい公衆衛生学〔第3版〕</p> <p>■参考文献</p> <p>山崎喜比古（編）「健康と医療の社会学」東京大学出版会（2001） 鷹野和美（編）「チーム医療論」医歯薬出版（2002）</p> <p>■関連科目</p> <p>臨床医学総論Ⅰ、臨床医学総論Ⅱ、臨床医学総論Ⅲ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>加藤研究室（東1号館1階101室）・nkato@waka.kindai.ac.jp(学科教務担当)</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医療社会学の意義 第2回 社会と医療1（Quality of Life: QOL） 第3回 社会と医療2（チーム医療） 第4回 社会と医療3（個人情報保護法） 第5回 人口論 第6回 国民医療費 第7回 日本の社会保険制度 第8回 日本の医療保険制度 第9回 諸外国の医療保険制度 第10回 医療保険の役割と限界 第11回 医療と法律1 第12回 医療と法律2 第13回 医療と法律3 第14回 保健投資論 第15回 医療社会学と医用工学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：医用機能材料学			
英文名：Biomedical Functional Materials			
担当者：西川 博昭			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>近年、材料技術の発展によって、人体機能の一部を代替する材料を含む医用材料の開発がいくつに進んでいる。これらの材料を医療において応用する場合には、生体との適合性を理解することがきわめて重要となる。本講義では、まず医用材料の基本的な役割および分類について整理し、その上で代表的な医用材料の特徴と用途を概観する。その後、生体と材料が接触することによる生体反応と材料変化、また医用材料の安全性評価についても学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>金属材料、無機材料、有機材料を含む各種の医用材料を化学的性質と用途などの観点から整理して具体的な実用材料について学習し、それらの特徴を系統的に理解することが本講義の目標である。現在、よく用いられている医用材料は、なぜその用途に適しているのか、他の材料ではどのような不都合が考えられるのか、という点について回答できる知識を積み上げることを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 60% 中間試験 30% 授業時間内に実施する練習問題（各回1から5問程度）10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>中間試験および定期試験の対策をかねて、授業を受けたらその日のうちに講義ノートを十分に整理・復習すること。</p> <p>■教科書</p> <p>堀内 孝、村林 俊「臨床工学シリーズ12 医用材料工学」コロナ社</p> <p>■参考文献</p> <p>中島章夫、氏平政伸 編「臨床工学講座 生体物性・医用材料工学」医歯薬出版 赤池敏宏「バイオテクノロジー教科書シリーズ12 生体機能材料学-人工臓器・組織工学・再生医療の基礎」コロナ社</p> <p>■関連科目</p> <p>材料工学、バイオマテリアル、生体物性工学 など</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>前期 木曜 4限</p> <p>後期 木曜 4限</p> <p>ただし、出張中、会議中を除く</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医用材料の定義 第2回 医用材料一般についての基礎 第3回 医用金属材料の具体例 第4回 具体的な医用金属材料の特徴と用途 第5回 医用無機材料の具体例 第6回 具体的な医用無機材料の特徴と用途 第7回 医用有機材料の具体例1（人工有機材料） 第8回 中間試験と医用有機材料の具体例2（天然有機材料） 第9回 具体的な医用有機材料の特徴と用途 第10回 生体反応および材料変化の概略 第11回 生体反応1（補体活性化反応、血栓反応） 第12回 生体反応2（アレルギー反応、炎症反応） 第13回 生体反応3（組織修復反応、石灰化反応、癌化反応） 第14回 医用材料の安全性評価1（物性試験と化学的試験） 第15回 医用材料の安全性評価2（生物学的試験）</p> <p>定期試験</p>	

科目名：医療情報学			
英文名：Medical Informatics			
担当者：ヤマワキ ノブユキ 山脇 伸行			
単 位：2単位	開講年次：4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>カルテ、医薬品の効果と副作用など医療現場で蓄積されている情報の管理および活用は、適切な治療にとって極めて重要な要素といえる。本講義では、医療情報の構成要素とその管理・活用システムの例を紹介し、そのシステムの作製と運用方法の基礎を説明する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>医療情報の管理および活用方法を理解し、データベースソフトを利用した医療情報システムの作製と運用方法の基礎を学修し、システムの仕組みを推察・開発しうる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>小テスト15回 50% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>教科書の中の講義内容と関連する部分をよく読んで理解を深めてください。</p> <p>■教科書</p> <p>日本医療情報学会医療情報技術師育成部会「新版 医療情報 医療情報システム編」篠原出版新社</p> <p>■参考文献</p> <p>(1) 樺澤一之、豊田修一「医療情報学」共立出版株式会社 (2) 池田正見 他「これからの電子医療情報学」森北出版株式会社</p> <p>■関連科目</p> <p>コンピュータ工学、プログラミング演習</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>水曜1限、5限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医療と情報</p> <p>第2回 コンピュータの基礎</p> <p>第3回 ネットワークの基礎</p> <p>第4回 情報セキュリティ</p> <p>第5回 データベース</p> <p>第6回 医療情報の法的保存条件</p> <p>第7回 病院業務</p> <p>第8回 プライバシー保護・個人情報保護</p> <p>第9回 電子化診療記録に係わる倫理</p> <p>第10回 病院情報システムの構成と機能</p> <p>第11回 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン</p> <p>第12回 電子カルテシステム</p> <p>第13回 医療・福祉・保健を支えるさまざまな情報システム</p> <p>第14回 医学研究情報システム</p> <p>第15回 システムの管理</p> <p>定期試験</p>	

科目名：医用機器学概論			
英文名：Introduction to Medical Instrumentation			
担当者：トクミネ アサコ 徳嶺 朝子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>心電計、脳波計、ペースメーカー、除細動器など各種医療機器についてその構造と動作原理を理解し、それらの臨床医療における役割について学習する。また、それらの医療機器と関連する技術、各種医療機器の特性とそれに起因する取扱上の注意点、医療機器を人体に使用する時に注意すべき点や、医用機器の安全な取扱、保守・管理のポイント、機器の動作不良の見分け方などに繋がる内容にも触れ、専門分野へ進むための導入を狙いとする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>生体信号の特殊性を説明でき、医療現場で用いられる医用機器の特徴などの基本的事項を理解できる。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>小テスト 20% 中間試験 30% 定期試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義で提示する課題には積極的に取り組んでください。</p> <p>■教科書</p> <p>小野哲章 他編「臨床工学技士標準テキスト(第2版)」金原出版(2012)</p> <p>■参考文献</p> <p>監修：(一社)日本ME学会ME技術教育委員会「MEの基礎知識と安全管理(改訂第6版)」南江堂(2014)</p> <p>■関連科目</p> <p>医用工学概論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>木曜2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 医用機器とは</p> <p>第2回 医用機器の基礎(1)「生体の信号」</p> <p>第3回 医用機器の基礎(2)「生体への刺激」</p> <p>第4回 循環器系のパラメータ</p> <p>第5回 呼吸器系のパラメータ</p> <p>第6回 神経系・代謝系のパラメータ</p> <p>第7回 医療機器のモニタおよび中間試験</p> <p>第8回 医用機器の安全管理</p> <p>第9回 生体電気現象を測定する機器(1)「心電計」</p> <p>第10回 生体電気現象を測定する機器(2)「心電図モニタ、ホルタ心電計等」</p> <p>第11回 診断機器(1)「パルスオキシメータ」</p> <p>第12回 診断機器(2)「観血式血圧計」</p> <p>第13回 診断機器(3)「非観血式血圧計」</p> <p>第14回 治療機器(1)「除細動器」</p> <p>第15回 治療機器(2)「電気メス」</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 生体計測装置学			
英文名： Biomedical Measurements and Instrumentation			
担当者： <small>カトウ ノブヒロ</small> 加藤 暢宏			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 生体情報を正確に取得し、正しく解析することは適切な治療にとって欠かすことのできない重要な技術である。本講義では、臨床工学技士がその操作及び維持管理に関わる、血圧・血液、呼吸、体温などの計測を行う各種装置の原理について学ぶ。また、超音波、X線などを用いた各種画像計測、検体検査などの原理と特徴について簡単に述べる。これらを通して、生体計測装置の工学的側面に関する十分な知識を習得する。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 血圧計 第2回 血流計 第3回 心拍出量計 第4回 スワングアンツカテーター／小テスト(1) および問題解説 第5回 呼吸の計測(1) スパイロメーター 第6回 呼吸の計測(2) 呼吸モニター 第7回 血液ガスの計測 第8回 体温計測／小テスト(2) および問題解説 第9回 超音波画像計測(1) 第10回 超音波画像計測 (2) 第11回 超音波治療法／小テスト(3) および問題解説 第12回 X線による画像計測 第13回 RIによる画像計測／核磁気共鳴画像計測 第14回 内視鏡／検体検査 第15回 生体計測装置学総括／小テスト(4) および問題解説 定期試験	
■学習・教育目標および到達目標 (1) 生体計測の基礎が理解できる。 (2) 医療現場で用いられる生体計測装置の構造と機能が理解できる。 (3) 生体計測に関する応用技術が理解できる。			
■成績評価方法および基準 定期試験 80% 小テスト 20%			
■授業時間外に必要な学修 2回の小テストを予定しています。教科書の各項目ごとに示されている参考文献などを参考にして、講義内容を深掘りしてください。			
■教科書 石原 謙 編著「臨床工学講座 生体計測装置学」医歯薬出版株式会社			
■参考文献 橋本成広 著「生体計測工学入門」コロナ社			
■関連科目 計測工学、医用治療機器学、信号処理			
■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 加藤暢宏研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp			
■オフィスアワー 月曜1限			

科目名： 臨床医学総論 I			
英文名： Introduction to Clinical Medicine 1			
担当者： <small>マサキ ヒデアキ ヒライデ アツシ ナカオ シンイチ フルカワ ヒロシ タケヤマ ヨシフミ</small> 正木 秀幸・平出 敦・中尾 慎一・古河 洋・竹山 宜典			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 対象となる疾患、病態の診断や治療、予防に対する知識を持たずに医療機器を用いることは不可能である。そこで、臨床医学の基本的事項を幅広く理解するために、臨床的に重要な疾患と病態の把握に重点を置いて、各疾患の診断及び治療法について学修する。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 内科学的疾患へのアプローチ 第2回 症候と病態生理 第3回 全身性疾患の病態生理 第4回 応急・救急処置 第5回 ホルモンと内分泌疾患 第6回 外科的侵襲に対する反応 第7回 基本的手術手技 第8回 創傷処置 第9回 消毒・滅菌 第10回 術前・術中管理 第11回 術後管理 第12回 外傷・熱傷 第13回 麻酔 第14回 救急医療 第15回 臨床医学と医用工学 定期試験	
■学習・教育目標および到達目標 臨床工学技士として必要な内科学及び外科学の基礎的事項を修得する。			
■成績評価方法および基準 定期試験 100%			
■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。			
■教科書 適時プリント配付。			
■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012)			
■関連科目 解剖学、生理学、病理学			
■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 正木研究室 (東1号館1-118)・masaki@waka.kindai.ac.jp			
■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。			

科目名： 生体機能代行装置学 I			
英文名： Artificial Organs I			
担当者： <small>ニシテ ヨシアキ フクダ マコト</small> 西手 芳明・福田 誠			
単 位： 4単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 臨床工学技士として医療現場で最も重要な役割は、生命維持に必要な生体機能を代行する医用機器の使用、保守や管理を行うことである。特に、呼吸療法装置、体外循環装置・補助循環装置、血液透析（浄化）装置は、重要な生体機能代行装置である。本科目では、呼吸療法装置に関して、呼吸の原理、人工呼吸療法、人工呼吸器の構造・構成、高気圧療法などについて学習する。また、機器の構造と原理を学習することで、医療機器の開発や設計を行なうことができる能力も養う。</p> <p>授業方法： 板書およびスライド(パワーポイント)を使用します。適宜資料を配付。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生命維持管理装置である呼吸療法装置について機器の構造と原理が理解でき、呼吸療法と医療機器について、説明ができるようにする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 10% 中間試験 30% 授業中の発表 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習のあり方： 次回授業に関する教科書を精読して内容を理解しておく。疑問点など整理しておく。 復習のあり方： 板書やスライドをノートにメモしたり書き込んだりして、自分だけのノートを作成する。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012）</p> <p>■参考文献 廣瀬 稔、生駒俊和 編集「臨床工学講座 生体機能代行装置学 呼吸療法装置」医歯薬出版株式会社（2011）</p> <p>■関連科目 医用機器学概論、医用治療機器学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 福田研究室（東1号館1階120）・fukuda@waka.kindai.ac.jp 西手研究室（東1号館2階218）・menisite@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜 2限と 3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 呼吸療法とは 第2回 呼吸系の生理と病態 第3回 呼吸不全の病態と管理 第4回 気道確保と気道管理 第5回 呼吸療法装置 第6回 人工呼吸器の原理と構造 1 第7回 人工呼吸器の原理と構造 2 第8回 医療ガスの基礎 第9回 酸素療法 第10回 高気圧酸素治療装置 第11回 人工呼吸とその適応 第12回 各種人工呼吸様式 第13回 患者管理1（気道内圧、流量測定） 第14回 患者管理2 第15回 呼吸不全における全身管理 / 中間試験</p> <p>第16回 新生児・乳幼児の人工呼吸管理 第17回 周辺医用機器の原理と取り扱い 第18回 人工呼吸中のモニタ1 第19回 人工呼吸中のモニタ2 第20回 人工呼吸管理の実際1（人工呼吸器の設定1） 第21回 人工呼吸管理の実際2（人工呼吸器の設定2） 第22回 人工呼吸管理の実際3（人工呼吸器の監視設定） 第23回 気管内吸引操作 第24回 在宅呼吸管理 第25回 保守点検技術1（日常点検、定期点検） 第26回 保守点検技術2（消毒と洗浄） 第27回 事故事例と安全対策1 第28回 事故事例と安全対策2 第29回 新しい機器技術1 第30回 新しい機器技術2</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 医用治療機器学			
英文名： Therapeutic Devices			
担当者： <small>フルゾノ ツトム</small> 古蘭 勉			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 治療機器は、進歩が著しく、様々な臨床医学の分野で使われている。この科目では、治療の意義と目標、治療に用いるエネルギーの種類や生体での作用について学習する。また、種々の治療機器（電気メス、心臓ペースメーカー、除細動器、内視鏡機器、レーザー手術装置など）の原理や構造、適応疾患についても学習する。これらの学習を通して、治療用機器の操作、保守管理の基本方針を熟知させると同時に、医療機器の開発に必要な関連知識を修得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 実際に臨床で用いられている医療機器について、(1) 病態と基礎知識、(2) 作動原理、(3) 機器の特徴、(4) 使用方法、(5) 保守管理手技について理解・習得することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 中間試験 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で学んだことと実習にて習得したことを比較検討し、その理解を深め次週以降に疑問があれば教員に質問すること。</p> <p>■教科書 日本臨床工学技士教育施設協議会（監）「臨床工学講座 医用治療機器学」医歯薬出版（2013）</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012）</p> <p>■関連科目 生体機能代行装置学 I・II・IIIを受講することが望ましい。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して実施。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 古蘭研究室(10号館1階116)・fuzuzono@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜 2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 治療の基礎と分類 第2回 ペースメーカーの原理と医学的基礎 第3回 ペースメーカーの機能と生理的ペーシング 第4回 ペースメーカーの保守点検 第5回 除細動器の原理と医学的基礎 第6回 除細動器の種類と内部回路 第7回 除細動器の保守点検 第8回 電気メスの原理と医学的基礎、中間試験 第9回 電気メスの種類と内部回路 第10回 電気メスの保守点検 第11回 マイクロ波手術装置の原理と医学的基礎 第12回 マイクロ波手術装置の種類と内部回路 第13回 マイクロ波手術装置の保守点検 第14回 レーザー手術装置の原理と医学的基礎 第15回 レーザー手術装置の運用と保守点検</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 臨床医学総論Ⅱ			
英文名： Introduction to Clinical Medicine 2			
担当者： <small>マサキ ヒデアキ</small> 正木 秀幸			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
■授業概要・方法等 対象となる疾患、病態の診断や治療、予防に対する知識を持たずに医療機器を用いることは不可能である。そこで、臨床医学の基本的事項を幅広く理解するために、臨床的に重要な疾患と病態の把握に重点を置いて、消化器系組織、呼吸器系組織、ならびに血液の疾患と、それらに対する治療法について解説する。 ■学習・教育目標および到達目標 消化器系組織、呼吸器系組織、ならびに血液の疾患と、それらに対する治療法について、臨床工学技士として必要な基礎的事項を修得する。 ■成績評価方法および基準 定期試験 100% ■授業時間外に必要な学修 講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。 ■教科書 特になし。 ■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012) ■関連科目 解剖学、生理学、病理学 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 正木研究室 (東1号館1-118)・masaki@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 消化器1：上部消化管疾患 第2回 消化器2：下部消化管疾患 第3回 消化器3：肝疾患 第4回 消化器4：脾・腹膜疾患 第5回 呼吸器1：感染症 第6回 呼吸器2：呼吸器腫瘍 第7回 呼吸器3：閉塞性・拘束性肺疾患 第8回 呼吸器4：呼吸不全 第9回 呼吸器5：肺循環障害 第10回 呼吸器6：その他の呼吸器疾患 第11回 血液1：赤血球系 第12回 血液2：白血球系 第13回 血液3：リンパ系疾患 第14回 血液4：出血性素因 第15回 総括講義 定期試験	

科目名： 生体機能代行装置学Ⅱ			
英文名： Artificial Organs 2			
担当者： <small>フクダ マコト ニシテ ヨシアキ</small> 福田 誠・西手 芳明			
単 位： 4単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
■授業概要・方法等 対象となる疾患、病態の診断や治療、予防に対する知識を持たずに医療機器を用いることは不可能である。そこで、臨床医学の基本的事項を幅広く理解するために、各疾患の診断及び治療法について学習した上で、その際に必要となる医療機器の使用法と対応させて学ぶ。これにより、各疾患の知識とそれに対して臨床工学技士が果たすべき役割を有機的に結びつけた知識が習得できる。本科目では、血液浄化療法の装置に関して、原理、治療法と共に構造、構成について学習する。 授業方法：板書およびスライド（パワーポイント）を使用します。適宜資料を配付。 ■学習・教育目標および到達目標 対象疾患に対する血液浄化の治療方法を理解し、装置の操作および保守点検が行える。血液浄化装置の操作および保守点検について説明ができるようになる。 ■成績評価方法および基準 定期試験 50% 小テスト 10% 中間試験 30% 授業中の発表 10% ■授業時間外に必要な学修 予習のあり方：次回授業に関する教科書を精読して内容を理解しておく。疑問点など整理しておく。 復習のあり方：板書やスライドをノートにメモしたり書き込んだりして、自分だけのノートを作成する。 ■教科書 ・日本臨床工学技士教育施設協議会 監修 竹澤真吾、出淵靖志 編集「臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」医歯薬出版 2010年 ・透析療法合同専門委員会 編集「血液浄化療法ハンドブック」[改訂第6版]株式会社協同医書出版社 2011年 ■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012) ■関連科目 医用機器学概論、医用治療機器学 ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 福田研究室 (1号館1階120)・fukuda@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 木曜2限と3限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 血液浄化療法1 (目的) 第2回 血液浄化療法2 (原理) 第3回 血液浄化療法3 (分類) 第4回 血液浄化療法4 (血液浄化器) 第5回 血液浄化の導入基準 第6回 血液浄化の原理と構成1 第7回 血液浄化の原理と構成2 第8回 血液浄化の原理と構成3 第9回 血液浄化の原理と構成4 第10回 血液浄化技術1 第11回 血液浄化技術2 第12回 血液浄化技術3 第13回 周辺機器の原理と取り扱い1 第14回 周辺機器の原理と取り扱い2 第15回 周辺機器の原理と取り扱い3 / 中間試験 第16回 患者管理1 (バスキュラーアクセス) 第17回 患者管理2 (合併症) 第18回 安全管理 第19回 事故事例と安全対策1 第20回 事故事例と安全対策2 第21回 保守点検技術1 第22回 保守点検技術2 第23回 保守点検技術3 第24回 持続的血液浄化療法 第25回 腹膜透析 第26回 その他の血液浄化療法1 (吸着療法) 第27回 その他の血液浄化療法2 (膜分離療法) 第28回 その他の血液浄化療法3 (在宅血液透析) 第29回 新しい機器・技術 第30回 腎移植 定期試験	

科目名：臨床医学総論Ⅲ			
英文名：Introduction to Clinical Medicine 3			
担当者：マサキ ヒデアキ アリマ シュウジ ナカモト ススム ヒラノ ユタカ ミイ ヨシユキ モリタ マサノリ 正木 秀幸・有馬 秀二・中本 進・平野 豊・三井 良之・森田 正則			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>対象となる疾患、病態の診断や治療、予防に対する知識を持たずに医療機器を用いることは不可能である。そこで、臨床医学の基本的事項を幅広く理解するために、臨床的に重要な疾患と病態の把握に重点を置いて、腎臓泌尿器系組織、循環器系組織、神経系組織の疾患ならびに感染症について、それらに対する治療法も含めて学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>腎臓泌尿器系組織、循環器系組織、神経系組織の疾患ならびに感染症について、それらに対する治療法を含めて、臨床工学技士として必要な基礎的事項を修得する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義では最低限必要な基礎的事項のみを教授することになる。より発展的な内容に関しては、各自で教科書・参考書などを使用して学習すること。疑問点があれば教員への質問を積極的に行ってください。</p> <p>■教科書</p> <p>適時プリント配付。</p> <p>■参考文献</p> <p>小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012)</p> <p>■関連科目</p> <p>解剖学、生理学、病理学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>正木研究室 (東1号館1-118)・masaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 腎臓・泌尿器1：糸球体疾患・感染症</p> <p>第2回 腎臓・泌尿器2：急性腎不全</p> <p>第3回 腎臓・泌尿器3：慢性腎不全</p> <p>第4回 腎臓・泌尿器4：電解質異常</p> <p>第5回 腎臓・泌尿器5：腎腫瘍</p> <p>第6回 腎臓・泌尿器6：尿路・前立腺疾患</p> <p>第7回 循環器1：血圧異常と動脈硬化</p> <p>第8回 循環器2：動・静脈疾患</p> <p>第9回 循環器3：先天性心疾患・弁膜症</p> <p>第10回 循環器4：虚血性心疾患・不整脈</p> <p>第11回 神経1：血管障害・腫瘍</p> <p>第12回 神経2：変性疾患</p> <p>第13回 感染症1：細菌・真菌感染症</p> <p>第14回 感染症2：ウイルス・原虫感染症</p> <p>第15回 臨床医学と医用工学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：生体機能代行装置学Ⅲ			
英文名：Artificial Organs 3			
担当者：トクミネ アサコ ニシガキ タカユキ 徳嶺 朝子・西垣 孝行			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>生体機能代行装置である人工心肺について理解する。人工心肺を用いた心臓手術・大血管手術においてその操作の多くは臨床工学技士が担っている。生命に直結する人工心肺を操作するには、人工心肺の理論及び病態の基礎知識が求められる。本講義では、人工心肺のデバイス、原理、構成の基礎理論と実際、人工心肺における病態生理等を学ぶ。また、補助循環、安全管理についても学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>人工心肺システムの機器の構成を理解するとともに、適正灌流量の概念等について理解・説明できる。人工心肺操作の流れを説明でき、安全対策についても理解する。さらに対象となる疾患の病態についても知識を習得する。また、補助体外循環の原理構造についても説明できることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>確認試験 30%</p> <p>定期試験 70%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>講義で学んだことと実習にて理解したことを比較検討し、その理解を深め次週以降に質問があれば教員に質問してください。</p> <p>■教科書</p> <p>上田裕一 編「最新 人工心肺〔第4版〕 理論と実際」名古屋大学出版会 (2011)</p> <p>■参考文献</p> <p>見目恭一 編「臨床工学講座 生体機能代行装置学体外循環装置」医師薬出版株式会社 (2012)</p> <p>■関連科目</p> <p>生体機能代行装置学実習</p> <p>生体機能代行装置学Ⅰ・Ⅱを受講することが望ましい。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>木曜2限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 人工心肺開発の歴史</p> <p>第2回 血液ポンプ</p> <p>第3回 人工肺</p> <p>第4回 人工心肺の構成回路ならびに生体との接続</p> <p>第5回 標準的開心術</p> <p>第6回 体外循環とモニタ</p> <p>第7回 体外循環の適正灌流量・血液希釈</p> <p>第8回 低体温体外循環法</p> <p>第9回 体外循環の病態生理</p> <p>第10回 心筋保護法とその注入回路</p> <p>第11回 人工心肺操作の実際、確認試験</p> <p>第12回 人工心肺の安全管理</p> <p>第13回 人工心肺の事故対策</p> <p>第14回 補助循環</p> <p>第15回 体外循環をめぐる問題</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 医用機器安全管理学 I			
英文名： Management for Safety of Medical Devices 1			
担当者： <small>トクミネ アサコ</small> 徳嶺 朝子			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
■授業概要・方法等 医用機器全般において、その安全管理と事故防止は臨床工学技士として重要な役割である。そこで、患者及び臨床工学技士本人を含む医療チーム構成員の安全が確保されるよう、電気や磁気等の安全管理に対する基礎知識について学習する。本講義では、各種のエネルギーに対する生体の反応、医用機器、病院設備の安全基準や医療事故防止の方法及び考え方に重点をおく。 ■学習・教育目標および到達目標 安全管理の重要性を理解し、生体の電撃に対する特性・電氣的安全対策・個々の医療機器の安全対策などについて説明できる。 ■成績評価方法および基準 小テスト 20% 中間試験 30% 定期試験 50% ■授業時間外に必要な学修 講義で提示する課題等に積極的に取り組んでください。 ■教科書 監修：(一社)日本ME学会ME技術教育委員会「MEの基礎知識と安全管理(改訂第6版)」南江堂(2014) ■参考文献 小野哲章 他編「臨床工学技士標準テキスト(第2版)」金原出版(2012) ■関連科目 医用機器学概論、医用治療機器学、医用機器安全管理学 II ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 木曜2限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 ME総論 第2回 MEに必要なヒトの構造を機能 第3回 MEの基礎となる生体物性(1) 第4回 MEの基礎となる生体物性(2) 第5回 ME機器・設備の安全管理(1) 第6回 ME機器・設備の安全管理(2) 第7回 生体の計測法と生体計測機器 第8回 生体の治療と治療機器 第9回 総合演習(1)および中間試験 第10回 医療機器の取扱と保守(1)「脳波計、筋電図等」 第11回 医療機器の取扱と保守(2)「心電計、心電図モニタ」 第12回 医療機器の取扱と保守(3)「血圧計」 第13回 医療機器の取扱と保守(4)「血流計」 第14回 医療機器の取扱と保守(5)「呼吸計測装置」 第15回 総合演習(2) 定期試験	

科目名： 医用機器安全管理学 II			
英文名： Hazard and Safety in Medical Devices 2			
担当者： <small>フクダ マコト イマモト ハルヒコ</small> 福田 誠・今本 治彦			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
■授業概要・方法等 各種医用機器の安全管理と事故防止はもちろん、患者及び臨床工学技士本人を含む医療チーム構成員の安全が確保されるよう、電気や磁気、高圧ガスを含めた安全管理に対する基礎知識について学習する。本科目では医用機器安全管理学Iに続いて、各種のエネルギーに対する生体の反応やその安全限界を学ぶ。さらに、医用機器の分類、安全・保守管理、病院設備の安全基準、漏れ電流、設置・保護、医療ガス、システム安全など、安全な医療システムを構築する際に必要な知識を学習する。 ■学習・教育目標および到達目標 個々の医療機器の原理構造、操作運用および保守安全対策について習得することを目標とする。 臨床工学技士国家試験への準備は勿論、当該年次での第2種ME技術実力検定試験の合格を目標とする。 ■成績評価方法および基準 定期試験 60% 中間試験 40% ■授業時間外に必要な学修 授業で学んだことと実習にて習得したものと比較検討し、その理解を深め次回以降に疑問があれば教員に質問すること。 ■教科書 日本臨床工学技士教育施設協議会(監)「臨床工学講座 医用治療機器学」医歯薬出版、 (社)日本生体医工学会ME技術教育委員会(監)「MEの基礎知識と安全管理」南江堂 ■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版(増補版)」金原出版 ■関連科目 医用治療機器学、医用機器安全管理学 I ■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。 ■研究室・E-mailアドレス 福田研究室(東1号館1階120)：fukuda@waka.kindai.ac.jp ■オフィスアワー 火曜5限、金曜4限		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 内視鏡の基礎 第2回 内視鏡の原理と実際 第3回 内視鏡の安全管理 第4回 超音波治療機器の基礎 第5回 超音波治療機器の原理と実際 第6回 超音波治療機器の安全管理 第7回 超音波治療機器の安全管理 第8回 熱治療機器の原理と実際、中間試験 第9回 熱治療機器の安全管理 第10回 機械的治療機器の基礎 第11回 機械的治療機器の原理と実際 第12回 機械的治療機器の安全管理 第13回 インターベンションの基礎、実際および安全管理 第14回 吸引器の基礎、実際および安全管理 第15回 安全管理技術：安全管理体制、安全管理責任者等 定期試験	

科目名： 医用機器設計工学			
英文名： Biomedical Functional Materials			
担当者： <small>クスノキ マサノブ カトウ ノブヒロ ワタナベ トシアキ</small> 楠 正暢・加藤 暢宏・渡辺 俊明			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 電気工学や電子工学、機械工学などの専門科目で学んだ知識を、新規な医用機器設計に応用するための能力を養うために、各種の医用機器で用いられている既存技術を例として学ぶ。これにより、臨床で要求されている機器を設計するための能力を養う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 個々に学んだ専門科目の知識を有機的に結びつけることで、現実動作する医用機器を設計するための知識を得ることを目指す。各種の医用機器で用いられている既存技術と原理、その応用方法について学び、設計手法を身につける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 小テスト 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 身の回りの電化製品や機械製品の仕組みや働きを常に観察し、エンジニアがどのような創意工夫を盛り込んでいるのかを想像力たくましく考察しておくこと。</p> <p>■教科書 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 「新機械工学便覧」理工学社</p> <p>■関連科目 電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱ、電気電子工学実習、機械工学、システム工学実習、メカトロニクス</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 楠研究室(東1号館3階301)・kusu@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 渡辺：講師控室 (2号館2階254)・watanabe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 設計とは？ 第2回 電気設計1 第3回 電気設計2 第4回 電気設計3 第5回 電気設計の総括講義と中間試験 第6回 シークエンス設計1 第7回 シークエンス設計2 第8回 シークエンス設計3 第9回 シークエンス設計の総括講義と中間試験 第10回 機械設計1 第11回 機械設計2 第12回 機械設計3 第13回 機械設計の総括講義と中間試験 第14回 医療機器の設計 第15回 医療機器の安全対策基準</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 専門ゼミ			
英文名： Subject Seminar			
担当者： <small>イヨウコウガクカゼンキョウイン</small> 医用工学科全教員			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 医療業務、機器開発、研究などの活動をする上で必要な課題の設定の仕方、情報の収集・調査・整理の仕方、プレゼンテーションの仕方を発展させる。また、課題を解決する過程から生まれる、新しい目標やテーマの発見に必要な論理的な考え方を学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 情報の収集・調査・整理、報告書作成、プレゼンテーション技術を身につけ、医師、看護師、薬剤師らとともにチーム医療の一員として臨床工学士の業務を行うために必要な知識や能力を身に付けることを目標とする。さらに、医療機器設計技術者にとって必要な発想力や倫理的思考の修得を目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 50% プレゼンテーション 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 レポート作成やプレゼンテーションを実施するために必要な情報を、文献調査などを行って収集すること。</p> <p>■教科書 予習は必ずしもする必要はない。ノートの内容を完全に理解するまで復習に時間を割くこと。また、ほぼ毎回宿題を課すので、自分で解く力を身につけること。</p> <p>■参考文献 各課題ごとに適当な参考書を指示する。</p> <p>■関連科目 基礎ゼミ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス (代表) 古菌研究室 (10号館1階116)・furuzono@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 機能材料工学 第2回 電子工学 第3回 固体化学・材料化学 第4回 臨床生化学 第5回 生体医学 第6回 生体力学 第7回 生体計測工学 第8回 臨床医学 第9回 微細加工・微小流体工学・計測工学 第10回 解剖学 第11回 医用材料工学・人工臓器学・血液浄化学 第12回 生体代行装置学 第13回 臨床工学 第14回 病理学 第15回 医用工学</p>	

科目名： 応用数学演習			
英文名： Exercises of Applied Mathematics			
担当者： ヤマモト エイ マツモト トシロウ 山本 衛・松本 俊郎			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 医療工学・臨床工学における専門科目の講義では、微積分学、解析学、確率統計学などの基礎的な法則や計算手法を基礎に進められることも少なくない。従って、応用数学の基本知識を欠いては、専門科目の理解が不十分になる可能性が極めて高い。そこで本講義では、医用工学科の専門科目の理解を深める上で、必要な応用数学に関する事項について学習する。演習形式を主体に講義をすすめ、学生自らの力で考えて問題を解く機会を多く与えることにより、応用数学についての基礎的知識の獲得と、計算技術の習熟をはかる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 この講義では、微分方程式、フーリエ解析、確率論の理論と手法について、その数学的な基礎を十分に身につけ、医療工学分野の問題に対応できる計算力を身につけることを目指す。今後、より応用的な問題解決の必要が生じたときに十分対応できるような数学的な基礎知識を身につけることを重点に、医療工学の分野であられる実際の問題についても演習を交えて学習することで、臨床工学技士や医療機器設計エンジニアとして不可欠な知識を養う。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 教科書に掲載されている演習問題の中で、講義中に取りあげなかった問題については、講義で説明した例題を参考にして各自で解答してください。</p> <p>■教科書 西村千秋 著「臨床工学シリーズ 5 応用数学」コロナ社</p> <p>■参考文献 プリント資料を配付する。</p> <p>■関連科目 応用数学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 松本：講師控室(2号館2階254)・matumoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 山本：月曜 1 限 松本：当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 臨床工学と数学 第2回 演習：集合 第3回 演習：論理関数 第4回 演習：関数の極限と連続性 第5回 演習：導関数 第6回 演習：微分法の基礎定理 (1) 第7回 演習：微分法の基礎定理 (2) 第8回 演習：高次導関数とテイラーの定理 第9回 演習：マクローリンの展開式 第10回 演習：偏微分 第11回 演習：積分法 (1) 第12回 演習：積分法 (2) 第13回 演習：微分方程式 第14回 演習：フーリエ変換 第15回 演習：確率と統計</p>	

科目名： 電気電子工学実習			
英文名： Practice of Electrical and Electronic Engineering			
担当者： ホンツ シゲキ クスノキ マサノブ ヤマワキ ノブユキ ニシカワ ヒロアキ ワタナベ トシアキ 本津 茂樹・楠 正暢・山脇 伸行・西川 博昭・渡辺 俊明			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 電気・電子工学の基礎的事柄について、実験を通じて現象の物理的なとらえ方や原理などを学ぶ。また、測定器に関する原理、使用法などを身につけることで、医用機器の操作、理解への基礎を築く。さらに、実験の計画、実行、データ処理と評価という一連の流れを理解したうえで、測定結果のまとめ方、表やグラフの描き方、レポートの書き方などを習得し、技術者としての基本的な素養を身につけることを目的とする。授業においては、少人数のグループに分かれて各自が実際に機器に触れ、実験や測定を行うことで、チームの協働で学びを深めるとともに、「チームで働く力」を身に付ける。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 電気回路に関する1テーマ、アナログ電子回路に関する1テーマ、デジタル電子回路に関する1テーマ、計測に関する2テーマ、合計5テーマの実験をそれぞれ3週間にわたって行い、期限内にレポートを作成する訓練を行う。また、各テーマごとに担当教員から基礎原理の理解度、レポートの完成度について指導を受け、技術者としての基本的な素養を身につけること、および将来の卒業研究に備えることを目的とする。 実験テーマ：1. オシロスコープ、2. LC共振回路、3. オペアンプ、4. 論理素子、5. 計測値の制度と誤差処理および電気抵抗値測定への応用。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート (全5テーマでそれぞれ平均A4用紙15枚程度) 50% 実験実技 (機器の使用法、データ採録やグラフ作成の方法について、実験中に口頭試問) 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 各回の実習の目的と原理、機器の操作方法を含む実験手順と内容を事前に十分理解してから毎回の実習に臨むこと。また終了後は翌週までにレポートを提出するため、授業時間外にレポートを作成する必要がある。</p> <p>■教科書 医用工学科 編「電気電子工学実習テキスト」</p> <p>■参考文献 南谷晴之 著「臨床工学シリーズ 20 電気・電子工学実習」 コロナ社</p> <p>■関連科目 電気工学Ⅰ・Ⅱ、電子工学Ⅰ・Ⅱ、電気電子工学、システム工学実習 など</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@waka.kindai.ac.jp 楠研究室 (東1号館3階310)・kusu@waka.kindai.ac.jp 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp 西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp 渡辺：講師控室(2号館2階254)・watanabe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 教務システムのオフィスアワー一覧を参照してください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 実験ガイダンス・実験テーマ1：オシロスコープ (説明) 第2回 実験テーマ1：オシロスコープ (実習) 第3回 実験テーマ1：オシロスコープ 報告書提出・指導 第4回 実験テーマ2：LC共振回路 (説明) 第5回 実験テーマ2：LC共振回路 (実習) 第6回 実験テーマ2：LC共振回路 報告書提出・指導 第7回 実験テーマ3：オペアンプ (説明) 第8回 実験テーマ3：オペアンプ (実習) 第9回 実験テーマ3：オペアンプ 報告書提出・指導 第10回 実験テーマ4：論理素子 (説明) 第11回 実験テーマ4：論理素子 (実習) 第12回 実験テーマ4：論理素子 報告書提出・指導 第13回 実験テーマ5：計測値の制度と誤差処理および電気抵抗値測定への応用 (説明) 第14回 実験テーマ5：計測値の制度と誤差処理および電気抵抗値測定への応用 (実習) 第15回 実験テーマ5：計測値の制度と誤差処理および電気抵抗値測定への応用 報告書提出・指導</p>	

科目名： 基礎医学実習			
英文名： Practice of basic Medicine in Clinical Engineering			
担当者： <small>ヨシダ コウジ ヤマワキ ノブユキ カトウ ノブヒロ ヤマモト エイ フクダ マコト マサキ ヒデユキ</small> 吉田 浩二・山脇 伸行・加藤 暢宏・山本 衛・福田 誠・正木 秀幸			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 基礎医学実習では、人体の構造と機能に関する実習を行う。解剖学と病理学は共に医学において人体を理解する基礎であるとともに、疾患を形態学的に理解するために重要な項目である。人体の機能の理解のために、生体情報を電氣的に取り出し、その意味を理解する実習を行う。人体各部の形態・形状・位置などをマクロ的に観察したうえで理解できるようになること、ならびに正常組織の微細構造を理解できるようになることを目標とする。また、臨床現場で必要となる基本的な生体情報の取得技術とその解釈法、薬品の取り扱い、無菌操作などについても習得する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 臨床医学との関連を意識しながら、解剖学と生理学に関する基礎的事項を実験・実習を通してより深く理解することが、本科目の目標である。また、臨床工学技士として修得しなければならない操作・技術を体験し、今後学習する応用科目の基礎を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 レポートを作成するために必要な知識を、各実験テーマと対応する講義科目の教科書などを使って学習すること。</p> <p>■教科書 「基礎医学実習」医用工学科編を配付する。</p> <p>■参考文献 各課題ごとに適当な参考書を指示する。</p> <p>■関連科目 解剖学、生理学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 吉田研究室 (10号館1-117)・kojiy@waka.kindai.ac.jp 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 福田研究室 (東1号館1階120)・fukuda@waka.kindai.ac.jp 松本(後)：講師控室(2号館2階254)・matumoto@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 組織観察1 (循環器、呼吸器) 第3回 組織観察2 (消化器、代謝系臓器) 第4回 解剖1 (医学部で実施予定) 第5回 解剖2 (医学部で実施予定) 第6回 解剖3 (医学部で実施予定) 第7回 解剖4 (医学部で実施予定) 第8回 組織標本の観察1 (正常組織-循環器、呼吸器) 第9回 組織標本の観察2 (正常組織-消化器、代謝系臓器) 第10回 体温、血圧、呼気中酸素濃度の計測 第11回 脳波の計測 第12回 細胞培養の手技 第13回 培養細胞の観察 第14回 尿成分、血液成分の測定 第15回 全範囲のまとめと復習、実習レポートの指導</p>	

科目名： プログラミング演習			
英文名： Exercises of Computer Programming			
担当者： <small>ヤマワキ ノブユキ</small> 山脇 伸行			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 コンピュータプログラムは各種医療用計測器、医療情報システムの構成要素の一つであるため、プログラミングに関する知識は医療関連機器の取扱方法を理解し、さらにその開発に従事する場合に必要な。本演習では、初等的なプログラミング能力の習得を目的とし、アルゴリズムの基礎に始まり、プログラミングの具体的方法に至るまでを学習する。ここでは、学生個々が実際にプログラムを作成し動作を確認しながらプログラミングの考え方を学習していく。学習項目としては、制御構造、データ構造、プログラムの構造化と関数定義の習得などを中心とする。なお、特定プログラミング言語の仕様には依存した部分には重点を置かず、多くの言語で共通に用いられる基本的な考え方を学習することを主眼とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 分岐処理や繰り返し処理などのプログラミングの基本からはじめ、データを分析しグラフ化するプログラムの作成までを行い、プログラミング方法を習得する。データに対して簡単な分析を行い、その結果をグラフ化するプログラムの作成を通してプログラミング方法を習得し、さらにその作成過程でプログラムミスを見つけて修正できる力などプログラミングの素養を身に付けることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート15回 (作成したプログラムの実行画面とコードをレポートにまとめて提出) 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 演習で伝えるマイクロソフト社のWebページで、演習内容と関連する部分をよく読んで理解を深めてください。授業時間外学修時間の目安は復習と宿題に2時間です。</p> <p>■教科書 プリント配付</p> <p>■参考文献 山住富也、森 博、小池慎一「理系のための Visual Basic 2005実践入門」技術評論社</p> <p>■関連科目 コンピュータ工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 山脇研究室(東1号館4階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜 1 限、5 限</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 Visual Basicの使い方 第2回 データ型、演算子 第3回 制御構文 (条件分岐、ループ) 第4回 配列、データの並べ替え、データの表示 第5回 2次元グラフの表示 第6回 データの最大値と最小値を探すプログラム 第7回 フォーリエ級数展開された関数のグラフ化 (偶関数) 第8回 フォーリエ級数展開された関数のグラフ化 (奇関数) 第9回 心電図データのグラフ化 第10回 3次元グラフの表示 第11回 画像ファイルの使用方法 第12回 生体情報の解析プログラム (1)(フーリエ変換 第13回 生体情報の解析プログラム (2)(フーリエ逆変換) 第14回 生体情報の解析プログラム (3)(フィルタ) 第15回 生体情報の解析プログラム (4)(脳波、心電図の解析</p>	

科目名：システム工学実習			
英文名：Practice in system engineering			
担当者：クスノキ マサノブ カトウ ノブヒロ ヤマト エイ フクダ マコト ワタナベ トシアキ 楠 正暢・加藤 暢宏・山本 衛・福田 誠・渡辺 俊明			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 臨床現場で用いられている医療機器の多くには制御・通信機能が組み込まれている。その基本的な仕組みを理解するためには、実際に制御・通信操作を体験するのが望ましい。そこで、本演習では代表的な制御方式を使用する機器に触れ、温度、電気信号、変位などの制御ならびに機器間の通信の実際を学修する。各テーマ毎にレポートの提出が義務づけられる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は実際の機器を使い実習を行うことで、臨床工学技士の国家試験問題の出題範囲のうち、情報処理工学分野の大項目「電子計算機」の中項目(3) ネットワークに関する知識、大項目「情報処理」中項目(2) 信号処理に関する知識、ならびにシステム工学分野の大項目「システムと制御」に関する理解を深める。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 実習レポートを計画的に作成すること。</p> <p>■教科書 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■関連科目 電気電子工学実習、制御工学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 楠研究室 (東1号館3階310)・kusu@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 福田研究室 (1号館1階120)・fukuda@waka.kindai.ac.jp 渡辺：講師控室(2号館2階254)・watanabe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 フィードバック制御 1 第2回 フィードバック制御 2 第3回 フィードバック制御 3 第4回 2次系システムの応答 1 第5回 2次系システムの応答 2 第6回 2次系システムの応答 3 第7回 ロボットキットの制御 1 第8回 ロボットキットの制御 2 第9回 ロボットキットの制御 3 第10回 シーケンサーに関する実習 1 第11回 シーケンサーに関する実習 2 第12回 シーケンサーに関する実習 3 第13回 信号伝達に関する実習 1 第14回 信号伝達に関する実習 2 第15回 信号伝達に関する実習 3</p>	

科目名：医療治療機器学・生体計測装置学実習			
英文名：Practical training of medical treatment equipment study and bioinstrumentation device science			
担当者：ホンツ シゲキ フルゾノ ツトム カトウ ノブヒロ マサキ ヒデアキ ニシテ ヨシアキ トクミネ アサコ 本津 茂樹・古菌 勉・加藤 暢宏・正木 秀幸・西手 芳明・徳嶺 朝子			
単 位：3単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 医療治療機器・生体計測装置は、臨床現場において患者の診断と治療を正確にかつ迅速に行うために必須となってきている。これらの装置を使いこなし、かつ保守・点検が行えることは臨床工学技士の最も基本的な役割といえる。本科目では、講義科目で学んだ電気的治療機器、手術用機器、生体情報モニタなどの各種治療用機器の適切な操作と保守点検を再確認したうえで、実際に各種装置を用いた実習を行いながら理解させる。また、臨床現場で要求される各種の装置について、実習を通してその原理を理解させることも行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 生命維持装置の操作および保守・点検を担う臨床工学技士には、患者からの生体情報は治療を効果的に実施するにあたり極めて重要な指標となる。その生体情報を誤差なく正確に把握し適切な治療に役立てる事がチーム医療において必要不可欠である。本実習では医療現場において多用される生体情報の意義や計測装置の原理および操作方法を実践的に体験しながら理解すること。また、「臨床実習」前の必要な知識や技術を習得することを目標とする。(到達目標) 対象疾患に対する治療方法を理解し、治療用機器や生体計測装置の操作および保守・点検の説明ができる。また、それら機器・装置の操作および保守点検が行えるようになる。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 予習のあり方：次回授業に関するテキストを精読して内容を理解しておく。疑問点など整理しておく。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012) 適時プリント配付。</p> <p>■参考文献 (社)日本エム・イー学会 ME 技術教育委員会「ME の基礎知識と安全管理」南江堂(改訂第5版)</p> <p>■関連科目 医用機器学概論、医用治療機器学、生体計測装置学</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@info.waka.kindai.ac.jp 古菌研究室(10号館1階116)・furuazono@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp 徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 実習ガイダンス 第2回 清潔区域及び不潔区域と医療治療機器の清潔操作 第3回 医療治療機器の滅菌及び消毒方法 第4回 心臓ペースメーカーの種類と対象疾患 第5回 体表ペースティングと除細動器 第6回 生体情報モニタの使用法 第7回 心電図測定 第8回 聴診と血圧測定 第9回 超音波診断装置の取り扱いと性能点検 第10回 超音波血流計による血流計測 第11回 麻酔器の使用と点検 第12回 内視鏡のセッティングと画像記録 第13回 心臓カテーテル治療 第14回 心拍出量の計測 第15回 救命救急に関する講習</p>	

科目名： 生体機能代行装置学実習			
英文名： Training in Devices for Substitution of Biological Function			
担当者： フルゾノ ツトムタスノキ マサノブ ヤマモト エイ ヤマワキ ノブユキ ニシテ ヨシアキ トクミネ アサコ 古蘭 勉・楠 正暢・山本 衛・山脇 伸行・西手 芳明・徳嶺 朝子			
単 位： 3単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 生体機能を代行する人工呼吸装置、体外循環装置（人工心肺装置）、補助循環装置、血液浄化装置は患者の生命を直接左右する大切な役割を担っており、治療用の医療機器の中で臨床工学技士と関係が深い。人工呼吸器を中心に酸素療法機器や麻酔器および呼吸療法、循環に関わる生体機能代行装置である体外循環装置や補助循環装置、血液透析を中心とした血液浄化療法、それぞれに関連する医療機器の原理・構造や操作方法、保守点検方法などを理解するために実習を行い、シミュレーションを用いた操作方法、関連機器および医療材料の特性などについて実地に学ぶ。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 実習において、それぞれ呼吸、循環、代謝などの医療機器の原理・構造を理解し説明ができる。対象疾患に対する治療の理解ができ装置を正しく操作することができる。また、安全に使用できるよう保守および点検調整ができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 課題テスト 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 実習用テキストを熟読しておく。分からない事があれば、次回質問をする。</p> <p>■教科書 生体機能代行装置学実習テキスト</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版（2012）</p> <p>■関連科目 生体機能代行装置学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 古蘭研究室(10号館1階116)・furuzono@waka.kindai.ac.jp 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 山脇研究室(東1号館1階401)・yamawaki@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp 徳嶺研究室(西1号館2階256)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 人工呼吸器回路の組み立て 第2回 人工呼吸器の操作、各種設定 第3回 人工呼吸器使用時の患者管理 第4回 人工呼吸器の保守点検技術 第5回 レポートの作成と指導 第6回 人工心肺回路の組み立て、プライミング 第7回 人工心肺装置の操作、各種設定 第8回 人工心肺装置使用時の患者管理 第9回 人工心肺装置の保守点検技術 第10回 レポートの作成と指導 第11回 血液回路の組み立て、プライミング 第12回 血液透析装置の操作、各種設定 第13回 血液透析装置使用時の患者管理 第14回 血液透析装置の保守点検技術 第15回 レポートの作成と指導</p>	

科目名： 医用機器安全管理学実習			
英文名： Training in Safety for Medical Devices			
担当者： ホンツ シゲキ ニシカワ ヒロアキ ニシテ ヨシアキ トクミネ アサコ ワタナベ トシアキ 本津 茂樹・西川 博昭・西手 芳明・徳嶺 朝子・渡辺 俊明			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 高度医療に医療機器や病院設備（電気設備・医療ガス設備）の果たす役割は大きく、その安全性・信頼性は常に確保されていることが必要である。医療機器や病院設備の安全管理に関する講義や教科書の内容をより理解するために、医療機器や病院設備の点検方法、点検リストなどの重要性について実習をとおして認識する。さらに、過去に起きた医療機器や病院設備に関する事故事例から事故原因の分析などを行い、いかにして安全な医療システムを構築するのかについて理解する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 医療機器や病院設備の点検方法、安全な医療システムの構築方法の学修を目的とする。特に、臨床工学技士や医用機器設計技術者にとって必要な機器メンテナンス技術を、機器の動作原理を理解したうえで確実に身に付けることを目指す。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート(各テーマA4版10～20枚程度) 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 実習用テキストを熟読しておく。分からない事があれば、次回以降に担当教員へ質問してください。</p> <p>■教科書 医用機器安全管理学実習テキスト</p> <p>■参考文献 監修：(一社)日本ME学会ME技術教育委員会「MEの基礎知識と安全管理(改訂第6版)」南江堂(2014)</p> <p>■関連科目 医用機器安全管理学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@info.waka.kindai.ac.jp 西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp 徳嶺研究室(10号館1階115)・tokumine@waka.kindai.ac.jp 渡辺：講師控室(2号館2階254)・watanabe@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 漏れ電流の測定方法 第3回 漏れ電流の正常状態と単一故障状態 第4回 医用コンセントについて 第5回 医療機器の電撃対策 第6回 電気メスの安全管理 第7回 電気メスの保守点検 第8回 医療ガスの性質 第9回 医療ガスの配管システムと安全基準 第10回 医用機器の日常定期点検 第11回 医用機器の保守点検管理 第12回 手術室関連機器の保守点検 第13回 内視鏡の保守点検 第14回 医療機器テストの利用と応用 第15回 実習レポートの作成</p>	

科目名：臨床実習			
英文名：Training in Clinical Engineering			
担当者：イヨウコウガクカゼンキョウイン 医用工学科全教員			
単 位：4単位	開講年次：4年次	開講期：通年	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 医療機関において、血液浄化装置実習、集中治療室実習(人工呼吸器実習を含む)、手術室実習(人工心肺装置実習を含む)、並びに医療機器管理業務実習を行う。実習指導者の指導のもとで、基本的な生命維持管理技術を修得するとともに、患者心理の理解やコミュニケーションの手法について、業務体験を通して学習する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 実際の臨床現場での経験などを通じて、臨床工学技士として必要な基礎的実践能力および知識を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解する。さらに、患者への対応を臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。</p> <p>■成績評価方法および基準 病院での実習 30% レポート 10% プレゼンテーション 10% 総合試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 実習テキストを熟読するとともに、これまでに学習した科目を十分に復習してから実習を行うようにしてください。また、実習で経験した内容を実習記録ノートに必ずまとめてください。</p> <p>■教科書 実習テキストを配付する。</p> <p>■参考文献 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版(2012)</p> <p>■関連科目 全ての医用工学科配当科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス (代表) 古菌研究室(10号館1階116)・furuzono@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 臨床実習ガイダンス 第2回 事故防止対策の理解 第3回 各種血液浄化装置の構成と機能 第4回 血液浄化療法の適応疾患と治療効果 第5回 血液浄化装置の操作と患者管理 第6回 血液浄化装置と水処理装置の保守管理 第7回 集中治療室の機能と設備 第8回 集中治療室内の各種医療機器と生体モニター 第9回 人工呼吸器の構成と機能 第10回 人工呼吸器の適応疾患 第11回 人工呼吸器の操作と患者管理 第12回 大動脈内バルーン (IABP) 装置の構成と機能 第13回 大動脈内バルーン (IABP) の適応疾患 第14回 大動脈内バルーン (IABP) の操作と患者管理 第15回 救急医療体制の理解、集中治療室設備、人工呼吸器、大動脈内バルーン装置の保守点検</p> <p>第16回 手術用関連装置と生体モニター 第17回 人工心肺の構成と機能 第18回 手術室の機能と設備、感染対策 第19回 人工心肺の適応疾患 第20回 人工心肺の操作 第21回 手術室設備、人工心肺装置などの保守管理作業 第22回 心臓ペースティング関連業務 第23回 心臓カテーテル関連業務 第24回 高気圧酸素治療関連業務 第25回 医療機器管理業務1 (バッテリー交換) 第26回 医療機器管理業務2 (注入量実測) 第27回 医療機器管理業務3 (漏れ電流測定) 第28回 医療機器管理業務4 (接地抵抗測定) 第29回 医療機器管理業務5 (アラーム作動状況確認) 第30回 臨床実習報告</p>	

科目名：臨床工学特別演習 I			
英文名：Special Exercise on Clinical Engineering 1			
担当者：ヨシダ コウジ ヤマモト エイ ニシカワ ヒロアキ カトウ ノブヒロ マサキ ヒデアキ ニシテ ヨシアキ フクダ マコト 吉田 浩二・山本 衛・西川 博昭・加藤 暢宏・正木 秀幸・西手 芳明・福田 誠			
単 位：1単位	開講年次：4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 これまでに修得してきた医用工学分野の知識や技術を総合的に理解させるために、臨床工学技士ならびに医療機器開発技術者に必要な医学的、工学的、臨床工学的知識の習熟度を確認しながら、さらなる知識の蓄積を図るものとする。公衆衛生学、解剖学、病理学などの基礎医学系科目、医用電気電子工学や医用機械工学などの工学系科目についての演習を行い、医療分野でエンジニアとして活躍するために必要な基礎力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 臨床現場で使用される医用機器の全体像を把握し、診断や治療における医用機器の役割について学ぶ。臨床工学技士ならびに医療機器開発技術者に必要な医用電気電子工学、情報工学、材料工学に関する知識を修得していく。人体の機能と構造に関する知識を総合的かつ体系的に修得させることを目標に、生体の解剖学的特徴を把握しながら、各組織や器官の生理学的な働きについての演習を実施する。</p> <p>■成績評価方法および基準 最終確認試験 50% 中間テスト 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 演習問題の予習・復習を必ず行うこと。分からないところは教員に質問してください。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版(2012)</p> <p>■参考文献 各課題ごとに適当な参考書を指示する。</p> <p>■関連科目 医用工学科配当の全科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 古菌研究室(10号館1階116)・furuzono@waka.kindai.ac.jp 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 西川研究室(東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 西手研究室(東1号館2階218)・menisite@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 公衆衛生学に関する演習 第2回 人の構造と機能に関する演習1 第3回 人の構造と機能に関する演習2 第4回 病理学に関する演習 第5回 臨床生化学に関する演習 第6回 臨床免疫学に関する演習 第7回 臨床薬理学に関する演習 第8回 臨床工学に関する演習 (中間確認) 第9回 情報処理工学に関する演習 第10回 医用電気工学に関する演習 第11回 医用電子工学に関する演習 第12回 医用機械工学に関する演習 第13回 生体物性工学に関する演習 第14回 生体材料工学に関する演習 第15回 医用工学に関する演習</p>	

科目名： 臨床工学特別演習Ⅱ			
英文名： Special Exercise on Clinical Engineering 2			
担当者： ホンツ シゲキ ヨシダ コウジ ヤマト エイ カトウ ノブヒロ フクダ マコト マサキ ヒデユキ トクミネ アサコ 本津 茂樹・吉田 浩二・山本 衛・加藤 暢宏・福田 誠・正木 秀幸・徳嶺 朝子			
単 位： 1単位	開講年次： 4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 これまでに修得してきた医用工学分野の知識や技術を総合的に理解させるために、臨床工学技士ならびに医療機器開発技術者に必要な医学的、工学的、臨床工学的知識の習熟度を確ししながら、さらなる知識の蓄積を図るものとする。生体機能代行装置学、医用治療機器学、ならびに臨床医学についての演習を行い、医療分野でエンジニアとして活躍するために必要な基礎力を養成する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 臨床現場で使用される医用機器の全体像を把握し、診断や治療における医用機器の役割について学ぶ。臨床工学技士ならびに医療機器開発技術者に必要な医療機器安全管理学に関する知識を修得していく。臨床医学に関する知識を総合的かつ体系的に修得させることを目標に、病気とその治療法についての演習を実施する。</p> <p>■成績評価方法および基準 最終確認試験 50% 中間試験 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 演習問題の予習・復習を必ず行うこと。分からないところは教員に質問してください。</p> <p>■教科書 小野哲章、峰島三千男、堀川宗之、渡辺 敏 編集「臨床工学技士標準テキスト 改訂第2版」金原出版 (2012)</p> <p>■参考文献 各課題ごとに適当な参考書を指示する。</p> <p>■関連科目 医用工学科配当の全科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 本津研究室(東1号館4階402)・hontsu@info.waka.kindai.ac.jp 山本研究室(西1号館1階160)・ei@waka.kindai.ac.jp 加藤研究室(東1号館1階101)・nkato@waka.kindai.ac.jp 福田研究室 (1号館1階120) : fukuda@waka.kindai.ac.jp 徳嶺研究室(西1号館2階256)・tokumine@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 生体機能代行装置学に関する演習1 第2回 生体機能代行装置学に関する演習2 第3回 医用治療機器学に関する演習1 第4回 医用治療機器学に関する演習2 第5回 生体計測装置学に関する演習 第6回 医用機器安全管理学に関する演習1 第7回 医用機器安全管理学に関する演習2 第8回 臨床工学に関する演習 (中間確認) 第9回 臨床医学に関する演習1 第10回 臨床医学に関する演習2 第11回 臨床医学に関する演習3 第12回 臨床医学に関する演習4 第13回 臨床医学に関する演習5 第14回 関係法規に関する演習 第15回 医用工学に関する演習</p>	

科目名： 卒業研究			
英文名： Graduation Thesis			
担当者： イヨウコウガクカゼンキョウイン 医用工学科全教員			
単 位： 4単位	開講年次： 4年次	開講期： 通年	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 卒業研究は、1～4年次の医用工学科配当科目の総括として実施することになります。研究指導担当教員の指導のもとで、各自が研究テーマを決定し、研究計画に基づいて研究を遂行していきます。また、得られた結果を考察し、卒業論文をまとめ、研究発表を行います。それまでに学んだ全ての科目で得た知識、経験、方法論を総合して、未知の課題の解決に取り組むことになります。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 研究活動を通じて、それまで学んだ全ての専門科目をより深く理解します。また、研究の計画、遂行、結果のまとめ、考察、プレゼンテーションという、研究に関する各ステップと一連の流れを体験的に学習します。これらによって、課題を探究し解決する実践的能力を養うことを本科目の目標にしています。</p> <p>■成績評価方法および基準 卒業論文 60% 論文発表および質疑応答 30% 中間発表 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 文献調査などを実施し、研究テーマと関連する分野について十分理解をすること。</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 課題に関連する資料を配付する。</p> <p>■関連科目 全ての医用工学科配当科目、外国語。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス (代表) 古菌研究室 (10号館1階116)・furusono@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 複数教員のため、ユニバーサルパスポート (https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html) のオフィスアワーを参照ください。</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ナノアパタイト被覆インプラントの作製と生体親和性の評価 第2回 元素置換アパタイトのデバイス応用 第3回 アパタイトシートの再生医療用細胞シートへの応用 第4回 人工血管作製法の研究 第5回 バイオセンサの研究 第6回 人工神経回路作製法の研究 第7回 生体セラミックスの化学組成制御と生体親和性の評価 第8回 自発的に形成されるナノ構造が細胞に及ぼす影響の研究 第9回 臓器線維症の発症機序に関する研究 第10回 C T L 誘導性ウエストナイルウイルスワクチンの開発 第11回 移動マスク露光装置の開発 第12回 生体信号を利用した福祉機器の改良および開発 第13回 医療情報を管理・活用するためのWebシステムの開発 第14回 腱・靭帯断裂の発症機序に関する研究 第15回 骨粗鬆症や変形性関節症の発症メカニズムに関する研究</p> <p>第16回 経皮DDSの開発 第17回 微小流体工学を用いたマイクロ流路デバイスに関する研究 第18回 細胞培養用微小環境の開発 第19回 障害者のQOL向上のための自助具の開発 第20回 血液透析シミュレータ教育の研究 第21回 生体機能代行装置の研究 第22回 抗感染性材料の創出と医療デバイスへの応用 第23回 ナノスキャフォールドによる血管新生システムの創出</p>	

教 職 課 程

教職課程

カリキュラム一覧	112
教職論	115
教育原理	115
教育心理学	116
教育行政学	116
教育課程論	117
道德教育論	117
特別活動論	118
教育方法学	118
生徒指導論	119
教育相談	120
教育実習特講	120
教職実践演習（中・高）	121
理科教育法Ⅰ	121
理科教育法Ⅱ	122
理科教育法特講Ⅰ	122
理科教育法特講Ⅱ	123
数学科教育法Ⅰ	123
数学科教育法Ⅱ	124
数学科教育法特講Ⅰ	124
数学科教育法特講Ⅱ	125
情報科教育法Ⅰ	125
情報科教育法Ⅱ	126
物理学概論Ⅰ	126
物理学概論Ⅱ	127
地学概論Ⅰ	127
地学概論Ⅱ	128
地学実験	128
代数学概論Ⅰ	129
代数学概論Ⅱ	129
幾何学ⅠA	130
幾何学ⅠB	130
幾何学ⅡA	131
幾何学ⅡB	131

教職課程

※教員免許状取得要件についての詳細は「教職課程履修要項」を参照してください。

科目	教科	学科	授業科目	配当年次	開講期	単位数	担当教員	中学校 免許状	高校 免許状
教職科目	共通	全学科共通	教職論	1	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育原理	1	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育心理学	1	前期・後期	2	村上 凡子	必修	必修
			教育行政学	2	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育課程論	2	前期・後期	2	河原 尚武	必修	必修
			道德教育論	2	前期・後期	2	河原 尚武	必修	選択
			特別活動論	2	前期・後期	2	森本 芳生	必修	必修
			教育方法学	2	前期・後期	2	河原尚武／森本芳生	必修	必修
			生徒指導論	2	前期・後期	2	河原 尚武	必修	必修
			教育相談	2	前期・後期	2	村上 凡子	必修	必修
			教育実習Ⅰ	4	通年	2	河原尚武・小田義隆	必修	必修
			教育実習Ⅱ	4	通年	2	河原尚武・小田義隆	必修	選択
			教育実習特講	3	後期	1	河原尚武・小田義隆	必修	必修
			教職実践演習(中・高)	4	後期	2	河原尚武・小田義隆	必修	必修
			理科	生・遺・食・医	理科教育法Ⅰ	2	前期	2	伊丹 芳徳
理科教育法Ⅱ	2	後期			2	伊丹 芳徳	理科必修	理科必修	
理科教育法特講Ⅰ	2	前期			2	伊丹 芳徳	理科選択	理科選択	
理科教育法特講Ⅱ	2	後期			2	伊丹 芳徳	理科選択	理科選択	
数学	システム・人間	数学科教育法Ⅰ	2	前期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修	
		数学科教育法Ⅱ	2	後期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修	
		数学科教育法特講Ⅰ	2	前期	2	嶋田 暢也	数学選択	数学選択	
		数学科教育法特講Ⅱ	2	後期	2	嶋田 暢也	数学選択	数学選択	
情報	システム	情報科教育法Ⅰ	2	集中	2	豊田 充崇	-	情報必修	
		情報科教育法Ⅱ	2	集中	2	豊田 充崇	-	情報必修	
教科科目	理科	生・遺・食・医	物理学概論Ⅰ	1	前期	2	会田 修	理科必修	理科必修
			物理学概論Ⅱ	1	後期	2	会田 修	理科必修	理科必修
			地学概論Ⅰ	1	前期	2	佐藤 昇	理科必修	理科必修
			地学概論Ⅱ	1	後期	2	佐藤 昇	理科必修	理科必修
			地学実験	1	前期・後期	1	谷本 昇	理科必修	理科選択
	数学	システム・人間	代数学概論Ⅰ	1	前期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修
			代数学概論Ⅱ	1	後期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修
			幾何学ⅠA	1	前期	2	森杉 馨	数学必修	数学必修
			幾何学ⅠB	1	後期	2	森杉 馨	数学必修	数学必修
			幾何学ⅡA	2	前期	2	森杉 馨	数学選択	数学選択
			幾何学ⅡB	2	後期	2	森杉 馨	数学選択	数学選択

講 義 要 項

科目名： 教職論			
英文名： The Study of Teaching Profession			
担当者： オダ ヨシタカ 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 教職課程全体の入門として配置される科目であり、教職に就くとはどういうことか、教職の全体像をつかみながら学校教育の専門家になるために必要な資質・能力を講義する。授業では、教科書を基礎としつつ、学生のこれまでの学校体験を出し合いながら教師という仕事を深める。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本科目は「教職の意義等に関する科目」であり、教職・教師として人生を生きる意味をつかみ、意欲を育むことを目標とする。教職の意義、教員の役割や職務内容に関する知識の修得を通じ、教職に関しての理解を深めると共に、将来教職に就くことについて多角的に考察し、強い動機付けとなる事を図ります。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中に指定する課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 ・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。 ・参考文献はもとより、教職に関する書物をよく読み、自らの教職像形成を図ること。 ・「教師にとっての教育の意義と実際」に対する関心を高めるため、教育に関する新聞記事にも目を配って学ぶことが望ましい。</p> <p>■教科書 『現代教育制度論』(土屋 基規, ミネルヴァ書房: 2011)</p> <p>■参考文献 『これからの学校教育と教師: 「失敗」から学ぶ教師論入門』(佐々木 司, ミネルヴァ書房: 2014) 『新教師論: 学校の現代的課題に挑む教師力とは何か』(小柳 和喜雄, ミネルヴァ書房: 2014) 『現代教職論』(土屋 基規, 学文社: 2006) 『概説 教育行政学』(東京大学出版会: 2009) 『教育小六法 平成26年版』(学陽書房: 2014)</p> <p>■関連科目 教育原理、教育課程論、暮らしのなかの憲法、教育行政学、特別活動論、教育実習特講</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 小田研究室 (2号館5階509) ・ oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜 4 限 事前にメールにてアポイントをとってください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教職の意義と 2 1 世紀の教師像 第3回 教師像の変遷 第4回 教師になる仕組み・教育実習 第5回 教師採用の仕組み 第6回 教師と教育法規 (サービス、身分保障を中心に) 第7回 教師の資質向上と研修制度 第8回 教師の職務① (学校の組織と学校運営) 第9回 教師の職務② (教育課程編成・学習指導) 第10回 教師の職務③ (教育相談および学級経営) 第11回 保護者・地域社会との連携 第12回 教員採用試験の実際 第13回 教師をめぐる問題 (学級崩壊・バーンアウト) 第14回 総括・理想の教師像とは 第15回 学生との集中討論</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 教育原理			
英文名： The Study of Principles of Education			
担当者： オダ ヨシタカ 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 教職課程において開設される他の科目との関連を図りながら、教職課程のコアとして位置づけ、基礎的基本的事項を学習する。加えて学生が発展的な学習を行い、さらには他の科目において専門的な学習が可能となる基盤を培うべく話題提供していく。本講義では、人間・子どもの尊厳を基底的主題とする教育・学校・社会の原理的歴史的把握をしたのち、子どもをめぐる現代日本が当面している教育問題について考察したい。授業方法としては、主として講義形式で行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・近現代の教育原理を「子どもの成長発達」の視点から問い直し、21世紀型教育の未来を本質的主体的に描ける力を養うことを目標とする。 ・教師教育における教育学的思考の基礎的な部分を身につけ、教師としての態度を養うことを目的としている。それとともに、教職に関する他の科目を修得する基盤を構築する。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート (中間・最終) 各2000字程度 70% 授業中課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 ・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。 ・学習や教育観・子ども観に関する自己認識を鍛えなおすべく参考文献の書物をよく読み考察すること。</p> <p>■教科書 『子どもと教師のための教育原理』(石田美清: 2010)</p> <p>■参考文献 『新しい教育原理[第2版]』(広岡 義之, ミネルヴァ書房: 2014) 『日本の教育文化史を学ぶ: 時代・生活・学校』(山田 恵吾, ミネルヴァ書房: 2014) 『教育小事典』(学陽書房: 2011) 『エミール (上) (中) (下)』(岩波文庫) (ルソー, 岩波書店: 1962) 『教育の歴史と思想』(石村 華代・軽部勝一郎, ミネルヴァ書房: 2013) 『少年犯罪 (減少) のパラドクス (若者の気分)』(土井 隆義, 岩波書店: 2012)</p> <p>■関連科目 持続可能な社会論、国際社会と日本、教育行政学ほか教職課程諸科目。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 小田研究室 (2号館5階509) ・ oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜 4 限 事前にメールにてアポイントをとってください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 教育とは何か 第2回 教育の本質と思想 (教育の目的・社会的規定、近代教育思想) 第3回 子ども観 再考① (ルソーの子ども観、子どもの自然と発達) 第4回 子ども観 再考② (医学からのアプローチ) 第5回 子ども観 再考③ (心理学からのアプローチ) 第6回 子どもの権利条約 (子どもの権利条約、成立の意義と内容) 第7回 「遺伝と環境」と教育 第8回 日本の近代化・戦争と教育 (近代社会の成立、戦時下の学校教育) 第9回 戦後教育改革 (憲法・教育基本法の成立と意義) 第10回 戦後教育改革のその後 (5 0 年代以降の学校教育の変容) 第11回 日本の経済成長と学校 (6 0 年代高度経済成長と学校の機能) 第12回 能力主義と学校 (能力主義の教育論的検討) 第13回 教育改革にどう向き合うか 第14回 教育基本法の改正 (新教育基本法成立) と教育改革 第15回 現代日本の教育問題を考える</p>	

科目名： 教育心理学			
英文名： Educational Psychology			
担当者： <small>ムラカミ ボンコ</small> 村上 凡子			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 本科目は、教育者となるために学修することのうち、心理学の分野で探究されてきた教育に関する知見をテーマとします。定型発達児における認知能力や社会的能力の発達段階、特別な教育的支援ニーズのある子どもの特性や対応を取り上げます。また、ヒトの「学習」および「動機づけ」の仕組み、授業のユニバーサルデザインに関する知見を概説し、望ましい授業方法について検討を行います。さらに、より良い学級づくりのために、教育者がどのような役割を果たせばよいのかについて理解を深めます。教育者に求められるコミュニケーション能力の向上をねらいとして、講義形式に加えて、必要に応じてグループによる意見交流および発表を取り入れます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 本科目の目標は、①対人専門職に必要な社会的能力の向上を目指すこと、②子どもに対する発達の観点からの理解に関する心理学的な知見を理解し、修得すること、③授業実践や学級経営に関する基礎的な知識について理解し、修得することの3点です。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 80% 小レポート 10% 毎回の復習シートの提出 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 マスメディアから発信される子どもや教育に関する情報に関心をもち、自発的に本科目や他の教職課程の科目で学んだ事柄と関連させながら、その情報を自分なりに分析すること、また、その分析内容を周りの人物と意見交流を行うことを求めます。さらに、次の授業の予習として出された課題に真摯に取り組むことも求めます。</p> <p>■教科書 特に指定しません。適宜資料を配布します。</p> <p>■参考文献 長谷川壽一・東條正城・大島尚・丹野義彦(著)『はじめて出会う心理学』(有斐閣)2000年 石井正子・松尾直博(編著)『教育心理学』(樹村房)2004年 作間慎一(編著)『教育心理学』(玉川大学出版会)2005年</p> <p>■関連科目 「教育原理」「教職論」</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学の規則に応じて実施します。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 2号館2階 murakami@shinai-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 授業時間帯の前後とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 教職の意義とキャリア発達 第2回 ビアジェによる認知能力の発達段階 第3回 子ども理解とパーソナリティに関する理論 第4回 エリクソンによる社会的能力の発達段階と青年期の発達課題 第5回 青年期前期の発達課題と対応 第6回 行動理論からみた学習－条件付けの応用－ 第7回 認知論からみた学習－記憶のしくみ－ 第8回 学習意欲－「やる気」の生成・消失過程 第9回 学校教育における包括的支援ニーズ 第10回 特別な教育的支援ニーズのある子どもへの対応 第11回 授業の本質とそのユニバーサルデザイン 第12回 理解度、集中度の向上を目指した授業方法についての検討 第13回 学級集団のしくみと学級経営 第14回 望ましい学級担任像、教師像に関する検討 第15回 演習 生徒指導場面および授業場面における具体的な対応</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 教育行政学			
英文名： The Study of Educational Administration			
担当者： <small>オダ ヨシカ</small> 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 教育行政は、一般行政とは独自の仕組みをもち、教育活動の条件整備を立法に基づき行う行政活動である。 この教育行政活動が、国の教育政策によってどのような教育的価値を実現する教育活動かを実質的に左右する。その教育行政の仕組みと現状、問題を検討する。授業方法としては、主として講義形式で行う。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 教員として心得ておくことが必要不可欠な法令や制度を理解するとともに、日常的に話題となる教育問題に関して、教育行政の視点から具体的に考えることができる能力を身につけ、教育行政の役割と現状、教育にとって必要なあり方を理解することを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% 授業中課題 10% 小テスト (10回) 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 ・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。 ・講義で指示された課題に積極的に取り組むこと。 ・「教師にとっての教育の意義と実際」に対する関心を高めるため、教育に関する新聞記事にも目を配って学ぶことが望ましい。</p> <p>■教科書 『現代教育制度論』(土屋 基規, ミネルヴァ書房: 2011)</p> <p>■参考文献 『新・教育制度論: 教育制度を考える15の論点』(高妻 紳二郎, ミネルヴァ書房: 2014) 『概説 教育行政学』(東京大学出版会: 2009) 『教育委員会は不要なのか—あるべき改革を考える(岩波ブックレット)』(中嶋 哲彦, 岩波書店: 2014) 『「いい先生」は誰が決めるの?—今、生きるILO・ユネスコ勧告』(勝野 正章, つなん出版: 2004) 『教育のための法学: 子ども・親の権利を守る教育法(法学シリーズ職場最前線)』(篠原 清昭, ミネルヴァ書房: 2013)</p> <p>■関連科目 暮らしのなかの憲法、現代社会と法、教育原理ほか教職課程諸科目。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 小田研究室 (2号館5階509)・oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜 4限 事前にメールにてアポイントをとってください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション 人間の自由・平等原理と教育行政 第2回 行政と教育行政 第3回 国の教育行政制度 第4回 地方の教育行政制度、地方分権 第5回 教育委員会制度の歴史 第6回 教育行政と学校の管理・運営 第7回 学校選択制と学校参加 第8回 教育行政と教師、教員養成と研修 第9回 学校評価と教員評価 第10回 特別支援教育 第11回 少年非行と教育行政 第12回 児童福祉、少年司法と教育行政 第13回 乳幼児教育と教育行政 第14回 高等教育と教育行政 第15回 まとめ、現代社会と教育行政</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 教育課程論			
英文名：Theory of School Curriculum			
担当者：カワハラ ナオタケ 河原 尚武			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 学習指導要領及びこれを基準として開発・編成される教育課程が、学校における日常の教育活動において果たしている基本的な機能について、法令や各種資料（歴史資料、時事的資料、教育実践記録等）を基に学習します。各学習指導要領の基盤を支える教育理念やカリキュラムの思想について学ぶと共に、数次にわたる改訂の背景にあった教育改革の課題を振り返ることによって、教育課程が教育実践の深化を図るうえで不可欠な学習指導の構想であることを学びます。教育課程開発が、学校を基礎に行われるという考え方を基に、個々の教員が果たすべき教科・教育の専門家としての役割と、これを支える学校の在り方についても探究します。講義の方法は、担当者による説明、資料に基づくディスカッション、小レポートの作成によって進めます。学生の積極的な授業参加を望みます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 この講義の履修を通じて、 1) 教育課程の構成や制度及び学習指導要領に関する基本的な知識を修得し、 2) 学校を基礎に置く教育課程編成の方法と課題についての理解を深め、 3) 教育内容・教材の研究と学力形成・能力発達との関連について認識を深めることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 授業において指定する課題 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 1) 中学校・高等学校学習指導要領及び学習指導要領解説総編を常に参照すること。 2) 講義で扱った資料をもとに復習すること、及び参考文献として指定した資料から適宜選択して、十分に独習しておくこと。 3) 教育問題や教育改革に関する資料や参考文献に日頃から目を通しておくこと。</p> <p>■教科書 教科書は使用せず、プリント資料を配付します。</p> <p>■参考文献 文部科学省各学習指導要領及び学習指導要領解説総編他 田中耕治他『新しい時代の教育課程三訂版』(有斐閣) 2011年 [留意事項] 講義で別途参考文献リストを配付します。</p> <p>■関連科目 教職科目全般</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室 (2号館5階507)・kawahara@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日3限</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 教育課程をめぐる近年の動向 (1) —学習指導要領の改訂 第2回 教育課程をめぐる近年の動向 (2) —近年の学習指導要領の特質 第3回 教育課程をめぐる近年の動向 (3) —教育改革の実際と課題 第4回 教育課程をめぐる近年の動向 (4) —学力形成とカリキュラム 第5回 学習指導要領とは何か (1) —日本の教育課程の歴史と特質 第6回 学習指導要領とは何か (2) —教育課程に関する法令と制度 第7回 学校を基礎にした教育課程の開発 (1) —教育内容と教材 第8回 学校を基礎にした教育課程の開発 (2) —授業の構想と教材の創造 第9回 学校を基礎にした教育課程の開発 (3) —総合的な学習の時間 第10回 教育課程の構成 (1) —カリキュラムの思想 第11回 教育課程の構成 (2) —教育課程の編成原理 第12回 教育課程の構成 (3) —教科と教科以外の領域 第13回 教育課程の構成 (4) —子どもの発達とカリキュラム 第14回 教育課程の構成 (5) —現代的課題との関係 第15回 教育課程と教師の役割</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 道徳教育論			
英文名：The Study of Moral Education			
担当者：カワハラ ナオタケ 河原 尚武			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 広い視野から道徳教育の本質をとらえ、思春期・青年期の生徒が出合う社会における道徳の現実を踏まえて、自律に向かう道徳性の育成をいかに図るか、学校や教師にとって課題とは何かなどについて、資料に基づき学修を進めます。道徳教育の原理や現代における課題、正義や公正などの道徳的価値、道徳性の発達等に関する基礎的・基本的な理解に加えて、道徳の時間の内容・目標・指導過程に関する実際の理解を身につけます。講義や資料に関する考察を毎回のレポートにまとめる作業を通じて、主体的な学習のあり方を探求します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 この講義の履修を通じて、 1) 中学校を中心とする道徳教育の目的や意義に関する理解を深め、 2) 広い視野から道徳的価値に関する認識と関心を広げるとともに、 3) 道徳の時間を中心とする指導の在り方に関して実践的な理解を深めることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 講義において指定した課題 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 1) 道徳的価値や人間の生き方に関する図書や資料に日頃から目を通しておくこと。 2) 価値問題にかかわる現代社会の諸テーマについて関心をひろげること。 3) 講義で取り上げた内容や事項等について、参考文献などで常に確認しておくこと。</p> <p>■教科書 教科書は使用せず、適宜プリント資料を配付します。</p> <p>■参考文献 文部科学省『中学校学習指導要領』（東山書房）2008年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）2008年 井ノ口淳三編『道徳教育』（学文社）2007年 [留意事項] 適宜必要な文献を紹介いたします。</p> <p>■関連科目 教職科目全般</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室 (2号館5階507)・kawahara@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日3限</p>		<p align="center">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 道徳教育とは何か (1) —道徳教育の意義と考え方 第2回 道徳教育とは何か (2) —教育課程における道徳教育の位置 第3回 道徳教育とは何か (3) —道徳教育をめぐる近年の動向 第4回 「道徳の時間」の実際 (1) —道徳の時間の資料 第5回 「道徳の時間」の実際 (2) —道徳の時間と教材 (資料) 研究 第6回 「道徳の時間」の実際 (3) —道徳の時間の指導過程 第7回 「道徳の時間」の実際 (4) —学習指導計画の作成 第8回 道徳教育の目標と内容 (1) —学習指導要領における内容の扱い 第9回 道徳教育の目標と内容 (2) —現代社会と道徳的価値 第10回 道徳教育の目標と内容 (3) —道徳的価値とは何か 第11回 道徳性の発達と道徳教育 (1) 第12回 道徳性の発達と道徳教育 (2) 第13回 道徳教育の歴史 (1) 第14回 道徳教育の歴史 (2) 第15回 道徳教育の実践的課題 (総括)</p> <p>定期試験</p>	

科目名：特別活動論			
英文名：The Theory of Extra-curricular Activities			
担当者：モリモト ヨシオ 森本 芳生			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 まず特別活動の概説を講義したのち、この領域で社会的に問題となっている事例を紹介する。その後1990年代中葉からの教育改革の中心的テーマの一つである「生きる力」の形成・教育にかかわって、「特別活動」領域および「総合的な学習の時間」で問題とされる事例を紹介する。これらを問題とする際、20～30分程度の映像資料を多用する予定である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生はこの授業を履修することによって、1) こんにちの社会状況のもとでの学校における特別活動の意義、2) いわゆる「生きる力」論、3) 特別活動における教師個人の問題意識の重要性を理解することができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% 小テスト 20% レポート 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 小学校・中学校・高等学校で自分が体験した教育のなかから、特別活動に属するものを判別し、それが人間形成上に持つ意味を考えること。子どもを取り巻く今日の諸環境の問題を、特別活動との関連で捉える問題意識を深化させるため、新聞報道等にも十分な注意を払うこと。</p> <p>■教科書 使用しない。</p> <p>■参考文献 『たのしい授業』編集委員会『たのしい「生活指導」』仮説社 (1999) 黒田恭史『豚のPちゃんと32人の小学生』ミネルヴァ書房 (2003) 西島央『部活動』学事出版 (2006) 全国進路指導研究会『働くことを学ぶ』明石書店 (2006) 森本芳生『「食育」批判序説』明石書店 (2009)</p> <p>■関連科目 教職課程諸科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)・baaqk409@jttk.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス(授業の概要・特別活動とは何か)</p> <p>第2回 特別活動論概説(1) 歴史の変遷</p> <p>第3回 特別活動論概説(2) 教科教育との関連と差異</p> <p>第4回 特別活動に関する教育問題(1) 入学式・卒業式</p> <p>第5回 特別活動に関する教育問題(2) 学級づくり</p> <p>第6回 「生きる力」とは何か、何故問題とされるのか。</p> <p>第7回 子どもの食事情と生活リズム</p> <p>第8回 学校給食の現状と課題</p> <p>第9回 「遠足」はいま(歩くこと・遊び環境の変遷)</p> <p>第10回 交通安全教育</p> <p>第11回 文化祭</p> <p>第12回 青年期の生き方と特別活動の課題</p> <p>第13回 「総合的な学習の時間」との関連</p> <p>第14回 年間計画</p> <p>第15回 まとめ・補足</p> <p>定期試験</p>	

科目名：教育方法学			
英文名：The Study of Educational Methods			
担当者：カワハラ ナオタケ 河原 尚武			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 学校教育における教育指導の方法・技術への関心と認識を深めるために、実践的な成果(映像記録や実践記録等)を取り上げて講義を進めます。日本の教師たちが取り組んできた授業と実践的な研究、カリキュラムや教材の開発、教育評価の改善等に関するこれまでの成果と新しい動きから学ぶことを通じて、教師に必須の、授業を構想する能力や教育方法に関する知識の基礎を培うことを目標とします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 この講義を通じて、 1) 授業実践の先達の取組から学ぶとともに、新しい授業論や教育の方法・技術に関する理解を深め、 2) 学習指導計画(学習指導案)の作成や授業分析の基礎を修得するとともに、 3) 教育評価改善に関する最近の成果について認識を広げる、 ことを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート(中間・最終)70% 講義において指定する課題 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 小学校・中学校・高等学校における授業・カリキュラム・学校生活に関する話題に関心を持ち、参考文献や講義資料を基に自主的に学習を進めること。</p> <p>■教科書 指定しない。</p> <p>■参考文献 心理科学研究会編『中学・高校教師になるための教育心理学 第3版』(有斐閣)2012年 佐藤 学『教育の方法』(左右社)2012年 日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』(学文社)2014年 [留意事項]以上のほか、適宜講義において紹介します。</p> <p>■関連科目 教育原理、教育心理学、教育課程論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室(2号館5階507)・kawahara@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日3限</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 授業を構成するもの(1) 一教えることと学ぶこと</p> <p>第2回 授業を構成するもの(2) 一教師の授業観</p> <p>第3回 授業を構成するもの(3) 一授業における技法</p> <p>第4回 授業を構成するもの(4) 一教材の開発</p> <p>第5回 学習指導計画の構成(1) 一教育内容・教材の研究</p> <p>第6回 学習指導計画の構成(2) 一学習指導案</p> <p>第7回 学習指導計画の構成(3) 一授業の目標</p> <p>第8回 学習指導計画の構成(4) 一指導過程の構成</p> <p>第9回 学習指導計画の構成(5) 一授業・教材・カリキュラム評価</p> <p>第10回 学習指導計画の構成(6) 一機器・メディアの活用</p> <p>第11回 教育評価の改善(1) 一通知表・生徒指導要録</p> <p>第12回 教育評価の改善(2) 一目標に準拠した評価</p> <p>第13回 教育評価の改善(3) 一学習過程に即した評価の方法</p> <p>第14回 教育評価の改善(4) 一学力評価とは何か</p> <p>第15回 教師の力量と創造的な授業</p>	

科目名： 教育方法学			
英文名：The Study of Educational Methods			
担当者：モリモト ヨシオ 森本 芳生			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 授業では、近代学校教育における教育方法の特質を、近世の教育機関・学習場面でのそれと比較して把握したのち、今日に至る100年余の学校教育での注目すべき教育方法を順次取り上げ、解説を加えていく。その際、そうした教育方法の背後にある教育観・教育思想・社会状況等にも言及する。方法を単なる技術次元の問題としてのみ捉えてほしくない為である。こうした作業を通して、学校教育およびその教育方法に対する関心を高め、知見を得ることが授業目的である。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生はこの授業を履修することによって、1) 学校教育における教育方法の特質、2) 教育方法が教育思想・教育観と切り離して考えられない事、3) これまで教育現場で試みられてきた代表的教育方法、4) 今後の課題を知ることができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 40% 小テスト 20% レポート 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示します。</p> <p>■教科書 田中耕治編著『時代を拓いた教師たち』日本標準 2005</p> <p>■参考文献 佐藤学『教育方法学』岩波書店 (1996) 佐藤学『教育の方法』左右社 (2010) 白井嘉一『教育実践学と教育方法論』日本標準 (2010)</p> <p>■関連科目 教職課程諸科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階)・baaqk409@jttk.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス、教科書の使い方 第2回 近世の教育方法 (寺子屋・藩学・日常生活) 第3回 学校教育の開始 (ルソー・ペスタロッチ教育法の輸入) 第4回 授業の定型化 (ヘルバルト学派の段階教授法の輸入・浸透) 第5回 明治期の学校教育・教育方法の総括 第6回 大正自由主義教育 (児童中心主義教育) の展開と挫折 第7回 生活綴り方教育の登場と弾圧 第8回 戦後教育改革 第9回 系統主義教育と仮説実験授業 第10回 仮説実験授業の拡大 第11回 近世的教育方法の見直し 第12回 生活綴り方教育の現在 第13回 教育方法と教育観 第14回 ICT教育の可能性と課題 第15回 課題と展望</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 生徒指導論			
英文名：Guidance			
担当者：カワハラ ナオタケ 河原 尚武			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 生徒指導という教育指導の概念は、戦後導入されたガイダンス理論の一つの源としています。児童・生徒が、生き方を考えたり進路を選択したりするとき、適切で賢明な判断ができるよう援助することが、その本来の目的と考えられてきました。この講義では、子どもたちを取り巻く社会的条件が影響して生じるさまざまな問題に即して、学校が取り組むべき指導や援助の在り方を事例に基づいて探究し、生徒 (集団) の自律性や自治能力の育成、教育相談を通じた個別の援助に関わる方法について考えます。一方、日本では「生活指導」と呼ばれてきた教育実践の伝統があります。ここには、生活現実に即して、生き方や集団 (学級・学校など) のあり方をめぐって豊かな実践の蓄積があり、その成果にも視野を広げて生徒理解の方法を探究します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 この講義の履修を通して、 1) 生徒指導の理論と実践方法について、基礎的な知識と理解を得ること、 2) 生徒理解のあり方に関して、子どもの発達及び社会的背景という視点から認識を深めること、 3) 生徒指導や生活指導のすぐれた教育実践を基に、教師のあり方について考察を深めること等を目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% 授業における発表・レポート 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 1) 中学校・高等学校教育に関する新聞・雑誌記事や話題に関心を持ち、目を通しておくこと。 2) 現代の青少年の発達や生活に関わる調査結果や統計などから正確な知識・理解を得ておくこと。 3) 講義で用いた教科書や資料、さらに参考文献などを基に、講義内容の復習を欠かさないこと。</p> <p>■教科書 『生徒指導提要』(文部科学省, 教育図書: 2011)</p> <p>■参考文献 折出健二編『生活指導』(学文社) 2008年 広木克行編『教育相談』(学文社) 2010年 [留意事項]このほか、講義において適宜文献を紹介いたします。</p> <p>■関連科目 教育相談、教育心理学、道徳教育論、特別活動論</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室 (2号館5階507)・kawahara@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日3限</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 生徒指導とは何か (1) —学校教育における機能として 第2回 生徒指導とは何か (2) —教育課程と生徒指導 第3回 生徒指導とは何か (3) —ガイダンスと生徒指導 第4回 生徒指導の現代的課題 (1) 第5回 生徒指導の現代的課題 (2) 第6回 生徒指導の現代的課題 (3) 第7回 生徒指導の現代的課題 (4) 第8回 生徒指導・生活指導の成り立ちと意義 第9回 生徒指導・生活指導の実践に学ぶ (1) 第10回 生徒指導・生活指導の実践に学ぶ (2) 第11回 生徒指導・生活指導の実践に学ぶ (3) 第12回 相談・援助・指導 第13回 学校における生徒指導体制 第14回 進路指導 (1) —生き方と選択 第15回 進路指導 (2) —キャリア教育</p> <p>定期試験</p>	

科目名：教育相談			
英文名：Educational Counseling			
担当者：村上 凡子			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>現在、いじめや不登校といった課題に加えて、発達障がい児、被虐待児への対応など教育相談の領域に対する社会からの要請は大きくなっています。こうした状況を踏まえ、子どもたちの多様な教育相談領域のニーズに適切に対応するために、必要な専門的知識を学びます。さらに、教育相談に求められる態度や実践力に関して講義や実践的活動を通して学びを深めていきます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>この授業の到達目標は、1) 教育相談領域に関する現代の課題を確認し、教育相談の意義と役割について理解すること、2) 児童生徒理解のための基礎的知識を習得すること、2) 教育相談に必要な自己理解や対人援助に関する実践力を高めることの3点です。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 60% 小レポート 20% 予習復習ノート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>毎回、教科書に指定されている範囲の内容について、予習を課します。また、教育に関する社会的状況に広く関心を持ち、本科目や他の教職課程の科目で学んだことをもとに自分の考えをもち、記述することを求めます。</p> <p>■教科書</p> <p>「入門 学校教育相談—知っておくべき基礎基本と実際の対応」(嶋崎 政男, 学事出版: 2014)</p> <p>■参考文献</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p> <p>■関連科目</p> <p>「生徒指導」「教育心理学」</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学の規則に準じて実施します。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>非常勤控室 2号館2階 murakami@shinai-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>授業時間の前後に質問等に応じます。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 教育相談の意義と役割 第2回 教育相談に関する基本的対人態度 第3回 児童生徒理解－発達段階と発達課題の観点から－ 第4回 児童生徒理解の方法 第5回 教育相談の校内体制 第6回 他職種・他機関との連携 第7回 自己理解・人間関係の深化のための実践 第8回 共感能力、表現力、自己調整力を高めるための実践 第9回 学級集団を対象とした教育相談 第10回 発達障がい児への対応① 基礎的理論 第11回 発達障がい児への対応② 個別の指導計画の作成 第12回 いじめ問題への対応① 基礎的理論 第13回 いじめ問題への対応② 実践 第14回 不登校児への対応 第15回 被虐待児・虐待する保護者への対応</p> <p>定期試験</p>	

科目名：教育実習特講			
英文名：A Theory of Teaching Practice			
担当者：河原 尚武・小田 義隆			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>教育実習は教職課程を履修した者のみが経験できる重要な実践的学習である。教育実習を通して、教職の意味を実践的に把握し、教職の道を人生の生き方として選択するケースも多い。講義のほか、学生自身が模擬授業を立案・実施し、それをもとにグループによる討論や相互の検討を行い、実践的に教科指導に必要な課題を認識し、教材、生徒、教師によって構成される授業とは何かについて考察を深め、次年度の教育実習に備える。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>教職課程における学修を基盤に、実習校及び生徒に対する責任感をもって教科指導（授業）の実習に取り組むことができるように、教材研究、学習指導案作成、授業過程の構想づくり、授業における生徒理解の在り方等、教師の職務に必要な基礎的な力量を形成する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>学習指導案の作成 40% 模擬授業 60%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>・模擬授業に必要な教育内容と教材の研究を行うこと。 ・学習指導案作成を試み、授業で用いる資料や教材の自作にチャレンジすること。</p> <p>■教科書</p> <p>特になし。</p> <p>■参考文献</p> <p>「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」(文部科学省, 東山書房: 2008) 「中学校学習指導要領解説 総則編」(文部科学省, きょうせい: 2008) 「中学校学習指導要領解説 理科編」(文部科学省, 大日本図書: 2008) 「中学校学習指導要領解説 数学編—平成20年9月」(文部科学省, 教育出版: 2008) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」(文部科学省, 日本文芸出版: 2008) 「高等学校学習指導要領」(文部科学省, 東山書房: 2011) 「高等学校学習指導要領解説 総則編〔平成21年〕」(文部科学省, 東山書房: 2009) 「高等学校学習指導要領解説 数学編理数編」(文部科学省, 実教出版: 2009) 「高等学校学習指導要領解説 理科編理数編」(文部科学省, 実教出版: 2009) 「高等学校学習指導要領解説 情報編」(文部科学省, 開隆館出版販売: 2010)</p> <p>「新版 教育実習安心ハンドブック」(小山 茂喜, 学事出版: 2014) 「次世代教員養成のための教育実習: 教師の初心をみがく理論と方法」(学文社: 2014) 「学習指導案と分ける授業の作り方: プロ教師になる!」(教育ジャーナル選書)(大木 光夫, 学研教育みらい: 2013)</p> <p>■関連科目</p> <p>教職課程科目のすべて</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>河原研究室 (2号館5階507室)・kawahara@waka.kindai.ac.jp 小田研究室 (2号館5階509室)・oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>河原・火曜3限 小田・木曜4限 事前にメールにてアポイントメントをとってください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 教育実習の目的と授業 第2回 教育実習の視点 (生徒、教職員との関係)、学習指導案の作成方法 第3回 学生による模擬授業 1 (以下、教科・学校種により班を編成する) 第4回 学生による模擬授業 2 第5回 学生による模擬授業 3 第6回 学生による模擬授業 4 第7回 学生による模擬授業 5 第8回 学生による模擬授業 総括</p>	

科目名： 教職実践演習（中・高）			
英文名： SEMINAR FOR PROSPECTIVE TEACHERS(JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL)			
担当者： カワハラ ナオタケ オダ ヨシタカ 河原 尚武・小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 本演習では、「履修カルテ」を活用して教職課程における自らの履修状況を振り返り、特に補充・発展させるべき課題を明らかにして、模擬授業、現職教員等による講話、学校見学等さまざまな取組を展開する。これらの取組と共に、講義やグループ活動等を通して、教職の意義や使命に関する理解、学級経営や教科指導に関する知識や指導力、社会性や対人関係能力、生徒理解に対する関心や資質などを向上させるとともに、教職課程における学修を通して得た自らの到達点を省察し、なお足らざるところを補いつつ、教職に就く者にふさわしい資質・能力のあり方を探究する。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 教職課程の最終段階として、①教育職に必要な実践的資質・能力の修得状況を確認すること、②それを基に、主体的に自己の課題の発見や自己を省察すること、③講義及びグループ活動などに積極的に参加して、自らの資質・能力の向上に努めること、等が目標である。</p> <p>■成績評価方法および基準 レポート 30% 授業中課題 40% 提出物 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 ・教職実践演習履修カルテを丁寧に、具体的に記述すること。 ・教育に関する書籍を読み、現代の教職に必要な知識を深化させること。 ・教育の本質、学校と教師、人間（特に思春期）の発達課題などに関する新聞記事・統計等による現状の把握に努めること。</p> <p>■教科書 課題・グループごとに適切な文献・資料を指示する。</p> <p>■参考文献 「自己成長を目指す教職実践演習」(原田 恵理子, 北樹出版: 2014)</p> <p>その他、それぞれの課題に即して、そのつど指示する。</p> <p>■関連科目 教職課程諸科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 河原研究室 (2号館5階507室)・kawahara@waka.kindai.ac.jp 小田研究室 (2号館5階509室)・oda@waka.kindai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 河原・火曜 3 限 小田・木曜 4 限 事前にメールにてアポイントメントをとってください。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーションと履修カルテを使った振り返りⅠ 第2回 履修カルテを使った振り返りⅡ(教育実習を振り返って) 第3回 履修カルテを使った振り返りⅢ 第4回 教師として生きる人生(外部講師による特別指導) 第5回 生徒指導と教師(外部講師による特別指導) 第6回 研究授業見学 第7回 授業の方法と技術Ⅰ 第8回 授業の方法と技術Ⅱ 第9回 授業の方法と技術Ⅲ 第10回 授業の方法と技術Ⅳ 第11回 模擬授業全体検討会 第12回 学校経営・学級経営について(外部講師による特別指導) 第13回 特別支援教育における教師の関わり方(外部講師による特別指導) 第14回 教職実践演習における学びの振り返り 第15回 教職課程4年間の振り返り</p>	

科目名： 理科教育法Ⅰ			
英文名： Methodology of Teaching Science I			
担当者： イタミ ヨシノリ 伊丹 芳徳			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 本科目は教育職員免許法の中の「教育課程及び指導法に関する科目」に定められ、中学校・高等学校の理科教員免許の取得に必修とされているもので、学習指導要領 理科に基づく教育実践力を育むとともに、自然科学に関する素養を涵養します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 学習指導要領 理科に沿った教育実践力を修得するとともに、生涯学習の観点に立った科学的素養を涵養します。 ①小・中・高校の学習指導要領 理科の目標を把握し ②中・高校 理科での教育実践力(学習指導計画作成、授業展開等)を養うことを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 50% 演習レポート 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で配布したプリントや紹介した書籍に取り組むこと</p> <p>■教科書 適宜、プリントを配布します。</p> <p>■参考文献 適宜、授業中に紹介します。</p> <p>■関連科目 理科教育法特講Ⅰ、および他の教職課程科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 本学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控え室(2号館2階) itami.y@hb.tpl.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目授業前後の約1時間</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション及び教員採用試験概説 第2回 理科教員採用試験の問題解説 第3回 学習指導要領 理科と授業展開(物理・化学) 第4回 学習指導要領 理科と授業展開(生物・地学) 第5回 理科教育の変遷 第6回 理科教育と現代社会との関連 第7回 理科実験における事故事例と安全管理 第8回 授業実践研究(物理・エネルギー) 第9回 授業実践研究(化学・粒子) 第10回 授業実践研究(生物・生命) 第11回 授業実践研究(地学・地球) 第12回 学習指導案の作成と発表(物理・力学) 第13回 学習指導案の作成と発表(化学・水溶液) 第14回 学習指導案の作成と発表(生物・植物) 第15回 学習指導案の作成と発表(地学・宇宙)</p> <p>定期試験</p>	

科目名：理科教育法Ⅱ			
英文名：Methodology of Teaching Science II			
担当者：伊丹 芳徳			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
■授業概要・方法等 本科目は、理科教育法Ⅰに引き続いて行う、理科教員免許の取得に必修とされているもので、学習指導要領 理科に基づいて授業計画作成や授業展開等の教育実践力を育むとともに、自然科学についての素養を培います。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 オリエンテーション「理科教育法Ⅱについて」 第2回 理科実験教材の紹介(波動・磁場) 第3回 理科実験教材の紹介(力の釣合) 第4回 理科実験教材の紹介(燃焼) 第5回 授業における板書の位置付けと板書案の作成 第6回 学習指導案の作成(生物・植物のつくり) 第7回 学習指導案の作成(生物・生物と細胞) 第8回 学習指導案の作成(地学・大地の変化) 第9回 学習指導案の作成(地学・天気の変化) 第10回 学習指導案の作成(化学・物質の状態変化) 第11回 学習指導案の作成(化学・化学変化とイオン) 第12回 学習指導案の作成(物理・電流の働き) 第13回 学習指導案の作成(物理・力の合成と分解) 第14回 高等学校 理科の学習指導案の作成(化学・物質質量) 第15回 高等学校 理科の学習指導案の作成(生物・遺伝)	
■学習・教育目標および到達目標 学習指導要領 理科に基づく授業実践力を修得するとともに、基礎基本的内容を踏まえた科学的素養を涵養する。 ①学習指導要領の目標等を把握し ①小・中・高校の理科学習の体系を理解し ②中・高校での理科教育の学習指導案の作成、教科指導等の授業実践力を養う ことを目標とします。			
■成績評価方法および基準 定期試験 50% 演習レポート 50%		定期試験	
■授業時間外に必要な学修 授業中に配布したプリントや紹介した参考図書に取り組むこと			
■教科書 適宜、プリントを配布します。			
■参考文献 適宜、授業で紹介します。			
■関連科目 理科教育法Ⅰ、理科教育法特講Ⅱおよび他の教職課程科目			
■授業評価アンケート実施方法 本学の実施規定に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 講師控え室(2号館2階) itami.y@hb.tp1.jp			
■オフィスアワー 当該科目授業前後の約1時間			

科目名：理科教育法特講Ⅰ			
英文名：Methods for Scientific Education SpecialLecture I			
担当者：伊丹 芳徳			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
■授業概要・方法等 理科教育法Ⅰに引き続き、理科教員として必要な教育法規、授業指導案、教材開発力を修得するための授業を行います。		講義計画・テーマ・講義構成 第1回 オリエンテーション(本授業の位置付けなど) 第2回 教員採用試験の事例研究 第3回 中学校と高校との授業内容比較(物理・化学) 第4回 中学校と高校との授業内容比較(生物・地学) 第5回 学習指導要領 理科の変遷 第6回 理科の学習指導法の変遷 第7回 理科実験での危機管理 第8回 教材研究(物理) 第9回 教材研究(化学) 第10回 教材研究(生物) 第11回 教材研究(地学) 第12回 系統的な学習指導案研究(物理) 第13回 系統的な学習指導案研究(化学) 第14回 系統的な学習指導案研究(生物) 第15回 系統的な学習指導案研究(地学)	
■学習・教育目標および到達目標 この授業では、学習指導要領 理科に基づいて、学習指導案の作成と模擬授業を行い、授業展開などの教育実践力を養成します。			
■成績評価方法および基準 定期試験 50% 演習レポート 50%		定期試験	
■授業時間外に必要な学修 授業で配布したプリントや紹介した書籍に取り組むこと			
■教科書 適宜、プリントを配布します。			
■参考文献 適宜、授業中に紹介します。			
■関連科目 理科教育法Ⅰおよび他の教職課程教科			
■授業評価アンケート実施方法 本学の実施規定に準拠して行います。			
■研究室・E-mailアドレス 講師控え室(2号館2階) itami.y@hb.tp1.jp			
■オフィスアワー 当該科目授業前後の約1時間			

科目名：理科教育法特講Ⅱ			
英文名：Methods for Scientific Education SpecialLecture II			
担当者：伊丹 芳徳			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>理科教育法Ⅱに引き続き、理科教員に求められる教育法規の理解や教育実践力を養成するための授業を行います。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>理科教育法Ⅱと関連した内容で、学習指導要領 理科に沿った学習指導案の作成や、これに基づいた模擬授業を行い、授業実践力を養成します。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期試験 50%</p> <p>演習レポート 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業で配布したプリントや紹介した書籍に取り組むこと</p> <p>■教科書</p> <p>適宜、プリントを配布します。</p> <p>■参考文献</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p> <p>■関連科目</p> <p>理科教育法Ⅱ、および他の教職課程科目</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>本学実施規定に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控え室(2号館2階)</p> <p>itami.y@hb.tp1.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目授業前後の約1時間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業計画と評価について)</p> <p>第2回 理科実験教材の紹介(磁性の観察)</p> <p>第3回 実験教具の製作(浮沈子)</p> <p>第4回 実験教具の紹介(エタノールの燃焼)</p> <p>第5回 学習指導案研究(化学・酸化還元)</p> <p>第6回 学習指導案研究(生物・生物の分類)</p> <p>第7回 学習指導案研究(生物・DNA)</p> <p>第8回 学習指導案研究(地学・気象)</p> <p>第9回 学習指導案研究(地学・地震)</p> <p>第10回 高等学校理科 学習指導案研究(化学・物質)</p> <p>第11回 高等学校理科 学習指導案研究(生物・細胞分裂)</p> <p>第12回 高等学校理科 学習指導案研究(地学・地質時代)</p> <p>第13回 高等学校理科 学習指導案研究(物理・電磁気)</p> <p>第14回 高等学校理科 学習指導案研究(物理・磁性)</p> <p>第15回 理科教育関連法規のまとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：数学科教育法Ⅰ			
英文名：Methodology of Mathematics Education I			
担当者：平井 崇晴			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>中学校・高等学校数学科教員免許取得のために必要な教職科目です。数学教育の基礎的な内容を学修します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>中学校・高等学校の数学教師として必要な資質を習得することを目的とします。</p> <p>数学教育とは、数学をどのように伝えるかについて研究するものです。したがって中学や高校の数学ができるだけではなく、数学の専門家として中学・高校の教科書を読む力が要求されます。例えば、中学数学では「1は素数ではありません」と習います。それはなぜでしょう？このような問いに数学の専門家として答えられるようになることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>小テスト 15%</p> <p>レポート 15%</p> <p>定期試験 70%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>「数学科教育法Ⅰ公式ホームページ」に用意した教材や中学・高校の教科書の問題を常日頃から解いてみる。また、前時の授業内容の復習を行い、それに関連する学習指導要領の解説や専門数学との関連を考察する。</p> <p>■教科書</p> <p>特に使用しない。</p> <p>■参考文献</p> <p>文部科学省著『中学校学習指導要領解説数学編』教育出版</p> <p>文部科学省著『個に応じた指導に関する指導資料(中学校数学編)』教育出版</p> <p>正田寛監修『算数・数学教育の理論と実際』教育情報出版</p> <p>日本数学教育学会編『数学教育研究ハンドブック』東洋館出版社</p> <p>日本数学教育学会編『和英・英和算数・数学教育用語辞典』東洋館出版社</p> <p>■関連科目</p> <p>数学科教育法Ⅱ、数学科教育法特講Ⅰ、数学科教育法特講Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控え室(2号館2階) takaharu.hirai@nifty.com</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 何で数学なんか勉強せなアカンの？</p> <p>第3回 教材の見通しと位置づけ</p> <p>第4回 三平方の定理と円周角の定理</p> <p>第5回 扱い方で授業が決まる(1)</p> <p>第6回 扱い方で授業が決まる(2)</p> <p>第7回 専門家の視点から教科書を読む(1)</p> <p>第8回 専門家の視点から教科書を読む(2)</p> <p>第9回 非日常的感觉</p> <p>第10回 間接証明法</p> <p>第11回 間接証明法の現状</p> <p>第12回 発展的な展開とまとめ</p> <p>第13回 数学マジックの分析</p> <p>第14回 数学マジックの創作</p> <p>第15回 創作マジック発表会</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学科教育法Ⅱ			
英文名： Methodology of Mathematics Education II			
担当者： ヒライ タカハル 平井 崇晴			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 中学校・高等学校数学科教員免許取得のために必要な教職科目です。数学教育の基礎的な内容を学習します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 中学校・高等学校の数学教師として必要な資質を習得することを目的とします。数学教育とは、数学をどのように伝えるかについて研究するものです。したがって中学や高校の数学ができるだけではなく、数学の専門家として中学・高校の教科書を読む力が要求されます。</p> <p>例えば、ある高校数学の授業で次のような場面がありました。 先生「nが限りなく大きくなると $1/n$ は限りなく 0 に近づくので、極限値は 0 です。」 生徒「でも先生、0 に近づくんだったら -1 にだって少しずつは近づいていきます。-2 にだって近づいています。なのに 0 だけを極限値として取り上げるのはおかしくないですか？」</p> <p>さて、あなたはこの高校生にどんな応対ができますか？</p> <p>このような問いに数学の専門家として答えられるようになることを目標とします。</p> <p>■成績評価方法および基準 小テスト 15% レポート 15% 定期試験 70%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 「数学科教育法Ⅱ公式ホームページ」に用意した教材や中学・高校の教科書の問題を常日頃から解いてみる。 また、前時の授業内容の復習を行い、それに関連する学習指導要領の解説や専門数学との関連を考察する。</p> <p>■教科書 特に使用しない。</p> <p>■参考文献 文部科学省「高等学校学習指導要領解説数学編理数編」実教出版 文部科学省著「個に応じた指導に関する指導資料（中学校数学編）」教育出版 正田實監修「算数・数学教育の理論と実際」教育情報出版 日本数学教育学会編「数学教育研究ハンドブック」東洋館出版社 日本数学教育学会編「和英・英和算数・数学教育用語辞典」東洋館出版社</p> <p>■関連科目 数学科教育法Ⅰ、数学科教育法特講Ⅰ、数学科教育法特講Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）takaharu.hirai@nifty.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 指導案を読む 第2回 有理数と無理数 第3回 導入教材について 第4回 指導案を書く 第5回 数学的帰納法(1) 第6回 数学的帰納法(2) 第7回 関数の極限と連続性 第8回 平均速度と瞬間速度 第9回 平均値の定理 第10回 原始関数ってホントにあるの？ 第11回 高校生には内緒の積分 第12回 立方体研究 第13回 和算の基礎知識 第14回 ヒラメキ思考 第15回 最終回スペシャル</p> <p>定期試験</p>	

科目名： 数学科教育法特講Ⅰ			
英文名： The Study of Mathematics Education I			
担当者： シマダ ノブナリ 嶋田 暢也			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 数学の学習内容をわかりやすく指導できるとともに、数学の魅力を伝えたり、数学が人や社会に役に立っていること、将来の仕事とどのようにつながっているのか、等について指導することを通して、数学に対する生徒の学習意欲を向上させる指導ができるための素養を培うための講義をします。そのために、数学の魅力や数学と人・社会・仕事とのつながりについての説明や、教材、授業の提案を行います。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 数学に対する生徒の学習意欲を向上させる指導ができるための素養を培うことを目標として、以下に挙げる内容を到達目標とします。 ・ 数学の学習内容をわかりやすく指導することができる。 ・ 数学の魅力を伝えたり、数学と人・社会・仕事とのつながりを意識させるための教材を作成し、授業の立案をすることができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 授業に取り組み姿勢 30% 教材作成 20% レポート・小テスト 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 数学を学ぶことの意義や楽しさを伝えるための教材を探し出したり開発するために、前時の復習を行うとともに、それに関連する学習指導要領の解説や全国学力・学習状況調査の解説資料を熟読し、参考文献で関連箇所を調べる。</p> <p>■教科書 教科書は特に指定せず、参考資料を配布します。</p> <p>■参考文献 文部科学省著「中学校学習指導要領解説数学編」教育出版 文部科学省著「高等学校学習指導要領解説数学編理数編」実教出版 文部科学省著「個に応じた指導に関する指導資料（中学校数学編）」教育出版 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査解説資料 中学校 数学」 蔵本貴文著「学校では教えてくれないこれ1冊で高校数学のホントの使い方がわかる本」集和システム 桜井進著「数学のリアル」東京書籍</p> <p>■関連科目 数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅱ、数学科教育法特講Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）shimada-n004@wakayama-c.ed.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 数学と人・社会・仕事とのつながりについて(1) 第3回 数学と人・社会・仕事とのつながりについて(2) 第4回 数学と人・社会・仕事とのつながりについて(3) 第5回 数学の魅力について(1) 第6回 数学の魅力について(2) 第7回 学習指導要領から学ぶ 第8回 数学を学ぶ意義について 第9回 授業研究(1) 第10回 授業研究(2) 第11回 教材研究(1) 第12回 教材研究(2) 第13回 教材研究(3) 第14回 教材研究(4) 第15回 まとめ</p>	

科目名： 数学科教育法特講Ⅱ			
英文名： The Study of Mathematics Education II			
担当者： シマダ ノブナリ 嶋田 暢也			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目
<p>■授業概要・方法等 数学に対する生徒の学習意欲を向上させる授業の研究や指導案を作成・検討することを通して、数学に対する生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに取り組みます。また模擬授業を行い、授業力を向上させるための演習をします。そのために、受講生が選んだ教材や指導案の検討、模擬授業を行い、実践的な授業力を向上させます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 数学に対する生徒の学習意欲を向上させる指導ができるための実践的な授業力を向上させることを目標として、以下に挙げる内容を到達目標とします。 ・ 数学の学習内容をわかりやすく指導することができる。 ・ 数学の魅力を伝えたり、数学と人・社会・仕事とのつながりを意識させるための教材を作成し、授業の立案・模擬授業を行うことができる。</p> <p>■成績評価方法および基準 授業に取り組む姿勢 30% 教材作成 20% レポート・小テスト 50%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 数学を学ぶことの意義や楽しさを伝えるための授業案作り、模擬授業の準備をするために、前時の復習を行うとともに、それに関連する学習指導要領の解説や全国学力・学習状況調査の解説資料を熟読し、参考文献で関連箇所を調べる。</p> <p>■教科書 教科書は特に指定せず、参考資料を配布します。</p> <p>■参考文献 文部科学省著『中学校学習指導要領解説数学編』教育出版 文部科学省著『高等学校学習指導要領解説数学編理数編』実教出版 文部科学省著『個に応じた指導に関する指導資料（中学校数学編）』教育出版 国立教育政策研究所 教育課程研究センター『全国学力・学習状況調査解説資料 中学校 数学』 蔵本貴文著『学校では教えてくれないこれ1冊で高校数学のホントの使い方がわかる本』集和システム 桜井進著『数学のリアル』東京書籍</p> <p>■関連科目 数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅱ、数学科教育法特講Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）・shimada-n004@wakayama-c.ed.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 授業形態について 第3回 授業研究(1) 第4回 授業研究(2) 第5回 授業研究(3) 第6回 数学の魅力を追究する活動について 第7回 学習指導案の作成(1) 第8回 学習指導案の作成(2) 第9回 学習指導案の作成(3) 第10回 学習指導案の作成(4) 第11回 模擬授業(1) 第12回 模擬授業(2) 第13回 模擬授業(3) 第14回 模擬授業(4) 第15回 まとめ</p>	

科目名： 情報科教育法Ⅰ			
英文名： Methodology of Teaching Information Studies I			
担当者： トヨダ ミチタカ 豊田 充崇			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 集中	必修選択の別： 必修科目
<p>■授業概要・方法等 当講義は、高等学校「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導担当するための知識・技能を習得することを目的とします。</p> <p>(※但し、「専門教科情報科」は、情報科教育法Ⅱにて実施します。) まずは、コンピュータの原理やその操作、情報の取り扱い方、情報メディアの特性、通信ネットワークの構造からその活用等幅広い情報技術に関する知識を学び、さらに、情報科の学習指導要領の読み解き・カリキュラムの構成方法・授業計画の立案等のいわゆる「授業づくり」に着手します。特に、主要な演習活動における指導方法などについては、マルチメディア作品を実際に作成しながら受講生・指導者の両者の立場から学びます。また、指導技術の向上のため、自作教材を用いた「模擬授業」を取り入れ、実践的な授業力を向上させます。</p> <p>コンピュータの基本操作を習得していること。Office系ソフトウェアの基本機能、電子メール、インターネット等が使えること。 情報科教育法ⅠとⅡは連続して受講すること。</p> <p>「情報科教育法Ⅰ」では、作品づくりや演習的なワークが多くあります。模擬演習なども行いますので、コミュニケーション能力は特に重要です。自主的、主体的な活動に期待します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・情報教育の主要な目標である「情報活用の実践力の育成」「情報の科学的な理解」「情報化社会に参画する態度」を踏まえ、情報科で指導する学習内容を理解する。</p> <p>・情報科学に関する幅広い知識を持ち、情報メディアを課題解決のため、暮らしを豊かにするために活用するといった意図を持って、創造的な学習活動をおこなえるようになること。</p> <p>・情報処理の手段としてのコンピュータだけではなく、表現・発信のツールとして活用できるようになること。また、「情報モラル」に関しては特に留意して、最新のトラブル事例なども把握し、指導できるようになること。 ・授業者として、生徒らに「わかる授業」を実施するための基本的な授業スキル・指導方法・教材作成方法を習得する。また、カリキュラム構成、教材研究・授業設計等一連の「授業づくり」の手順や方法を理解すること。</p> <p>■成績評価方法および基準 情報教育に関する知識を問う小テスト 15% 授業中の発表や学習意欲 15% 授業レポート 20% プレゼンテーション 10% 模擬授業（授業計画立案、指導案・教材作成を含む）25% マルチメディア作品 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 コンピュータを利用したマルチメディア作品および教材作成などは、講義時間外でおこなう場合があります。よって、自宅や個人でコンピュータを利用できる環境にあることが必要です。</p> <p>■教科書 本邦編訳者 著『情報科教育法』改訂版（2010/05）学術図書出版社 ※現在、学習指導要領の移行中のため各専門書籍が改訂中。上記書籍の購入は保留（テキストは講義初日に指示します）</p> <p>■参考文献 ・高等学校学習指導要領解説 情報編（文部科学省） （文部科学省ウェブサイトから1～40ページまでを印刷して初日に持参すること。両面・割り付け印刷でも可。）</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階）・連絡電子メールアドレス：toyoda@center.wakayama-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス（授業の目的と内容について） 第2回 情報科とは（情報教育の経緯、教科「情報」が設置された背景、科目の概要、学習指導要領の改訂について） 第3回 「情報科」の学習指導要領解説から学習内容の理解と要点整理 第4回 共通教科情報科「社会と情報」の目標と内容について 第5回 共通教科情報科「情報の科学」の目標と内容について 第6回 情報科における課題選択の観点、教材化の工夫 第7回 情報科における課題解決の方法、進め方、留意点について 第8回 カリキュラムの構成方法および学習指導計画の立案 第9回 具体的な授業を想定した学習指導案の作成 第10回 模擬授業(1) 教材作成や基本的な授業スキル 第11回 模擬授業(2) 授業の基本的な進め方、生徒評価の方法等 第12回 模擬授業(3) 授業の具体的な展開について、授業評価の方法等 第13回 授業分析 模擬授業の評価・改善点等について討議する 第14回 情報メディアの活用(1) 調査・分析 第15回 情報メディアの活用(2) まとめ・情報発信</p>	

科目名：情報科教育法Ⅱ			
英文名：Methodology of Teaching Information Studies II			
担当者：トヨダ ミチタカ 豊田 充崇			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：集中	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 当講義は、高等学校「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導担当するための知識・技能を習得することを目的とします。</p> <p>(※但し、「共通教科情報科」の主要な部分は、情報科教育法Ⅰにて実施します。)</p> <p>まずは、コンピュータの原理やその操作、情報の取り扱い方、情報メディアの特性、通信ネットワークの構造からその活用等幅広い情報技術に関する知識を学び、さらに、情報科の学習指導要領の読み解き・カリキュラムの構成方法・授業計画の立案等のいわゆる「授業づくり」に着手します。特に、主要な演習的活動における指導方法などについては、マルチメディア作品等を実際に作成しながら受講者・指導者の両者の立場から学びます。また、指導技術の向上のため、自作教材を用いた「模擬授業」を取り入れ、実践的な授業力を向上させます。</p> <p>コンピュータの基本操作を習得していること。Office系ソフトウェアの基本機能、電子メール、インターネット等が使えること 情報科教育法ⅠとⅡは連続して受講すること。</p> <p>「情報科教育法」では、作品づくりや演習的なワークが多くあります。模擬演習なども行いますので、コミュニケーション能力は特に重要です。自主的、主体的な活動に期待します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 ・情報教育の主要な目標である「情報活用の実践力の育成」「情報の科学的な理解」「情報化社会に参画する態度」を踏まえ、情報科で指導する学習内容を理解する。 ・情報科学に関する幅広い知識を持ち、情報メディアを課題解決のため、暮らしを豊かにするために活用するといった意図を持って、創造的な学習活動をおこなえるようになること。 ・情報処理の手段としてのコンピュータだけではなく、表現・発信のツールとして活用できるようにすること。 また、「情報モラル」に関しては特に留意して、最新のトラブル事例なども把握し、指導できるようにすること。 ・授業者として、生徒らに「わかる授業」を実施するための基本的な授業スキル・指導方法・教材作成方法を習得する。また、カリキュラム構成、教材研究・授業設計等一連の「授業づくり」の手順や方法を理解すること。</p> <p>■成績評価方法および基準 情報教育に関する知識を問う小テスト 15% 授業中の発表や学習意欲 15% 授業レポート 20% プレゼンテーション 10% 模擬授業(授業計画立案、指導案・教材作成を含む) 25% マルチメディア作品 15%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 コンピュータを利用したマルチメディア作品および教材作成などは、講義時間外でおこなう場合があります。よって、自宅や個人でコンピュータを利用できる環境にあることが必要です。</p> <p>■教科書 本村猛他 著「情報科教育法」改訂版(2010/05) 学術図書出版社 ※現在、学習指導要領の移行中のため各専門書籍が改訂中。上記書籍の購入は保留(テキストは講義初日に指示します)</p> <p>■参考文献 高等学校学習指導要領解説 情報編(文部科学省) (文部科学省ウェブサイトから1~4のページまでを印刷して初日に持参すること。両面・割り付け印刷でも可。)</p> <p>■関連科目 特にない</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階)・連絡電子メールアドレス: toyoda@center.wakayama-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時間の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 メディアリテラシーとその教材化について 第2回 著作権、情報倫理、情報モラル・セキュリティとその教材化について 第3回 専門教科「情報」の解説と共通教科情報科との相違点 第4回 専門教科情報科「情報産業と社会」の目標と内容について(1) 第5回 専門教科情報科「課題研究」の目標と内容について(2) 第6回 カリキュラムの構成・学習指導計画・学習指導案の作成 第7回 専門教科情報科における課題選択の観点、教材化の工夫 第8回 専門教科情報科における問題解決の方法、進め方、留意点について 第9回 模擬授業(4) 教材作成や基本的な授業スキル 第10回 模擬授業(5) 授業の基本的な進め方、生徒評価の方法等 第11回 模擬授業(6) 授業の具体的な展開について、授業評価の方法等 第12回 授業分析 模擬授業の評価・改善点等について討議する 第13回 情報メディアの活用(3) 問題解決型学習 第14回 情報メディアの活用(4) 問題解決型学習 第15回 評価の方法(ポートフォリオ等)</p>	

科目名：物理学概論Ⅰ			
英文名：Introduction to Physics I			
担当者：アイダ オサム 会田 修			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 物理学は、自然現象を観測し、そこに潜む法則を見出すことを目的とする。この講義では、日常の身のまわりの現象を科学的に考察し、現象を理解する能力と数理的に解析する能力を養うことを目指す。物理学概論Ⅰでは、力と運動、仕事とエネルギー、エネルギーの保存および熱力学を主なテーマとして講義する。講義時間ごとに講義内容のレジュメを配布して、理解を深める。本科目は教職課程の科目で、中学校・高等学校における物理学分野の授業に必要な資質を習得することを目的とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、大学で物理学に関係する事柄を学ぶうえで基礎知識として習得しておかなければならない項目や、物理学的なものの方の見方、考え方について学習します。すなわち、 1)基本となるベクトル・スカラーの概念とその物理的意味、 2)物理量や状態量、 3)物理現象の観測結果からそこに潜む一般化された物理法則を導出する過程と得られた法則などを学習し、さらに 4)身のまわりの自然現象を物理的にとらえ、それらに物理法則を適用する能力を培うことができます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート(A4判用紙5~10枚) 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 学習内容に関するレジュメを予め配布するので、予習しておくこと。講義内容を記録する専用ノートを用意し、後日、レジュメおよびノートを見て、学習内容の理解が可能となるように心がけることが重要である。講義内容に関する疑問などは、講義時間内に質問し、疑問点は必ずその時間内に解消するように努めること。教科書に記載の例題は各自解いてみることに。また、講義時間に指示された課題に積極的に取り組むこと。</p> <p>■教科書 James T. Shipman 著、勝守 寛 監訳「シップマン 自然科学入門 新物理学 増補改訂版」学術図書出版</p> <p>■参考文献 原 康夫 著「自然科学の基礎としての物理学」学術図書出版 原 康夫 著「増補版 物理学入門」学術図書出版</p> <p>■関連科目 物理学概論Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) otaita@jmail.plala.or.jp</p> <p>■オフィスアワー 講義開始前の45分間</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス 自然現象と物理量 基本単位と次元 第2回 運動の表し方 直線運動と速度・加速度 第3回 一般の運動 位置ベクトル ベクトルとスカラー 第4回 自由落下と重力加速度 放物体の運動 第5回 力のつり合い 力の合成と分解 剛体のつり合い 摩擦力 第6回 運動の法則 運動方程式の解き方 第7回 運動量 力積 衝突現象 第8回 円運動 遠心力と向心力 太陽系惑星の運動 人工衛星角運動量 第9回 円運動と単振動 第10回 仕事とエネルギー 仕事率 位置エネルギーと運動エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 第11回 力と物体の変形 フックの法則 第12回 温度と熱 熱の本質 熱の伝達 物質の状態変化の物理的意味 第13回 気体の性質 気体の熱膨張とボイル・シャルルの法則 理想気体の状態方程式 絶対温度 断熱変化 第14回 臨界温度・臨界圧力 熱伝導と熱放射 気体の分子運動論 第15回 熱力学第1法則と熱力学第2法則 エントロピー</p> <p>定期試験</p>	

科目名：物理学概論Ⅱ			
英文名：Introduction to Physics II			
担当者：アイダ オサム 会田 修			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 物理学は、自然現象を観測し、そこに潜む法則を見出すことを目的とする。この講義では、日常の身のまわりの現象を科学的に考察し、現象を理解する能力と数理的に解析する能力を養うことを目指す。物理学概論Ⅱでは、波動、波動現象と光学、電磁気学および原子物理学を主なテーマとして講義する。講義時間ごとに講義内容のレジュメを配布して、理解を深める。本科目は教職課程の科目で、中学校・高等学校における物理学分野の授業に必要な資質を習得することを目的とする。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、大学で物理学に関係する事柄を学ぶうえで基礎知識として習得しておかなければならない項目や、物理学的なものの見方、考え方について学習します。すなわち、 1)基本となるベクトル・スカラーの概念とその物理的な意味、 2)物理量や状態量、 3)物理現象の観測結果からそこに潜む一般化された物理法則を導出する過程と得られた法則などを学習し、さらに 4)身のまわりの自然現象を物理的にとらえ、それらに物理法則を適用する能力を培うことができます。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 70% レポート (A4判用紙5～10枚) 30%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 学習内容に関するレジュメを予め配布するので、予習しておくこと。講義内容を記録する専用ノートを用意し、後日、レジュメおよびノートを見て、学習内容の理解が可能となるように心がけることが重要である。講義内容に関する疑問などは、講義時間内に質問し、疑問点は必ずその時間内に解消するように努めること。教科書に記載の例題は各自解いてみる。また、講義時間に指示された課題に積極的に取り組むこと。</p> <p>■教科書 James T. Shipman 著、勝守 寛 監訳「シップマン 自然科学入門 新物理学 増補改訂版」学術図書出版</p> <p>■参考文献 原 康夫 著「自然科学の基礎としての物理学」学術図書出版 原 康夫 著「増補版 物理学入門」学術図書出版</p> <p>■関連科目 物理学概論Ⅰ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) otaita@jmail.plala.or.jp</p> <p>■オフィスアワー 講義開始前の45分間</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 流体の力学 パスカルの原理 ベルヌーイの定理 第2回 波の性質 波の速さ 波の重ね合わせの原理 第3回 波の反射・屈折・回折・干渉 第4回 定常波 音波 ドップラー効果 第5回 光の回折・反射・屈折・干渉 偏光 第6回 球面鏡とレンズ 第7回 電荷と静電場 クーロンの法則 電場と電位 第8回 導体と電場 誘電体 キャパシター (コンデンサー) 第9回 電気回路と起電力 電気抵抗 オームの法則 キルヒホッフの法則 電源の仕事 ジュール熱 第10回 電流と磁場 磁力線 電磁誘導 自己誘導と相互誘導 第11回 交流 電気振動 電磁波と光 第12回 光電効果 光の粒子性と波動性 光量子説 第13回 原子構造と光スペクトル 第14回 電子の粒子性と波動性 ド・ブロイ波 第15回 量子力学 ハイゼンベルグの不確定性原理 核物理学</p> <p>定期試験</p>	

科目名：地学概論Ⅰ			
英文名：Essentials of Geoscience I			
担当者：サトウ ノボル 佐藤 昇			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 地学は、宇宙から足下の大地、そしてそこに生きる生物まで、137億の時間と空間の中での、物質の生成と運動、進化を解き明かし、理解しようとする学問である。「地学概論Ⅰ」では、気象、宇宙・天体を学びます。気象は私たちのもつとも身近な自然環境です。地球環境の変化に関する科学的な理解を深め、人と地球環境のあり方を考えます。観測技術の発展により、太陽系の姿や宇宙の起源と構造について、宇宙のイメージがより具体的なものになってきました。現在明らかになりつつある宇宙の姿について考えます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 1. 気象、宇宙・天体について、基礎基本となる幅広い新しい知識を学び、市民レベルの「近未来の地球環境」を考える基礎となる「現代の自然観」を身につける。 2. 中学校・高等学校での地学分野の教科内容の授業実践に役立つ知識と経験を身につける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% レポート (個々の授業のまとめ) 40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の中で配付した資料や紹介した参考書を読み、講義内容を深める。</p> <p>■教科書 適宜プリントを配布する。</p> <p>■参考文献 「現代の天文学」(全17巻) 日本評論社 半田利弘 著「基礎からわかる天文学」誠文堂新光社 主婦の友社 編「宇宙のしくみ」 青野由利 著「宇宙はこう考えられている」筑摩書房 浅井富雄 他編「基礎気象学」朝倉書店 古川武彦・大木勇人 著「図説・気象学入門」講談社</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室 (2号館2階) sato@edu.osaka-c.ed.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とする。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 太陽系と地球の形成、地球大気の構造 第2回 地球大気の熱収支と大気の大循環 第3回 雲と降水 第4回 天気の変化 第5回 四季の天気と気象災害 第6回 気象観測と天気予報 第7回 海洋の構造と運動 第8回 大気と海洋の相互作用 第9回 大気環境の変動 第10回 天体の位置と運動 第11回 太陽の内部構造と活動 第12回 太陽系の惑星と運動 第13回 恒星の性質 第14回 恒星の進化 第15回 銀河系と宇宙の構造</p> <p>定期試験</p>	

科目名：地学概論Ⅱ			
英文名：Essentials of Geoscience II			
担当者：サトウ ノボル 佐藤 昇			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 地学は、宇宙から足下の大地、そしてそこに生きている生物まで、137億年の時間と空間の中での、物質の生成と運動、進化を解き明かし、理解しようとする学問です。「地学概論Ⅱ」では固体地球について、現在起きている身近な事象から、過去の地球変動の歴史へと認識を広げながら学び、地球の46億年の物語を読み解きます。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 1. 地球をつくる物質とその変動の歴史について、基礎基本となる幅広い新しい知識を学び、市民レベルの「近未来の地球環境」を考えるための基礎となる「現代の自然観」を身に付ける。 2. 中学校・高等学校での地学分野の教科内容の授業実践に役立つ知識と経験を身に付ける。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 60% レポート（個々の授業のまとめ）40%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 講義の中で配付した資料や紹介した参考書を読み、講義内容を深めること。</p> <p>■教科書 適宜プリントを配布する。</p> <p>■参考文献 田近英一 著「地球環境46億年の大変動」 化学同人 川上伸一・東條文治著「地球史がよくわかる本」 秀和システム 酒井治孝 著「地球学入門」 東海大学出版会 新星出版社 編「地球のしくみ」 巽好幸 著「いちばんやさしい地球変動の話」 河出書房新社 木村学・大木勇人 著「図説・プレートテクトニクス入門」 講談社 白尾元理・清川昌一 著「地球全史」 岩波書店 昭文社 編「なるほど知図帳 日本の自然災害」</p> <p>■関連科目 特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室（2号館2階） sato@edu.osaka-c.ed.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とする。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 近畿地方の地形と地質 第2回 地球の形と大きさ 第3回 地球の内部構造 第4回 プレートテクトニクス1 第5回 プレートテクトニクス2 第6回 岩石と鉱物 第7回 火山とマグマ 第8回 火山噴火と火山災害 第9回 地震のしくみ 第10回 地震災害 第11回 地層の形成と地殻変動 第12回 地層の年代を知る 第13回 地球の歴史と生物進化1 第14回 地球の歴史と生物進化2 第15回 日本列島の構造と形成史</p> <p>定期試験</p>	

科目名：地学実験			
英文名：Experiments in Geoscience			
担当者：タニモト ノボル 谷本 昇			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等 地学は、地球を含めた宇宙全体の自然を歴史的に認識し、現在、未来を知ろうとする学問で、具体的には、天文学、気象学、地震学、地質学(地形、地質、岩石・鉱物・化石)などがあります。 天文分野では天体望遠鏡を組み立て天体観測をしたり、天文ソフトによるシミュレーションなどを、気象分野では断熱変化、大気圧、雲の発生などを、地震学では地震波から震源の特定、液状化などを、地質学では、鉱物岩石の観察などを実習、実験します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 地学について、基礎理論を含め、観察、実習、実験を行うことにより、自然に対する総合的な見方や考え方を養います。 特に、天体、気象、固体地球の各分野について、中学校・高等学校の教科書での実験観察の基本的な内容を重点的に学ぶとともに、自らの観察実験に基づく研究へと発展させるような創造的な能力を培うものとします。</p> <p>■成績評価方法および基準 実験レポート 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 実習、実験の内容を含んだ背景を自ら進んで勉強して下さい。 また、毎日の天気、地震、火山、地球環境などのマスコミ報道に常に気を配ってください。</p> <p>■教科書 適宜プリントを配布します。</p> <p>■参考文献 特にありません。</p> <p>■関連科目 地学概論Ⅰ、Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 物理、地学実験室(10号館109) tanimoto-n@rinku.zaq.ne.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 地球の大きさ、形 第2回 天体の位置のあらし方(特に赤道座標)、天体の見え方 第3回 四季の星空 第4回 天体望遠鏡の使い方(太陽、月、惑星の観測) ※天気の場合で日程前後 第5回 惑星の運動(ケプラーの第一、第二、第三法則) 第6回 天文ソフトによる天文現象のシミュレーション 第7回 赤方偏移、膨張宇宙論 第8回 震源距離、震源の特定 第9回 地震災害(津波、液状化など) 第10回 大気圧 第11回 空気の断熱変化 第12回 雲の形成、雷の発生 第13回 台風、温帯低気圧に伴う前線、二酸化炭素の温室効果 第14回 鉱物の光学的性質 第15回 岩石の成因、および観察</p>	

科目名：代数学概論Ⅰ			
英文名：Introduction to Algebra 1			
担当者： <small>ヒライ タカハル</small> 平井 崇晴			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 主に群論について概説する。学期のはじめは群論を学ぶための準備に充てる。集合や2項関係から始めて、必要最小限の概念や数学記法を用意する。その後、群の定義を与えて本論に入るが、いくつかの例や剰余類など初歩的な内容にとどめる。その代わりに、大学数学がどのように作られていくのが実感できるような授業展開を予定している。学期の終盤では実用的な応用として公開鍵暗号(RSA暗号)を簡単に紹介する。また、原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 高校までの数学に比べ内容が抽象的になるため、面食らう学生も多いと思われる。そこで、内容を厳選する代わりに、本講義で習う記法を数学言語として意のままに操れること、抽象的な概念をイメージできることを到達目標とする。その上で群論を実感し、身近に感じることを授業のテーマである。無味乾燥な事務的処理の習得をさせるつもりは全くない。ポリウムが極めて少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 公式ホームページのデジタル教材(パワーポイント等)や返却された演習、サブノートの間、定義や表記法をこまめに復習すること。</p> <p>■教科書 「代数学概論Ⅰ・Ⅱ 2015年度版 サブノート」プリント教材を製本したもの。グッズステーションで販売予定。</p> <p>■参考文献 結城浩 著「数学ガール ガロア理論」(数学ガールシリーズ5)ソフトバンククリエイティブ</p> <p>■関連科目 線形代数学、幾何学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 2号館2階 非常勤講師控室・takaharu.hirai@nifty.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 ガイダンス(講義概要と達成目標および受講心得)</p> <p>第2回 集合と2項関係</p> <p>第3回 群の定義</p> <p>第4回 同値関係</p> <p>第5回 合同式</p> <p>第6回 剰余類</p> <p>第7回 数字根</p> <p>第8回 同値類による類別</p> <p>第9回 剰余類と加法群</p> <p>第10回 剰余類と乗法群(1)</p> <p>第11回 剰余類と乗法群(2)</p> <p>第12回 オイラーの関数(RSA暗号の準備)</p> <p>第13回 公開鍵暗号(1)</p> <p>第14回 公開鍵暗号(2)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：代数学概論Ⅱ			
英文名：Introduction to Algebra 2			
担当者： <small>ヒライ タカハル</small> 平井 崇晴			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 代数学概論Ⅰに引き続いて群論を概説し、現在それがどのように応用されているかを紹介する。代数学概論Ⅰでは群として数の集合を主な対象としたのに対し、本講義では数以外の集合を対象とする。対称群や交代群、正多面体群、巡回群などを扱い、群論が広く一般に活躍する理論であることを実感させるような内容である。一見無関係と思われるあみだくじやスライドパズル、ルービックキューブなどの問題解決に群論が一役買っていることを紹介する。原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 代数学概論Ⅰに引き続き、数学言語としての数学記法を読み取り自由に扱えるようになること、抽象概念を自分なりにイメージして操作できるようになることを到達目標とする。群論が全く無関係と思えるパズルなどの問題の解決に用いられることに感動し、広く一般に活用可能であることを体感することが授業のテーマである。無味乾燥な事務的処理の習得をさせるつもりは全くない。ポリウムが極めて少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験 100%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 公式ホームページのデジタル教材(パワーポイント等)や返却された演習、サブノートの間、定義や表記法をこまめに復習すること。</p> <p>■教科書 「代数学概論Ⅰ・Ⅱ 2015年度版 サブノート」プリント教材を製本したもの。グッズステーションで販売予定。</p> <p>■参考文献 結城浩 著「数学ガール ガロア理論」(数学ガールシリーズ5)ソフトバンククリエイティブ</p> <p>■関連科目 線形代数学、幾何学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 2号館2階 非常勤講師控室。takaharu.hirai@nifty.com</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p style="text-align: center;">講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 変換と群(1)</p> <p>第2回 変換と群(2)</p> <p>第3回 対称群</p> <p>第4回 互換</p> <p>第5回 偶置換・奇置換</p> <p>第6回 あみだくじ</p> <p>第7回 スライドパズル</p> <p>第8回 正6面体群(1)</p> <p>第9回 正6面体群(2)</p> <p>第10回 群の同型</p> <p>第11回 正多面体群</p> <p>第12回 巡回群</p> <p>第13回 元の位数</p> <p>第14回 軌道</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：幾何学 I A			
英文名：Geometry 1A			
担当者：モリスギ カオル 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 この講義では、後期のIBでの実数論の理解の準備として、数学言語として基礎的な集合論的な扱いになれることを目標とする。背理法などにもなれることも目標のひとつである。これらは、中学校、高校の数学のバックグラウンドでもある。特に、濃度の概念を学び、ものを数えるという行為の意味、さらに無限を数えると言う観点で、後期の実数論を集合論の観点から前もって補足する。そのため、適宜、演習などを行いながらの講義となる。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 中学校・高校の数学理解をより厳密に行うには、背後に集合論や実数論が必要になることが多い。このことは、図形の性質などを見るとき、面積や長さを調べることに関連している。幾何学 I A、B の講義では、実数とは有理数のいかなる意味の拡張であるか、何故にそのような拡張が必要となるのかを理解することを目標とする。そのため前期の I A では、数学言語としての簡単な集合概念を理解し、それを使えるようになることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 中間試験 90% レポート 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示する。</p> <p>■教科書 プリントを配付する</p> <p>■参考文献 集合及び実数に関して書いてあるものであれば何でもよい、ただし、詳しく過ぎるものは好ましくない。</p> <p>■関連科目 引き続き幾何学 I B を受講することが望ましい。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) morisugi@waka.kidai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間に連絡をください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 集合 第2回 命題、否定、対偶、背理法など 第3回 集合の記号と意味 第4回 上記の具体例 第5回 べき集合、直積集合、写像 第6回 集合演算、写像 第7回 単射、全射、全単射、逆写像 第8回 種々のexample 第9回 可算、濃度 第10回 さまざまな例 第11回 対角線論法etc 第12回 実数と有理数 第13回 中学校や高校での無理数の解釈 第14回 濃度の大小 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：幾何学 I B			
英文名：Geometry 1B			
担当者：モリスギ カオル 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目
<p>■授業概要・方法等 この講義では、前期で身に付けた集合論的扱いのもとで、数学の基礎基本である実数論を学ぶ。これらは、中学校、高校の数学(とりわけ、幾何・解析関連)のバックグラウンドでもある。有理数だけではなぜ不足なのか、実数とは有理数のいかなる意味の拡張になっているのかを中心テーマとして学習する。また、高校では学べない極限についても演習などを交えて学ぶ。その延長として、高校では十分には解説されていない指数関数の定義とその性質までやりたいと考えている。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 中学校・高校の数学、理解をより厳密に行うには、背後に集合論や実数論が必要になることが多い。このことは、図形の性質などを見るとき、面積や長さを調べることに関連している。幾何学 I A、B の講義では、実数とは有理数のいかなる意味の拡張であるか、何故にそのような拡張が必要となるのかを理解することを目標とする。そのため後期の I B では、中学・高校の数学の背景として必要な、実数論を身に付けることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準 中間試験 90% レポート 10%</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業内で指示する。</p> <p>■教科書 プリントを配付する。</p> <p>■参考文献 集合及び実数に関して書いてあるものであれば何でもよい、ただし、詳しく過ぎるものは好ましくない。</p> <p>■関連科目 幾何学 I A を受講済みであることを前提とする。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス 講師控室(2号館2階) morisugi@waka.kidai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 当該科目開講時限の前後休憩時間に連絡をください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 実数 第2回 有理数の性質 第3回 順序体とDedekindの切断公理 第4回 上限、下限、有界 第5回 数列と収束 第6回 さまざまな例 第7回 区間縮小法の原理、集積点など 第8回 基本列とその性質 第9回 実数の完備性 第10回 実数の構成 第11回 級数、数列 第12回 さまざまな例 第13回 関数の連続性 第14回 指数関数について 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：幾何学Ⅱ A			
英文名：Geometry 2A			
担当者：モリスギ カオル 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>作図問題に関して講義する。中学・高校までに学んでいる平面幾何を少し厳密に振り返った後、基本的な作図を学び、また、実際に定規とコンパスを用いて作図を行う。その後、平面上の作図を簡潔に表すために複素数平面を考えるとともに、複素数平面の幾何学的意味を理解し、以後、複素数平面上の作図を扱う。これにより中学校・高校で学んだ2次方程式の解、定規とコンパスによる基本作図などを有機的に理解する（実際に作業する）。基本的には予備知識は要求しない。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>中学校レベルの代数・幾何と高校での複素数を、作図と言う観点から見直し、その関連性を理解できること。2次方程式、作図、複素数平面を有機的に理解する。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>中間試験 80% レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業内で指示する。</p> <p>■教科書</p> <p>プリントを配付する。</p> <p>■参考文献</p> <p>特になし。</p> <p>■関連科目</p> <p>代数学Ⅰ、Ⅱ</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）morisugi@waka.kidai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間に連絡ください。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 作図</p> <p>第2回 定規とコンパスによる作図</p> <p>第3回 中学・高校平面幾何学の復習 平行線と角</p> <p>第4回 中学・高校平面幾何学の復習 外角と内角、合同</p> <p>第5回 中学・高校平面幾何学の復習 相似、円</p> <p>第6回 四則演算と作図</p> <p>第7回 2次方程式と作図</p> <p>第8回 複素数について（1） 演算</p> <p>第9回 複素数について（2） 幾何学的意味</p> <p>第10回 複素数について（3） 数の本質</p> <p>第11回 作図可能性について</p> <p>第12回 正五角形、正17角形の作図</p> <p>第13回 ギリシャの3大作図問題</p> <p>第14回 ギリシャの3大作図問題</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

科目名：幾何学Ⅱ B			
英文名：Geometry 2B			
担当者：モリスギ カオル 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目
<p>■授業概要・方法等</p> <p>高校までの2次曲線を、円錐の切断面に現れるもの、点集合の軌跡として楕円・放物線・双曲線、座標平面上の標準形、および、極座標表示などについて振り返るとともに統一的に見直す。予備知識は要求しないが、この講義では、線形代数をある程度知っていることが望ましい。ただし、前提としない。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>高校での2次曲線をより深く理解することを目標とする。古典的な楕円、放物線、双曲線の定義が理解できるとともに、それらの方程式の標準形が分かること。その後、空間内の曲面として、2次曲面について理解する。また与えられた3変数の2次式から、それを標準形に直して、その式が表すものがいかなる曲面になっているかが判定できることを目標とする。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>中間試験 80% レポート 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修</p> <p>授業内で指示する。</p> <p>■教科書</p> <p>プリントを配付する。</p> <p>■参考文献</p> <p>特になし</p> <p>■関連科目</p> <p>特になし。</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>大学実施規程に準拠して行います。</p> <p>■研究室・E-mailアドレス</p> <p>講師控室（2号館2階）morisugi@waka.kidai.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>当該科目開講時限の前後休憩時間とします。</p>		<p>講義計画・テーマ・講義構成</p> <p>第1回 円錐曲線</p> <p>第2回 2次曲線</p> <p>第3回 楕円とその標準形</p> <p>第4回 放物線および双曲線の標準形</p> <p>第5回 円錐曲線</p> <p>第6回 2次曲線とその標準形（行列は使わない）</p> <p>第7回 2次曲線とその標準形（行列は使わない）</p> <p>第8回 極座標表示</p> <p>第9回 線形代数から1 一次独立と次元</p> <p>第10回 線形代数から2 固有値と固有ベクトル</p> <p>第11回 線形代数から3 対角化</p> <p>第12回 実対称行列の直交行列による対角化</p> <p>第13回 2次曲面について 標準的なもの</p> <p>第14回 2次曲面について 標準形</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>	

生物理工学部 授業計画 (2015)

2015.4 印刷発行

発行者 近畿大学生物理工学部

編集 近畿大学生物理工学部

所在地 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷930

電話番号 (0736)77-3888

インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、学科名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。